2014

2014 Syllabus

Syllabus

情報メディア学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

You,
Unlimited

龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

www.rikou.ryukoku.ac.jp

龍谷大学理工学部　情報メディア学科

学部・学科英文名

龍　谷　大　学　Ryukoku University

理　工　学　部　Faculty of Science and Technology

数理情報学科　Department of Applied Mathematics and Informatics

電子情報学科　Department of Electronics and Informatics

機械システム工学科　Department of Mechanical and Systems Engineering

物 質 化 学 科　Department of Materials Chemistry

情報メディア学科　Department of Media Informatics

環境ソリューション工学科　Department of Environmental Solution Technology

２０１４年度
理工学部　情報メディア学科　Syllabus

2014年４月１日発行

編集発行　龍谷大学理工学部

〒520−2194　大津市瀬田大江町横谷１－５

印　　刷　アインズ株式会社

教養教育科目（共同開講科目）（基礎科目）

教養教育科目（共同開講科目）（総合科目）

学部内共通科目

学科固有科目＜情報メディア学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

博物館学芸員課程科目

シラバス

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目（共同開講科目）

（基　礎　科　目）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	英語ＩＡ	クラス・開講曜講時による			
	英語ＩＢ	クラス・開講曜講時による			
	英語ⅡＡ	クラス・開講曜講時による			
	英語ⅡＢ	クラス・開講曜講時による			
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による			
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による			
	英語（再）	熊懐　祐樹	前期	水２	8
	英語（再）	熊懐　祐樹	後期	水２	8
	英語（再）	熊懐　祐樹	前期	水３	9
	英語（再）	熊懐　祐樹	後期	水３	9
	英語（再）	里井　久輝	前期	火４	10
	英語（再）	里井　久輝	後期	火４	10
	英語（再）	芝原　直美	前期	水２	11
	英語（再）	芝原　直美	後期	水２	12
	英語（再）	芝原　直美	前期	水３	13
	英語（再）	芝原　直美	後期	水３	14
	英語（再）	薗田　千寿子	前期	金４	15
	英語（再）	薗田　千寿子	後期	金４	15
	英語（再）	西川　隆	前期	金４	16
	英語（再）	西川　隆	後期	金４	16
	英語（再）	西川　由美子	前期	水２	17
	英語（再）	西川　由美子	後期	水２	17
	英語（再）	西川　由美子	前期	水３	18
	英語（再）	西川　由美子	後期	水３	18
	英語（再）	宮尾　元子	前期	火４	19
	英語（再）	宮尾　元子	後期	火４	19
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月１	20
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月２	20
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水３	21
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	金５	21
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月１	22
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月２	22
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水３	23
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	金５	23
	英語セミナーＢ１	前川　貴史	前期	金２	24
	英語セミナーＢ２	前川　貴史	後期	金２	24
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水２	25
	英語セミナーＣ１	ワード　ジョン	前期	水２	25
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水３	26
	英語セミナーＣ１	イエニク・Ｓ・Ｃ	前期	金２	26
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水２	27
	英語セミナーＣ２	ワード　ジョン	後期	水２	27
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水３	28
	英語セミナーＣ２	イエニク・Ｓ・Ｃ	後期	水３	28
	英語セミナーＤ１	大槻　志郎	前期	水２	29
	英語セミナーＤ２	大槻　志郎	後期	水２	30
	英語セミナーＥ１	里井　久輝	前期	水３	31
	英語セミナーＥ２	里井　久輝	後期	水３	31
キ	教育原論Ａ	藤井　奈津子	前期	月１	32
	教育原論Ａ	広川　義哲	前期	月２	32
	教育原論Ａ	広川　義哲	前期	月３	33
	教育原論Ｂ	藤井　奈津子	後期	月１	33
	教育原論Ｂ	広川　義哲	後期	月２	34
	教育原論Ｂ	広川　義哲	後期	月３	34
ケ	経済学入門	藤田　和孝	前期	水３	35
	経済学入門	長谷　祐	前期	金５	35
	経済学入門	李　夏屏	後期	月１	36
	経済学入門	李　夏屏	後期	月３	36
	言語学入門	泉　文明	前期	月２	37
	言語学入門	磯江　源	前期	木３	37
コ	コリア語ＩＡ	孫　才喜	前期	水３	38
	コリア語ＩＢ	孫　才喜	後期	水３	38
	コリア語ＩＣ	朴　炫国	前期	木３	39
	コリア語ＩＤ	朴　炫国	後期	木３	39
	コリア語セミナーＡ	柳　綏美	前期	水３	40
	コリア語セミナーＢ	柳　綏美	後期	水３	40
シ	社会学入門	山本　哲司	前期	木３	41
	社会学入門	山本　哲司	後期	木３	41
	社会思想史入門	森　元斎	前期	水２	42
	社会思想史入門	村澤　真保呂	後期	水２	42
	心理学入門	松島　恵介	前期	月１	43
	心理学入門	松島　恵介	後期	月１	43
	心理学入門	破田野　智美	前期	月１	44
ス	スポーツ技術学Ａ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		44
	スポーツ技術学Ｂ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		45

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
セ	生活の中の化学	中沖　隆彦	後期	木３	45
	生活の中の数学	國府　宏枝／山岸　義和	前期	月１	46
	生活の中の生物学	横田　岳人	前期	木３	46
	生活の中の統計技術	飯田　晋司	後期	水３	47
	生活の中の統計技術	香川　文庸	前期	木３	47
	生活の中の物理	石崎　俊雄	後期	月２	48
	政治学入門	水垣　源太郎	前期	木３	49
	政治学入門	水垣　源太郎	後期	木３	49
	生命と科学	宮武　智弘	前期	金１	50
チ	中国語ＩＡ	張　健同	前期	月３	50
	中国語ＩＡ	韓　正愛	前期	水３	51
	中国語ＩＢ	張　健同	後期	月３	51
	中国語ＩＢ	韓　正愛	後期	水３	52
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水３	52
	中国語ＩＣ	韓　正愛	前期	水４	53
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水４	53
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水３	54
	中国語ＩＤ	韓　正愛	後期	水４	54
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水４	55
	中国語セミナーＡ	李　愛華	前期	水３	55
	中国語セミナーＢ	李　愛華	後期	水３	56
テ	哲学入門	渡邊　華月	前期	月３	57
	哲学入門	渡邊　華月	後期	月３	58
	哲学入門	渡邊　華月	前期	水３	59
	哲学入門	渡邊　華月	後期	水３	60
ト	ドイツ語ＩＡ	青山　豊	前期	月２	61
	ドイツ語ＩＡ	呉　春吉	前期	月３	61
	ドイツ語ＩＢ	青山　豊	後期	月２	62
	ドイツ語ＩＢ	呉　春吉	後期	月３	62
	ドイツ語ＩＣ	青山　豊	前期	月３	63
	ドイツ語ＩＣ	永井　達夫	前期	水３	63
	ドイツ語ＩＤ	青山　豊	後期	月３	64
	ドイツ語ＩＤ	永井　達夫	後期	水３	64
	ドイツ語セミナーＡ	青山　豊	前期	月４	65
	ドイツ語セミナーＢ	青山　豊	後期	月４	65
	統計入門	李　夏屏	前期	月１	66
	統計入門	長谷　祐	後期	金５	66
ニ	日本国憲法	時本　義昭	前期	月３	67
	日本国憲法	時本　義昭	前期	木３	67
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月３	68
	日本国憲法	時本　義昭	後期	木３	68
ハ	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水１	69
	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水２	69
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水１	70
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水２	70
フ	仏教の思想Ａ	北岑　大至	前期	火２	74
	仏教の思想Ａ	田中　無量	前期	火２	74
	仏教の思想Ａ（再）	溪　英俊	後期	火５	75
	仏教の思想Ｂ	北岑　大至	後期	火２	77
	仏教の思想Ｂ	田中　無量	後期	火２	77
	仏教の思想Ｂ（再）	溪　英俊	前期	火５	78
	フランス語ＩＡ	瓜生　濃世	前期	水３	78
	フランス語ＩＢ	瓜生　濃世	後期	水３	79
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	月２	79
	フランス語ＩＣ	嶋﨑　陽一	前期	月３	80
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	木３	80
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	月２	81
	フランス語ＩＤ	嶋﨑　陽一	後期	月３	81
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	木３	82
	フランス語セミナーＡ	嶋﨑　陽一	前期	木４	82
	フランス語セミナーＢ	嶋﨑　陽一	後期	木４	83
	文学入門	大槻　志郎	前期	水３	84
	文学入門	嶋﨑　陽一	前期	木３	85
	文学入門	坂本　輝世	後期	火５	85
	文学入門	嶋﨑　陽一	後期	木３	86
ホ	法学入門	時本　義昭	前期	月１	86
	法学入門	時本　義昭	後期	月１	87
リ	倫理学入門	菊地　建至	前期	水３	88
	倫理学入門	菊地　建至	前期	水４	89
	倫理学入門	菊地　建至	後期	水５	90
レ	歴史入門	西村　昌洋	前期	水２	91
	歴史入門	佐野　東生	後期	金２	92
ロ	論理学入門	中谷　隆雄	前期	月３	92
	論理学入門	中谷　隆雄	後期	月３	93

英語ＩA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ＩB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リスト参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ⅡA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ⅡB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や、成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語Ⅲ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる４技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに４技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語Ⅳ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リスト参照のこと。

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】前期　水2

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語の基礎の確認と補強をすることで、英語力のさらなる向上を目指す。

■到達目標
異文化理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙、文法事項、構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり行なう。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
第１回目の授業で指示。

■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
Charles L. Clark 他　『Basically America, Basically Japan』
南雲堂　1,900円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業方法や成績評価方法等について伝える。辞書はつねに携帯すること。

■講義計画
①講義時に指示。Lesson1
②Lesson１,２
③Lesson２
④Lesson３,４
⑤Lesson４,５
⑥Lesson５
⑦Lesson６,７
⑧Lesson７,８
⑨Lesson８,９
⑩Lesson10,11
⑪Lesson11,12
⑫Lesson12,13
⑬Lesson13,14
⑭Lesson15,16
⑮Lesson16

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】後期　水2

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語の基礎の確認と補強をすることで、英語力のさらなる向上を目指す。

■到達目標
異文化理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙、文法事項、構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり行なう。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
第１回目の授業で指示。

■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
Masakazu Someya 他　『Stories from Around the World』
南雲堂　1,700円

■参考文献
『基本学習事項-文法・単語・構文・述語』（初回授業にて配付予定）。その他の参考文献については講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業方法や成績評価方法等について伝える。辞書はつねに携帯すること。

■講義計画
①講義時に指示。
②Unit１
③Unit２
④Unit３
⑤Unit４
⑥Unit５
⑦Unit６
⑧Unit７
⑨Unit８
⑩Unit９
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】前期　水３

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語の基礎の確認と補強をすることで、英語力のさらなる向上を目指す。

■到達目標
異文化理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙、文法事項、構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり行なう。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
第１回目の授業で指示。

■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
Charles L. Clark 他　『Basically America, Basically Japan』
南雲堂　1,900円

■参考文献
『基本学習事項-文法・単語・構文・述語』（初回授業にて配付予定）。その他の参考文献については講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業方法や成績評価方法等について伝える。辞書はつねに携帯すること。

■講義計画
①講義時に指示。Lesson1
②Lesson１,２
③Lesson２,３
④Lesson３
⑤Lesson４,５
⑥Lesson５,６
⑦Lesson６,７
⑧Lesson８
⑨Lesson９,10
⑩Lesson10,11
⑪Lesson12,13
⑫Lesson13,14
⑬Lesson14,15
⑭Lesson16,17
⑮Lesson18

英語（再）

【担当】熊懐　祐樹
【開講】後期　水３

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語の基礎の確認と補強をすることで、英語力のさらなる向上を目指す。

■到達目標
異文化理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙、文法事項、構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり行なう。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示
第１回目の授業で指示。

■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
Masakazu Someya 他　『Stories from Around the World』
南雲堂　1,700円

■参考文献
『基本学習事項-文法・単語・構文・述語』（初回授業にて配付予定）。その他の参考文献については講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業方法や成績評価方法等について伝える。辞書はつねに携帯すること。

■講義計画
①講義時に指示。
②Unit１
③Unit２
④Unit３
⑤Unit４
⑥Unit５
⑦Unit６
⑧Unit７
⑨Unit８
⑩Unit９
⑪Unit10
⑫Unit11
⑬Unit12
⑭Unit13
⑮Unit14

英語（再）

【担当】里井　久輝
【開講】前期　火４

■講義概要
本講義では、英語を使ったTOEIC形式の教科書を用いて、英語基礎力のさらなる向上をはかる。音読を重視しながら、特にリスニング力やリーディング力の強化を目指す。
■到達目標
リスニングリーディングを中心にした英語総合力の向上と異文化理解の深化を目指す。
■講義方法
各ユニットを２回で完成させる。各ユニットの１回目では、TOEIC形式の問題を解きながら、語彙・語法・文法事項を確認しつつ、リスニングとリーディングの強化をはかる。各ユニットの２回目では、ディクテーションと文法事項の演習を通して理解の深化をはかってゆく。なお、適宜小テストや、当該テーマの調査・発表や視聴覚教材も取り入れ、授業内容の確認と定着をはかる。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の当該部分を予習し、分からない箇所をはっきりさせておくこと。
復習では必ず音読を繰り返すこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・発表などを含む。
定期試験（50%）
■テキスト
中郷慶　他 『名作映画でTOEIC®（2）めざせ！ 500－シャレード』 英宝社　1,995円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
英語力を向上させるためには、毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit１
③Unit１
④Unit２
⑤Unit２
⑥Unit３
⑦Unit３
⑧Unit４
⑨Unit４
⑩Unit５
⑪Unit５
⑫Unit６
⑬Unit６
⑭Unit１ ～ ６のまとめ
⑮総復習

英語（再）

【担当】里井　久輝
【開講】後期　火４

■講義概要
本講義では、英語を使ったTOEIC形式の教科書を用いて、英語力のさらなる向上を図ってゆく。音読を重視しながら、特にリスニング力やリーディング力の強化を目指す。
■到達目標
リスニングリーディングを中心にした英語総合力の向上と異文化理解の深化を目指す。
■講義方法
各ユニットを２回で完成させる。各ユニットの１回目では、TOEIC形式の問題を解きながら、語彙・語法・文法事項を確認しつつ、リスニングとリーディングの強化をはかる。各ユニットの２回目では、ディクテーションと文法事項の演習を通して理解の深化をはかってゆく。なお、適宜小テストや、当該テーマの調査・発表や視聴覚教材も取り入れ、授業内容の確認と定着をはかる。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の当該部分を予習し、分からない箇所をはっきりさせておくこと。
復習では必ず音読を繰り返すこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・発表などを含む。
定期試験（50%）
■テキスト
中郷慶　他 『名作映画でTOEIC®（2）めざせ！ 500－シャレード』 英宝社　1,995円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
英語力を向上させるためには、毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit７
③Unit７
④Unit８
⑤Unit８
⑥Unit９
⑦Unit９
⑧Unit10
⑨Unit10
⑩Unit11
⑪Unit11
⑫Unit12
⑬Unit12
⑭Unit７~12のまとめ
⑮総復習

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】前期　水2

■サブタイトル
TOEIC Testへの橋渡し

■講義概要
資格試験のTOEIC Bridge対策用テキストを使って、聴解力・読解力を鍛え、語彙力や文法力も伸ばす。また、ネット上の無料学習サイトを紹介するので、必要な情報や学習の機会を得る。基礎を大切にしつつ、各自で英語力を伸ばすために必要な英語学習がしっかりできるように授業進度をペースメーカーとしたい。

■到達目標
テキストにあるような英語の基本単語・基本文法用法・語彙表現を復習し、確実に身につけることを目標とする。

■講義方法
まず、予習で本日の基本文法を見直し、テキストの問題を解いておく。
次に全体授業で、文法のポイントを学習するとともに、関連のある簡単な語彙や表現を学習する。
全体説明の後、テキストの要点を各自確認する。
さらに、テキストに登場する指定話題についてネット上で調べ、学習シートを完成する。
基本的に一日に１課進む予定であり、次週までに課題レポートとしてが完成した学習シートをクラスフォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の自習室でもクラスフォルダーを利用することができ、課題レポート提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻･早退･中座は１／３欠席。各１点満点･15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）５点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。
レポート（30%）各２点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると１点加点される。上限+５点まで。
１）読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。
　クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
２）英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。
　クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
３） 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
Terry O'Brien、三原　京、秀野　作次郎、木村　博是　著
『TOEIC Bridge Lounge』　南雲堂　1,800円
定価は本体価格である。４月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。
テキストの付属CDは前期授業が始まる前に全体を通して聴き、健全に初めから最後まで音声が聞こえるかどうかを点検しておこう。授業中教室内の各自PCでも視聴可能であるが、終了前には必ず取り出し毎回持ち帰ること。置きっぱなしには出来ない。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書を持参し、授業中に適宜活用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
　Lesson 1 The Weather
②Lesson 2 Meetings & Messages
③Lesson 3 Health
④Lesson 4 Advertising & Sales
⑤Lesson 5 Investment & Office Supplies
⑥Lesson 6 Telephone Messages
⑦Lesson 7 Jobs & Promotions
⑧Lesson 8 Flights & Traveling
⑨Lesson 9 Housing
⑩Lesson 10 New products & Electrical Appliances
⑪Lesson 11 Media
⑫Lesson 12 Ordering & Shipping
⑬Lesson 13 Customer Services
⑭Lesson 14 The Environment
⑮Lesson 15 Mini Test
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】後期　水2

■サブタイトル
基礎英語彙とリーディング

■講義概要
易しいギネス記録に関するリーディングのテキストを使って、基本文法の復習をする・読解力を鍛え読む速度を上げる・語彙力伸すように努力をする。さらに、ネット上の英語学習サイトや英文サイトを利用し、英語でサイトを読み学習したり情報を得るのに慣れる。PCを使って課題ファイルに記入して提出リポートを完成し、指定フォルダーに提出することで地道な学習習慣を身につける。

■到達目標
テキストに出てくる基本英単語・基本英文法・実用的な英語表現を少なくとも６割以上身につける。

■講義方法
予習で、時間を計りながら本文をリーディングした後、テキストの問題で理解を確認する。さらに、なじみのない語彙は辞書で確認しておく。
全体授業で英文法のポイントを復習するとともに、簡単な語彙や表現を多く学習する。リーディングのコツも確認する。
その後、各自が予習内容の点検を行い、当日の話題についてネット検索をしたり、必須課題が終わればネット上の英語学習サイトを利用して自主学習をする。
次週までに、当日学習した内容をPCを使って課題ファイルに記入して提出リポートを完成し、指定フォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻･早退･中座は１／３欠席。各１点満点･15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）５点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。
レポート（30%）各２点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると１点加点される。上限+５点まで。
１） 読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
２） 英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。
クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
３） 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
Josef Williamson, Armanda Dingledy-Rodie 『Guinness World Records Reading 1』 Macmillan 1,800円
定価は本体価格である。４月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。
音声ファイルはダウンロードして用いる予定である。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイルの芝原への連絡ボックスに記し、クラスフォルダーに提出する。

■講義計画
①Orientation
Unit 1 Rock Paper Scissors
②Unit 2 Chili Peppers
③Unit 3 To Row the Indian Ocean Solo
④Unit 4 Tattoo
⑤Unit 5 Broken Bowls
⑥Unit 6 Ice Cream Cone
⑦Unit 7 Dance Dance Revolution
⑧Unit 8 Gastropod
⑨Unit 9 Fingernails
⑩Unit 10 Bubble Gum
⑪Unit 11 Airpot Passenger Terminal
⑫Unit 12 Diamond
⑬Unit 13 Coastline
⑭Unit 14 Soccer Kick
⑮Unit 15 Lawnmower Journey
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
TOEIC Testへの橋渡し

■講義概要
資格試験のTOEIC Bridge対策用テキストを使って、聴解力・読解力を鍛え、語彙力や文法力も伸ばす。また、ネット上の無料学習サイトを紹介するので、必要な情報や学習の機会を得る。基礎を大切にしつつ、各自で英語力を伸ばすために必要な英語学習がしっかりできるように授業進度をペースメーカーとしたい。

■到達目標
テキストにあるような英語の基本単語・基本文法用法・語彙表現を復習し、確実に身につけることを目標とする。

■講義方法
まず、予習で本日の基本文法を見直し、テキストの問題を解いておく。
次に全体授業で、文法のポイントを学習するとともに、関連のある簡単な語彙や表現を学習する。
全体説明の後、テキストの要点を各自確認する。
さらに、テキストに登場する指定話題についてネット上で調べ、学習シートを完成する。
基本的に一日に１課進む予定であり、次週までに課題レポートとしてが完成した学習シートをクラスフォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の自習室でもクラスフォルダーを利用することができ、課題レポート提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻･早退･中座は１／３欠席。各１点満点･15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）5点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。
レポート（30%）各２点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると１点加点される。上限+５点まで。
１） 読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。
クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
２） 英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。
クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
３） 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
Terry O'Brien、三原　京、秀野　作次郎、木村　博是　著
『TOEIC Bridge Lounge』 南雲堂　1,800円
定価は本体価格である。４月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。
テキストの付属CDは前期授業が始まる前に全体を通して聴き、健全に初めから最後まで音声が聞こえるかどうかを点検しておこう。授業中教室内の各自PCでも視聴可能であるが、終了前には必ず取り出し毎回持ち帰ること。置きっぱなしには出来ない。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書を持参し、授業中に適宜活用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイル末尾に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画
①Orientation
Lesson 1 The Weather
②Lesson 2 Meetings & Messages
③Lesson 3 Health
④Lesson 4 Advertising & Sales
⑤Lesson 5 Investment & Office Supplies
⑥Lesson 6 Telephone Messages
⑦Lesson 7 Jobs & Promotions
⑧Lesson 8 Flights & Traveling
⑨Lesson 9 Housing
⑩Lesson 10 New products & Electrical Appliances
⑪Lesson 11 Media
⑫Lesson 12 Ordering & Shipping
⑬Lesson 13 Customer Services
⑭Lesson 14 The Environment
⑮Lesson 15 Mini Test
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】芝原　直美
【開講】後期　水３

■サブタイトル
基礎英語彙とリーディング

■講義概要
易しいギネス記録に関するリーディングのテキストを使って、基本文法の復習をする・読解力を鍛え読む速度を上げる・語彙力伸すように努力をする。さらに、ネット上の英語学習サイトや英文サイトを利用し、英語でサイトを読み学習したり情報を得るのに慣れる。PCを使って課題ファイルに記入して提出リポートを完成し、指定フォルダーに提出することで地道な学習習慣を身につける。

■到達目標
テキストに出てくる基本英単語・基本英文法・実用的な英語表現を少なくとも６割以上身につける。

■講義方法
予習で、時間を計りながら本文をリーディングした後、テキストの問題で理解を確認する。さらに、なじみのない語彙は辞書で確認しておく。
全体授業で英文法のポイントを復習するとともに、簡単な語彙や表現を多く学習する。リーディングのコツも確認する。
その後、各自が予習内容の点検を行い、当日の話題についてネット検索をしたり、必須課題が終わればネット上の英語学習サイトを利用して自主学習をする。
次週までに、当日学習した内容をPCを使って課題ファイルに記入して提出リポートを完成し、指定フォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
学内の情報自習室でも、各自課題をし、課題ファイルを提出フォルダーに提出ができる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻･早退･中座は１／３欠席。各１点満点･15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。
小テスト（10%）５点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。
レポート（30%）各２点満点のファイルを遅れずに15個提出する。
定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。
〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕 英語ニュースを読んでミニリポートを提出しよう。
よくできていると１点加点される。上限+５点まで。
１） 読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」
２） 英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。
クラスフォルダー参照：「英語ニュース」
３） 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト
Josef Williamson, Armanda Dingledy-Rodie 『Guinness World Records Reading 1』 Macmillan 1,800円
定価は本体価格である。４月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。
音声ファイルはダウンロードして用いる予定である。

■参考文献
ＴＢＡ：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言
翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書持参が望ましいが、忘れたときはネット辞書を利用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．授業中に直接連絡する。
２．Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
３．課題ファイルの芝原への連絡ボックスに記し、クラスフォルダーに提出する。

■講義計画
①Orientation
Unit 1 Rock Paper Scissors
②Unit 2 Chili Peppers
③Unit 3 To Row the Indian Ocean Solo
④Unit 4 Tattoo
⑤Unit 5 Broken Bowls
⑥Unit 6 Ice Cream Cone
⑦Unit 7 Dance Dance Revolution
⑧Unit 8 Gastropod
⑨Unit 9 Fingernails
⑩Unit 10 Bubble Gum
⑪Unit 11 Airpot Passenger Terminal
⑫Unit 12 Diamond
⑬Unit 13 Coastline
⑭Unit 14 Soccer Kick
⑮Unit 15 Lawnmower Journey
⑯The Final Examination

英語（再）

【担当】薗田　千寿子
【開講】前期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の最後に、毎回小テストを行います。当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
小テスト（60%）授業の理解度を確認します。
そ の 他（20%）毎授業終了時に次回授業のリーディングアサインメントを指示します。

■テキスト
Kip A. Cates, Noriko Kurihara 『Off to the World』 金星堂 1,890円
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
①Hitchhiking Around the World
②Olympic Spirit!
③The Power of Greetings
④Where's My Hotel?
⑤Our Global Connections
⑥Welcome Home!
⑦The Secret of Life
⑧Is This Seat Taken?
⑨Exploring World Religions
⑩Let's Study Abroad!
⑪What's the Most Difficult Language?
⑫A Crowded Planet!
⑬Vocabulary Roadblocks
⑭Beware of Landmines!
⑮World Citizenship

英語（再）

【担当】薗田　千寿子
【開講】後期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の最後に毎回小テストを行います。
当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
小テスト（60%）授業の理解度を確認します。
そ の 他（20%）毎回授業終了時に次回授業のリーディングアサインメントを指示します。

■テキスト
David Dale 『The 10 Things about Australia 1』 アポロン社 1,080円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
①About Australia
②１.Where We Live
③２.The Newer Arrivals
④３.Size
⑤Review 1
⑥４.The Republic
⑦５.The Weather
⑧６.Ned Kelly
⑨Review２
⑩７.The Way of Death
⑪８.Family Life
⑫Review２
⑬９.Uluru
⑭10.Beer
⑮Review３

英語（再）

【担当】西川　隆
【開講】前期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。
どのような話題の英文であっても、辞書があれば読み進んでいけるように、一定の文法的な理解に基づいた基本的な読解力を身につけることを目標とする。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。基本的に、テキストを中心にして、各ユニットの本文を、語彙、文法上のポイントなどを確認しながら読み進めてゆく。また、進度については、実際に授業を進めてゆくなかで、適宜、調整してゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニット本文の内容について発言を求めるので、必ず予習をして授業に臨むこと。また、語彙、文法上のポイントなどについては必ず復習し、本文の内容の確認に努めること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業内発表の内容、取り組みの姿勢を段階をつけて評価する。
定期試験（70%）授業で取り上げたテキストの箇所を範囲とし、その内容、形式の詳細については、学期の最終授業時に説明する。
全授業回数の２/３以上の出席がない場合、定期試験の受験資格が与えられないものとする。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合、特に減点の対象となることもある。

■テキスト
竹内理、他 『Reading Stream: Pre-intermediate』 金星堂 1,900円

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■講義計画
①授業にかんするガイダンス
テキストへの導入
②Unit 1
③Unit 1, Exercises
④Unit 2
⑤Unit 2, Exercises
⑥Unit 3
⑦Unit 3, Exercises
⑧Unit 4
⑨Unit 4, Exercises
⑩Unit 5
⑪Unit 5, Exercises
⑫Unit 6
⑬Unit 6, Exercises
⑭Unit 7
⑮Unit 7, Exercises

英語（再）

【担当】西川　隆
【開講】後期　金４

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。
どのような話題の英文であっても、辞書があれば読み進んでいけるように、一定の文法的な理解に基づいた基本的な読解力を身につけることを目標とする。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。基本的に、テキストを中心にして、各ユニットの本文を、語彙、文法上のポイントなどを確認しながら読み進めてゆく。また、進度については、実際に授業を進めてゆくなかで、適宜、調整してゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示
各ユニット本文の内容について発言を求めるので、必ず予習をして授業に臨むこと。また、語彙、文法上のポイントなどについては必ず復習し、本文の内容の確認に努めること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業内発表の内容、取り組みの姿勢を段階をつけて評価する。
定期試験（70%）授業で取り上げたテキストの箇所を範囲とし、その内容、形式の詳細については、学期の最終授業時に説明する。
全授業回数の２/３以上の出席がない場合、定期試験の受験資格が与えられないものとする。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合、特に減点の対象となることもある。

■テキスト
八木茂那子、他『It's Time to Read！』南雲堂　1,300円

■参考文献
『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』

■講義計画
①授業にかんするガイダンス
テキストへの導入
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭Unit 13
⑮Unit 14

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】前期　水2

■講義概要
簡潔な英語で書かれたテキストを、既習の文法事項を確認しながら読解することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・受講生全員が予習をしていることを前提に進めます。授業は「予習の成果を発表する場」と捉えてください。
・挙手による、「予習成果の発表」（＝日本語訳の発表）を大いに評価します。
・テキストの内容理解度を確認するため、計５回、５分程度の小テストを実施します。
・授業の終わりには、予習のヒントとなるように、随時、DVD映像を参照します。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。日本語訳を、必ず用意した上で授業に出席すること。その際、特に、会話表現は、「～は・・・です」と自動的に訳すのではなく、ドラマのせりふのように、私たちが普段使っている日本語に置き換えるよう心がけましょう。そうすることで、日本語と英語の表現の相違点がみえてくるはずです。
【復　習】小テスト、期末テストがあることをふまえて、常日頃から、授業内容を復習をしておくことも重要です。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）挙手による有効な発言１回につき３点。指名による場合は、１点。予習ができていない場合は、－１点。
小テスト（25%）計５回実施。追試なし。公認欠席の場合のみ、救済措置あり。テキストの内容理解度をはかる問題。
定期試験（60%）期末試験期間中に実施。テキストより出題。文法と語彙にかんする問題。詳細は後日口頭で発表。

■テキスト
Winston Groom『Forrest Gump』ピアソン・ロングマン　746円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明　Chapter１～３の内容確認
②Chapter４～５の内容確認
③Chapter６（P.19 ◆まで）
④Chapter６の残部　小テスト①　範囲：Ch.６
⑤Chapter７（P.24 ◆まで）
⑥Chapter７の残部　小テスト②　範囲：Ch.７
⑦Chapter８（P.27 ◆まで）
⑧Chapter８の残部　小テスト③　範囲：Ch.８
⑨Chapter９（P.31 上から５行目まで）
⑩Chapter９の残部　小テスト④　範囲：Ch.９
⑪Chapter11（P.37 ◆まで）
⑫Chapter11の残部
⑬Chapter12（P.41 ◆まで）
⑭Chpater12の残部　小テスト⑤　範囲：Ch.11 & Ch.12
⑮まとめと復習

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】後期　水2

■講義概要
簡潔な英語で書かれたテキストを、既習の文法事項を確認しながら読解することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・受講生全員が予習をしていることを前提に進めます。授業は「予習の成果を発表する場」と捉えてください。
・挙手による、「予習成果の発表」（＝日本語訳の発表）を大いに評価します。
・テキストの内容理解度を確認するため、計５回、５分程度の小テストを実施します。
・授業の終わりには、予習のヒントとなるように、随時、DVD映像を参照します。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。日本語訳を、必ず用意した上で授業に出席すること。その際、特に、会話表現は、「～は・・・です」と自動的に訳すのではなく、ドラマのせりふのように、私たちが普段使っている日本語に置き換えるよう心がけましょう。そうすることで、日本語と英語の表現の相違点がみえてくるはずです。
【復　習】小テスト、期末テストがあることをふまえて、常日頃から、授業内容を復習をしておくことも重要です。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）挙手による有効な発言１回につき３点。指名による場合は、１点。予習ができていない場合は、－１点。
小テスト（25%）計５回実施。追試なし。公認欠席の場合のみ、救済措置あり。テキストの内容理解度をはかる問題。
定期試験（60%）期末試験期間中に実施。テキストより出題。文法と語彙にかんする問題。詳細は後日口頭で発表。

■テキスト
John Steinbeck『Of Mice and Men』ピアソン・ロングマン　746円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明　Chapter１～２の内容確認
②Chapter３（P.10上から７行目まで）
③Chapter３の残部
④Chapter４　小テスト①　範囲：ch.３ & ch.４
⑤Chapter５
⑥Chapter６　小テスト②　範囲：ch.５ & ch.６
⑦Chapter７（P.23上から７行目まで）
⑧Chapter７の残部　小テスト③　範囲：ch.７
⑨Chapter８
⑩Chapter９（P.28下から９行目まで）
⑪Chapter９の残部　小テスト④　範囲：ch.８ & ch.９
⑫Chapter10（P.34上から９行目まで）
⑬Chapter10の残部
⑭Chpater11　小テスト⑤　範囲：ch.10 & ch.11
⑮まとめと復習

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】前期　水３

■講義概要
簡潔な英語で書かれたテキストを、既習の文法事項を確認しながら読解することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・受講生全員が予習をしていることを前提に進めます。授業は「予習の成果を発表する場」と捉えてください。
・挙手による、「予習成果の発表」（＝日本語訳の発表）を大いに評価します。
・テキストの内容理解度を確認するため、計５回、５分程度の小テストを実施します。
・授業の終わりには、予習のヒントとなるように、随時、DVD映像を参照します。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。日本語訳を、必ず用意した上で授業に出席すること。その際、特に、会話表現は、「～は・・・です」と自動的に訳すのではなく、ドラマのせりふのように、私たちが普段使っている日本語に置き換えるよう心がけましょう。そうすることで、日本語と英語の表現の相違点がみえてくるはずです。
【復　習】小テスト、期末テストがあることをふまえて、常日頃から、授業内容を復習をしておくことも重要です。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）挙手による有効な発言１回につき３点。指名による場合は、１点。予習ができていない場合は、－１点。
小テスト（25%）計５回実施。追試なし。公認欠席の場合のみ、救済措置あり。テキストの内容理解度をはかる問題。
定期試験（60%）期末試験期間中に実施。テキストより出題。文法と語彙にかんする問題。詳細は後日口頭で発表。

■テキスト
Winston Groom『Forrest Gump』ピアソン・ロングマン　746円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明　Chapter１～３の内容確認
②Chapter４～５の内容確認
③Chapter６（P.19◆まで）
④Chapter６の残部　小テスト①　範囲：Ch.６
⑤Chapter７（P.24◆まで）
⑥Chapter７の残部　小テスト②　範囲：Ch.７
⑦Chapter８（P.27◆まで）
⑧Chapter８の残部　小テスト③　範囲：Ch.８
⑨Chapter９（P.31上から５行目まで）
⑩Chapter９の残部　小テスト④　範囲：Ch.９
⑪Chapter11（P.37◆まで）
⑫Chapter11の残部
⑬Chapter12（P.41◆まで）
⑭Chpater12の残部　小テスト⑤　範囲：Ch.11 & Ch.12
⑮まとめと復習

英語（再）

【担当】西川　由美子
【開講】後期　水３

■講義概要
簡潔な英語で書かれたテキストを、既習の文法事項を確認しながら読解することで、日常レベルの英語の理解度を高めます。

■到達目標
日常レベルで役に立つ、基礎的な英文法と語彙、会話表現の習得。

■講義方法
・受講生全員が予習をしていることを前提に進めます。授業は「予習の成果を発表する場」と捉えてください。
・挙手による、「予習成果の発表」（＝日本語訳の発表）を大いに評価します。
・テキストの内容理解度を確認するため、計５回、５分程度の小テストを実施します。
・授業の終わりには、予習のヒントとなるように、随時、DVD映像を参照します。

■授業時間外における予・復習等の指示
【予　習】単位取得のために、予習はかかせません。日本語訳を、必ず用意した上で授業に出席すること。その際、特に、会話表現は、「～は・・・です」と自動的に訳すのではなく、ドラマのせりふのように、私たちが普段使っている日本語に置き換えるよう心がけましょう。そうすることで、日本語と英語の表現の相違点がみえてくるはずです。
【復　習】小テスト、期末テストがあることをふまえて、常日頃から、授業内容を復習をしておくことも重要です。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）挙手による有効な発言１回につき３点。指名による場合は、１点。予習ができていない場合は、－１点。
小テスト（25%）計５回実施。追試なし。公認欠席の場合のみ、救済措置あり。テキストの内容理解度をはかる問題。
定期試験（60%）期末試験期間中に実施。テキストより出題。文法と語彙にかんする問題。詳細は後日口頭で発表。

■テキスト
John Steinbeck『Of Mice and Men』ピアソン・ロングマン　746円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
・自覚的に単位取得を目指すためにも、始業時刻を厳守すること。チャイムが鳴り終わったところで出席をとります。
・６回欠席すると期末試験の受験資格がなくなります。ただし、遅刻（20分まで）２回で欠席１回とみなします。
・無断退室は欠席扱いとします。私語、居眠りなど不真面目な受講態度は減点の対象になることがあります。

■講義計画
①授業についての説明　Chapter１～２の内容確認
②Chapter３（P.10上から７行目まで）
③Chapter３の残部
④Chapter４　小テスト①　範囲：ch.３ & ch.４
⑤Chapter５
⑥Chapter６　小テスト②　範囲：ch.５ & ch.６
⑦Chapter７（P.23上から7行目まで）
⑧Chapter７の残部　小テスト③　範囲：ch.７
⑨Chapter８
⑩Chapter９（P.28下から9行目まで）
⑪Chapter９の残部　小テスト④　範囲：ch.８ & ch.９
⑫Chapter10（P.34上から9行目まで）
⑬Chapter10の残部
⑭Chpater11　小テスト⑤　範囲：ch.10 & ch.11
⑮まとめと復習

英語（再）

【担当】宮尾　元子
【開講】前期　火4

■講義概要
英語の基礎力の定着とさらなる向上のために、TOEIC対策テキストを用いて学習する。
■到達目標
テキストの問題を解いて行くことで、実用的な英語表現の習得を目指す。
■講義方法
リスニングとリーディングとに分けて、２回の授業で一章を仕上げる。リスニングでは解答するだけでなく、音読やペアワーク等の練習も活発に行いたい。各章の学習終了後に小テストを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業毎に語彙に関する予習を課す。また、小テストに備えての復習は手を抜かずにするように。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席ではなく、発表等の授業に対する取り組み方への評価
小テスト（20%）
レポート（20%）提出課題
定期試験（30%）まとめのテスト
■テキスト
横川綾子、他 『Level-Up Trainer for the TOEIC Test』
Cengage Learning　2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
欠席５回で受講資格を失うものとする。また、遅刻３回、テキスト忘れ３回で、それぞれ欠席1回とみなす。辞書は必ず持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit１　TOEIC を知る
③Unit１
④Unit１
⑤Unit２　基本戦略①
⑥Unit２
⑦Unit２
⑧Unit３　基本戦略②
⑨Unit３
⑩Unit３
⑪Unit４　英文の基本構造を見抜く
⑫Unit４
⑬Unit４
⑭まとめテスト
⑮Review

英語（再）

【担当】宮尾　元子
【開講】後期　火4

■講義概要
英語の基礎力の定着とさらなる向上のために、TOEIC対策テキストを用いて学習する。
■到達目標
テキストの問題を解いて行くことで、実用的な英語表現の習得を目指す。
■講義方法
リスニングとリーディングとに分けて、２回の授業で一章を仕上げる。リスニングでは解答するだけでなく、音読やペアワーク等の練習も活発に行いたい。各章の学習終了後に小テストを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業毎に語彙に関する予習を課す。また、小テストに備えての復習は手を抜かずにするように。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席ではなく、発表等の授業に対する取り組み方への評価
小テスト（20%）
レポート（20%）提出課題
定期試験（30%）まとめのテスト
■テキスト
横川綾子、他 『Level-Up Trainer for the TOEIC Test』
Cengage Learning　2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
欠席５回で受講資格を失うものとする。また、遅刻３回、テキスト忘れ３回で、それぞれ欠席１回とみなす。辞書は必ず持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit５　解答根拠の登場順
③Unit５
④Unit５
⑤Unit６　正解の言い換えパターンを知る
⑥Unit６
⑦Unit６
⑧Unit７　機能疑問文を聞き取る
⑨Unit７
⑩Unit７
⑪Unit８　動詞の時制を見極める
⑫Unit８
⑬Unit８
⑭まとめのテスト
⑮Review

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts1-4 of the TOEIC test.This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,and strenghtening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiyuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
そ の 他（25%）Homework

■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■履修上の注意・担当者からの一言
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Tactics: Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　金５

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be foundin parts 1～4 of the TOEIC test.This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework

■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■履修上の注意・担当者からの一言
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of pictures
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Questions
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をおこなうこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and give them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes foun in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles fromThe Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■履修上の注意・担当者からの一言
特になし
■講義計画
①Intro to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photographs
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　金５

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts1～4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods,building vocabulary,reviewing grammar,and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulaty that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles fromThe Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■履修上の注意・担当者からの一言
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Questions
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＢ１

【担当】前川　貴史
【開講】前期　金2

■サブタイトル
時事英語
■講義概要
この授業では、マスメディアに登場する英語を学びます。主に英字新聞で使われる英語に親しんでいきます。社会、経済、科学技術、文化、環境、教育、労働、医療など、幅広い分野についてのニュースを取り上げます。
■到達目標
英字新聞を抵抗感なく読むことができ、内容を理解できるようになること、スキミングやスキャニングなどの速読の手法に慣れることを目標とします。
■講義方法
基本的に教科書の講読や演習を行う。視聴覚教材も利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中にお知らせします。
■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績、宿題の提出状況、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
成績評価の方法については変更することがあります。
■テキスト
Junko Murao, Akiko Miyama, Yuya Koga, Atsushi Mukuhira, Tomoko Tsujimoto, Ashley Moore 『Insights 2014』 KINSEIDO（金星堂） 2,014円
■参考文献
授業中にお知らせします。
■履修上の注意・担当者からの一言
6回以上欠席した場合は定期試験が受けられません。遅刻3回で欠席１回とします。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中にお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
英字新聞の特徴について
②観光についての記事
③社会についての記事
④防災についての記事
⑤文化についての記事
⑥社会についての記事
⑦文化についての記事
⑧環境についての記事
⑨社会についての記事
⑩観光についての記事
⑪科学技術についての記事
⑫健康についての記事
⑬文化についての記事
⑭経済についての記事
⑮まとめ

英語セミナーＢ２

【担当】前川　貴史
【開講】後期　金2

■サブタイトル
時事英語
■講義概要
この授業では、マスメディアに登場する英語を学びます。主に英字新聞で使われる英語に親しんでいきます。社会、経済、科学技術、文化、環境、教育、労働、医療など、幅広い分野についてのニュースを取り上げます。
■到達目標
英字新聞を抵抗感なく読むことができ、内容を理解できるようになること、スキミングやスキャニングなどの速読の手法に慣れることを目標とします。
■講義方法
基本的に教科書の講読や演習を行います。視聴覚教材も利用する。今学期の後半は、新聞・雑誌・インターネットなどから学生が記事を選び、それに基づいてプレゼンテーションを行う予定です。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中にお知らせします。
■成績評価の方法
その他（100%）定期試験の成績､学生によるプレゼンテーション、宿題の提出状況、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
成績評価の方法については変更することがあります。
■テキスト
Junko Murao, Akiko Miyama, Yuya Koga, Atsushi Mukuhira, Tomoko Tsujimoto, Ashley Moore 『Insights 2014』 KINSEIDO（金星堂） 2,014円
■参考文献
授業中にお知らせします。
■履修上の注意・担当者からの一言
6回以上欠席した場合は定期試験が受けられません。遅刻3回で欠席１回とします。
■講義計画
①イントロダクション
②科学技術についての記事
③環境・エネルギーについての記事
④社会についての記事
⑤経済についての記事
⑥科学についての記事
⑦文化についての記事
⑧医療についての記事
⑨学生によるプレゼンテーション
⑩学生によるプレゼンテーション
⑪学生によるプレゼンテーション
⑫学生によるプレゼンテーション
⑬学生によるプレゼンテーション
⑭学生によるプレゼンテーション
⑮まとめ

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート1
③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート2
④Me & Myself I: Personal History－Who am I?
私自身I：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself－What do I need? Hand in HW 1
私自身II：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself III: Choices－What should I do?
私自身III：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself IV: Self-control－How can I manage myself?
私自身IV：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself V: The Future－How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others I: Differences－What makes me me?
私と人I：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others II: Groups－Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others III: Friends & Family－How should I relate?
私と人III：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others IV: Emotions－How should I handle my feelings?
私と人IV：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others V: Civility－How should I behave? Assign HW 3
私と人V：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others VI: Judgment－How should I evaluate myself and others?
私と人VI：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn,and make use of their own experience and knowledge.We will be working in pairs and small groups,providing a maximum amount of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self-study audio at>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水３

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート1
③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート2
④Me & Myself I: Personal History－Who am I?
私自身I：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself－What do I need? Hand in HW 1
私自身II：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself III: Choices－What should I do?
私自身III：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself IV: Self-control－How can I manage myself?
私自身IV：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself V: The Future－How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others I: Differences－What makes me me?
私と人I：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others II: Groups－Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others III: Friends & Family－How should I relate?
私と人III：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others IV: Emotions－How should I handle my feelings?
私と人IV：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others V: Civility－How should I behave? Assign HW 3
私と人V：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others VI: Judgment－How should I evaluate myself and others?
私と人VI：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】前期　金２

■サブタイトル
English Communication
■講義概要
To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language.
Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits.
A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing.
A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.
■到達目標
Relative to students' abilities.
■講義方法
Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.
■授業時間外における予・復習等の指示
Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.
■成績評価の方法
平常点（100%）Class participation.
■テキスト
辞書持参
■参考文献
特になし
■講義計画
①Dialogue
②Narrative
③Reading
④Dialogue
⑤Narrative
⑥Reading
⑦Dialogue
⑧Narrative
⑨Reading
⑩Dialogue
⑪Narrative
⑫Reading
⑬Dialogue
⑭Narrative
⑮Reading

英語セミナーＣ２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加40・宿題30　（1回に付き10点×3回）・テスト20合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）
■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係３：食物の文化
⑦Global Relationships IV: Culture
グローバル関係４：人間の文化
⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization III: Humanity' s Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーＣ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give them the opportunity to personalize the language they learn,and make use of their own experiences and knowledge.We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughout the course,students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self-study audio at>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of Course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーC２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を3回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加40・宿題30（1回に付き10点×3回）・テスト20
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係３：食物の文化
⑦Global Relationships IV: Culture
グローバル関係４：人間の文化
⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization III: Humanity' s Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーC２

【担当】イエニク・S・C
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Active English
■講義概要
The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.
■到達目標
Relative to students abilities
■講義方法
Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.
■授業時間外における予・復習等の指示
Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.
■成績評価の方法
平常点（100%）Homework. Class Performance.
■テキスト
特になし
■参考文献
Any good dictionary.
■履修上の注意・担当者からの一言
Do not miss the first class.

■講義計画
①Introduction and Video Exercise
②Creative Stimulus Exercise
③Creative Stimulus and Narrative Writing
④Convert Narrative to Dialogue
⑤～⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーＤ１

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Welcome to Suspense: Super Fiction English 1

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために面白い物語を複数読んでみる。まずアメリカの人気俳優マット・デイモン主演で大ヒットしたスパイスリラー、The Bourne Identityの原作をretold版（より易しい英語で書き直したもの）で読む。記憶をなくした男が見出す自分についての衝撃の真実！筋はやや複雑だが、リトールド版の英語はあまり難しくないので、予習でしっかり読んでもらい、授業では内容が理解できているかどうかを確認して、重要表現などの学習に力を入れる。また、英語の物語に一層興味を持ってもらうことを狙って、これ以外にも様々な魅力的な短いストーリーや、長編の一部なども適宜追加で読んでみたい。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
前週に次回扱う内容のハンドアウトを配布。せいぜい5ページ程度の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メインのThe Bourne Identityについては、全部は読めないので、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説、表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。毎回学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー D2

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、予習状況、授業中の発表、コメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
The Bourne Identity、及び他の物語の、いずれもハンドアウトを使用する予定。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容なので消化しきれない恐れもあり、授業の進め方を調整する可能性がある。メイン作品については、この機会にぜひ丸ごと読破してほしい。図書館にもあるし、2014年１月現在、Amazonで買うと、本だけで850円弱、CD付きで1,700円余り。購入については相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②The Bourne Identity（1）
③The Bourne Identity（2）
④The Bourne Identity（3）
⑤The Bourne Identity（4）
⑥The Bourne Identity（5）
⑦The Bourne Identity（6）
⑧The Bourne Identity（7）
⑨The Bourne Identity（8）
⑩The Bourne Identity（9）
⑪The Bourne Identity（10）
⑫The Bourne Identity（11）
⑬The Bourne Identity（12）
⑭The Bourne Identity（13）
⑮The Bourne Identity（14）
以上にいくつか別のストーリーを追加

英語セミナーD２

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Fantastic Fantasy: Super Fiction English 2

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために面白い物語を複数読んでみる。まず日本でのお馴染みの児童文学の古典、The Wonderful Wizard of Oz（オズの魔法使い）の原作を読む。児童文学の英語が易しいとは限らないが、これは英語の読みやすさと物語の質の高さを兼ね備えた稀有な作品。少し童心に帰れば大人でも楽しめる。retold版ではない原作の魅力を味わってほしい。また、英語の物語に一層興味を持ってもらうことを狙って、これ以外にも様々な魅力的な短いストーリーや、長編の一部なども適宜追加で読んでみる。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
前週に次回扱う内容のハンドアウトを配布。せいぜい5ページ程度の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メインのThe Wonderful Wizard of Ozについては、全部は読めないので、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説、表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。毎回学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー D1

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、予習状況、授業中の発表、コメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
The Wonderful Wizard of Oz、及び他の物語の、いずれもハンドアウトを使用する予定。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容なので消化しきれない恐れもあり、授業の進め方を調整する可能性がある。メイン作品については、この機会にぜひ丸ごと読破してほしい。2014年１月現在Amazonのペーパーバックは300円弱で買えるし、キンドル版ならパソコンに無料ダウンロード可。購入については相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の４講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②The Wonderful Wizard of Oz（1）
③The Wonderful Wizard of Oz（2）
④The Wonderful Wizard of Oz（3）
⑤The Wonderful Wizard of Oz（4）
⑥The Wonderful Wizard of Oz（5）
⑦The Wonderful Wizard of Oz（6）
⑧The Wonderful Wizard of Oz（7）
⑨The Wonderful Wizard of Oz（8）
⑩The Wonderful Wizard of Oz（9）
⑪The Wonderful Wizard of Oz（10）
⑫The Wonderful Wizard of Oz（11）
⑬The Wonderful Wizard of Oz（12）
⑭The Wonderful Wizard of Oz（13）
⑮The Wonderful Wizard of Oz（14）
以上にいくつか別のストーリーを追加

英語セミナーＥ１

【担当】里井　久輝
【開講】前期　水３

■サブタイトル
英語らしい音と表現を身につけよう！
■講義概要
映画や歌などの視聴覚教材は、興味を持って楽しく英語の運用力を身につけることができるとてもよい手段である。本セミナーでは、映画や歌を通じて、その中で使われるさまざまな表現を学び、英語らしい発音・音声を身につけ、実践的なコミュニケーション力の強化をはかる。
■到達目標
映画・ミュージカルや、スタンダード・ジャズやポップスなどの歌を通じて、英語に親しみながら、英語らしい自然な発音・音声を習得するための音声学の基礎を身につける。台詞や歌詞から学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
毎回のテーマに沿った映画・ミュージカルや歌から、印象深い台詞や歌詞を取り上げ、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）の音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を学び身につける。取り上げる台詞や歌詞が使用されるさまざまな状況や場面を想定し、語用論的な観点からの分析も試みつつ、発音に留意しながら実際に自ら演じることで、その内容を実際のコミュニケーションの場面でも役立てられるよう深めてゆく。なお、テーマごとの映画についての発表も適宜行ってもらう予定である。
■授業時間外における予・復習等の指示
常に発音を確認しながらの音読を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
里井久輝『英語で歌おう！スタンダード・ジャズ』アルク　2,100円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
このセミナーでは特に毎回の入念な復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①前期オリエンテーション
②ディズニー映画の系譜（1）
③ディズニー映画の系譜（2）
④ラブ・ストーリーの系譜（1）
⑤ラブ・ストーリーの系譜（2）
⑥ロマンティック・コメディの系譜（1）
⑦ロマンティック・コメディの系譜（2）
⑧アクション・ＳＦ映画の系譜（1）
⑨アクション・ＳＦ映画の系譜（2）
⑩戦争映画の系譜（1）
⑪戦争映画の系譜（2）
⑫ミュージカル・ファンタジー映画の系譜（1）
⑬ミュージカル・ファンタジー映画の系譜（2）
⑭コメディの系譜
⑮まとめ・レポート提出

英語セミナーＥ２

【担当】里井　久輝
【開講】後期　水３

■サブタイトル
英語らしい音と表現を身につけよう！
■講義概要
映画や歌などの視聴覚教材は、興味を持って楽しく英語の運用力を身につけることができるとてもよい手段である。本セミナーでは、映画や歌を通じて、その中で使われるさまざまな表現を学び、英語らしい発音・音声を身につけ、実践的なコミュニケーション力の強化をはかる。
■到達目標
映画・ミュージカルや、スタンダード・ジャズやポップスなどの歌を通じて、英語に親しみながら、英語らしい自然な発音・音声を習得するための音声学の基礎を身につける。台詞や歌詞から学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
毎回のテーマに沿った映画・ミュージカルや歌から、印象深い台詞や歌詞を取り上げ、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）の音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を学び身につける。取り上げる台詞や歌詞が使用されるさまざまな状況や場面を想定し、語用論的な観点からの分析も試みつつ、発音に留意しながら実際に自ら演じることで、その内容を実際のコミュニケーションの場面でも役立てられるよう深めてゆく。なお、テーマごとの映画についての発表も適宜行ってもらう予定である。
■授業時間外における予・復習等の指示
常に発音を確認しながらの音読を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
里井久輝 『英語で歌おう! スタンダード・ジャズ』 アルク　2,100円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
このセミナーでは特に毎回の入念な復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①後期オリエンテーション
②ディズニー映画の系譜（1）
③ディズニー映画の系譜（2）
④ラブ・ストーリーの系譜（1）
⑤ラブ・ストーリーの系譜（2）
⑥ロマンティック・コメディの系譜（1）
⑦ロマンティック・コメディの系譜（2）
⑧アクション・ＳＦ映画の系譜（1）
⑨アクション・ＳＦ映画の系譜（2）
⑩ミュージカル・ファンタジー映画の系譜（1）
⑪ミュージカル・ファンタジー映画の系譜（2）
⑫クリスマス映画とクリスマス・ソングの系譜（1）
⑬クリスマス映画とクリスマス・ソングの系譜（2）
⑭サスペンス映画の系譜
⑮まとめ・レポート提出

教育原論A

【担当】藤井　奈津子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
子ども期の再発見
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ､大人とともに遊び･働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。
■到達目標
近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には､ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Bも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし。
■成績評価の方法
レポート（40%）小レポート４回
定期試験（60%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』 みすず書房　5,200円
森田伸子 『テクストの子ども―ディスクール・レシ・イマージュ』 世織書房　2,600円
本田和子 『映像の子どもたち―ビデオという覗き窓』 人文書院　1,900円
■講義計画
①オリエンテーション
②子ども期の発見
③子どもの時間（1）― ロマン主義的子ども観
④子どもの時間（2）―〔映画視聴〕
⑤子どもの時間（3）― 映画解説 ― 子どものリアリティ
⑥子どもと秘密（1）― 子どもの秘密と大人の秘密
⑦子どもと秘密（2）―〔映画視聴〕
⑧子どもと秘密（3）― 映画解説 ― 禁止への侵犯
⑨子どものイニシエーション（1）― イニシエーションとは何か
⑩子どものイニシエーション（2）―〔映画視聴〕
⑪子どものイニシエーション（3）― 映画解説 ― 子どもから大人へ
⑫大人の生における子ども期の意味（1）― 子ども期とは何か
⑬大人の生における子ども期の意味（2）― J.S.ミルの事例から
⑭大人の生における子ども期の意味（3）― 里山学校の実践
⑮まとめ

教育原論A

【担当】広川　義哲
【開講】前期　月2

■サブタイトル
子ども・学校・社会
■講義概要
教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
西平直　　『教育人間学のために』 東京大学出版会
矢野智司　　『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房
高橋勝　　『文化変容のなかの子ども』 東信堂
柴田義松編 『新・教育原理』 有斐閣
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育学の基礎的な概念と枠組み
③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
⑦学校と教育①：学校と教室の変容
⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
⑨学校と教育③：子ども期の発見
⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
⑮まとめ

教育原論A

【担当】広川　義哲
【開講】前期　月3

■サブタイトル
子ども・学校・社会
■講義概要
教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
西平直　『教育人間学のために』 東京大学出版会
矢野智司　『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房
高橋勝　『文化変容のなかの子ども』 東信堂
柴田義松編　『新・教育原理』 有斐閣
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育学の基礎的な概念と枠組み
③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
⑦学校と教育①：学校と教室の変容
⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
⑨学校と教育③：子ども期の発見
⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
⑮まとめ

教育原論B

【担当】藤井　奈津子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
近代教育を超える可能性
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。
■到達目標
子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解した上で、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点を養う。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Aも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし。
■成績評価の方法
レポート（40%）小レポート４回
定期試験（60%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
亀山佳明 『子どもと悪の人間学―子どもの再発見のために』以文社 3,400円
矢野智司 『自己変容という物語―生成・贈与・教育』金子書房　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②近代教育の誕生
③近代教育の諸問題（1）―学級のアノミー化
④近代教育の諸問題（2）―他者への過剰同調
⑤近代教育の諸問題（3）―〔映画視聴〕
⑥近代教育の諸問題（4）―〔映画視聴〕
⑦近代教育の諸問題（5）―映画解説―共有し得ない痛み
⑧近代教育の諸問題（6）―空虚感からの脱出
⑨近代教育を超える可能性（1）―社会化から超社会化へ
⑩近代教育を超える可能性（2）
―〔ビデオ視聴〕―新しい授業実践（中学校）
⑪近代教育を超える可能性（3）
―ビデオ解説―新しい授業実践（中学校）
⑫近代教育を超える可能性（4）
―〔ビデオ視聴〕―新しい授業実践（高校）
⑬近代教育を超える可能性（5）
―ビデオ解説―新しい授業実践（高校）
⑭近代教育を超える可能性（6）
―〔ビデオ視聴〕―新しい授業実践（小学校）
⑮まとめ

教育原論Ｂ

【担当】広川　義哲
【開講】後期　月２

■サブタイトル
教育の歴史と理論
■講義概要
本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
原聰介ほか編　『近代教育思想を読みなおす』　新曜社
高橋勝・広瀬俊雄編　『教育関係論の現在』　川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育の歴史①：学校の成立史
③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
④教育の歴史③：家庭／家族という問題
⑤教育の歴史④：身体の技法・体育の構想
⑥近代の教育思想①：ルソー
⑦近代の教育思想②：ペスタロッチ
⑧近代の教育思想③：ヘルバルト
⑨近代の教育思想④：デューイ
⑩近代の教育思想⑤：シュプランガー
⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
⑮まとめ

教育原論Ｂ

【担当】広川　義哲
【開講】後期　月３

■サブタイトル
教育の歴史と理論
■講義概要
本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
原聰介ほか編　『近代教育思想を読みなおす』　新曜社
高橋勝・広瀬俊雄編　『教育関係論の現在』　川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育の歴史①：学校の成立史
③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
④教育の歴史③：家庭／家族という問題
⑤教育の歴史④：身体の技法・体育の構想
⑥近代の教育思想①：ルソー
⑦近代の教育思想②：ペスタロッチ
⑧近代の教育思想③：ヘルバルト
⑨近代の教育思想④：デューイ
⑩近代の教育思想⑤：シュプランガー
⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
⑮まとめ

経済学入門

【担当】藤田　和孝
【開講】前期　水３

■サブタイトル
政策的視点から経済学の基礎を学ぶ

■講義概要
日々、デフレ不況、円高、金融緩和などの経済ニュースを新聞などで目にすることが多い。マクロ経済学、マクロ経済政策の基礎を学ぶことで、日本政府の様々な経済政策が、どのような期待の下で導入されているのか、そしてどのような結果を導いたのか、さらに日本経済の何が問題で政府が何を悩んでいるのか、そして何をどのような視点で考えるべきなのかが分かる。

■到達目標
現在のわが国の景気動向や経済政策についての理解を深めることを目指す。マスコミや政治家の意見に左右されることなく、日本の経済政策について自分の意見をしっかり持てるよう考え方を鍛える。

■講義方法
講義形式で、テキストに沿って進める。
優秀な若手経済学者によるコンパクトな入門書を約３か月で読破する。各自でしっかり読み込んでほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストは、一般向けに易しく書かれているので、講義に合わせて最後まで読破してほしい。とにかく教科書を隅々まで読む込むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業への参加度/貢献度を考慮する場合がある。集中して話を聞くこと。
レポート（80%）講義中に４回のレポート提出を課す。
出席は一切評価しないし、出題の趣旨を理解していないレポートも評価しない。

■テキスト
飯田泰之 『ゼロから学ぶ経済政策』 角川書店　724円

.■参考文献
飯田泰之　『世界一わかりやすい経済の教室』 中経文庫　619円
岩田規久男 『デフレと超円高』 講談社現代新書
岩田規久男 『マクロ経済学を学ぶ』 ちくま新書
いずれもコンパクトな一般向けの本である。まずは、小さい本を読破することからはじめて欲しい。

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で取り上げるテーマは、主に経済学部で学ぶ内容である。卒業後、経済学部出身ではないから知らないという言い訳は通用しない。社会人として経済政策に関心をもって勉強を続けていくきっかけを掴んでほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の後は時間に余裕があるので、捕まえてほしい。

■講義計画
①マクロ経済学と経済政策の３つの柱
②成長政策－総需要と景気変動－
③インフレとデフレ
④金融と総需要－金利と民間設備投資－
⑤為替レートとマクロ経済－経常収支決定のメカニズム－
⑥ミクロ経済政策－市場の失敗など－
⑦情報の非対称性
⑧安定化政策①財政政策
⑨公共投資は景気対策として有効か
⑩安定化政策②金融政策のメカニズム
⑪不況対策としての金融政策
⑫変動相場制の下での金融政策
⑬再分配政策の基本理念
⑭機会の平等と結果の平等
⑮日本の社会保障制度の再分配機能

経済学入門

【担当】長谷　祐
【開講】前期　金５

■サブタイトル
「合理的」って?

■講義概要
私たちは日々､選択に迫られます｡｢どこで何を食べようか?｣､｢どのサークルに入ろうか?｣､｢どんなアルバイトをしようか?｣､｢どの講義を受けようか?｣などなど、皆さんはいろんな選択をしながら生活しています。
では､皆さんは｢なぜ｣その選択をしたのでしょう?｢好きだから｣､｢仕方なく｣､｢他より面白そうだったから｣､いろんな答えがあると思います。それらの優先順位はどう決まったのでしょう?
今度は逆の立場で考えてみましょう。｢たくさんの新入生に自分のサークルに入ってほしい！｣つまり､｢多くの新入生に､『自分のサークルに入るという選択をしてほしい』｣。この時、皆さんはどんな作戦を立てればいいでしょうか?
経済学はこうした選択の裏側を考える学問です。決してお金の問題だけではありません。
この講義では、皆さんの選択の裏側を経済学や心理学の視点から考えていきます。

■到達目標
経済学の基本を学ぶことで、自分たちの行動の裏側にある論理を理解できるようになる。

■講義方法
講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見･考え方を取り入れられるような工夫を試みる。

■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活の中で、自分の行動を説明しようとしてみる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし
受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
特になし
｢経済学｣には色んな考え方があります。｢経済学｣を学び、自分の行動を見つめ直すことで、自分の考え方や好みというものが、より理解できるようになると思います。
なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願いします。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画
①オリエンテーション
②日常生活における経済とは?
③経済・心理のお話①：価値とは何か?
④経済・心理のお話②：満足とは何か?
⑤経済・心理のお話③：右向け右！右向け左！
⑥経済・心理のお話④：自分でもわからない金銭的価値と心理的価値
⑦経済・心理のお話⑤：あなたの（時間的）価値とは何か?
⑧これまでの復習
⑨経済行動のお話①：なぜ、われわれは不合理な行動をとるのか?
⑩経済行動のお話②：なぜ、となりのレジに並び変えようとするのか?
⑪経済行動のお話③：払ってしまったお金のことは忘れよう！
⑫経済行動のお話④：騙す方が悪い?騙されるほうが悪い?
⑬世界と日本のお話①：風が吹けば桶屋が儲かる!?
⑭世界と日本のお話②：よりよい社会・日常生活のために・・・。
⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月１

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。
なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。
■系統的履修
なし。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円
■参考文献
授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：なぜ取引するのか
⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑧価格の役割：市場が語る時
⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
⑩公共部門：政府も失敗するさ
⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑬貨幣システム：お金とはなにか
⑭もう一度、経済学とは：人間は合理的か
⑮期末練習問題

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月３

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。
なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。
■系統的履修
なし。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円
■参考文献
授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：なぜ取引するのか
⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑧価格の役割：市場が語る時
⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
⑩公共部門：政府も失敗するさ
⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑬貨幣システム：お金とはなにか
⑭もう一度、経済学とは：人間は合理的か
⑮期末練習問題

言語学入門

【担当】泉　文明
【開講】前期　月2

■サブタイトル
日本語学と対照言語学
■講義概要
世界にはどれくらいの言語があるのでしょうか。また、言語はどのようにグループ分けできるのでしょうか。そして、その中で日本語はどのように位置づけられているのでしょうか。諸外国語を知ることで、日本語のカタチが分かってくるでしょうし、日本語がしっかり分かっていなければ諸外国語の姿・生態もつかめません。認知言語学や計量言語学の紹介も行います。
■到達目標
国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。
■講義方法
基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストと講義計画を見れば、予習のポイントが分かるので、それを参考にして予習すること。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（70%）
定期試験が大きな割合を占めるが出席（抜き打ち）も重視するし、毎回の予習は念入りにして臨むこと。
■テキスト
玉村文郎編 『新しい日本語研究を学ぶ人のために』 世界思想社 2,300円
■参考文献
玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 1,893円
■講義計画
①言語学とは何か
②言語研究の歴史
③世界の言語（1）
④世界の言語（2）
⑤世界の言語（3）
⑥世界の言語（4）
⑦小テスト
⑧小テストの解説
⑨日本語の姿（1）
⑩日本語の姿（2）
⑪表現（1）
⑫表現（2）
⑬表現（3）
⑭その他の言語研究
⑮まとめ

言語学入門

【担当】磯江　源
【開講】前期　木3

■サブタイトル
理論言語学と比較言語学
■講義概要
言語学にもさまざまな分野があるが、本講においては、言語の成り立ち（構造）と、英語と関係の深い、いくつかの言語の比較を取り扱う。まず、ことばを構成している、文、単語、形態素、音素などを理解し、その研究方法を概観する。そののち、フランス語、ドイツ語が、どのように英語に類似し、影響を与えてきたかを見て、言語の比較研究について考える。
英語の名詞句の構造、修飾の方法、動詞の形など、その理解には現代の英語を分析するだけでは不十分な現象は多い。この点についてのわかりやすい解説を並行して行なう予定です。昨今は実用知識としての英語ばかりが強調されていますが、英語そのものの知識を含む、教養として英語の知識を少しでも習得することをめざします。
■到達目標
なじみの深い学校文法を、より分析的に見る場合などには、新しい概念を理解する必要がある。提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付けよう。
■講義方法
始めに理論言語学の基礎的な概念を解説して、その方法を理解していただく。この知識を活用して、比較言語学の成果を学習していく。
■授業時間外における予・復習等の指示
受講した講義の内容をよくまとめて復習し、次の講義がよく理解できるようにすること。
■成績評価の方法
小テスト（100%）複数回の小テストを実施して、学期中のコンスタントな学習を促す。
課外活動、龍谷祭などを理由とする欠席を予定する人は、よく小テストの日程を注意すること。小テストは、欠席すれば、0点となり、直接成績に反映される。2回以上小テストを欠席すれば、単位取得は、不可能になる可能性が高い。また、出席していないと、解答は大変困難な問題である。持ち込み不可。
■テキスト
特になし
■参考文献
J.C. Catford 『Fundamental Problems in Phonetics』 Midland Book
John Lyons 『Introduction to Theoretical Linguistics』 Cambridge University Press
Charles Barber 『The English Language』 Cambridge University Press
■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。
■講義計画
①言語学の各分野
②音声学
③英語の音声（1）
④英語の音声（2）
⑤英語の音声（3）
⑥英語の音声（4）
⑦音素と異音
⑧英語の語構造（1）
⑨英語の語構造（2）
⑩英語の歴史（1）
⑪英語の歴史（2）
⑫ドイツ語と英語
⑬フランス語と英語
⑭ラテン語と英語
⑮まとめと復習

コリア語ＩA

【担当】孫　才喜
【開講】前期　水3

■サブタイトル
韓国語の初級
■講義概要
言葉は自己表現のツールの一つであり、外国語は自己発見や自己成長のツールにもなるという観点から、コミュニケーションを楽しみ、話せる韓国語を目指します。
■到達目標
先ず、韓国語の文字と音の原理を日本語と比較して理解する。そのうえ、演習を通じて韓国語の読み書きができる。
さらに、韓国語の基本的な言葉や短い文が書けて話せる。
■講義方法
授業はテキストの進度に基づいて行われ、演習のために多様な資料をも活用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習を中心とした文字の読み書きの練習とその表現への積極的な意欲。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業態度や授業中の質疑応答、読み書きの熟達度
小テスト（30%）課題遂行、聞き取りと書き取りの達成度
定期試験（40%）事前に説明して告示する。
■テキスト
崔柄珠 『おはよう韓国語１』 朝日出版社　2,400円
■参考文献
入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語step１』白帝社　2,500円

■講義計画
①人間と言語文化、母国語と外国語、日本語とハングル
②ハングルの構造と母音①
③ハングルの母音②
④ハングルの子音①
⑤ハングルの子音②
⑥パッチム①－鼻音・流音
⑦パッチム②－口音・日本語のハングル表記
⑧発音規則①
⑨発音規則②
⑩名詞形の肯定表現－発音と語彙
⑪名詞＋～は
⑫名詞＋～です／ ～ですか
⑬名詞形の否定表現－発音と語彙
⑭名詞＋～が
⑮名詞＋～ではない、まとめ

コリア語ＩB

【担当】孫　才喜
【開講】後期　水3

■サブタイトル
韓国語の初級
■講義概要
言葉は自己表現のツールの一つであり、外国語は自己発見や自己成長のツールにもなるという観点から、コミュニケーションを楽しみ、話せる韓国語を目指します。
■到達目標
先ず、韓国語の文字と音の原理を日本語と比較して理解する。そのうえ、演習を通じて韓国語の読み書きができる。
さらに、韓国語の基本的な言葉や短い文が書けて話せる。
■講義方法
授業はテキストの進度に基づいて行われ、演習のために多様な資料をも活用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習を中心とした単語や文の読み書きの練習とその表現への積極的な意欲。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業態度や授業中の質疑応答、読み書きの熟達度
小テスト（30%）課題遂行、聞き取りと書き取りの達成度
定期試験（40%）事前に説明して告示する。
■テキスト
崔柄珠 『おはよう韓国語１』 朝日出版社　2,400円
■参考文献
入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語step１』白帝社　2,500円

■講義計画
①用言の丁寧表現①－発音と語彙
②用言＋～です・ます
③助詞（～で、～から、～を等）の使い方
④用言の丁寧形の否定表現
⑤指示詞①
⑥指示詞の縮約形②
⑦漢数詞
⑧用言の丁寧表現②
⑨用言の縮約形
⑩固有数詞
⑪時間の話し方
⑫丁寧な請願表現－発音と語彙
⑬動詞＋～（し）てください①
⑭動詞＋～（し）てください②
⑮用言の活用、まとめ

コリア語ＩC

【担当】朴　炫国
【開講】前期　木3

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記。
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験。
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂『延世韓国語１－１』延世大学校大学出版文化院
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077-543-7881（月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要）

■講義計画
①人間と言語、言語と文化
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－１
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－２
⑦子音の交替 平音、硬音、濃音
　パチム（終声）
⑧あいさつ
　発音練習－連音化
⑨自己生活
　発音練習－鼻音化１
⑩勉強
　発音練習－硬音化
⑪家族
　発音練習－鼻音化２
⑫図書館
　発音練習－濃音化１
⑬昼ご飯
　発音練習－７終声
⑭友達
　発音練習－濃音化２
⑮買い物
　発音練習－激音化

コリア語ＩD

【担当】朴　炫国
【開講】後期　木3

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4．韓国語の数字の使い方について学ぶ。

■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記。
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験。
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『延世韓国語1-1』 延世大学校大学出版文化院
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、 077-543-7881（月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要）

■講義計画
①日常生活の表現　－時間の話方
②日常生活の表現　－日にちと曜日の話方
③日常生活の表現　－過去と未来の話方
④買い物の表現　－数字の話方
⑤買い物の表現　－値段の話方
⑥買い物の表現　－物の話方
⑦交通の表現　－道や場所の尋ね方
⑧交通の表現　－タクシー利用の話方
⑨電話の表現　－電話番号の話方
⑩電話の表現　－電話の話方
⑪天気の表現　－天気の話方
⑫季節の表現　－季節の話方
⑬趣味の表現　－趣味の話方
⑭祝日の表現　－祝日の話方
⑮表現の特徴　－人間の喋り方

コリア語セミナーA

【担当】柳　綏美
【開講】前期　水3

■サブタイトル
韓国語
■講義概要
韓国語の丁寧表現や否定の表現、数字の使い方などを扱う。
■到達目標
基礎的な文型と日常会話の能力を身につける。
■講義方法
講義や練習による授業
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回扱う文法事項や単語などを復習し覚えること
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
■テキスト
入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画
①ガイダンス、ヘヨ体（名詞文）
②漢語系数詞
③年月日の言い方
④ヘヨ体（存在詞）
⑤電話番号の言い方
⑥固有語系数詞
⑦時間の言い方
⑧ヘヨ体の作り方（動詞）
⑨助詞「～から」「～まで」
⑩否定形１、曜日
⑪ヘヨ体の練習（形容詞）
⑫不規則活用１
⑬不規則活用２
⑭否定形２
⑮助詞「場所＋から」
⑯期末テスト

コリア語セミナーB

【担当】柳　綏美
【開講】後期　水3

■サブタイトル
韓国語
■講義概要
過去形や用言の不規則活用を主に扱い、状況や場面別の会話練習を行う。
■到達目標
基礎的な文型と日常的な会話能力を身に着ける。
■講義方法
講義と練習による授業
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回習った文法や進出語彙を覚えること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
■テキスト
入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画
①買い物
②食堂
③過形の作り方
④過去形の運用
⑤過去の状態・様子に関する表現
⑥過去の状態の否定
⑦勧誘の表現１
⑧動作の目的を表す表現
⑨不規則活用
⑩勧誘の表現２
⑪意志の表現
⑫願望の表現１
⑬願望の表現２
⑭指示に関する表現
⑮依頼に関数表現
⑯期末テスト

社会学入門

【担当】山本　哲司
【開講】前期　木3

■サブタイトル
人生の社会学ー自己認識と社会の探求
■講義概要
社会学者グールドナーは、社会をテーマに探求することの意義を、次のように考えていました。いわく、”社会の認識を探求することは、自己自身への認識を深めることである”。
この講義では、人が生まれてから体験する社会的経験について、社会学が、どのような解釈・分析（社会的な出来事を考察する視点は、複数存在する）を行うのか、そのエッセンスを紹介していこうと考えています。人の社会的経験には、どのようなものが考えられるでしょうか。出産と誕生、子どもの社会化、さまざまな教育現象、子どもの遊び、教育問題、自己・アイデンティティ、親子関係、男と女、結婚と適齢期、家族、労働問題、地域社会との関わり、都市やむら社会の変貌、情報環境とマスコミ、差別・人権・環境・保健医療などさまざまな社会問題、老い、高齢化する社会・・・。社会や文化にかかわることで、私たちの身のまわりにあることから、話をはじめましょう。
■到達目標
この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。
■講義方法
適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら、講義をすすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会学的に思考する点に留意してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（60%）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
レポート（40%）
授業では出席がわりにミニッツペーパーを書いてもらいます。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介します。
■講義計画
①講義の進め方／社会学の特質
②社会学の考え方
③社会学の誕生
④人の誕生と社会
⑤子どもの社会化
⑥社会学の考え方２
⑦「教育」の社会学
⑧青年期の成長と社会環境
⑨社会学の考え方３
⑩日本的家族
⑪男女の共生
⑫結婚と社会
⑬家族関係とコミュニケーション
⑭情報環境とマスメディア
⑮社会調査と現実

社会学入門

【担当】山本　哲司
【開講】後期　木3

■サブタイトル
人生の社会学ー自己認識と社会の探求
■講義概要
『社会学的想像力』という書物において、かつて、ミルズは次のように述べました。「社会学的想像力は、(社会の) 歴史と (個人の) 生活史とを、また、社会のなかでのそのふたつの関係をも、把握することを可能にする」。私たちの、個人的なささやかな暮らしは、歴史の流れのなか、社会のしくみのなかに、なんらかの形で位置づけられています。
私たちの暮らしているこの社会には、各種メディアを通して、さまざまな呼び名が付されてきました。大衆社会、学歴社会、管理社会、(高度) 消費社会、情報化社会、国際化社会、核家族社会、少子化社会、高齢化社会、男女平等の社会、福祉社会、癒しの社会等々。すでにあまり聞かれなくなった名前や、これから目指すべき社会の名前があります。
とりわけ、戦後の日本社会は、大きな歴史的な変動期とも言われてきました。大きな変動のなかで、私たちの暮らしは、どのような影響を被ってきたのでしょうか。また、人々は、どのようにして、家族・地域などの個々人をとりまく環境の変化に対応しようとするのでしょうか。
現代社会を考察する社会学のツールを紹介しながら、現代社会のありようと、私たちの暮らしの意味について考えていきます。
■到達目標
この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。
■講義方法
適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら講義をすすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会学的に思考する点に留意してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（60%）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
レポート（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介する
■講義計画
①講義の進め方／社会学の特質
②社会学の考え方
③社会学の誕生
④人の誕生と社会
⑤子どもの社会化
⑥社会学の考え方２
⑦「教育」の社会学
⑧青年期の成長と社会環境
⑨社会学の考え方３
⑩日本的家族
⑪男女の共生
⑫結婚と社会
⑬家族関係とコミュニケーション
⑭情報環境とマスメディア
⑮社会調査と現実

社会思想史入門

【担当】森　元斎
【開講】前期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】村澤　真保呂
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験が積み重ねられて現在の社会の姿がつくられました。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を追求するなかで、多くの犠牲と苦労の果てにつくりだされました。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ若い人たちは、福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を考える必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】前期　月1

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解
■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。
■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）
■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】後期　月1

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解
■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。
■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）
■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括

心理学入門

【担当】破田野　智美
【開講】前期　月1

■講義概要
初学者にとっての心理学のイメージは、一面的でしかないことが多い。しかし実際の心理学の対象は広く、デザインや購買行動、学習、家族、テストなどなど、われわれにとって日常的な事柄に密接に関連している。
そこでこの授業では、日常的話題と結びつけながら、できるだけ広い範囲の「心理学」について概説する。またテーマに合わせ、授業内で極簡単な実験を行い、心理学の研究手法にも触れる。受講者の一人一人が心理学の全体像を把握し、基礎的な知識を確実に身につけられる講義としたい。

■到達目標
人のこころや行動を科学的に捉えようとする心理学の考え方を理解し、今後自らが課題に向き合ったときに、心理学の知識や考え方を自分のものとして運用できるようになることを目標とする。

■講義方法
基本的に自作の資料に基づき講義形式で進める。また各テーマの理解の促進のために授業内で簡単な作業や心理データ収集の実習を行う。このため授業内レポートの提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に重要な点は授業内で強調するので、用語や意味を確実に理解してほしい。講義を受けた上で不明な点は、質問時間に解決すること。また関連文献を紹介するので、ぜひ読んで理解を深めてほしい。なお資料の一部は事前に公開する。

■成績評価の方法
平常点（100%）
原則として授業内で行う試験に基づいて評価するが、授業内レポートなど授業への参加の程度を加味することがある。

■テキスト
特になし

■参考文献
松田隆夫・八木保樹・土田宣明・福原浩之・藤健一・星野裕司・柴田直峰　『心理学概説―心と行動の理解』　培風館　1,900円
小川捷之・椎名健　『心理学パッケージ１－６』　ブレーン出版
ジェームズ J. ギブソン（著）　東山篤規・竹澤智 美・村上嵩至（訳）『視覚ワールドの知覚』　新曜社　3,675円

■講義計画
①心理学の課題と考え方
②視る心理学１
③視る心理学２
④聴く心理学
⑤嗅ぐ・味わう心理学
⑥触れる・痛みの心理学
⑦記憶の心理学１
⑧記憶の心理学２
⑨思考心理学
⑩学習心理学
⑪発達心理学
⑫教育心理学
⑬社会心理学
⑭臨床心理学
⑮「心理学入門」をふりかえる：最終試験

スポーツ技術学A

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。3）登録方法は、①予備登録およびＷｅｂ登録、②たて3㎝よこ2.5㎝の写真（出席カード用）2枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションの時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロアに集合、更衣の必要なし）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

スポーツ技術学Ｂ

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
１）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
２）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
３）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の２種目のスポーツを行う。

■到達目標
１．スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
２．自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、１）１年次配当必修で、前期１単位、後期１単位、計２単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。２）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの７種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　木３

■講義概要
私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか?と不思議に思ったことはないでしょうか?本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は?いい香りがするのはなぜ?環境問題はどうなっているの?といったことをとりあげます。

■到達目標
身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法
1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい）。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます
定期試験（70%）語句説明や論述式問題から評価します。
定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業が終わったあと研究室で行います。

■講義計画
①グリーンケミストリーⅠ
②グリーンケミストリーⅡ
③合成繊維
④界面活性剤
⑤コスメの化学
⑥偶然の発見－ゴムの化学－
⑦空が青いのは?－色の化学－
⑧ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
⑨香りの化学
⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
⑪食品添加物
⑫原子力エネルギー
⑬植物のつくるエネルギー－光合成－
⑭最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ?－
⑮まとめ

生活の中の数学

【担当】國府　宏枝、山岸　義和
【開講】前期　月1

■サブタイトル
現代数学のアイデア
■講義概要
高校まではみんなが数学を学んできましたが、大学では縁遠くなってしまう人が多いかもしれません（統計は使う専攻が多そうですね）。これはとても残念なことで、もう少し進んだ数学には、高校までで出会ったのとは全然違う、新しいアイデアがたくさん出てくるんです。また、数学は入試以外に役立たない、と思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。数学は世の中の現実の問題に深く関わっています。この講義では、高校までで学ばなかったような数学のいろいろな新しいアイデアを、数学が作られてきた動機にもどって、直観のはたらく現実世界を舞台として解説します。この講義に参加して、数学の美しさの一端を感じるとともに、数学が実際に役立つ（こともある）ことを実感しましょう。なお、この科目では、特定の専攻分野のための数学の基礎知識の準備のためのものではありません。
■到達目標
数学の各分野独特の考え方や方法論の一端を感じることで頭が柔らかくなるかもしれません。また、現実の問題で、数学を利用して解決できそうかちょっと考えてみるモード、が自分の頭の中に生まれるかもしれません。
■講義方法
担当教員が内容を説明しつつ、講義の参加者に実際に問題を考えてもらいます。その結果を、ときどき、eラーニングシステムで教員に返してもらい、その結果をもとにさらに参加者とともに考えます。
■系統的履修
この科目の前に履修しておくべき科目は特にありません。高校の数学を復習しながら使います。事前にこの科目を履修しておかないと履修できない科目もありませんが、この科目で統計学に興味を持った人には「生活の中の統計技術」や「統計入門」、論理に興味を持った人には「論理学入門」、コンピュータに興味を持った人には「情報社会とメディア」や「情報と人間」が教養教育科目の中でお奨めです。
■授業時間外における予・復習等の指示
eラーニングシステムを利用します。
■成績評価の方法
その他（100%）
前半の成績評価と後半の成績評価を合算する。
前半は、レポートと、中間試験に基づいて評価する。
後半は、レポートと、期末試験に基づいて評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
到達目標になるべく近づけるように、講義計画や講義方法の詳細は、受講者数やそこまでの授業の状況に応じて変更することがあります。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
瀬田１号館５階501
■講義計画
①正方形のタイリングと三平方の定理
②ひまわりの葉序と螺旋タイリング
③ファレイ数列、フィボナッチ数列、黄金比、連分数
④葉序の折り紙
⑤結び目
⑥組み紐
⑦前半のまとめ
⑧中間試験
⑨安上がりな高速道路整備－グラフ理論と最小シュタイナー木
⑩一筆書きできる図形できない図形－グラフ理論
⑪コーヒーカップ=ドーナツ－トポロジー
⑫バーコードのお話－誤り訂正符号
⑬アンサーを変えるのと変えないのどっちが得?－確率のパラドクス
⑭小テストと解説
⑮お天気予報とカオス－力学系

生活の中の生物学

【担当】横田　岳人
【開講】前期　木3

■講義概要
自然科学の中で研究成果の進展が目まぐるしい生物学は、その成果が私たちの暮らしや健康に繋がるだけでなく、倫理面での検討すべき多くの事柄を提供しています。この講義では、新聞記事や雑誌の特集記事等で紹介される生物学に関連する事項について、トピックスを中心に取り上げ解説していく中で、新聞、雑誌に現れる生物学的事柄を理解し、自ら考える基礎を据えることを目的とします。
■到達目標
新聞や雑誌に取りあげられる生物学的事柄に関心を持ち、基本的な事柄を理解できるようになる。
■講義方法
授業は講義形式で行います。講義に必要な資料などは、講義の中で紹介し、必要に応じて配布します。
■授業時間外における予・復習等の指示
初回授業時に、関連書籍リストを配布します。リストにある書籍を中心に各自で書籍を選び、選んだ書籍を予習・復習として読んでおくこと。予習復習状況を3回程度レポートとして提出していただき、確認します。
■成績評価の方法
レポート（30%）自学修の実施状況
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
和田勝　『生物学の基礎－生き物の不思議を探る－』　東京化学同人　2,500円
■講義計画
①生と死
②物質としての生命
③遺伝子DNA
④遺伝子の発現
⑤生殖
⑥遺伝と病気
⑦遺伝子組み換え
⑧再生医療
⑨ホメオスタシス
⑩刺激の受容と反応
⑪植物の物質収支
⑫種とはなにか
⑬進化
⑭生物の集団
⑮生物多様性保全と絶滅

生活の中の統計技術

【担当】飯田　晋司
【開講】後期　水３

■サブタイトル
使える統計!
■講義概要
インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこからデータの性質を読み取って役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。
授業は数学のりです。高等学校１年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelなどの表計算ソフトやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用方法についてはごく限られた範囲しか説明できません。
■到達目標
１変数または２変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。データ全体からその一部分だけをサンプルとして抽出して調べ、全体の性質を推定することができる。
■講義方法
適宜プリントを用いた講義。
■系統的履修
本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。これらの科目の大部分よりも、本科目は初等的な範囲にとどまります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回自主的に復習を行うことを期待します。
■成績評価の方法
その他（100%）予定されている２回の小テストの両方に60点以上をとるか、あるいは定期試験に60点以上をとることで合格とします。どちらの基準でも合格の場合、最終成績は小テストの平均点と定期試験の点数の高い方とします。
■テキスト
特になし
■参考文献
向後千春、冨永敦子 『統計学がわかる』 技術評論社　1,764円
向後千春、冨永敦子 『統計学がわかる（回帰分析・因子分析編）』 技術評論社　1,764円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは授業中に連絡します。
連絡先：iida@rins.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①データの分布（記述統計）
②データを代表する値
③データのちらばりを表す値
④標準得点と偏差値
⑤２変量データの分布
⑥回帰分析
⑦１回目小テスト
⑧離散的な確率分布
⑨連続的な確率分布
⑩正規分布
⑪中心極限定理
⑫母集団と標本・点推定
⑬区間推定
⑭１回目小テスト
⑮全体のまとめ

生活の中の統計技術

【担当】香川　文庸
【開講】前期　木３

■サブタイトル
統計数値に騙されないようになろう！
■講義概要
新聞、TV、書物、インターネットなど様々なメディアにおいて統計数値およびそれを加工した統計指標が活用されている。我々はそうした統計数値や統計指標を無批判に信じたり、そこから誤ったイメージをくみ取ったりしがちである。この講義では、①統計とはいかなるものであり、どのようなプロセスで作成されているのかを理解することから出発し、②各種の統計数値やそれを用いた分析結果に惑わされないようするにはどうしたらよいのか、③統計を活用する際にはどのような点に留意せねばならないのか、について簡単な数値例を用いながら解説する。
■到達目標
⑴ 統計と統計学の概念や歴史を知る。
⑵ 統計資料の作成プロセスを知り、その段階に含まれる問題点について理解する。
⑶ 社会環境の変化と統計数値の意味の関係について理解する。
⑷ 統計指標、統計数値のグラフ化、統計数値を用いた予測などに潜む問題点について学ぶ。
■講義方法
口述による講義を中心としますが、出席代わりに、その授業の内容に関する練習問題を解いて提出していただくことがあります。そのためルート（√）キー付きの電卓を必ず持参するようにしてください。
■授業時間外における予・復習等の指示
各回の内容は連続性を持っています。前の回の授業を復習してから講義に出席するようにしてください。講義時に資料をプリントとして配布する予定ですが、欠席した方は次の回までに自助努力で（友人などから）入手し、目を通しておくようにしてください。また、新聞やニュースで数字が語られるときには、それに何か「裏」はないのか考えてみてください。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
小テスト（20%）
レポート（40%）
■テキスト
特にありません。プリント等を配布します。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
統計学＝数学というイメージを持つ方が多いのですが、必ずしもそれは正しくありません。実際、この講義で使うのは、加減乗除と√計算だけです。将来、社会に出ていくみなさんにとって、世間一般でいわれていることを「少し斜めから見る」という態度も必要です（いつもそうでは困りますが）。なお、他の学生の聴講を妨げる行為をした方については退席をお願いすることがありますので、注意してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義開始時に通知します。
■講義計画
①ガイダンス・オリエンテーション
②統計とは何か:統計と統計学の歴史、統計体系（古代の人も統計を作った）
③統計はどう作られているか：統計調査のプロセス(誰が、どうやって作っている?)
④統計数値は信用できるのかⅠ：調査段階の問題（日本人とは誰ですか?）
⑤統計数値は信用できるのかⅡ：社会環境の変化と統計数値（交通事故の死者は本当に減っているのですか?）
⑥記述統計の基礎Ⅰ：代表値とバラツキ（「平均」は平均ではない?）
⑦記述統計の基礎Ⅱ：データの分布（ゾウの体重とネズミの体重ではどちらがよりバラバラなのか?）
⑧ここまでの復習（小テスト：予定）
⑨統計指標の信頼性：日本の食料自給率がずっとぴったり40%なのですが…
⑩数値のグラフ化と印象操作：新聞によって同じ数字に基づく報道内容が違うのは何故?
⑪確率の基礎Ⅰ：３割バッターは４打席あれば最低１本はヒットを打つか?
⑫確率の基礎Ⅱ：宝くじを買うことは合理的か?
⑬関係性を疑う：相関係数（ジャンクフードで子どもはキレるのか?）
⑭予測の信頼性：回帰分析(このままいくと何千年後かに最後の日本人が死ぬらしい)
⑮まとめと試験実施要領の解説

生活の中の物理

【担当】石崎　俊雄
【開講】後期　月2

■サブタイトル
身の回りの物理と科学技術

■講義概要
身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文系、理系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標
身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法
授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修
一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法
平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。毎回実施するので出席が難しい人は受講を避けて下さい。
平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト
講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献
藤城敏幸　『生活の中の物理』　東京教学社　1,800円
広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言
出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画
①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
②てこの原理…支点、力点、作用点
③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか、おいしい冷凍食品
⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
⑨ギターの絃の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
⑫粒子と波動の２重性…量子力学と特殊相対性理論
⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
⑭電話とインターネット、コンピュータの話
⑮携帯電話・スマートホンの仕組みと中身

政治学入門

【担当】水垣　源太郎
【開講】前期　木3

■サブタイトル
政治学の基本概念
■講義概要
政治学の基本的な見方について講義する。日々私たちが見聞する断片的な情報から現実の政治を理解するためには、その本質的な特徴と歴史社会的な背景を把握しておくことが重要である。そこで、本講義では、政治学にはじめて接する人を想定して、身近なトピックをとりあげながら、その基本的な見方と応用のしかたを解説する。
■到達目標
政治学の見方に関する基本的知識を得るとともに、現実の政治現象に関する理解力・洞察力・判断力を身につける。
■講義方法
講義による。
■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションおよび各回授業時に指示する文献を読み、課題を行う。
■成績評価の方法
小テスト（45%）各回授業の最後に数問実施する。
レポート（15%）進捗状況を鑑み、2回もしくは3回課す。
定期試験（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
eラーニングシステムを利用する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業前後
■講義計画
①オリエンテーション
②政治的態度（1）世論：世論調査は信用できるか
③政治的態度（2）イデオロギー：右翼・左翼とは何か
④政治的相互作用（1）メディアと政治
⑤政治的相互作用（2）政党と政党システム
⑥政治的相互作用（3）選挙と投票行動
⑦政治的相互作用（4）圧力団体とロビイング
⑧政治制度（1）政府の基本的構成：国際比較
⑨政治制度（2）議会と議員
⑩政治制度（3）内閣と官僚制
⑪政治制度（4）司法システム
⑫日本政治史（1）明治憲政から55年体制へ
⑬日本政治史（2）55年体制以降、平成へ
⑭近代政治史と国際関係（1）
⑮近代政治史と国際関係（2）

政治学入門

【担当】水垣　源太郎
【開講】後期　木3

■サブタイトル
政治学の基本概念
■講義概要
政治学の基本的な見方について講義する。日々私たちが見聞する断片的な情報から現実の政治を理解するためには、その本質的な特徴と歴史社会的な背景を把握しておくことが重要である。そこで、本講義では、政治学にはじめて接する人を想定して、身近なトピックをとりあげながら、その基本的な見方と応用のしかたを解説する。
■到達目標
政治学の見方に関する基本的知識を得るとともに、現実の政治現象に関する理解力・洞察力・判断力を身につける。
■講義方法
講義による。
■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションおよび各回授業時に指示する文献を読み、課題を行う。
■成績評価の方法
小テスト（45%）各回授業の最後に数問実施する。
レポート（15%）進捗状況を鑑み、2回もしくは3回課す。
定期試験（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
eラーニングシステムを利用する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業前後
■講義計画
①オリエンテーション
②政治的態度（1）世論：世論調査は信用できるか
③政治的態度（2）イデオロギー：右翼・左翼とは何か
④政治的相互作用（1）メディアと政治
⑤政治的相互作用（2）政党と政党システム
⑥政治的相互作用（3）選挙と投票行動
⑦政治的相互作用（4）圧力団体とロビイング
⑧政治制度（1）政府の基本的構成：国際比較
⑨政治制度（2）議会と議員
⑩政治制度（3）内閣と官僚制
⑪政治制度（4）司法システム
⑫日本政治史（1）明治憲政から55年体制へ
⑬日本政治史（2）55年体制以降、平成へ
⑭近代政治史と国際関係（1）
⑮近代政治史と国際関係（2）

生命と科学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　金１

■講義概要
生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標
生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示
生命科学に関する基礎的な知識を積み上げ式に講義するので、参考書やその他の生物化学の書籍を用いながら復習することが重要である。また、次週の講義内容についても講義の最後に指示するので、関連する内容を予習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編　『生命科学』　東京化学同人　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくとも、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　瀬田学舎　１号館２０７号室
オフィスアワー（月）５講時、（木）４講時

■講義計画
①生命と化学物質
②生命科学と私たちの生活
③アミノ酸とタンパク質
④タンパク質のはたらき
⑤酵素のはたらき
⑥遺伝子とDNA
⑦遺伝情報の伝達
⑧細胞と生殖
⑨生命倫理
⑩バイオテクノロジー
⑪脂質と脂肪
⑫糖質の科学
⑬生命科学と環境
⑭光合成と生命のエネルギー
⑮まとめ

中国語ＩＡ

【担当】張　健同
【開講】前期　月３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著　『超入門中国語』　晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＡ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】張　健同
【開講】後期　月３

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10％）、宿題（20%）、小テスト（70％）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗” 疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）;13、“的” 後の名詞省略;14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える;24、“有”（動詞「もつ」）;25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）;27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＣ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることを目標としています。

■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
小テストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業への出席状況、宿題、授業態度
定期試験（50%）

■テキスト
内田慶市ほか 『中国語への道』 金星堂　2,380円

■参考文献
特になし

■講義計画
①ピンイン母音
②ピンイン子音
③第１課　会話と要点
④第１課　練習
⑤第２課　会話と要点
⑥第２課　練習
⑦第３課　会話と要点
⑧第３課　練習
⑨第４課　会話と要点
⑩第４課　練習
⑪第５課　会話と要点
⑫第５課　練習
⑬第６課　会話と練習
⑭第６課　練習
⑮まとめ

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞“也”“都”“不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗”疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）;13、“的”後の名詞省略;14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える;24、“有”（動詞「もつ」）;25、“二”と“两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）;27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了１”leと語気助詞の“了２”le；51、「経験」の“过１”と「終結」の“过２”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＤ

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは、会話や文章の表現を中心に学びます。発音の練習はもちろん、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も取り入れていきたいと思います。また、自己紹介文の書き方も学ぶことができます。
■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、日常会話、そして特に自己紹介の仕方を身につけることを目標としています。
■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
小テストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）
■テキスト
内田慶市ほか　『中国語への道』　金星堂　2,380円
■参考文献
特になし

■講義計画
①第７課　会話と要点
②第７課　練習
③第８課　会話と要点
④第８課　練習
⑤第９課　会話と要点
⑥第９課　練習
⑦第10課　会話と要点
⑧第10課　練習
⑨第11課　自己紹介文の書き方
⑩第11課　自己紹介文の読み方
⑪第12課　会話と要点
⑫第12課　練習
⑬第13課　会話と要点
⑭第13課　練習
⑮まとめ

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了１”leと語気助詞の“了２”le；51、「経験」の“过１”と「終結」の“过２”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語セミナーA

【担当】李　愛華
【開講】前期　水３

■講義概要
初級中国語を学んだ学生を対象とします。正しい発音の復習を重視しながら中国語の聴く、話す、読む、書く、訳す能力を養います。それに会話、スピーチなどの口頭表現力を向上していきます。必要に応じてDVDなどの映像を通して中国及び中国文化に対する理解を深めます。
■到達目標
簡単な作文、スピーチできること。
■講義方法
演習方式
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示します
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）授業の進め状況による変えることがある。
■テキスト
劉　穎　『１冊めの中国語購読クラス』　白水社　2,300円
■参考文献
共同編集　『中日辞典』　北京商務印刷館　小学館　7,000円
■講義計画
①授業について、第一課文法、本文訳、音読
②第一課の練習、暗記など

中国語セミナーB

【担当】李　愛華
【開講】後期　水３

■講義概要
初級中国語を学んだ学生を対象とします。正しい発音の復習を重視しながら中国語の聴く、話す、読む、書く、訳す能力を養います。それに会話、スピーチなどの口頭表現力を向上していきます。必要に応じてDVDなどの映像を通して中国及び中国文化に対する理解を深めます。

■到達目標
簡単な作文、スピーチできること。

■講義方法
演習方式

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示します

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）授業の進め状況による変えることがある。

■テキスト
劉　頴 『１冊めの中国語購読クラス』 白水社　2,300円

■参考文献
共同編集 『中日辞典』 北京商務印刷館　小学館　7,000円

■講義計画
①後期の授業について
②第七課

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　月３

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章

■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／ GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平常点（16%）ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
その他（４%）第二回目の講義の出席点他
ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言
「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①哲学の芽生え
②古代原子論の挑戦
③ソフィストとソクラテス
④プラトンのイデア論
⑤ディスカッション①（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの倫理思想
⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
⑧神を巡る世界観の推移
⑨ディスカッション②（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑩デカルトの真理観と情念論
⑪理性的存在としての人間―カント
⑫ニーチェと永劫回帰
⑬ディスカッション③（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑭ロールズの格差原理
⑮ディスカッション④（所感文を当日提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　月３

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章

■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／ GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平 常 点（16%）ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
そ の 他（４%）第二回目の講義の出席点他
ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言
「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①哲学の芽生え
②古代原子論の挑戦
③ソフィストとソクラテス
④プラトンのイデア論
⑤ディスカッション①（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの倫理思想
⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
⑧神を巡る世界観の推移
⑨ディスカッション②（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑩デカルトの真理観と情念論
⑪理性的存在としての人間―カント
⑫ニーチェと永劫回帰
⑬ディスカッション③（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑭ロールズの格差原理
⑮ディスカッション④（所感文を当日提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　水３

■サブタイトル
自然観を中心として

■講義概要
哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてはどうだろうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平 常 点（16%）ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
そ の 他（４%）第二回目の講義の出席点他
ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言
「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①ロゴス的自然観の形成
②原子論の利点と問題点
③幸福と快楽―ソクラテス対カリクレス
④知性となる魂―アナクサゴラスからプラトンへ
⑤ディスカッション①（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの自然観
⑦ストア派とプロティノスの自然観
⑧ルネサンスの新しい自然観
⑨ディスカッション②（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑩デカルトの自然観
⑪運動と空間を巡って
⑫理性的存在者のなすべきこと・カント～ヨナス
⑬ディスカッション③（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑭「物語の主体」としての自己―マッキンタイア
⑮ディスカッション④（所感文を当日に提出）

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　水3

■サブタイトル
自然観を中心として

■講義概要
哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてはどうだろうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法
講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通しておいてほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法
平 常 点（16%）ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。
レポート（80%）一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。
そ の 他（４%）第二回目の講義の出席点他
ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言
「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画
①ロゴス的自然観の形成
②原子論の利点と問題点
③幸福と快楽―ソクラテス対カリクレス
④知性となる魂―アナクサゴラスからプラトンへ
⑤ディスカッション①（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑥アリストテレスの自然観
⑦ストア派とプロティノスの自然観
⑧ルネサンスの新しい自然観
⑨ディスカッション②（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑩デカルトの自然観
⑪運動と空間を巡って
⑫理性的存在者のなすべきこと・カント～ヨナス
⑬ディスカッション③（所感文は当日、レポートは翌週以降の提出）
⑭「物語の主体」としての自己―マッキンタイア
⑮ディスカッション④（所感文を当日に提出）

ドイツ語ＩＡ

【担当】青山　豊
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ドイツを知るための第一歩
■講義概要
ドイツ語というヨーロッパの言語を学ぶことによって、日本語や英語による表現や発想に基づくものとは異なる文化があることを実感し、ドイツ語圏の国々に対する視野を広げ理解を深めることを目標とする。このＩＡの授業では、ことばの学習の第一歩である発音と日常の挨拶からはじめて、さまざまな場面におけるやり取りや自己紹介、状況の説明、さらには平易なドイツ語文の理解へと進めていく。この段階では文法的なポイントにはあまりこだわらず、ドイツ人が普段の生活で話しているなまのことばとしてのドイツ語をそのまま受け入れればよい。授業ではドイツ語を聞き、それを真似て発音することに重きを置く。特に表現力をつけるためにドイツ語ＩＣを併せて履修することを強くすすめる。
■到達目標
「ことば」を学ぶうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。
■講義方法
テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。
■系統的履修
ドイツ語ＩＣ（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回短時間でも予習と復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）
■テキスト
小野寿美子　他『クロイツング　ネオ』 朝日出版社　2,500円
■参考文献
辞書等については授業中に説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
ＣＤを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①アルファベート
②綴りと発音
③自己紹介
④国名
⑤趣味は漫画
⑥職業
⑦フランクフルト中央駅で
⑧小テスト
⑨家族
⑩エコ先進国
⑪チューリヒの町で
⑫ホテルに宿泊
⑬文法の補足
⑭同上
⑮小テスト

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月３

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし,ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。
■到達目標
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。
■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。
■テキスト
小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。
■講義計画
①ドイツ語の発音アウトライン
②挨拶表現
③動詞の現在人称変化
④sein とhaben
⑤名詞の性、冠詞
⑥定冠詞と名詞の格変化
⑦不定冠詞と名詞の格変化
⑧不規則動詞の現在人称変化
⑨人称代名詞の格変化
⑩命令形
⑪名詞の複数形
⑫不定冠詞類、定冠詞類
⑬前置詞の格支配
⑭分離動詞
⑮前期のまとめ

ドイツ語ＩＢ

【担当】青山　豊
【開講】後期　月２

■サブタイトル
ドイツを知るための第一歩
■講義概要
ドイツ語をとおしてドイツ語圏および周辺諸国に目を向けられるようになるための手段、またEUの時代をむかえた新しいヨーロッパに対する理解への手がかりとしてこのＩＢの授業を位置付ける。この授業では内容的にはＩＡを引き継ぎながらも、たとえばワク構造や副文といったドイツ語らしい文の構造を学ぶことによって、日本語や英語とは異なる思考のあり方に気づくことになる。またそれと同時に、辞書をひきながらドイツ語の文章を読み解いていく知的な喜びを味わうこともできるようになる。特に表現力をつけるためにドイツ語ＩＤを併せて履修することを強くすすめる。
■到達目標
「ことば」を学ぶうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。
■講義方法
テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。
■系統的履修
ドイツ語ＩＤ（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回短時間でも予習と復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）
■テキスト
小野寿美子　他 『クロイツング　ネオ』 朝日出版社　2,500円
■参考文献
辞書等については授業中に説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
ＣＤを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①映画を見に行きたい
②ドイツ映画の現在
③大学の教室で
④私の願い
⑤食べ物
⑥昨日　今日　明日
⑦ドイツ人とパン
⑧小テスト
⑨負の遺産
⑩オペラ鑑賞
⑪音楽
⑫ホテル
⑬数詞
⑭文法の補足
⑮小テスト

ドイツ語ＩＢ

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月３

■講義概要
この授業は、ドイツ語Ⅱで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。
■到達目標
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。
■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。
■テキスト
小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社　2,500円
辞書等については授業中に紹介します。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。
■講義計画
①前期の復習
②話法の助動詞
③従属接続詞と副文
④形容詞の格変化
⑤zu不定詞
⑥動詞の３基本形（1）
⑦動詞の３基本形（2）
⑧現在完了形（1）
⑨現在完了形（2）
⑩過去形
⑪再帰代名詞と再帰動詞
⑫形容詞、副詞の比較
⑬関係代名詞（1）
⑭関係代名詞（2）
⑮総復習

ドイツ語ＩＣ

【担当】青山　豊
【開講】前期　月３

■サブタイトル
ドイツ語文法
■講義概要
文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というと無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。授業では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生各自が、それを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようにしたい。
■到達目標
まとまった内容のドイツ語文が正確に読めるようになる。
■講義方法
受講生の理解度を確認しながら、ゆっくり進めていく。
■系統的履修
ドイツ語ＩＡ
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回少しずつでも予習復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）
■テキスト
新田春夫 『エレメンテ』 郁文堂　2,500円
■参考文献
授業中に説明する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画
①文字と発音
②同上
③動詞の現在人称変化
④名詞の格変化
⑤規則動詞
⑥不規則動詞
⑦前置詞
⑧小テスト
⑨副文
⑩再帰動詞
⑪人称代名詞
⑫冠詞類
⑬分離動詞
⑭補足
⑮小テスト

ドイツ語ＩＣ

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）
■講義概要
語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。
■到達目標
ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。
■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。
■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。
■成績評価の方法
小テスト（60%）数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。
レポート（40%）（宿題やレポートのための）「ドイツ語ノート」と「日常の学習状況」で評価します。
総得点で60％以上が合格です。出席は３分の２以上必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。
■テキスト
新田春男、他 『エレメンテ – ドイツ語の文法と表現』 郁文堂　2,500円
■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていくつもりです。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。
■講義計画
①イントロダクション ＤＶＤによるドイツへの仮想旅行
②発音とつづり
③Lektion 1　動詞の人称変化
④Lektion 2　名詞の性格変化
⑤Lektion 2　 名詞の格変化
⑥Lektion 3　sein/haben, 人称代名詞
⑦Lektion 4　前置詞
⑧中間テストを予定
⑨Lektion 5　名詞の複数形
⑩Lektion 6　否定冠詞／所有冠詞
⑪Lektion 7　werden など
⑫Lektion 8　命令形
⑬Lektion 9　語順、分離動詞
⑭前期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語ＩＤ

【担当】青山　豊
【開講】後期　月３

■サブタイトル
ドイツ語で表現する
■講義概要
ドイツ語文を正確に読むためには最小限のしっかりした文法規則を自分のものにしなければならない。この授業ではできるだけ負担を感じることなく文法的に正確に読み書きができるようにしたい。
■到達目標
文法規則に従ってドイツ語文を読んで理解し、さらにドイツ語で表現できるようになること。
■講義方法
受講生の理解度に合わせてゆっくり進める。
■系統的履修
ドイツ語ＩＢ
■授業時間外における予・復習等の指示
少しずつでも毎回予習と復習をしてほしい、
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）
■テキスト
新田春夫 『エレメンテ』 郁文堂　2,500円
■参考文献
授業中に説明する
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①話法の助動詞
②過去形
③現在完了形
④受動態
⑤形容詞の格変化
⑥比較
⑦関係代名詞
⑧小テスト
⑨命令形
⑩接続法
⑪同上
⑫補足
⑬同上
⑭同上
⑮小テスト

ドイツ語ＩＤ

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）
■講義概要
ドイツ語ＩＣの続きです。授業の概要はＩＣと同じです。以下は繰り返しになります。
「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（ＩＣの続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」
■到達目標
引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。
■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。
■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。
■成績評価の方法
小テスト（60%）数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。
レポート（40%）（宿題やレポートのための）「ドイツ語ノート」と「日常の学習状況」で評価します。
総得点で60%以上が合格です。出席は３分の２以上必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。
■テキスト
新田春男、他 『エレメンテ – ドイツ語の文法と表現』 郁文堂　2,500円
■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語ＩＣを履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。
■講義計画
①前学期の復習
②Lektion 10　話法の助動詞
③Lektion 11　再帰動詞
④Lektion 12　形容詞
⑤Lektion 13　動詞の３基本形
⑥Lektion 14　過去形
⑦Lektion 15　現在完了形
⑧中間テストを予定
⑨Lektion 16　受動表現
⑩Lektion 17　接続詞
⑪Lektion 18　関係文
⑫Lektion 19　接続法１
⑬Lektion 11　接続法２
⑭後期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語セミナーA

【担当】青山　豊
【開講】前期　月4

■サブタイトル
ドイツ語力アップ
■講義概要
これまでに学んだドイツ語の知識を整理確認して、次のステップへ進む。取り組みやすい平易なドイツ語のテキストを用いて読解力や表現力を養成する。
■到達目標
インターネットなどのドイツ語情報を正しくキャッチできるようになる。
■講義方法
マンツーマンの対話的授業にしたい。
■系統的履修
ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのいずれかを履修済みであることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習と復習が必要。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合して評価する。
■テキスト
橋本政義 『フィール　シュパース＜Ver.３＞』 郁文堂
2,400円
■参考文献
ＩＡ、ＩＢまたはＩＣ、ＩＤで使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのうち１単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、授業の内容は初級から中級への橋渡しである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①ベルリン大好き
②ワールドサッカー
③ビール一杯
④ドイツ人とパン
⑤グリム童話
⑥アウトバーン
⑦環境保護
⑧小テスト
⑨人気バンド　Tokio　Hotel
⑩色で表すドイツの政治
⑪手紙
⑫再生可能エネルギー
⑬補足
⑭補足
⑮小テスト

ドイツ語セミナーB

【担当】青山　豊
【開講】後期　月4

■サブタイトル
「ことば」からみたドイツの文化と日常生活
■講義概要
ドイツ語ＩＡ・ＩＢ、ＩＣ・ＩＤ またはセミナーＡで修得した知識を整理確認した上で、聞き話すという会話的要素をベースに日常的ドイツ語にふれながら、現代ドイツの文化を考察する。テキストとしてはドイツ人の生活情報や異文化をテーマにしたものを使用する予定。
■到達目標
ドイツ語検定試験も視野に入れて、 日常生活に必要なレベルの読解力とドイツ語による表現力を身につける。
■講義方法
少人数クラスになると思われるので、対話的授業にしたいと考えている。できれば学術書に取り組む意欲もひきだしたい。
■系統的履修
ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤまたはセミナーＡのいずれかを履修済みであることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習が必要である。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合的に評価する。
■テキスト
さまざまなテーマを扱ったテキストをコピーして使用する予定。
■参考文献
ＩＡ、ＩＢまたはＩＣ、ＩＤで使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、基本的にはＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤ、セミナーＡに続くドイツ語運用能力の向上をもめざす授業であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には必ず辞書を持参のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①受講生の興味と実力に合わせた内容のテキストを読み進めながら、表現力を磨く。（プリントを使用）
②同上
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦同上
⑧小テスト
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫同上
⑬同上
⑭同上
⑮小テスト

統計入門

【担当】李　復屏
【開講】前期　月１

■サブタイトル
数字に弱い人のための統計学
■講義概要
世界は数字でできている。世の中を知るには、経済学より、まず統計学である。この講義は、世の中を知りたいという意欲を持っている（いわゆる､統計の利用者としての）学生を対象とし、新聞や報告書を読み解くに必要な統計学の基本概念を理解することを目的とする。単にいかに「数をかみ砕き､答えを吐き出す」かを教えるだけではない。それはあなたのパソコンがやることである。身近な例に､知っておくと役立つ話を織り交ぜながら､統計学のエッセンスを会得していただきたい。
■到達目標
新聞や報告書などを読むとき、そこにどのような統計が含まれていようとも、その要点を理解できるようになる。
■講義方法
授業中、時々受講生にちょっとした問題を解いてもらうことがあるので、ルートキー（√）付きの電卓を用意すること。
■授業時間外における予・復習等の指示
統計学は積み重ねの学問である。基礎概念を一つ一つ順を追って議論していくため、次の授業に進む前に、前の授業内容を復習してしっかり理解してくる必要がある。
■成績評価の方法
平常点（100%）
授業中の練習問題で評価する。
■テキスト
D. ロウントリー著　加納悟訳 『新・涙なしの統計学』 新世社　1,600円
■参考文献
鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社　2,233円
ダレル・ハフ著　高木秀玄訳 『統計でウソをつく法』 講談社　880円
神永正博 『ウソを見破る統計学』 講談社　900円
カイザー・ファング著　矢羽野薫訳 『ヤバイ統計学』 阪急コミュニケーションズ　1,900円
■履修上の注意・担当者からの一言
計算ではなく、統計学的な考え方を理解していただくのが本講義の目的であるため、可能な限りに、式を使わず図で説明しようとするが、努力なしの統計学というつもりは毛頭ない。むしろ、統計学を理解するために一所懸命努力していただきたい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２です。この時間帯に来れない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまで相談してください。
■講義計画
①統計学とは
②標本の収集
③標本の記述
④データの中心的傾向
⑤データのばらつき尺度
⑥正規分布
⑦標本平均の標本分布
⑧母平均の推定
⑨t分布と母平均の推定
⑩X二乗分布と母標準偏差の推定
⑪仮説検定
⑫相関分析
⑬回帰分析
⑭復習①
⑮復習②

統計入門

【担当】長谷　祐
【開講】後期　金５

■サブタイトル
数字に騙されないために
■講義概要
世の中を見渡せば、インターネット、テレビ、新聞など様々な場所で様々な数字が使われています。そこには、内閣支持率や大卒者内定率といった難しそうな数値だけでなく、スポーツ選手の成績、流行のお店の人気度ランキングというものもあります。これらは全て「統計数値」と呼ばれるものです。
また、そうした情報をもとに判断した（たとえば、美味しいラーメンランキングを見てお店を選んだ）のに､あまり満足できなかったこともあるのではないでしょうか?
どうしてそうしたことが起きるのか?どうすればそうした情報に騙されずにすむのか?
この講義では、そうした数字の情報を正しく理解する力を養い、数字に惑わされずに判断していくコツを学びます。そのため、この講義では、日常生活の中の現象（経済・心理の関連）を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても（＋－×÷で充分です)、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。
皆さんが近い将来､必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的なモノの見方について一緒に学んでいけたらと思います。
■到達目標
身近にあふれる数字の意味と、その背景や問題点を理解できるようになる。
■講義方法
講義形式で行います。また、身近な例を使いながら、簡単な例題を解いてもらい、統計を学んでいただけるよう心がけます。
■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活のなかで、数字の意味について考えてみる。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
特になし。
講義資料を配布します。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。
■参考文献
特になし
統計学は何か意味のある事を言うために、数式を使います。それゆえに拒否反応を示しがちですが、加減乗除（＋－×÷）が出来ればその多くは問題ありません。むしろ、拒否反応を示す人が多いということは、それだけ身につければ武器になるということです。
授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。
■講義計画
①オリエンテーション
②記述統計①：日常生活の中でみる統計
③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）
④記述統計③:さまざまな指標がもたらす日本社会の現状（騙す図を描くには）
⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）
⑥記述統計⑤：これまでの復習
⑦確率①：確率の基本（コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は・・・?）
⑧確率②：期待値とは?（直感と実際のズレ）
⑨確率③：母集団と標本（賭け事で負けないようにするには?）
⑩確率④：これまでの復習（勝ち逃げするためには）
⑪日常の中の統計①：当たり前を当たり前のように疑う
⑫日常の中の統計②：人間の感覚とは・・・
⑬日常の中の統計③:われわれは意図的に誘導されている?(アンケートのお話)
⑭日常の中の統計④：統計のその後・・・(統計を使った分析のお話)
⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門も受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成26年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門も受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成26年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成26年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成26年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水1

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育A

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水2

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水1

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水2

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

仏教の思想

「仏教の思想Ａ・Ｂ」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想Ａ・Ｂ」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想Ａ・Ｂ」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想Ａ・Ｂ」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

１．人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗りこえさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

２．倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。

② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探求する。

③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころとなっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

３．人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

・創造主なる神を想定しない

・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

４．広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

５．現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

６．いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

７．「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639 年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想Ａ」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教――カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏――民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼――智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛――慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在――煩悩・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙――縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想Ａ

【担当】北岑　大至
【開講】前期　火2

■講義方法
特定のテキストは用いず、毎回配布する資料をもとに講義を進める。また視覚資料も適宜使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に復習が重要である。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席、受講態度、講義内容に関するコメント、講義中の小レポートなど。
定期試験（60%）点数を評価とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
　―龍谷大学の沿革と建学の精神―
②仏教を学ぶということ
③～④仏教誕生の時代背景
⑤～⑥釈尊の生涯と思想―誕生・出家
⑦～⑧釈尊の生涯と思想―求道・成道
⑨～⑩釈尊の生涯と思想―初転法輪・涅槃
⑪～⑫釈尊の生涯と思想―仏教教団の展開
⑬～⑭大乗仏教の興起と思想
⑮仏教の伝播とまとめ

仏教の思想Ａ

【担当】田中　無量
【開講】前期　火2

■講義方法
特定のテキストは使わない。レジュメ・資料プリント等を配布し板書によりながら通常の講義形式で進める。また、適宜ビデオ等の視聴覚教材も用いる予定。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に復習が重要である。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席・授業態度・講義中のレポート
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に指示する。
■講義計画
①オリエンテーション
②仏教の思想と建学の精神
③～⑤宗教と仏教
⑥～⑦釈尊の生涯
⑧～⑩釈尊の思想
⑪～⑭大乗仏教の思想とその展開
⑮まとめ

仏教の思想Ａ（再）　※３年次以上対象

【担当】溪　英俊
【開講】後期　火５

■講義方法
特にテキストは定めず、講義形式で行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間に書籍の紹介などを行う。各自で興味のあるものを学んでほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席状況､受講態度などで総合的に判断する。
定期試験（60%）講義内容をもとに、定期試験を行う。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②仏教を学ぶということ
③釈尊の生涯
④仏教の伝播
⑤大乗仏教について
⑥まとめ
上記内容ごとに１～５回を予定

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質――法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求――老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる――悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い――火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界――摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている――白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想B

【担当】北岑　大至
【開講】後期　火2

■講義方法
特定のテキストは用いず、毎回配布する資料をもとに講義を進める。視覚資料も適宜使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に復習が重要である。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席、受講態度、講義内容に関するコメント、講義中の小レポートなど。
定期試験（60%）点数を評価とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
　―前期の復習と講義概要―
②～③中国への仏教伝播
　―中国仏教と浄土教
④～⑤日本への仏教伝播
　―日本仏教と浄土教
⑥～⑦法然の生涯と思想
⑧～⑨親鸞の生涯
⑩～⑬親鸞の思想
⑭親鸞の思想と建学の精神
⑮まとめ

仏教の思想B

【担当】田中　無量
【開講】後期　火2

■講義方法
特定のテキストは使わない。レジュメ・資料プリント等を配布し板書によりながら通常の講義形式で進める。また、適宜ビデオ等の視聴覚教材も用いる予定。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に復習が重要である。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席・授業態度・講義中のレポート
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に指示する。
■講義計画
①親鸞の思想と建学の精神
②～③中国における仏教・浄土教
④～⑥日本における仏教・浄土教
⑦法然の生涯
⑧法然の思想
⑨～⑪親鸞の生涯
⑫～⑭親鸞の思想
⑮まとめ

仏教の思想Ｂ（再）　※３年次以上対象

【担当】溪　英俊
【開講】前期　火５

■講義方法
特にテキストは定めず、講義形式で行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間に書籍の紹介などを行う。各自で興味のあるものを学んでほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席状況､受講態度などで総合的に判断する。
定期試験（60%）講義内容をもとに、定期試験を行う。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②北伝仏教について
③親鸞の生涯
④浄土真宗の歴史
⑤まとめ
上記内容ごとに１～５回を予定

フランス語ＩＡ

【担当】瓜生　濃世
【開講】前期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげると同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
小テストがありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。
■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典を入手する場合は、次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）､『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）､『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』､『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①第０課
②第１課
③第１課
④第２課
⑤第２課
⑥第３課
⑦第３課
⑧第４課
⑨第４課
⑩第５課
⑪第５課
⑫第６課
⑬第６課
⑭第７課
⑮第７課・まとめと復習

フランス語ＩＢ

【担当】瓜生　濃世
【開講】後期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
フランス語ＩＡの内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげると同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
小テストがありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。
■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!)』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典を入手する場合は、次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①前期の復習
②第８課
③第９課
④第９課
⑤第10課
⑥第10課
⑦第11課
⑧第11課
⑨第12課
⑩第12課
⑪第13課
⑫第13課
⑬第14課
⑭第14課
⑮まとめと復習

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法･発音･語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二　『新・東京ーパリ、初飛行』　駿河台出版社　2,310円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＣ

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。
■到達目標
口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指してください。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
大久保政憲 『話してみようフランス語ー Oui;-)』 朝日出版社　2,300円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　木３

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法･発音･語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『新・東京ーパリ、初飛行』 駿河台出版社　2,310円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『新・東京ーパリ、初飛行』 駿河台出版社　2,310円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語ＩＤ

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。
■到達目標
きれいな発音による、役立つフランス語の習得。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
大久保政憲 『話してみようフランス語ー Oui;-)』 朝日出版社　2,300円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　木３

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『新・東京ーパリ、初飛行』 駿河台出版社　2,310円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーＡ

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木４

■サブタイトル
フランス語を楽しく深める
■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、フランス各地の食文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。
■到達目標
平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。
■講義方法
CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーＢも受講されることをすすめます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。
■テキスト
藤田裕二 『彼女は食いしん坊！２フランス美味探訪の旅』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典を持つことが望ましい。次の２点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)､『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。
■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木4

■サブタイトル
フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーＢでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランス映画から数本を選んで学生諸君に事前学習をしてもらい、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。

■到達目標
フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法
CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修
後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーＡと共通しています。継続した受講を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト
藤田裕二　『彼女は食いしん坊！２フランス美味探訪の旅』
朝日出版社　2,500円

■参考文献
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。

■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

文学入門

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水３

■サブタイトル
物語の逆襲

■講義概要
ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかという諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標
文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける
文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法
受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験（60%）講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として期末試験の受験資格を失うものとし、結果的に単位は認められないことになる。

■テキスト
使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献
中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円
廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言
文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の４講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①序説―文学は死んだか?
②詩の言葉、言葉の詩
③ジャンル・タイプ・intertextuality
④幻想という名の真実
⑤言葉の裏を読む
⑥象徴の成立
⑦構造と対立
⑧アイロニー
⑨作者・作品・読者
⑩曖昧と解釈の問題
⑪文学と時間
⑫名前の文化論
⑬旅のモチーフ
⑭実践分析批評１
⑮実践分析批評２
＊以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?

■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）2000字程度

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画
①オリエンテーション
②文体と内容
③視点の問題
④ことばの３側面：外観
⑤ことばの３側面：響き
⑥ことばの３側面：意味
※毎回さまざまな作家を採り上げる。以下の作家については特に個別に論じる予定である。（順不同）
⑦谷崎潤一郎
⑧筒井康隆
⑨松本清張
⑩宮部みゆき
⑪山田風太郎
⑫奥泉光
⑬川崎洋
⑭入澤康夫
⑮谷川俊太郎

文学入門

【担当】坂本　輝世
【開講】後期　火5

■サブタイトル
モチーフとメタファーで読む「物語」

■講義概要
「文学」とは「ことば」を使って人間の内面と世界を描くもの、まだ文字がなかった時代から現在に至るまで、人間にとってなくてはならない表現方法の一つです。「ことば」で表現しようとする人々は、さまざまなイメージやテクニックを使って、自分が表現したいことを伝えようとしてきました。同時に「ことば」は、それを読む人／聞く人の経験、感性、知識などによって、意味が大きく変わってきます。このクラスでは、英文学の古典といわれる作品の中から3つ（17世紀初頭の『ハムレット』、19世紀半ばの『ジェイン・エア』、19世紀末の『闇の奥』）を中心に、短編小説などにも触れながら、「ことば」を読む面白さと「物語」の仕組みについて考えます。とくに、「モチーフ」「メタファー」「語り」などの概念を理解することで、文学を自分の読み方で読み、それを他の人と分かち合うためのツールとしてもらいたいと思います。「文学」は少し苦手という人には、「ことば」による表現の面白さを感じてもらえるように、そして、「文学」は好きだけど「面白かった」気持ちの伝え方がわからないという人には、「物語」の仕組みを知ってさらに楽しんでもらえるようになると思います。

■到達目標
「文学」とは何かについて、自分なりの理解をする。あるいは理解を深める。「モチーフ」「メタファー」「語り」などについて理解し、文学を読み、論じるための手段の一つとして使えるようになる。古典とされる作品を読み、その時代背景などを知ることで、大学生に相応しい教養の一部を身につける。

■講義方法
毎週、宿題（指定テキストである戯曲や小説を読む）があります。クラスの最初に、宿題で読んだテキストの内容について、質問に答えたり、コメントや疑問点を書いたりしてもらいます。学期中に3回小レポートの提出、学期末には期末レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習内容：第１週（オリエンテーション）の予習はなし。指定テキスト（文庫本で計４冊）を読む週が９週、小レポートを作成して提出する週が計３週、プリント教材を読む週が１週、最終週は期末レポートの作成、提出となります。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回のクラスで、読んできたテキストについてコメントなどを書いてもらいます。
レポート（40%）授業で取り上げたトピックに基づいて、期末レポートを書いてもらいます。
そ の 他（30%）『ハムレット』、『ジェイン・エア』、『闇の奥』それぞれについての小レポートを出してもらいます。
一学期を通して毎週かなりの量を読み、レポート課題も数回提出することになるので、その覚悟をして受講すること。

■テキスト
ウィリアム・シェイクスピア『新訳ハムレット』角川書店　500円
シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア（上・下）』光文社　1,780円
ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』　光文社　620円

■参考文献
授業内で指示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
eラーニングシステムを使って、授業で使用したPower Point資料などをアップロードしますので、適宜利用して下さい。

■講義計画
①はじめに：文学の「ことば」
②『ハムレット』（1）：戯曲の表現
③『ハムレット』（2）：イメージとモチーフ
④『ハムレット』（3）：物語の「テーマ」とメタファー
⑤『ハムレット』（4）：パフォーマンスとしての文学
⑥『ジェイン・エア』（1）：西洋近代小説の発展
⑦『ジェイン・エア』（2）：語り手の意味
⑧『ジェイン・エア』（3）：くり返されるモチーフ
⑨『ジェイン・エア』（4）：物語の「テーマ」とメタファー
⑩『ジェイン・エア』（5）：さまざまな「読み」方
⑪『闇の奥』（1）：重層的な「語り」の持つ意味
⑫『闇の奥』（2）：謎とあいまいさのはたらき
⑬『闇の奥』（3）：メタファーの危険性
⑭「湿原で」：モチーフ、メタファー、テーマ、語り
⑮まとめ

文学入門

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?
■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。
■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。
■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）2000字程度
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。
■講義計画
①オリエンテーション
②文体と内容
③視点の問題
④ことばの３側面：外観
⑤ことばの３側面：響き
⑥ことばの３側面：意味
※毎回さまざまな作家を採り上げる。以下の作家については特に個別に論じる予定である。（順不同）
⑦谷崎潤一郎
⑧筒井康隆
⑨松本清張
⑩宮部みゆき
⑪山田風太郎
⑫奥泉光
⑬川崎洋
⑭入澤康夫
⑮谷川俊太郎

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月1

■サブタイトル
日常生活と法
■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂
※プリント使用
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月1

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成26年版』　三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】菊地　建至

【開講】前期　水３

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門（個人の行為の規制や支援について「倫理学的に」考える）

■講義概要

★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。

★この「水曜日３時限の倫理学入門」の学期末試験は、「一切持込なし」で実施する予定です。

●現代社会において、「個人の自由」についてどう考えるかは重要なことです。しかし、「自由」ってどういうことか、じっくり考えたことのあるひとは少ないのではないだろうか。この「水曜日３時限の倫理学入門」は、個人の行為の「規制」と「支援」に注目することによって、また、「経済・市場と倫理の関係」に注目することによって、「自由」について倫理学的に考える授業です。

●「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理学的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。

●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。

●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。また、テキストは使用しないが、課題・ホームワークは少なくないだろう。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習やホームワークが求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する

定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

●わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります（水曜日３時限・前期、水曜日４時限・前期、水曜日５時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。

●あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。

●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

①ガイダンス

②～③（テレビドラマなどの）映像資料を用いて、自由や倫理について考えることを始める

④～⑤「個人の行為を規制すること」についてよく考える

⑥～⑧（映画などの）映像資料や読書資料を用いて、「個人の行為を支援すること」についてよく考える

⑨～⑩「倫理の基礎」について理解を深める

⑪～⑬（映画などの）映像資料や読書資料を用いて、「経済・市場と倫理」や「グローバリズムと倫理」についてよく考える

⑭～⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について、徹底的に考えよう

※以上、順不同。

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】前期　水４

■サブタイトル
「勇気」、「平等」、「エンハンスメント」などをよく考える

■講義概要
★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
★この「水曜日４時限の倫理学入門」は、「（授業内で配布する）読書資料」と「映像資料」をともに頻繁に活用する授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ読書資料を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな（映画など）映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。
●「水曜日４時限の倫理学入門」は、「徳（たとえば勇気、節制、正義）とはどのようなものか」、「徳はどのようにして身につくか」など、倫理学の基本的かつ根本的な問題に取り組みます。また、「ひと（人間）が科学技術の進展に期待して生きること」に関連する現代的な問題として、「エンハンスメント」、すなわち「治療にとどまらない増強・強化（たとえば筋肉の増強、知能の増強、「デザイナーベイビー」など）」の倫理問題にも取り組みます。たとえば、「あなたはエンハンスメントを利用して活躍するひとを応援しつづけるか」、「エンハンスメントを推進する社会はどのようなひと（人間）とその生活をつくるだろうか」などの問題は、あなたにとっても縁遠いことではないだろう。
●授業内で配布する読書資料や（映画などの）映像資料を積極的に活用し、「勇気」、「平等」、「人間性」などについてよく考える授業です。具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標
●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。
●大学で求められる「読むこと」や「議論すること」について理解を深める。

■講義方法
●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「（授業内で配布する）読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
●授業で配布する「読書資料」は（これらは授業内で使用することもあればホームワークに活用する場合もある）、ときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、あなたにやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示
読書資料を読んでくること、授業内容の自習（予習・復習を含む）など、求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
●わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります（水曜日３時限・前期、水曜日４時限・前期、水曜日５時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。
●あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。
●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画
①ガイダンス
②～③（映画などの）映像資料や（授業内で配布する）読書資料を用いて、「勇気」や「勇気以外の諸徳」について考えることを始める
④～⑥（映画などの）映像資料や（授業内で配布する）読書資料を用いて、「エンハンスメント」と「倫理の基礎」について考えることを始める
⑦～⑧「倫理の基礎」、「平等」、「卓越」、「自由」などについて整理し、よく考える
⑨調整日
⑩～⑪「徳（たとえば勇気、節制、正義）は教えられるか」、「徳はどのようにして身につくか」などについて整理し、よく考える
⑫～⑬「異なるものの共生」、「友」、「倫理」などについてよく考える
⑭～⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「倫理の問題」について徹底的に考えよう
※以上、順不同

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】後期　水５

■サブタイトル
現代社会の倫理学入門（J.S.ミル『自由論』を活用する）

■講義概要
★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
●現代社会において、「個人の自由」や「多様な価値観」は重視されていると言えるだろう。しかし、「自由に生きるなんて結局無理なことだから」や「自由といっても結局ひとそれぞれだから」といった態度も、根強い。そういう状況において「自由をよく考えること」や「異なるものの共生をよく考えること」に無関心を決め込むのでなく、それならば「自由について」一度徹底的に取りくんでみよう、そう思うひとが参加するのが、この「水曜日５時限の倫理学入門」です。
●「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理学的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
●この「水曜日５時限の倫理学入門」は、わたしが担当する倫理学入門のなかで唯一「テキストを使用する」授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ本を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな（映画など）映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。
●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標
●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。
●世界で長きにわたって「繰り返し読まれてきた」価値ある本（こういうものを古典と呼びます）の一冊に集中的に取り組み、「読むこと」や「伝えること・表現すること」について理解を深める。

■講義方法
●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。あなたは、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
●テキストはときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、あなたにやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の復習やテキストの自習（予習・復習を含む）が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する
定期試験（50%）

■テキスト
ミル　『自由論』　光文社　1,048円
J.S.ミルは1806年に生まれ1873年に死んだ。活動の時期からすれば、およそ150~200年前のひとです。しかし、たんに昔の有名人というのではなく、「これまでの自由な社会」の基礎となる考えのいくつかを示し、「これからの自由な社会」を開く力にもなるひとだと言えます。
この『自由論』の読書を通して、あなたは、「個人と社会はどうかかわるのが正しいか」、「自分の意見をもちそれを表明する自由や少数意見が聞かれるということは、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういうものか」、「個性の発展は、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういうものか」、「他者に危害を与える行為と自分自身を害する（本人のためにならない）行為は、おなじように規制されてよいか」など、さまざまに徹底的に考えるきっかけをもつだろう。

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
●わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります（水曜日３時限・前期、水曜日４時限・前期、水曜日５時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。
●あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。
●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画
①ガイダンス
②～③（映画などの）映像資料を用いて、「自由」について考える
④～⑤テキストを用いて「自由」について考えることを始める
⑥「思想と表現の自由」について整理する
⑦～⑧（映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由」や「個人とコミュニティ」について考える
⑨～⑩「異なるものの共生」、「多数決が重視されるデモクラシーの特長と問題点」について理解を深める
⑪テキストを用いて「人間の進歩と倫理」について考える
⑫～⑬（映画などの）映像資料とテキストを用いて、「友」、「自由」、「倫理」などについてよく考える
⑭～⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について徹底的に考えよう
※以上、順不同

歴史入門

【担当】西村　昌洋
【開講】前期　水2

■サブタイトル
歴史を知る、歴史で楽しむ、歴史から考える

■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事や遠い時代を生きた人々の生き方・考え方のこと、あるいはそれらについて調べることである。歴史を学ぶことにはどのような意味があるのだろうか。会社での業務に役立つわけではないし、実際に製品を生み出すわけでもないから、別に必要ではないと思うかもしれない。だが歴史を学ぶこととは、遠い昔、はるかかなたに離れた世界について知ることであり、それは私たちの想像力を広げてくれるし、それ自体楽しいものである。同時に、歴史を学ぶこととは今とは違う社会について知ることであり、それは必然的に今私たちが生きているこの社会について考え直すことを迫る。その結果、今の私たちの社会や生活についてもっと鋭い感覚を持つことができ、自分自身について考える視点を養うことができる。またそれは、今の「当たり前」とは別の様々な可能性を意識し模索する手段をも与えてくれるのである。
この「歴史入門」では入門編として、過去という見知らぬ世界での生き方について、歴史を書くという営みについて、そして、民主主義や「グローバル化」のような現代世界と深いかかわりのある事柄の起源について、取り上げてみたい。もちろんここで取り上げる事柄は歴史の内のある一側面なのだが、この講義を通して「歴史的にものを考える」ことの意味や面白さを理解してもらえれば幸いである。

■到達目標
過去を知ることで、自分たち自身の生きている社会の枠組みや約束事を相対的にとらえる。
今の社会のあり方や問題点、そして今後何をすべきかということを、歴史的に考える感覚を身につけ、
それを自分の言葉で的確に説明できるようになる。

■講義方法
基本的には、プリント資料を配布しつつ講義形式で行うが、授業の進行状況に応じて柔軟に対応する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の性格上、細かに予・復習の課題を指定することが難しいが、授業内容と関連する文献を自分で探して読むことが望まれる。参考文献は適宜紹介する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）論述式の試験を行う。
年代や固有名詞の暗記を求めるような試験はしない。論述形式の試験によって、各人の学習・理解の度合いをはかり、かつ各人なりの考えも述べてもらう。

■テキスト
特になし

■参考文献
吉田孝　『日本の誕生』　岩波書店　660円
バーナード・クリック　『デモクラシー』　岩波書店　1,400円
加藤祐三、川北稔　『アジアと欧米世界』　中央公論新社　1,905円
塩川伸明　『民族とネイション：ナショナリズムという難問』　岩波書店　740円
授業中に適宜紹介するが、主なものをここで挙げておく。あくまでも参考文献なので、購入は必須ではない。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中、授業の進行を妨げる行為、他の出席者の迷惑となる行為は、絶対にしないでください。
授業で扱った事柄について興味を持ったなら、自分で本を探して読んでみてください。

■講義計画
①イントロダクション：歴史とは
②映画から見る歴史（1）：戦う帝国ローマ
③映画から見る歴史（2）：大西洋を渡る移民
④日本の誕生（1）：「日本」はいつできたのか
⑤日本の誕生（2）：古代の東アジア情勢と日本
⑥日本の誕生（3）：閉ざされた国へ
⑦民主主義の来し方（1）：古代アテネのラディカル・デモクラシー
⑧民主主義の来し方（2）：フランス革命と社会的デモクラシー
⑨ヨーロッパとアジア（1）：「自由貿易」の帝国
⑩ヨーロッパとアジア（2）：「朝貢貿易」の帝国
⑪ヨーロッパとアジア（3）：「グローバル化」と世界
⑫国民とは何か（1）：国民と国民国家
⑬国民とは何か（2）：民族と国家
⑭国民とは何か（3）：アジアのナショナリズム
⑮予備日（予定通りに授業が進まない場合を考慮して調整用に設ける、予定が遅れなかった場合でも休講にはしない）

歴史入門

【担当】佐野　東生
【開講】後期　金2

■サブタイトル
西アジアの歴史と文化
■講義概要
西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエント文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、その後のヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の、アフリカからインド・中国にいたる大規模な交流について解説する。最後に、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から概観し、現代のグローバル化する世界の中でいかなる変貌を遂げているか考察する。
■到達目標
中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。
■講義方法
講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。
■授業時間外における予・復習等の指示
配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）質問票（出席票にもなる）を数回提出。
小テスト（20%）１回実施する。
定期試験（60%）
■テキスト
講義の際に講読する史料を適宜配布する。
■参考文献
前嶋信次 『イスラムの時代』 講談社学術文庫　1,365円
イブン・バットゥータ著・家島彦一訳注 『大旅行記』 平凡社東洋文庫（全８巻） 3,150円
■履修上の注意・担当者からの一言
西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身に着けてもらいたい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示
■講義計画
①歴史学の方法１
②歴史学の方法２
③古代の西アジア１
④古代の西アジア２
⑤古代の西アジア３
⑥古代の西アジア４
⑦中世イスラーム史１
⑧中世イスラーム史２
⑨中世イスラーム史３
⑩近代１
⑪近代２
⑫現代１
⑬現代２
⑭現代３
⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】前期　月3

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）
⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】後期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学

■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）

■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）総復習
⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総　合　科　目）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
ア	アジアの文化	徐　光輝	前期	木４	97
	アジアの文化	松井　智子	後期	水３	97
	アジアの文化	舟橋　健太	後期	木４	98
オ	欧米の文化	嶋﨑　陽一	前期	月４	98
	欧米の文化	瀧口　順也	前期	金２	99
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・Ⅰ	後期	水２	100
	欧米の文化	大槻　志郎	後期	水３	101
カ	科学技術史	林　久夫	前期	月１	102
	科学技術史	岩本　太郎	後期	月３	103
	環境と人間Ａ	竺　文彦	前期	月４	104
	環境と人間Ａ	小山　豊一	後期	月４	104
	環境と人間Ｂ	本多　真	前期	木４	105
	環境と人間Ｂ	鈴木　滋	後期	水２	105
	環境と倫理	柿本　佳美	前期	木４	106
キ	教養教育科目特別講義Ａ（里山学入門）／共同開講科目特別講義	宮浦　富保／越川　博元／鈴木　龍也／須藤　明子／田中　滋／帖地　孝人／朴　炫国／丸山　徳次／山崎　英恵／遊磨　正秀／横田　岳人	前期	月３	106
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	福田　宏	前期	水４	107
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	福田　宏	後期	水３	107
	教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）	李　相哲	前期	月１	108
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	野呂　靖／鍵和田　聖子／吉田　慈順	前期	月３	108
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	野呂　靖／鍵和田　聖子／吉田　慈順	後期	月３	109
	教養教育科目特別講義Ｅ（アジアの途上国と社会開発）	佐藤　彰男	前期	木３	109
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	土居　幸雄	前期	木３	110
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	土居　幸雄	後期	月１	110
	教養教育科目特別講義Ｇ（雑草学）	古本　強	後期	木３	111
ケ	健康とスポーツ	渡辺　英児	後期	月１	111
	現代社会と宗教	辻　虎志	後期	月２	112
	現代社会と宗教	辻　虎志	後期	月３	112
	現代社会とスポーツ	辻　延浩	後期	月４	113
	現代社会と福祉	岡野　英一	前期	木３	114
	現代社会とマス・メディア	中野　有	前期	木４	114
	現代社会とマス・メディア	中野　有	後期	木４	115
	現代社会とマス・メディア	西村　敏雄	後期	水２	115
	現代の技術	小川　圭二／長澤　佳克	後期	月３	116
コ	国際社会と日本Ａ	池尾　靖志	後期	水１	117
	国際社会と日本Ｂ	佐藤　一進	前期	水１	117
	国際社会と日本Ｃ	川村　覚文	前期	金２	118

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
シ	ジェンダー論	堀江　有里	前期	火５	118
	ジェンダー論	堀江　有里	後期	火５	119
	ジェンダー論	高橋　慎一	後期	金５	119
	自然観察法	宮浦　富保／遊磨　正秀	前期	金２	120
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	前期	月３	120
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	後期	木３	121
	情報と人間	植村　渉	後期	木３	121
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	前期	月４	122
	人権論Ａ	稲田　七海	前期	月２	122
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月２	123
	人権論Ａ	稲田　七海	前期	月３	123
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月３	124
	人権論Ａ	岸　衛	前期	水３	124
	人権論Ａ	金　光敏	前期	水３	125
	人権論Ａ	金　光敏	前期	水４	125
	人権論Ａ	矢野　亮	前期	木３	126
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月２	126
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月２	127
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月３	127
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月３	128
	人権論Ｂ	金　光敏	後期	水３	128
	人権論Ｂ	岸　衛	後期	水３	129
	人権論Ｂ	金　光敏	後期	水４	129
	人権論Ｂ	矢野　亮	後期	木３	130
ス	スポーツ文化論	久保　和之	前期	水２	130
セ	世界の福祉	太谷　亜由美	前期	水３	131
	生活の中の宗教	辻　虎志	前期	月２	131
	生活の中の宗教	辻　虎志	前期	月３	132
	生命と共生	田村　公江	前期	木３	132
	生命と共生	柿本　佳美	後期	木３	133
タ	歎異抄の思想Ⅰ	殿内　恒	前期	水２	134
	歎異抄の思想Ⅱ	殿内　恒	後期	水２	134
ニ	日本の文化	泉　文明	前期	月３	135
	日本の文化	泉　文明	前期	木５	135
	日本の文化	泉　文明	後期	木５	136
	人間と社会と法	時本　義昭	前期	木４	136
ヘ	平和学入門	清水　耕介	前期	月２	137
	平和学入門	宮﨑　寛	後期	木３	137
メ	メディアにみる福祉	高田　敏司	後期	木５	138
	メディアにみる福祉	幸重　忠孝	後期	木３	138

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】前期　木4

■サブタイトル
中国歴史文化概説
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■系統的履修
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中適宜指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席率や受講態度等を重視する
小テスト（20%）点数により評価する
レポート（20%）内容により評価する
定期試験（50%）点数により評価する
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編 『中国史（新版世界各国史３）』 山川出版社 1998 3,500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著 『中国の考古学（世界の考古学７）』 同成社 1999 3,200円
■講義計画
①はじめに
②中国文明のあけぼの（黄河流域）
③中国文明のあけぼの（長江、淮河流域）
④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
⑦春秋戦国時代の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
⑪南北朝時代の民族大融合
⑫宗教文化の発展と伝播
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭隋唐時代の文化交流
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】松井　智子
【開講】後期　水3

■サブタイトル
タイの社会と文化
■講義概要
この授業では、東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化について学ぶ。授業の前半では、東南アジア社会を理解するための基礎的な概念を解説する。「海域世界」、「開拓社会」などがキーワードとなる。授業の後半では、東南アジア社会、とりわけタイ社会の現代的課題を取り上げ、理解を深める。具体的には、都市下層に生きる人々の生活世界や、山地民族女性の表象といった問題を取り上げる。現代タイ社会の理解を深めるため映像資料も用いる。ゲストスピーカーによる講義も予定している。
■到達目標
東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化を捉えるための基礎的な概念を理解する。その上で、具体的な現代的課題を検討することによって、文化と権力という問題について考える。東南アジア、特にタイの社会と文化を多面的に学ぶことによって、アジアの社会に対するステレオタイプにとらわれない公平な見方ができるようになることを目指す。
■講義方法
ハンドアウトを用いた講義形式で行う。映像資料等も使用する。ゲストスピーカーによる講演も予定している。
■授業時間外における予・復習等の指示
初回授業時に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（30%）
定期試験（40%）
■テキスト
初回授業時に指示する。
■参考文献
坪内良博編 『東南アジアの社会』 弘文堂
初回授業時に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
無遅刻・無欠席が原則です。
■講義計画
①オリエンテーション
②東南アジアの社会と文化（1）
③東南アジアの社会と文化（2）
④東南アジアの社会と文化（3）
⑤東南アジアの社会と文化（4）
⑥タイの都市化と社会変容（1）
⑦タイの都市化と社会変容（2）
⑧タイの都市化と社会変容（3）
⑨これまでのまとめ・中間テスト
⑩国際比較の視点①
⑪タイのエスニシティとジェンダー（1）
⑫タイのエスニシティとジェンダー（2）
⑬国際比較の視点②
⑭タイのエスニシティとジェンダー（3）
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】舟橋　健太
【開講】後期　木４

■サブタイトル
南アジアの宗教と文化
■講義概要
南アジア社会に暮らす人びとにとって、「宗教」は生活の中心に位置するきわめて重要なものである。本講義においては、インドを中心とした南アジア社会を対象に、人びとの暮らしの軸にある宗教、ならびに、背景となる当該地域の文化について、映像や画像を多用しつつ、特に人びとの日々の生活の様相に重点を置いた講義を行っていく。そこには、日本における宗教をめぐる風景とはまた異なる地平が広がっていよう。
■到達目標
南アジア地域社会、またその宗教と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性と重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。
■講義方法
基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。
■系統的履修
文化人類学
■授業時間外における予・復習等の指示
各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、ならびにコメントを含めた授業への参加の度合いを考慮する。
定期試験（70%）論述形式で行う。詳細は授業において通達する。
出席（原則として無遅刻・無欠席）、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。
■テキスト
特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。
■参考文献
辛島昇他（監修）『新版 南アジアを知る事典』平凡社　9,450円
田中雅一・田辺明生（編）『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社　2,520円
その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
南アジア社会（あるいは「異文化」というもの）への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的に、電子メール（アドレス：kfunama43@ybb.ne.jp）でのコンタクトとする。
■講義計画
①ガイダンス、イントロダクション
②南アジア社会概説 「宗教」とは何か
③南アジアの歴史～古代から近世～
④南アジアの歴史～近代から現代～
⑤ヒンドゥー教①
⑥ヒンドゥー教②
⑦イスラーム①
⑧イスラーム②
⑨コミュナリズム
⑩シク教、ジャイナ教
⑪仏教
⑫キリスト教、その他の宗教
⑬儀礼と祭礼　人びとの暮らしと宗教
⑭現代社会における宗教
⑮多宗教社会に生きる

欧米の文化

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　月４

■サブタイトル
20世紀芸術の歴史をふりかえる
■講義概要
19世紀の後半から20世紀にかけて、西欧世界の芸術には数々の傑作が生み出された。それらの作品は、さまざまな先端的思想を反映しつつ、私たちの感性を革新し、日常生活のなかでの事物の見方すら変えてしまいかねないほどの大きなインパクトをいまだにを与え続けている。本講義では、20世紀を彩ったさまざまな芸術作品（とくに美術）、文化現象を、フランスを中心に歴史的にふりかえりながら、そうした芸術作品への理解を深めるための手がかりを提示していく。
■到達目標
「ゲンダイゲイジュツは難解だ」「よく分からない」といわれがちな20世紀の芸術、文化をもっと身近に楽しむための入門を提供したい。
■講義方法
絵画写真、ビデオ、ＣＤなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。
■授業時間外における予・復習等の指示
自らも積極的に絵画や音楽・建築といった芸術作品に触れる機会を持っていただきたい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による。
定期試験（80%）論述式の試験を課す。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①イントロダクション：常識のウソと芸術のヴィヴィッドな関係
②モダン・アートの誕生（印象派・後期印象派）
③マルセル・デュシャン
④ジャクソン・ポロックとアクション・ペインティング
⑤アンディ・ウォーホールとポップ・アート
⑥絵画におけるミニマリズム
⑦音楽におけるミニマリズム
⑧コンセプチュアル・アート
⑨ジョン・ケージ
⑩パフォーマンス
⑪森村泰昌
⑫まとめ

欧米の文化

【担当】瀧口　順也
【開講】前期　金2

■サブタイトル
文化を学ぶまなざし－西洋文化史

■講義概要
本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧・米および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代に誕生し異文化との接触や異なる地域に伝播されるなかで変化を遂げてきました。
本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。
普段の生活で何気なく接している行為や言葉にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧・米圏のものですが、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。

■到達目標
1．「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
2．21世紀の現代に行われている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
3．欧・米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。

■講義方法
パワーポイントを用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介します。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するように心掛けて下さい。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（30%）学期中のレポート
そ の 他（60%）学期末レポート
二度（中間・学期末）のレポートにより評価します。

■テキスト
特になし

■参考文献
ピーター・バーク　『文化史とは何か』　法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとして、上記の文献を挙げておきます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
第一回講義時に指示します。

■講義計画
①イントロダクション：「文化史」というアプローチ
②食物と消費文化Ⅰ：砂糖
③食物と消費文化Ⅱ：塩
④スポーツと現代文化Ⅰ：フットボール
⑤スポーツと現代文化Ⅱ：ボクシング
⑥スポーツと現代文化Ⅲ：オリンピック
⑦儀礼と国家Ⅰ：権力の表象
⑧儀礼と国家Ⅱ：「全体主義国家」と儀礼
⑨集合的記憶Ⅰ：「未来予想図」とベル・エポック
⑩集合的記憶Ⅱ：オスタルギーと昭和ノスタルジー
⑪集合的記憶Ⅲ：ノスタルジーの克服
⑫音楽と文化Ⅰ：クラシックの時代
⑬音楽と文化Ⅱ：20世紀音楽史
⑭テクストと身体：書物と出版、監視と規律
⑮まとめ：文化の歴史と現代文化

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・I
【開講】後期　水2

■サブタイトル
映画で見るアメリカの現代社会　Contemporary　American Society through Film

■講義概要
アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的イコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。
この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか?　そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか?

■到達目標
この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法
毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を１本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修
アメリカのの社会と政治文化、メディア共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）参加程度
小テスト（30%）感想リポート　（毎週の課題）
レポート（20%）作品の比較分析リポート　（授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析）
定期試験（30%）授業で見た映画の内容について又はエッセイ
レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る
剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献
井上 一馬 『ブラック・ムービー―アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋 春海 『映画の中の星条旗―厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
鈴木 透 『性と暴力のアメリカ―理念先行国家の矛盾と苦悶』中央公論新社
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ（他の国も道論！）文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業での作品はすべて英語で（字幕付け）ですが、英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①映像の基本の見方
　アメリカ社会の最近20年
②『Gran Torino』『グラン　トリノ』
③『Gran Torino』『グラン　トリノ』
④『Gran Torino』『グラン　トリノ』
⑤『The Simpsons』１ テレビと暴力
⑥『Bowling for Columbine』『ボウングフォー･コロンバイン』:アメリカの銃への欲望
⑦『Bowling for Columbine』
⑧『Bowling for Columbine』
⑨『Juno』ー 少女妊娠コメディー
⑩『Juno』
⑪『Juno』
⑫『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』２　日本のイメージ
⑬『真実の噂：Wag the Dog』
⑭『真実の噂：Wag the Dog』
⑮まとめ

欧米の文化

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テーマで斬る欧米文化

■講義概要
「文化を学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標
未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。
欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法
授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
とくに最初の西洋史通史の段階では、たとえば参考文献などを講義の前後によく読んで、西洋史についての基礎知識を身に付けておくことが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくとよい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験（60%）講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として定期試験の受験資格を失うものとし、したがって単位も認められないことになる。

■テキスト
特になし

■参考文献
綿引弘 『一番大切なことがわかる「世界史」の本』 三笠書房（知的生きかた文庫） 619円
講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として好適。西洋史の基礎知識が不足としている場合は、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。
その他文献も講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言
欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜４講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①「欧米」の誕生（西洋史通史１）
②「欧米」の誕生（西洋史通史2）
③聖書と神話
④時間をめぐる話
⑤移動としての歴史
⑥土地と家族の問題
⑦階級
⑧理性と野性、文明と自然
⑨風土と文化
⑩言語の歴史、言葉の重さ
⑪言葉、シンボル、数字
⑫人間主義
⑬個人主義
⑭個人主義と名前
⑮総合
＊以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

科学技術史

【担当】林　久夫
【開講】前期　月1

■サブタイトル
将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要
20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギー源として、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに天文学、物理学の分野においては宇宙観や力学の変遷に、化学・生物学の分野においてはエネルギー観や物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標
科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。
各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。
各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法
プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（30%）
そ の 他（30%）中間試験

■テキスト
特になし

■参考文献
渋谷一夫ら『科学史概論』ムイスリ出版　2,400円
八杉龍一『図解　科学の歴史』東京教学社　2,000円
伊東俊太郎『近代科学の源流』中央公論新社　1,050円
伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』講談社学術文庫　1,050円

■講義計画
①環境問題と科学技術
②ギリシアの宇宙観
③ギリシアの物質観
④ローマの科学技術
⑤アラビアの科学
⑥中世の科学技術
⑦ガリレオ、デカルト、ニュートン
⑧中間試験と解説
⑨錬金術と元素観
⑩フロギストン仮説の崩壊
⑪原子論の復活
⑫永久機関への夢
⑬産業革命と熱機関
⑭近代科学技術
⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

科学技術史

【担当】岩本　太郎
【開講】後期　月３

■講義概要
現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限りない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はご容赦願いたい。

■到達目標
社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法
見せたい写真や図があるので、パワーポイントを主体的に使用する。パワーポイントなので全てをメモすることはできないが、キーワードや主要点はメモすることが望ましい。出席の確認を兼ね、毎回の授業の終了時点で小問題の解答用紙を提出してもらい、その得点の合計を平常点とする。

■系統的履修
直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習の手がかりとして年表を配布する。講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法
小テスト（60%）出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート（40%）学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、他人のコピーは人数分の１にする。

■テキスト
特になし

■参考文献
山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版　1,995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版　2,100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会　2,800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社　3,600円
ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言
講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。授業中の私語は周囲の学生や教員に迷惑をかける。厳に慎んでもらいたい。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。１号館３１５号室の扉に私の予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画
①科学技術史総論（古代）
②科学技術史総論（中世）
③科学技術史総論（近世）
④科学技術史総論（近代）
⑤科学技術史総論（現代）
⑥製鉄の歴史
⑦紡績・織布産業の歴史
⑧工作機械の歴史
⑨動力の歴史
⑩蒸気機関車の歴史（世界）
⑪蒸気機関車の歴史（日本）
⑫日本の鉄道の歴史
⑬自動車の歴史
⑭電気の歴史
⑮計算機の歴史

環境と人間A

【担当】竺　文彦
【開講】前期　月4

■サブタイトル
環境をいかに学び、いかに対処するか。
■講義概要
かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならないような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。
■講義方法
テキストおよびパワーポイント等を使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室を訪問してほしい。
■講義計画
①環境と社会づくり
②大気、水圏、土壌、森林
③地球温暖化、オゾン層
④酸性雨、森林破壊、砂漠化
⑤大気汚染
⑥水質汚濁
⑦廃棄物
⑧大気汚染防止技術
⑨水質汚濁防止技術
⑩化学物質、車社会
⑪温暖化、エネルギー
⑫CSR
⑬環境マネジメント、環境会計
⑭グリーン購入、LCA
⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】小山　豊一
【開講】後期　月4

■サブタイトル
環境を学び、いかに対処するか。
■講義概要
今日の環境問題は、多くの分野を内包するため、多方面から複雑に絡み合う事象の一つ一つをたぐり寄せて全体像をとらえる必要に迫られている。また、水質汚濁、大気汚染、森林破壊など地球規模で起こっている地球環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、基礎的な考え方を学ぶ。
■講義方法
テキスト、補足資料およびパワーポイントを使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストを用いるのでテキストによる予習を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席・質問等
レポート（50%）期末に、与えられたレポートを提出
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2,500円
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間前後の直接連絡
■講義計画
①環境問題と社会づくり
②基本的環境論
③地球環境問題その１
④地球環境問題その２
⑤日本の環境問題その１
⑥日本の環境問題その２
⑦日本の環境問題その３
⑧環境問題と具体的対策その１
⑨環境問題と具体的対策その２
⑩環境問題と具体的対策その３
⑪環境問題と具体的対策その４
⑫環境と企業その１
⑬環境と企業その２
⑭生活と環境
⑮まとめ、レポートの提出

環境と人間B

【担当】本多　真
【開講】前期　木4

■講義概要
標題にある「環境」や「人間」といった表現は、近代以降に現在のような用いられ方がなされるようになったもので、それは世界を客観的に理解しようという営みの中で生まれました。それまで人々は、自分の置かれた環境について、その性質や特徴あるいは将来を正確に把握することは困難でした。つまり、近代という時代は、わたしたちに新しい世界観をもたらしたといえます。では、新しい世界観とは具体的にどのようなものだったのでしょう。
この講義では、歴史的に大きな変化をもたらした近代・現代に焦点を当てながら、私たちが住まう世界の特徴、それから問題点を探ってゆきます。とりわけ注目するのは、人と人のかかわりについてです。時代の変化によって人と人のかかわり方が大きく変化し、社会問題も複雑化しました。
講義では映像資料などを用いて社会に備わる様々な問題をみてゆきます。受講生にはそれぞれの研究テーマに沿って本講義を受講することが求められます。

■到達目標
この講義では、受講生一人一人が「考える」ことを目標とします。

■講義方法
配布資料のほか、動画などを用いて講義をおこないます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に紹介した文献に目を通し、内容を復習すること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、平常点
小テスト（20%）加点、自由課題
レポート（50%）内容＋提出期限厳守

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①はじめに
②農耕社会
③近代社会
④西洋／非西洋
⑤人と人－お金をめぐる問題
⑥人と人－利益をめぐる問題
⑦人と人－性差をめぐる問題
⑧人と自然－環境問題①
⑨人と自然－環境問題②
⑩人と自然－環境問題③
⑪「権力」をめぐる考察
⑫「生命」をめぐる考察
⑬「つながり」をめぐる考察
⑭現代をどう生きてゆくか
⑮まとめ

環境と人間B

【担当】鈴木　滋
【開講】後期　水2

■サブタイトル
自然と人間の関係の人類史

■講義概要
環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な理解はごくかぎられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。ヒトと霊長類の比較や、人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史的かつ人類学的に考察する。また、人口増加や農耕と森林をめぐる問題を中心として、ヒトによる持続的な環境の利用のあり方を検討する。この授業で扱う環境とは、森林や動物などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標
環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。
有史以前の人類と環境のかかわりの基本論点を説明できる。

■講義方法
パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。
情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。
授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。

■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示
授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。
わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト（40%）授業時間中の小テスト
レポート（50%）授業期間中に提出する課題レポート

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜昼休み（メールでその他の日程を調整可）

■講義計画
①人類学からみる環境の視点
②霊長類の多様性とヒト
③人類の進化と環境（宿題レポート課題）
④ヒト化と出アフリカ
⑤新人の起源と世界進出
⑥人種と環境
⑦狩猟採集生活１
⑧狩猟採集生活２
⑨農耕の起源と帰結
⑩中間まとめと小テスト
⑪生活史
⑫人口
⑬環境の収容力と持続性
⑭里山と環境の持続性
⑮日本の環境利用の持続性

環境と倫理

【担当】柿本　佳美
【開講】前期　木4

■サブタイトル
環境正義と社会
■講義概要
環境倫理学は、自然環境に関わるさまざまな問題にかかわる人々の利害を考慮し、望ましくない環境変動の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利、生態系、自然生物の生を守るための、社会システムの構築を目指す領域です。
私たちは、食料はもちろんのこと、生活を豊かにするさまざまな資源とその材料を、生態系と自然環境のなかで形成された物質から得ています。科学技術と工業の発展は、自然環境から人間にとって有益なものを取り出す過程でもありました。
その一方で、科学技術と工業の発展の過程では、公害や希少な生物種の絶滅といった深刻な環境破壊も発生しました。そのなかで影響を受けるのは、社会や生態系のなかで最も弱い立場にあるひとであり生物です。環境をめぐるさまざまな問題の原因は、科学技術そのものにあるというよりはむしろ、それを利用する社会のあり方にあると言えるでしょう。
この授業では、環境正義という視点から環境倫理に関わる基礎理論を学び、具体的な事例を手がかりに倫理的な課題について考えていきます。
■到達目標
環境倫理の基礎理論を学び、環境問題の射程を知ることで、多角的な思考ができる。尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。
■講義方法
プリントを使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。
■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
環境問題に関する新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については必ず目を通しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（10%）
定期試験（70%）
通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。
■テキスト
加藤尚武編　『環境と倫理（新版）』　有斐閣アルマ　1,890円
■参考文献
関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著　『環境の社会学』　有斐閣アルマ　1,900円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げます。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
受講者の関心によって授業内容を一部変更することがあります。
授業開始30分以降の入室はお断りすることがあります。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師控室
■講義計画
①はじめに：私たちの身近にある環境問題
②環境問題のはじまり：「公害」の発生
③環境倫理のはじまり：自然保護と土地倫理
④環境倫理のキーワード：共有地の悲劇と世代間倫理
⑤環境倫理のキーワード：環境正義
⑥環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか?
⑦自然環境とのつきあい：琵琶湖と暮らし
⑧環境資源と人間：水
⑨環境資源と人間：土地
⑩環境資源と人間：大気
⑪生活のなかの環境問題：ごみ問題と私たちの生活
⑫生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
⑬エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは?
⑭エネルギー問題と環境：再生可能エネルギー
⑮まとめ：共生と社会

教養教育科目特別講義A（里山学入門）（2008年度以降入学生）／共同開講科目特別講義（2003~2007年度入学生）

【担当】宮浦 富保、越川 博元、鈴木 龍也、須藤 明子、田中 滋、帖地 孝人、朴 炫国、丸山 徳次、山崎 英恵、遊磨 正秀、横田 岳人
【開講】前期　月3

■サブタイトル
里山学入門　　地域の自然と文化
■講義概要
里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。
■到達目標
里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。
■講義方法
複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。
■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。
■成績評価の方法
レポート（100%）
■テキスト
講義時間内に教員ごとに指示する。
■参考文献
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のすすめ』　昭和堂　2,310円
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のまなざし』　昭和堂　2,310円
講義時間内に教員ごとに指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。
■講義計画
①４月１４日　里山の歴史と現状
②４月２１日　里山の環境倫理
③４月２８日　里山の生物多様性
④５月１２日　水辺環境と里山
⑤５月１９日　環境社会学からみた里山
⑥５月２６日　里山と山の神＜日本編＞
⑦６月　２日　里山と山の神＜韓国編＞
⑧６月　９日　人と自然の関係～森からの思想
⑨６月１６日　里山の所有と利用
⑩６月２３日　食と文化
⑪６月３０日　人の生活と水環境
⑫７月　７日　里山のバイオマス利用
⑬７月１４日　瀬田地域の里山の歴史
⑭７月２１日　里山が放置され、増える生きものと減る生きもの
⑮７月２８日　植物と里山文化

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】福田　宏
【開講】前期　水４

■サブタイトル
何のために西洋史を学ぶのか
■講義概要
私たちはなぜ歴史を学ぶのだろうか?なぜ西洋なのか?
1990年代以降、私たちの歴史観は大きく変わってしまったが、それに代わるものが見いだせているわけではない。（日本で使われている）世界史の教科書でも、基本的に西洋、特にヨーロッパをモデルとして書かれていたが、現在では、その前提が揺らいでいる。この授業では、ヨーロッパ近現代史を取り上げ、ヨーロッパの何がモデルとされ、何が問題点となっているのかを考えてみたい。その際、日本の歴史も参照しつつ、私たちがどのように「近代」を捉えてきたかについても考察する。
■到達目標
社会が不安定化したり、先行きが不透明になったりする時代には、歴史もまた不安定化する。過去をどう捉えるかという問題は、現在をどう捉えるかという点にも直結する。この講義では、歴史を柔軟に捉える習慣を身につけたい。
■講義方法
講義形式。授業の際に毎回プリントを配布する。配付資料についてはウェブよりダウンロードできるようにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
価値観が異なる地域の歴史を学ぶためには、映画や小説などによって人々の生活が見える「資料」に触れることも必要である。可能であれば、実際にその地域を訪れてみることも良い経験になる。受講に当たっては、授業で配布する文献一覧などを元に、可能な限り広い範囲の「資料」に触れるようにして欲しい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席は義務ではないが、各授業の最後に提出して頂く感想・コメントについては平常点として考慮する。
定期試験（80%）
■テキスト
小山哲他編　『大学で学ぶ西洋史』　ミネルヴァ書房　2,800円
テキストの購入は義務ではないが、高校で世界史を履修しなかった方、世界史をもう一度勉強し直してみたいという方には、本書をお薦めする。また、関心のあるテーマについては、授業で紹介する文献・ウェブサイトを図書館やコンピューターで確認し、各自の関心を広げていくようにして欲しい。
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問については、授業後、あるいはメール（hfukuda@cias.kyoto-u.ac.jp）にて受け付ける。
■講義計画
①はじめに ― 西洋近現代史を学ぶということ
②回転ではなく革命を ― フランス革命と近代
③ドイツ型ナショナリズムの誕生 ― 遅れてきた国民?
④イギリス帝国と植民地世界
⑤ロシアとトルコにとってのヨーロッパ
⑥日本帝国の台頭 ― 西洋とアジアの間
⑦音楽とナショナリズム ― 文化の政治性
⑧ハプスブルク帝国は民族共存のモデル?
⑨近代オリンピック ― スポーツと国民国家
⑩百年前の第一次世界大戦は何をもたらしたか?
⑪西洋の没落? ― ファシズムとナチズムの台頭
⑫大国としてのアメリカ ― フォードの素晴らしき世界
⑬第二次世界大戦とヨーロッパ統合
⑭1968年と1989年 ― 現代社会の変容
⑮おわりに ― 新しい世界史は可能か

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】福田　宏
【開講】後期　水３

■サブタイトル
何のために西洋史を学ぶのか
■講義概要
私たちはなぜ歴史を学ぶのだろうか?なぜ西洋なのか?
1990年代以降、私たちの歴史観は大きく変わってしまったが、それに代わるものが見いだせているわけではない。（日本で使われている）世界史の教科書でも、基本的に西洋、特にヨーロッパをモデルとして書かれていたが、現在では、その前提が揺らいでいる。この授業では、ヨーロッパ近現代史を取り上げ、ヨーロッパの何がモデルとされ、何が問題点となっているのかを考えてみたい。その際、日本の歴史も参照しつつ、私たちがどのように「近代」を捉えてきたかについても考察する。
■到達目標
社会が不安定化したり、先行きが不透明になったりする時代には、歴史もまた不安定化する。過去をどう捉えるかという問題は、現在をどう捉えるかという点にも直結する。この講義では、歴史を柔軟に捉える習慣を身につけたい。
■講義方法
講義形式。授業の際に毎回プリントを配布する。配付資料についてはウェブよりダウンロードできるようにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
価値観が異なる地域の歴史を学ぶためには、映画や小説などによって人々の生活が見える「資料」に触れることも必要である。可能であれば、実際にその地域を訪れてみることも良い経験になる。受講に当たっては、授業で配布する文献一覧などを元に、可能な限り広い範囲の「資料」に触れるようにして欲しい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席は義務ではないが、各授業の最後に提出して頂く感想・コメントについては平常点として考慮する。
定期試験（80%）
■テキスト
小山哲他編　『大学で学ぶ西洋史』　ミネルヴァ書房　2,800円
テキストの購入は義務ではないが、高校で世界史を履修しなかった方、世界史をもう一度勉強し直してみたいという方には、本書をお薦めする。また、関心のあるテーマについては、授業で紹介する文献・ウェブサイトを図書館やコンピューターで確認し、各自の関心を広げていくようにして欲しい。
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問については、授業後、あるいはメール（hfukuda@cias.kyoto-u.ac.jp）にて受け付ける。
■講義計画
①はじめに ― 西洋近現代史を学ぶということ
②回転ではなく革命を ― フランス革命と近代
③ドイツ型ナショナリズムの誕生 ― 遅れてきた国民?
④イギリス帝国と植民地世界
⑤ロシアとトルコにとってのヨーロッパ
⑥日本帝国の台頭 ― 西洋とアジアの間
⑦音楽とナショナリズム ― 文化の政治性
⑧ハプスブルク帝国は民族共存のモデル?
⑨近代オリンピック ― スポーツと国民国家
⑩百年前の第一次世界大戦は何をもたらしたか?
⑪西洋の没落? ― ファシズムとナチズムの台頭
⑫大国としてのアメリカ ― フォードの素晴らしき世界
⑬第二次世界大戦とヨーロッパ統合
⑭1968年と1989年 ― 現代社会の変容
⑮おわりに ― 新しい世界史は可能か

教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）

【担当】李　相哲
【開講】前期　月１

■サブタイトル
映画で語るアジアの歴史と文化
■講義概要
この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画はその国の歴史や時代を背景にしている場合が多い。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、想像の世界を作り出すこともある。
この講義では、アジアの映画を通してアジアの近現代に対する理解を深めていく。映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活をどう反映しているのかを考えながら、映画に取り上げられた国について理解を深める。
■到達目標
アジアの国々の歴史、生活、文化を理解する。
■講義方法
講義形式
映画を見ながら、関連書物を読み、講義を聴くという形式。
■系統的履修
アジアの文化、欧米の文化
■授業時間外における予・復習等の指示
その都度指示する
■成績評価の方法
平 常 点（10%）講義中に取り上げる映画をみたか、テキストを読んだか
レポート（60%）映画に関する感想文、テキストに関する感想文
定期試験（30%）
指定のテキストをしっかり読んで欲しい。
■テキスト
李相哲 『東アジアのアイデンティティ』 凱風社　2,300円
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日12時30分～ 13時30分
連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①スケジュール、講義方法を知ってもらう
（必ず出席すること）
②現代韓国の文化事情について
③分断国家の悲劇を知る
④韓国の文化を知る
⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
⑥韓国の歴史を知る
⑦韓国と日本の関係を知る
⑧現代中国の文化事情について
⑨現代中国を理解する
⑩中国の近代を知る
⑪中国の現代を知る
⑫現代中国と文化事情
⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
⑭現代アジアの家族、アジア的英雄像
⑮日中韓文化、どう違うのか

教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂　靖、鍵和田　聖子、吉田　慈順
【開講】前期　月３

■サブタイトル
近江の仏教文化
■講義概要
現在の滋賀県とほぼ領域が重なる近江国は、豊かな水をたたえた琵琶湖を有し、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在するなど日本文化の中心地の一つとなってきた。この講義では、近江における仏教文化の諸事象について、「説話」・「伝承」・「絵画」・「仏像」を素材として取り上げながら、「仏教」という視点から近江という地域を切り取ることで、新たな「近江像」を紹介する。
■到達目標
近江の歴史と文化における仏教との密接な関係性について「理解」し、資料などの「根拠」に基づいて自らの言葉で「表現」できることを目標とする。
■講義方法
３名の担当者（野呂靖・鍵和田聖子・吉田慈順）によるチェーンレクチャー形式をとる。講義にあたっては、プリント、板書、映像資料を用いて講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読み、指示された博物館・寺社の拝観を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業回数の３分の２以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度、および毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。
レポート（50%）近江と仏教との関係性について「理解」し、「根拠」を示しながら「論述」できているかを評価する。
■テキスト
担当者が毎回プリントを配布する。
■参考文献
講義時に随時、紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある近江については、知っているようで知らないことが数多くあるはずである。仏教との関わり通して近江の歴史を見ることで、これまで全く気がつかなかった滋賀県の魅力が明らかになるであろう。なお、本講義は滋賀県の現状や、歴史・文化に関する「概説的・網羅的」な講義ではないので注意すること。また、講義中に私語を行う者や、無断で途中退出する者は、一切、成績評価の対象としない。
■講義計画
①ガイダンス
②比叡山の仏教と歴史①
③比叡山の仏教と歴史②
④比叡山の仏教と歴史③
⑤比叡山の仏教と歴史④
⑥比叡山の仏教と歴史⑤
①～⑤のうち１回は比叡山への現地実習を予定（但し受講者数などにより変更あり。詳細は講義時に指示）。
⑦園城寺の歴史と文化
⑧石山寺の歴史と文化
⑨甲賀の忍者伝承と修験道
⑩琵琶湖の語源と比叡山の仏教
⑪近江の寺院と絵解き
⑫近江の神道美術
⑬湖北の観音信仰
⑭竹生寺と弁財天信仰
⑮総括・レポート提出

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂　靖、鍵和田　聖子、吉田　慈順
【開講】後期　月３

■サブタイトル
近江の仏教文化
■講義概要
現在の滋賀県とほぼ領域が重なる近江国は、豊かな水をたたえた琵琶湖を有し、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在するなど日本文化の中心地の一つとなってきた。この講義では、近江における仏教文化の諸事象について、「説話」・「伝承」・「絵画」・「仏像」を素材として取り上げながら、「仏教」という視点から近江という地域を切り取ることで、新たな「近江像」を紹介する。
■到達目標
近江の歴史と文化における仏教との密接な関係性について「理解」し、資料などの「根拠」に基づいて自らの言葉で「表現」できることを目標とする。
■講義方法
３名の担当者（野呂靖・鍵和田聖子・吉田慈順）によるチェーンレクチャー形式をとる。講義にあたっては、プリント、板書、映像資料を用いて講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読み、指示された博物館・寺社の拝観を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業回数の３分の２以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度、および毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。
レポート（50%）近江と仏教との関係性について「理解」し、「根拠」を示しながら「論述」できているかを評価する。
■テキスト
担当者が毎回プリントを配布する。
■参考文献
講義時に随時、紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある近江については、知っているようで知らないことが数多くあるはずである。仏教との関わり通して近江の歴史を見ることで、これまで全く気がつかなかった滋賀県の魅力が明らかになるであろう。なお、本講義は滋賀県の現状や、歴史・文化に関する「概説的・網羅的」な講義ではないので注意すること。また、講義中に私語を行う者や、無断で途中退出する者は、一切、成績評価の対象としない。
■講義計画
①ガイダンス
②比叡山の仏教と歴史①
③比叡山の仏教と歴史②
④比叡山の仏教と歴史③
⑤比叡山の仏教と歴史④
⑥比叡山の仏教と歴史⑤
①～⑤のうち１回は比叡山への現地実習を予定（但し受講者数などにより変更あり。詳細は講義時に指示）。
⑦園城寺の歴史と文化
⑧石山寺の歴史と文化
⑨甲賀の忍者伝承と修験道
⑩琵琶湖の語源と比叡山の仏教
⑪近江の寺院と絵解き
⑫近江の神道美術
⑬湖北の観音信仰
⑭竹生寺と弁財天信仰
⑮総括・レポート提出

教養教育科目特別講義E（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤　彰男
【開講】前期　木３

■講義概要
本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国におけるいくつかの社会問題をとりあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。
■到達目標
アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。
■講義方法
基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に適宜指示する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末に論述式の試験を実施する。
■テキスト
授業中に適宜指定する。
■参考文献
恩田守雄　『開発社会学 -理論と実践-』　ミネルヴァ書房
3,800円
■講義計画
①オリエンテーション
②途上国の社会問題
③グローバリゼーションと貧困の構造
④植民地化の歴史と社会構造のひずみ
⑤農村の困窮と膨張する都市貧困層
⑥教育と階層間格差
⑦宗教・ジェンダー・人権問題
⑧「後進性」と環境汚染
⑨公害の域外転嫁
⑩社会開発の目的と理念
⑪途上国援助の歴史
⑫開発援助における住民参加とエンパワーメント
⑬NGOの役割
⑭マイクロファイナンスの試み
⑮まとめ

教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）

【担当】土居　幸雄
【開講】前期　木３

■サブタイトル
現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える
■講義概要
従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。
■到達目標
食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う
■講義方法
講義形式を基本とする。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（10%）
定期試験（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール：doi@agr.ryukokou.ac.jp
■講義計画
①食を巡る諸問題
②世界の食料事情と日本
③食料の安定供給
④食品の安全性
⑤食品の安全性
⑥食品の安全性
⑦食品添加物
⑧食物アレルギー、食品の表示
⑨食品の栄養成分
⑩栄養素の代謝
⑪栄養素の代謝
⑫生活習慣病と食事
⑬運動指針と食事バランスガイド
⑭食品の機能性
⑮まとめ

教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）

【担当】土居　幸雄
【開講】後期　月１

■サブタイトル
現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える
■講義概要
従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。
■到達目標
食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う
■講義方法
講義形式を基本とする。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（10%）
定期試験（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール：doi@agr.ryukokou.ac.jp
■講義計画
①食を巡る諸問題
②世界の食料事情と日本
③食料の安定供給
④食品の安全性
⑤食品の安全性
⑥食品の安全性
⑦食品添加物
⑧食物アレルギー、食品表示
⑨食品の栄養成分
⑩栄養素の代謝
⑪栄養素の代謝
⑫生活習慣病と食事
⑬運動指針と食事バランスガイド
⑭食品の機能性
⑮まとめ

教養教育科目特別講義G（雑草学）

【担当】古本　強
【開講】後期　木3

■サブタイトル
雑草のくらしから学ぶ
■講義概要
雑草はヒトの活動と切っても切れない関係にある。科学的な定義も曖昧で、たとえば「雑草のようにたくましいやつ」などの文学的な用法から作物の栽培に害をなす植物を指す農学的用法などが混在している。さまざまな定義があるということは、善くも悪くもそれだけヒトの生活に密着していることを示している。
本講義では、雑草のくらしを中心に、生理的・生態学的観点などから解説するとともに、農業上の問題やどのように管理されているかなど、江戸時代の農学書に記載されている内容から最先端の農薬開発事情まで含めて解説する。
身近な植物についてこぼれ話なども折々に紹介する。
■到達目標
作物とは違う雑草のくらしへの理解を通して、道ばたに生える植物に想いをはせることができるようになること。
■講義方法
パワーポイント等を用いた講義を行う。資料は基本的に配布する。理解を促すために課題を求めることがある。
授業ごとにアンケート用紙を配布し、質問事項を受け付け、授業の双方向性を担保している。
■授業時間外における予・復習等の指示
生理や農薬に言及するため、化学の知識がないとフォローアップが難しい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席状況・参加態度をみて判断する
レポート（20%）折々に出すレポート課題への取り組みを評価する
定期試験（40%）試験評価
授業ごとにアンケート用紙を提出させる。そこへの書き込み内容を評価し、授業の双方向性を担保する。
授業中の私語は厳禁とする。
■テキスト
伊藤操子　『雑草学総論』　養賢堂
■参考文献
甲斐信枝　『雑草のくらし』　福音館書店
この本は、絵本である。しかし、その内容はとても深い、授業では繰り返し使用する。
身近な植物に興味がある学生の受講を希望する。☆授業内容を解説するために、生物だけではなく化学的な側面からも説明をすることがある。化学の知識がない学生にも配付資料を用意するなど一定の配慮はするが、予習復習が必要となる。
■講義計画
①概念１－くらしに着目する－
②概念２－農業と雑草－
③概念３－外来植物－
④絵本にみる生態　光合成生理
⑤絵本にみる生態　栄養生理
⑥絵本にみる生態　繁殖生理
⑦アレロパシ－
⑧外部形態
⑨防除の考え方－生物防除－
⑩防除の考え方－物理防除－
⑪防除の考え方－化学防除－
⑫遺伝子組換え技術での防除
⑬ヒトによる利用－救荒植物－
⑭ヒトによる利用－作物の起源－
⑮まとめ

健康とスポーツ

【担当】渡辺　英児
【開講】後期　月1

■講義概要
テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康 (2) スポーツ･運動と身体的な健康 (3) スポーツ･運動と心の精神的健康 (4) 食生活とスポーツ
■到達目標
現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。
■講義方法
講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業参加状況を総合的に判断する
定期試験（80%）大学が定める定期試験中に試験を実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
最初の講義で紹介する。
■講義計画
①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
②①スポーツや運動への参加状況　②運動は寿命を長くするか。
③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
④健康に関する体力要素
⑤エネルギー供給システムの違いについて
⑥①運動処方について　②運動によるウェートコントロール
⑦レジスタンストレーニング
⑧①ストレスと運動　②行動パターンと運動
⑨①スポーツ・運動と精神的健康　②運動の実践による心理的効果
⑩①運動により心理的効果のメカニズム　②運動の実践による自己概念の向上
⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
⑫スポーツ栄養学について
⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
⑭スポーツ科学の基礎知識
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　月２

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。
■系統的履修
生活の中の宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。
■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　月３

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。
■系統的履修
生活の中の宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。
■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

現代社会とスポーツ

【担当】辻　延浩
【開講】後期　月４

■サブタイトル
現代のスポーツ文化

■講義概要
現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化･ビジネス化･グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標
スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法
プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示
特になし

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容(前半)をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出題する。記述式。
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し､記述を求める。

■テキスト
受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献
井上俊・亀山佳明編　『スポーツ文化を学ぶ人のために』　世界思想社　2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業プリントは一人１枚受け取ること。枚数に限りあり。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
以下のメールに連絡してください。ntsuji@edu.shiga-u.ac.jp

■講義計画
①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
⑦中間試験
⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
⑨「メディアと競技スポーツの商品化」､「勝利至上主義とドーピング」､「競技スポーツと環境問題」､「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠６か条および補足６か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】岡野　英一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
現代社会の変化と福祉を捉える
■講義概要
人々にとって「福祉」とは何かを考えます。そのうえで、急激な現代社会の変化に対応して進められている福祉政策と福祉実践について、経済・社会的視点、歴史的視点、文化的視点を通じて考察することを目的とします。
■到達目標
私たちの社会生活の中に、福祉政策と実践はどのようにかかわっているのかを、授業を通じて具体的に理解できるようにします。
■講義方法
テキストに沿いながら制作した資料に基づき、講義を進めます。
■系統的履修
可能であれば、地域福祉論、ボランティア・ＮＰＯ論等の履修を勧めます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの内容を予習しておくことを求めます。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎月定期的に出欠を確認します。
小テスト（20%）中間時（6月はじめ）に筆記試験を行います。
定期試験（50%）筆記試験を行います。
■テキスト
山縣文治・岡田忠克 『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房 2,400円
毎回資料を準備します。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
できる限り質問を受け付けます、そこから意見交換を行いたいと思います。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
okano@soc.ryukoku.ac.jpまで連絡ください。
■講義計画
①授業にあたってのオリエンテーションを行います。
②「社会福祉」という考え方、私たちのライフステージの中での社会福祉意味を考えます。
③少子高齢化、小家族化、個人化した社会状況の中での社会問題を考えます。
④世界と日本の社会福祉の歴史と、その展開を学びます。
⑤社会福祉を進める行政の仕組みと、サービス利用の仕組みを学びます。
⑥社会福祉を進める各種専門機関について、その性格と内容を学びます。
⑦社会福祉の実践である、ソーシャルワークについての理解をすすめます。
⑧日本における社会保障の仕組みを学びます。
⑨日本の子ども家庭福祉ついて、その実際と課題を学びます。
⑩日本の高齢者福祉の実際と課題を学びます。
⑪日本の障害者福祉の実際と課題を学びます。
⑫地域福祉がめざすものとは何かを学びます。
⑬住民主体の地域福祉実践と専門職の協働の実際と、その課題を学びます。
⑭福祉情報システムと苦情解決の仕組みを学びます。
⑮社会福祉専門職の現状と課題を学びます。

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】前期　木4

■サブタイトル
メディア・リテラシー
■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。
最新の情報をベースにマスメディアの本質を考える。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。
■到達目標
メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。自分の頭で考え（Think）し、発表する能力を養う。
■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
毎回、講義のレジュメを配布する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。
毎回の講義で確実にスマートになる講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）毎回の講義で約10分間の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得したことを1400字でまとめる。最終講義かその前の講義時にレポートを提出。
■テキスト
李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1,575円
オリエンテーションにて説明。
■参考文献
参考文献はオリエンテーションにて説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　email nakanoassociate@yahoo.co.jp
■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアとは
③マス・メディアのエッセンス
④メディアはメッセージである
⑤メディア・リテラシーとは
⑥Think,Learn,Lead　自分の頭で考える
⑦哲学的思想
⑧近代史を語る
⑨国際情勢の変化を解読
⑩外交・安全保障とマス・メディア
⑪グローバル・イングリッシュの習得
⑫国際経済を解読
⑬ソーシャル・メディアの役割
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】後期　木4

■サブタイトル
メディア・リテラシー、現代社会を解読する

■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。
毎日、メディアに接する時間は平均６時間と言われている。洪水のようにあふれる情報を如何に解読するかが非常に大切である。現代社会、特にグローバル・ソサエティーにおいては、単に学ぶことよりも自分の頭でThinkする能力が求められている。そこで、考えることを学ぶ講義を行う。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標
メディア･リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。

■系統的履修
毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）積極的発言を重視､毎回約10分の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日かその前の講義中に提出。

■テキスト
李相哲、小黒純他『超入門ジャーナリズム101の扉』晃洋書房　1,575円
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養（リベラル・アーツ）を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアのエッセンスを習得
③メディアはメッセージである
④鉄のトライアングル（政・官・財）とメディア
⑤哲学思想とメディア
⑥歴史の潮流
⑦近代史とメディア
⑧国際情勢の変化を解読
⑨外交・安全保障とメディア
⑩国際経済とメディア
⑪海外のメディアから学ぶ、ニューヨークタイムズ、BBC,CNN
⑫ソーシャル・メディア
⑬グローバル・イングリッシュ
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村　敏雄
【開講】後期　水2

■サブタイトル
メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要
情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。３・１１の東北震災では政府や東電の情報に踊らされた。また、先の選挙では自民党が圧勝したが、圧倒的多数の与党がこれからの日本の進路の舵をどうきるのか。その背景等を探る。さらに最近頻発している「冤罪」をめぐる警察や検察など権力の思惑など、その情報から “真実” を見抜く視点を養うことが求められている。こうした「作業」を通じて「人権とメディアのあり方」を基本的に学ぶことにより、より身近な社会、政治、国際、経済問題などの「真実」を見抜いて、「自分なりの意見を持つ」ことが求められている。

■到達目標
いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法
①新聞の読み比べ②大討論会③レジュメに沿った授業の3形式で行う。
ビデオを鑑賞しながら「知らなかった世界」を発見して､「自分の視点」を養う。
毎回、授業の終わりに、感想文や意見などを書いてもらう→出席票の代わりでもある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の前には前週の新聞やテレビを通して何が世の中で起きているかを考えてくること。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）欠席は3回まで、4回になると自動的に受講資格なしになる。
小テスト（30%）授業の節目に小レポートを3回（各1000字以上）

■テキスト
『超ジャーナリズム入門』　晃洋書房　2,100円
毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献
『メディアコントロール』　集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言
欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法
toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画
①授業の進め方
　①この授業の意義②レジュメの内容③採点④受講生に求めるもの。
②メディア・リテラシーの意義
③新聞が読者に届くまで　記者の一日
④ジャーナリズムの役割や使命
⑤戦争とメディア
⑥ビデオ・ベトナム戦争「これは正義の戦いか」を鑑賞する。
⑦ビデオ・イラク戦争をベトナム戦争と比較してそれを取材するマスコミの違いを検証する。
⑧冤罪事件　「痴漢冤罪」の恐怖
⑨冤罪事件　「足利事件」のDNA科学を信用し、誤審になった菅谷さんの失われた17年の人生を考える。
⑩冤罪事件　「松本サリン事件」での被害者が､権力やマスコミによって「犯人」に仕立てられていく危険性を検証する。
⑪日本軍「従軍慰安婦」に関するマスコミの対応や日韓の政治の思惑を検証する。
⑫「戦争とメディア」 教員と受講生との意見交換
⑬「冤罪とメディア」 教員と受講生との意見交換
⑭授業を振り返っての大討論会
⑮14回分の授業の確認

現代の技術

【担当】小川　圭二、長澤　佳克
【開講】後期　月３

■サブタイトル
現代社会を支える先進技術

■講義概要
本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短に紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。
後半の講義では、まず先進技術の発祥と進化をノーベル賞、トレイバー賞を中心に解説し、次に日本が得意とする高分子から半導体までの新素材、新機能材料について、その機能発現の原理と実社会での応用をわかりやすく説明する。また社会的な問題であるエネルギーや環境問題について、その現状と解決への技術上の取り組み述べる。さらに医薬品、バイオテクノロジー等のライフサイエンスを支える現代技術についても講義を行い、これら全ての先進技術の発展に不可欠な分析・解析技術を紹介して、後半の講義をまとめる。

■到達目標
現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法
プリントを配布し、それに準じて講義する。
後半はパワーポイントを使っての講義を行う。

■系統的履修
「生活の中の物理」（教養教育科目）

■授業時間外における予・復習等の指示
現代技術に関する新聞、ＴＶなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法
レポート（10%）
定期試験（50%）
そ の 他（40%）中間試験
前半は、授業途中で課すレポートの成績（10点満点）と中間試験の成績（第8回目授業時に実施、40点満点）によって評価する（合計50点満点）。
後半は定期試験（100％）を50点とする。
前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト
特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
後半の講義では予め資料をシラバスに掲載する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。
中間試験は持込み不可。定期試験も持ち込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
特に設けない。
後半の講義ではメールによる質問も受け付ける。

■講義計画
①現代技術序論（技術略史、現代技術概説）
②コンピュータ技術（アナログとデジタル, 計算機の歴史､計算機の応用）
③輸送技術（自動車、鉄道、飛行機、ロケット）
④エネルギー技術（エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題）
⑤微細技術（マイクロマシン、ナノ技術）
⑥ロボット技術１（ロボット技術の歴史、産業用ロボット）
⑦ロボット技術２（ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来）
⑧中間試験・復習
⑨現代科学技術の発祥と進化
⑩産業各論１（化学材料、高分子材料）
⑪産業各論２（半導体、電子機器　・・自動車、画像表示、承明）
⑫産業各論３（エネルギー、環境）
⑬産業各論４（医薬品、食料品）
⑭産業各論５（バイオテクノロジー）
⑮まとめ（産業を支える分析・解析技術）
⑯定期試験

国際社会と日本A

【担当】池尾　靖志
【開講】後期　水1

■サブタイトル
日本をとりまく安全保障環境
■講義概要
沖縄では、1月の名護市長選挙で、辺野古移設の民意が示された。しかし、前年末、仲井眞弘多県知事の辺野古の公有水面埋め立て承認により、国は辺野古埋め立てを着実に進めようとしている。11月には、沖縄県知事選挙が開催される。ふたたび、沖縄県民の民意が示されるときが来る。本土はなぜ、沖縄に対して、「構造的差別」ともいうべき米軍基地の集中にばかり目をやり、沖縄の「負担軽減」は実現されることがないのだろうか。
この点を考えるべく、国際関係論の基礎知識を習得しながら、沖縄をとりまく安全保障環境をどのようにみていくのか、検討する。
■到達目標
1）日本をとりまく東アジアの安定について、自分なりの意見がもてるようになる。
2）そのために、新聞やニュースで書かれた記事の内容が理解できるようになる。
■講義方法
視聴覚教材を使用しながら講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
新聞・ニュースを欠かさずチェックすること。
中間レポートにとりくむこと。(e-ラーニングシステムを使用する。)
■成績評価の方法
レポート（10%）講義の中間地点で1回課す。自分なりの意見を自分とは異なる意見と比べながら説得的に論じているか。
定期試験（90%）論述2問。講義中に取りあげた分析概念を用いて、自分の意見を論理的に述べているかを採点基準にする。
■テキスト
池尾靖志編　『第2版　平和学をつくる』　晃洋書房
■参考文献
池尾靖志　『自治体の平和力』　岩波書店　530円
講義中に適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
自分の意見に固執するのではなく、他者の意見にも耳を傾けること。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-ラーニングシステムに質問のできる掲示板を用意しておくので、教員のみならず、受講生同士のコミュニケーションもはかってほしい。
■講義計画
①「標的の村」をみる
②北東アジアの安全保障を概観する
③国際関係のしくみ
④リアリズム（1）古典的リアリズム
⑤リアリズム（2）核兵器の登場
⑥リアリズム（3）ネオリアリズム
⑦リアリズム（4）冷戦後の国際社会
⑧リアリズム（5）テロ後の国際社会
⑨リベラリズム（1）トランスナショナルなアクター
⑩リベラリズム（2）国際的相互依存の進展
⑪リベラリズム（3）国際レジーム論
⑫リベラリズム（4）日本のエネルギー政策
⑬リベラリズム（5）日米安保は国際公共財なのか
⑭沖縄から見た国際社会（1）
⑮沖縄から見た国際社会（2）

国際社会と日本B

【担当】佐藤　一進
【開講】前期　水1

■サブタイトル
思想課題としての「西欧近代」と日本
■講義概要
本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経た日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況としてぼくたちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマなのではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。
■到達目標
・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。
・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。
・日本における伝統的な徳の精神や美の意識に関する言説にふれる。
・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。
■講義方法
基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に取ったノートを、できるだけその日のうちに整理してください。その時に不明な点、分からない点を明確化し、次回の講義において質問してください。毎回講義の冒頭で質問を受け付け、それについて答えながら講師と受講生で一緒に考える時間を設けます。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。
■成績評価の方法
定期試験（100%）論述形式をとります。
試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜指示します。
■履修上の注意・担当者からの一言
予備知識は特に要求しませんが、政治や経済、社会、歴史に対する思想的、哲学的な関心と意欲を持つ人の受講を歓迎します。講義中に受講生に対して問いを投げかけますので、それに積極的に反応する主体性を求めます。
■講義計画
①国際化とグローバル化
②西欧近代とは何か
③主権国家と社会契約（1）
④主権国家と社会契約（2）
⑤普遍同質国家と歴史の終わり（1）
⑥普遍同質国家と歴史の終わり（2）
⑦近代性の三つの波（1）
⑧近代性の三つの波（2）
⑨近代性の三つの波（3）
⑩明治維新と武士道（1）
⑪明治維新と武士道（2）
⑫文明開化と個人主義
⑬東洋の美、民藝の美
⑭「近代の超克」と太平洋戦争（1）
⑮「近代の超克」と太平洋戦争（2）

国際社会と日本C

【担当】川村　覚文
【開講】前期　金2

■講義概要
現代は、「グローバリゼーション」の時代であるといわれています。しかし、「グローバリゼーション」とはいったい何なのでしょうか。国際化という言葉と、どう違うのでしょう。曖昧なまま、なんとなくわかった気持ちでいる、という人が大半なのではないでしょうか。そこで、本講義ではこの「グローバリゼーション」という概念への考察を深め、そしてこの「グローバリゼーション」と現代日本はどのような関係にあるのか、ということをテーマに議論を進めていきたいと思います。本講義では特に、政治と文化と言う事を問題にしていく予定です。この二つの領域は、しばしば別々のもの、あるいは全く無関係なものとして理解されがちですが、実は密接に関係しているものです。「グローバリゼーション」が進行する中、現代日本における政治と文化の関係性はどのような影響をそこから受けているのか、このことについて理解を深め、批判的な視点を養うというのが、本講義の狙いです。

■到達目標
1. グローバリゼーションとは何かを理解する
2. 政治と文化の密接な関係について理解する
3. 現代日本における政治と文化へのグローバリゼーションの影響を理解する
4. 上記を達成するために必要な諸理論（哲学・思想を含む）について理解する

■講義方法
基本的にレクチャー形式で授業を進めますが、適宜受講者への質問等を通したディスカッションの形式も取りたいと思います。また、パワーポイントやDVDなどの視覚資料も用います。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメなどは配布しない予定ですので、各自でしっかりとノートを取ってください。また、復習をきちんとする事をお勧めします。

■成績評価の方法
定期試験（100%）基本的に講義内容に関する正しい理解が出来ているかを評価しますが、自身の意見も展開できればさらに評価します。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義内において適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
興味をもって自発的に学ぼうという態度をもつ人を対象にした講義をします。

■講義計画
①イントロダクション
②グローバリゼーションと国際化
③近代の特質
④近代国民国家の形成
⑤ナショナリズムと人種主義
⑥資本主義と帝国主義
⑦植民地帝国と新しい帝国
⑧グローバリゼーション、ナショナリズム、公共圏
⑨日本のナショナリズム
⑩日本のポピュラー文化とグローバリゼーション
⑪日本のポピュラー文化と日本社会
⑫オリエンタリズムと日本
⑬クールジャパンと日本
⑭日本のポピュラー文化はナショナリズムを超える事が出来るか
⑮総括

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】前期　火5

■サブタイトル
ジェンダー入門

■講義概要
ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個々人が生活していることを考察して行きたい。

■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。

■講義方法
講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポート
定期試験（80%）論述試験

■テキスト
特になし

■参考文献
大越愛子・倉橋耕平 『ジェンダーとセクシュアリティ』 昭和堂 2,520円
高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,100円
風間孝・河口和也 『同性愛と異性愛』 岩波書店 798円
その他、講義内に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。

■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮振り返りとまとめ

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】後期　火５

■サブタイトル
ジェンダー入門
■講義概要
ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は､性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している｡また､このような「性別二元論」は､二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個々人が生活していることを考察して行きたい。
■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。
■講義方法
講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポート
定期試験（80%）論述試験
■テキスト
特になし
■参考文献
大越愛子・倉橋耕平 『ジェンダーとセクシュアリティ』 昭和堂 2,520円
高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,100円
風間孝・河口和也 『同性愛と異性愛』 岩波書店 798円
その他、講義内に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。
■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮振り返りとまとめ

ジェンダー論

【担当】高橋　慎一
【開講】後期　金５

■講義概要
「私」は何ものなのか。「私」はどの場所から語るのか。「私」の性別は何か。「私」の性別は「私」にどのような生き方を与えるのか。男女という性の違いがこの社会で「私」たちに与えるものについて、この講義では考える。
■到達目標
価値中立的な学習ではなく、この社会の中で生活している自分自身の立ち位置から、考え、話し、書く力を養ってもらいたい。
■講義方法
新聞雑誌・学術論文などのコピーを配布して学習の導入に使う。また、ニュース映像・ドキュメンタリーなどの視聴覚資料ももちいる。授業内で受講生にはコメントを書いてもらい、質問にはなるべく応答する。
■授業時間外における予・復習等の指示
適宜、授業内に指示する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜、授業内に指示する。
■講義計画
①イントロダクション
②一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（1）
③一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（2）
④産まないこと、産むこと、育てること（1）
⑤産まないこと、産むこと、育てること（2）
⑥働くこと（1）
⑦働くこと（2）
⑧性を売ること、性を買うこと（1）
⑨性を売ること、性を買うこと（2）
⑩性暴力について（1）
⑪性暴力について（2）
⑫ジェンダーと教育（1）
⑬ジェンダーと教育（2）
⑭マイナーであるということ（1）
⑮マイナーであるということ（2）

自然観察法

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀
【開講】前期　金2

■講義概要
瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標
身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法
スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）３回以上の欠席で不合格とする
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①野外における観察とは（ガイダンス）
②地形図の見方と野外での観察記録
③自然の恵み
④覚えよう身近な樹木
⑤「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔）
⑥田圃の生き物
⑦植物と動物の関係
⑧ホタルの観察
⑨動物の餌探し
⑩生物による造形（巣作り）
⑪生物の形の数理
⑫「生き物のだましを見抜こう」（擬態）
⑬カワニナの観察
⑭樹木の形
⑮まとめ

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】前期　月3

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画
①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】後期　木3

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画
①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

情報と人間

【担当】植村　渉
【開講】後期　木3

■講義概要
我々の生活には、スマートフォンやゲーム機を始め、あらゆる所でコンピュータを利用している。それらは「情報」をやり取りしているが、その「情報」とはどういうものかを科学・技術的な側面から学習する。前半は数学的な扱いを紹介し、後半は通信的な側面からの扱いを紹介する。

■到達目標
「情報」がどういうものか理解し､コンピュータやインターネットがどのように動いているかを理解することを目標とする。

■講義方法
板書を中心に一部パソコンによる提示も行う。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜レポート課題を出すので、自習すること。わからないことがあれば、教員の部屋に質問に来ること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
河村一樹 『情報とコンピュータ』 オーム社

■履修上の注意・担当者からの一言
科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部、特に電子情報学科の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
電子情報学科のページにて公開しています。

■講義計画
①ディジタルについて（情報量、２進数）
②数字の表現（変数の型、符号の扱い、２の補数）
③論理演算
④論理回路、標本化と量子化
⑤アルゴリズム
⑥いろいろなアルゴリズム
⑦前半のまとめ
⑧オペレーティングシステム概要
⑨オペレーティングシステムの構成要素１（CPU、プロセス）
⑩オペレーティングシステムの構成要素２（記憶装置）
⑪インターネットの仕組み
⑫ネットワークサービスとサーバ（www）
⑬トランスポート層とインタネット層
⑭DNS
⑮まとめと質疑応答

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月４

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法
■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。
■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。
■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（10%）
レポート（40%）
定期試験（30%）
■テキスト
特になし
■参考文献
A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』 北大路書房　2,800円
ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー他 『ビッグデータの正体』 講談社　1,800円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』 NTT出版　2,500円
■講義計画
①～⑤インターネットにおける行動と心理
⑥～⑨コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
⑩確認のための小テスト
⑪～⑭関連法律、現行法の問題点および今後の動向
⑮総括

人権論Ａ

【担当】稲田　七海
【開講】前期　月２

■サブタイトル
流動社会における労働と生活
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在､「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが､各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席やワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験の結果から総合的に評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。しつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と都市生活
③高度経済成長期における労働と生活１―都市化とライフコース
④高度経済成長期における労働と生活２―日本型雇用とライフコースの分岐
⑤労働と社会保障１―歴史と展開
⑥労働と社会保障２―経済成長と福祉国家
⑦ホームレスの労働と生活１
⑧ホームレスの労働と生活２
⑨ホームレスの労働と生活３
⑩流動化とライフコース１
⑪流動化とライフコース２
⑫流動化とライフコース３
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論Ａ

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月２

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から４、５回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■系統的履修
特にない。
■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかが評価基準となる。
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひくだろうと思われる書籍等は、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義が終わったあとで、質問に対応する。その時に、不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－統計資料より
④被差別部落の実態－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論Ａ

【担当】稲田　七海
【開講】前期　月３

■サブタイトル
流動社会における労働と生活
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席やワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験の結果から総合的に評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。しつこく注意します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と都市生活
③高度経済成長期における労働と生活１―都市化とライフコース
④高度経済成長期における労働と生活２―日本型雇用とライフコースの分岐
⑤労働と社会保障１―歴史と展開
⑥労働と社会保障２―経済成長と福祉国家
⑦ホームレスの労働と生活１
⑧ホームレスの労働と生活２
⑨ホームレスの労働と生活３
⑩流動化とライフコース１
⑪流動化とライフコース２
⑫流動化とライフコース３
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論A

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月3

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門

■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
今、大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法
初回から４、５回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修
特にない。

■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかが評価基準となる。
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろうと思われる本等は、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の終了後に質問に対応する。その時の時間が不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。

■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－統計資料より
④被差別部落の実態－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】岸　衛
【開講】前期　水3

■サブタイトル
自分をみつめ・差別をみつめ・世間をみつめる

■講義概要
1　社会心理学的に自分と他人の関係をみつめる。
2　民俗学や社会史・文化史の観点から、差別問題、差別する心をみつめる。
3　「世間」とは、何か。社会とは違う「世間」の構造をみつめる。

■到達目標
＊今の「世の中」を見る目を身につける。
＊自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
＊本を読む習慣を身につける。

■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。

■系統的履修
人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート（20%）講義の中でテーマを課し、レポートを提出する
定期試験（50%）

■テキスト
岸　衛　『自分・差別・世間　第２版』　反差別国際連帯解放研究所しが　700円

■参考文献
遠藤周作　『ほんとうの私を求めて』　集英社文庫　457円
阿部謹也　『「教養」とは何か』　講談社現代新書　750円

■講義計画
01：オリエンテーション
02：知ってもらいたい「自分」
03：「まなざし」と差別
04：まとめ：「自分を見つめる」
05：人は「なぜ、差別するのか」
06：畏れながら遠ざける「差別」
07：賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
08：賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
09：日本人の「原風景」と差別
10：結婚をめぐって
11：まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
12：世間とは何か
13：世間の中の「自分」
14：「世間」の中でどう生きるか
15：まとめ：「自分・差別・世間」

人権論Ａ

【担当】金　光敏
【開講】前期　水３

■サブタイトル
社会の扉として人権
■講義概要
社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。
■到達目標
この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。
■講義方法
講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。また、授業の前半は授業と関連する直近のニュースの解説を行います。授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。
■テキスト
藤木美奈子　『傷つけあう家族』　講談社　600円
■参考文献
授業ごとに関連資料を印刷配布します。
■履修上の注意・担当者からの一言
大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。
■講義計画
①意思表明することの大切さ　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か①　～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か②　～女性の社会進出をめぐる現実～
④定住外国人の政治参画は賛成か反対か　～憲法判断をめぐって～
⑤定住外国人の政治参画は賛成か反対か　～基礎となる地域社会に国籍のちがいは重要か～
⑥朝鮮学校をめぐる賛成と反対　制度除外は妥当か
⑦沖縄に対する差別の現実　～押し付けられる米軍基地と日米関係～
⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
⑨映画の中の人権
⑩映画の中の人権
⑪公権力による人権侵害の実態
⑫メディアによる人権侵害の実態①～警察発表を鵜呑みする報道～
⑬ヘイト・スピーチの実態に迫る
⑭生きることが重んじられる社会とは?～労働と人権～
⑮生きることが重んじられる社会とは?～子どもの目線から見た社会～

人権論Ａ

【担当】金　光敏
【開講】前期　水４

■サブタイトル
社会の扉として人権
■講義概要
社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。
■到達目標
この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。
■講義方法
講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。また、授業前半に授業内容と関連する直近のニュース解説などを行います。授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。
■テキスト
藤木美奈子　『傷つけあう家族』　講談社　600円
■参考文献
授業ごとに関連資料を印刷配布します。
■履修上の注意・担当者からの一言
大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。
■講義計画
①意思表明することの大切さ　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か①　～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か②　～女性の社会進出をめぐる現実～
④定住外国人の政治参画は賛成か反対か　～憲法判断をめぐって～
⑤定住外国人の政治参画は賛成か反対か　～基礎となる地域社会に国籍のちがいは重要か～
⑥朝鮮学校をめぐる賛成か反対か　制度除外は妥当か
⑦沖縄に対する差別の現実　～押し付けられる米軍基地と日米関係～
⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
⑨映画の中の人権
⑩映画の中の人権
⑪公権力による人権侵害の実態
⑫メディアによる人権侵害の実態～警察発表を鵜呑みする報道～
⑬ヘイト・スピーチの実態に迫る
⑭生きることが重んじられる社会とは?～労働と人権～
⑮生きることが重んじられる社会とは?～子どもの目線から見た社会～

人権論A

【担当】矢野　亮
【開講】前期　木3

■サブタイトル
生活のなかにある「人権」
■講義概要
私たちはすでに「人権」と関わる日常生活世界を生きています。にもかかわらず、「人権」と聞くと、ある特定の差別や排除を被った「当事者（たち）」の問題だと括って（限定して）考えてしまいがちです。
本講義では、身近な生活場面において生起する人権侵害に関する具体的事例を取り上げ、それらの対応策について検討することを通じて、人権について議論していきます。その際、「当事者」を理解することにとどまらず、「当事者」を取り巻く社会政策や社会運動の歴史的展開過程についても視野に入れて考え議論していきます。
■到達目標
本講義では、身近な生活場面における事例検討を通して、自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持てるようになることを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。
■系統的履修
人権論B
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②私と人権――部落問題から
③「生活」の捉え方
④生活のなかにある人権①児童
⑤生活のなかにある人権②保育・教育
⑥生活のなかにある人権③恋愛・結婚
⑦生活のなかにある人権④労働
⑧生活のなかにある人権⑤老い
⑨生活のなかにある人権⑥障がい
⑩生活のなかにある人権⑦住宅
⑪生活のなかにある人権⑧家族
⑫生活のなかにある人権⑨地域
⑬生活のなかにある人権⑩国家
⑭生活のなかにある人権⑪国際
⑮まとめと振り返り

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月2

■サブタイトル
居住権について考える
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席とワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験によって総合的に評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。板書やパワーポイントの撮影も禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業実施日の昼休みに講師控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④居住福祉と住宅政策
⑤ネオリベラリズムと住宅政策
⑥居住の貧困とホームレス
⑦ホームレスと居住支援
⑧公共空間と不法占拠１
⑨公共空間と不法占拠２
⑩子どもの貧困と居住福祉１
⑪子どもの貧困と居住福祉２
⑫若者の仕事と居住１
⑬若者の仕事と居住２
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月2

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちも多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、その言葉に違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかが評価基準になる。
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ　（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月3

■サブタイトル
居住権について考える
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席とワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験によって総合的に評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁。板書やパワーポイントの撮影も禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業実施日の昼休みに講師控室にいます。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④居住福祉と住宅政策
⑤ネオリベラリズムと住宅政策
⑥居住の貧困とホームレス
⑦ホームレスと居住支援
⑧公共空間と不法占拠１
⑨公共空間と不法占拠２
⑩子どもの貧困と居住福祉１
⑪子どもの貧困と居住福祉２
⑫若者の仕事と居住１
⑬若者の仕事と居住２
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちは多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかが評価基準になる。
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ　（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】金　光敏
【開講】後期　水3

■サブタイトル
社会的スキルとしての人権アプローチ
■講義概要
「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。
「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものだと語られています。
この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。
■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。
■講義方法
講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。
■テキスト
人権法連絡会『外国人・民族的マイノリティ人権白書』1,000円
■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。
■講義計画
①この授業のねらいとガイダンス
②国際人権①～戦争と人権～
③国際人権②～世界人権宣言～
④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
⑤性差別の現実②～女性と労働～
⑥在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見えてくる日本社会～
⑦在日外国人の人権②～深刻な人身売買の現実～
⑧在日外国人の人権③～外国人の子どもの人権～
⑨在日外国人の人権④～国内の労働現場を支える在日外国人～
⑩在日外国人の人権⑤～難民保護をめぐる日本の狭き門～
⑪映画の中の人権
⑫映画の中の人権
⑬ハンセン病元患者らの記憶
⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
⑮水平社宣言～差別克服への胎動～

人権論B

【担当】岸　衛
【開講】後期　水3

■サブタイトル
－　ライフストーリー・インタビューへの招待　－
■講義概要
1　ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活を聞き取る作業である。インタビューから得られた被差別部落での20年間に渡る「語り」を紹介する。
2　差別の「今」を明らかにする。
■到達目標
＊今の「世の中」を見る目が身につく。
＊自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
＊本を読む習慣が身につく。
＊「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。
■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの次章を、事前に読み込んでくる。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）講義ごとにコミュニケーションカードを提出する
小テスト（30%）理解度を問うための「まとめ」
レポート（40%）講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。
■テキスト
岸　衛・桜井厚著『差別の境界をゆく』せりか書房　2,300円
■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2,500円
桜井厚・岸衛　編　『屠場文化…語られなかった世界…』　創土社　2,520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂　2,415円
■講義計画
01：ライフストーリーインタビューとは何か
02：宮本常一の世界
03：柳田国男の仕事
04：Ⅰ戦中・戦後を生きる
　　生活のための仕事
05：差別経験の語り方
06：Ⅱ「太鼓の里」から東京へ
　　皮革の「技」をもって
07：皮革業の変化と差別観
08：Ⅲ「伝統の技」に生きる
　　靴職人の世界
09：「嫁盗み」の物語
　　「はしり」
10：「屠場文化」
　　屠畜をめぐって
11：Ⅳ「部落」を伝える
　　親と子の苦悩
　　「部落」の語りがたさ
12：Ⅴ差別の「はざま」で
　　結婚・子育ての中で
13：差別を越えて
　　若者たちの「自己認識」
14：Ⅵアイデンティティを問う
　　若者たちの自己認識
15：アイデンティティ形成の困難

人権論B

【担当】金　光敏
【開講】後期　水4

■サブタイトル
社会的スキルとしての人権アプローチ
■講義概要
「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。
「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものだと語られています。
この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。
■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。
■講義方法
講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。
■テキスト
外国人人権法連絡会『外国人民族的マイノリティ人権白書』1,000円
■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。
■講義計画
①この授業のねらいとガイダンス
②国際人権①～戦争と人権～
③国際人権②～世界人権宣言～
④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
⑤性差別の現実②～女性と労働～
⑥在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見えてくる日本社会～
⑦在日外国人の人権②～深刻な人身売買の現実～
⑧在日外国人の人権③～外国人の子どもの人権～
⑨在日外国人の人権④～国内の労働現場を支える在日外国人」～
⑩在日外国人の人権⑤～難民保護をめぐる日本の狭き門
⑪映画の中の人権
⑫映画の中の人権
⑬ハンセン病元患者らの記憶
⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
⑮水平社宣言～差別克服への胎動～

人権論B

【担当】矢野　亮
【開講】後期　木3

■サブタイトル
部落問題を事例として
■講義概要
本講義では、戦前、戦中、戦後から現代における「人権」をめぐる言説空間について、部落問題を事例として取り上げることを通じて、いかなる時代状況において、「部落」と「人権」が人びとにいかに語られ問題化されてきたのかを考えたい。また、それらの問題化のプロセスを理解すると同時に、各時代における社会事業や社会政策、社会運動等の目的と方策、影響力についても理解を深める。
■到達目標
部落問題を事例として、いかなる時代状況のもと、いかなる実践と研究があり、現代にいたる人権概念に到達してきたのかを理解することを通じて、身近な人権に関する諸課題の解決策を模索する手掛かりを得ること。
■講義方法
参考資料を使用しながら講義を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する。
■講義計画
①ガイダンス
②私と人権――部落問題から
③部落問題をめぐる言説空間――戦前①
④部落問題をめぐる言説空間――戦前②
⑤部落問題をめぐる言説空間――戦時
⑥部落問題をめぐる言説空間――1945年～ 1950年
⑦部落問題をめぐる言説空間――1950年代
⑧部落問題をめぐる言説空間――1960年代
⑨部落問題をめぐる言説空間――1970年代
⑩部落問題をめぐる言説空間――1980年代
⑪部落問題をめぐる言説空間――1990年代
⑫部落問題をめぐる言説空間――2000年代
⑬人権の到達点と現代的課題①
⑭人権の到達点と現代的課題②
⑮まとめ、振り返り

スポーツ文化論

【担当】久保　和之
【開講】前期　水2

■サブタイトル
スポーツについての知識を増やす
■講義概要
近代スポーツは、様々なところで人々の生活とつながりを持っており、様式は時代や地域、民族で異なっている。スポーツ種目や国によってそれぞれの文化的背景が異なる。オリンピックや海外のスポーツを通して、多様なスポーツ文化の意義とその歴史的な背景について、歴史学・文化人類学的な視点からアプローチし、スポーツについて深く知ることを目的としている。
■到達目標
スポーツの成り立ちや現在の状況について理解する。
■講義方法
パワーポイント、板書、配布資料、ビデオ、を用いて講義形式で進める。
■系統的履修
現代社会とスポーツ、健康とスポーツ
■授業時間外における予・復習等の指示
できるだけ新聞を読んでください。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中のミニレポート
レポート（50%）期末の課題レポート
■テキスト
なし
■参考文献
井上　俊・亀山佳明　『スポーツ文化を学ぶ人のために』　世界思想社　2,300円
■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントのスライドをすべてノートに書き写す必要はありません。
資料が必要であれば、申し出てください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後に問い合わせてください。
■講義計画
①スポーツ文化とは
②スポーツの成立
③古代スポーツ
④古代オリンピック
⑤近代オリンピック
⑥スポーツの国際化
⑦現代スポーツの諸問題1
⑧現代スポーツの諸問題2
⑨海外のスポーツ文化1
⑩海外のスポーツ文化2
⑪日本のスポーツ1
⑫日本のスポーツ2
⑬マイナースポーツ
⑭シーズンスポーツ
⑮まとめ

世界の福祉

【担当】太谷　亜由美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
子供の貧困と子育て支援政策を考える
■講義概要
少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。今年度は離婚によって別に暮らす親からの養育費の問題についても取り上げたい。3か国とも、子供の養育を行っていない親からの養育費は所得が一定以上あれば、強制的に国によって徴収され、子供の養育費とされるシステムを取っている。しかし、日本ではそうした制度の導入には程遠い。こうした問題もとりあげていきたい。
■到達目標
日本ではあまり詳しく紹介されていない３ヶ国の状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできるように取り組んで頂きたい。実生活に役立つ情報をどんどん取り入れましょう。
■講義方法
主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。
■授業時間外における予・復習等の指示
各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席などの状況を勘案します。
定期試験（90%）論述式筆記試験
リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。
一度も出席のないものは不可といたします。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に追って紹介いたします。
■履修上の注意・担当者からの一言
成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後、ご質問ください。
■講義計画
①日本の少子化の状況と世界 - OECD加盟各国との比較 -
②日本の子供の貧困、一人親世帯の現状
　養育費の問題
③日本における実際の子育て支援政策の紹介
④日本の子育て支援政策の問題点
⑤イギリスの子供の貧困と対策
⑥イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑦イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 2
⑧講義予備日
⑨ニュージーランドの子供にかんする状況
⑩ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑪ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 2
⑫オーストラリアの子供の貧困と現状
⑬オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑭オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 2
⑮講義予備日

生活の中の宗教

【担当】辻　虎志
【開講】前期　月２

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。
■系統的履修
現代社会と宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。
■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

生活の中の宗教

【担当】辻　虎志
【開講】前期　月３

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。
■系統的履修
現代社会と宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。
■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

生命と共生

【担当】田村　公江
【開講】前期　木３

■サブタイトル
生命倫理の諸問題
■講義概要
医療治術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。
生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか?すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることはできます。
この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。
■到達目標
生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。
■講義方法
授業計画に沿って講義形式で進めます。
■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回、次回のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。
復習に役立つプリントを配布します。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験（50%）
■テキスト
伏木信次・樫則章・霜田求［編］改訂２版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂　2,500円
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社　1998　2,300円
■参考文献
欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（２号館300-1）
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。
■講義計画
①ガイダンス　倫理学とは
②生命倫理とは何か
③自分のことは自分で決める―医師と患者の関係―
④人工妊娠中絶に関する基礎知識
⑤人工妊娠中絶の問題点
⑥人工妊娠中絶に関する法律
⑦出生前診断
⑧優生思想と選択的中絶
⑨不妊治療の問題点
⑩臓器移植
⑪脳死は人の死か
⑫臓器移植、脳死判定の問題点
⑬自己決定原理とは
⑭安楽死・尊厳死
⑮安楽死・尊厳死の問題点

生命と共生

【担当】柿本　佳美
【開講】後期　木3

■サブタイトル
医療技術と人間の生命

■講義概要
医療技術の進歩は、人類が長い間望んでいた、健康で長生きするという夢を実現させつつあります。とりわけ、iPS細胞研究やSTAP細胞の発見は、患者本人の細胞を使ったオーダーメイドの治療を可能にするものとして期待されています。その一方で、、自らの意志で延命治療を拒否して死を迎えようとする人も現れています。また、先進国の患者が発展途上国で臓器移植や生殖補助医療をはじめとする医療を受ける、メディカルツーリズムも問題となっています。
生命倫理学は、医療と生命科学に関わるさまざまな問題について、医学・法学・社会学・哲学などさまざまな分野からアプローチする領域です。とはいえ、生命倫理の諸問題は、専門家達が議論するだけでよいというものではありません。皆さんもまた、医療技術が進歩しつつあるこの社会の一員なのですから、生命倫理のさまざまな問題についても当事者なのです。
この授業では、生命倫理の基礎理論に関する解説ののち、主要な問題を取り上げ、生命技術のあり方について考えていきます。

■到達目標
医療技術・生命科学に関するさまざまな問題について、さまざまな角度から検討することができる。
客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法
映像資料とプリントを使用し、講義形式で行います。ディスカッションとミニレポートあり。ミニレポートをもとに授業を進めることもあります。

■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
新聞等による報道に注意し、医療・生命科学等に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。
中間レポート課題を課すことがあります。

■テキスト
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社　2,300円
玉井真理子・大谷いづみ 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣　1,995円
テキストは、2冊のうちどちらかを用意してください。

■参考文献
参考文献については、授業中に適宜提示します。
生命倫理に関する文献のうち１冊を読むように。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
受講者の関心によって、授業内容を一部変更することがあります。
なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師控室

■講義計画
①はじめに：私たちの身近にある生命倫理
②はじめに：生命倫理学の歴史
③生命倫理のキーワード：「自律」と「尊厳」
④生命倫理のキーワード：優生主義
⑤生命倫理の理論：障害学
⑥生命倫理の理論：ケアとは
⑦生殖に関する諸問題：中絶
⑧生殖に関する諸問題：出生前診断と選択的中絶
⑨生殖に関する諸問題：第三者提供配偶子の使用と代理母
⑩生命科学と私たち：遺伝子解読技術の進歩がもたらすもの
⑪生命科学と私たち：ES細胞研究とiPS細胞研究
⑫死に関する諸問題：植物状態と治療停止
⑬死に関する諸問題：脳死と臓器移植
⑭死に関する諸問題：安楽死と緩和ケア
⑮まとめ：多様な生の肯定とは

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】殿内　恒
【開講】前期　水2

■サブタイトル
親鸞のことば
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。
■授業時間外における予・復習等の指示
次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
②第１条：本願のはたらき－摂取不捨－
③第２条：念仏との出会い－往生極楽の道－
④第３条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
⑤第４条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
⑥第５条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
⑦第６条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
⑧第７条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
⑨第８条：念仏の意味するもの－非行・非善－
⑩第９条：煩悩を持って生きる－浄土は恋しからず－
⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】殿内　恒
【開講】後期　水2

■サブタイトル
誤解をただす
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①「異義」とは：親鸞思想への誤解
②第11条：本願と念仏の関係
③第12条：学問の持つ意義
④第13条：人間にそなわる悪
⑤第14条：罪を滅ぼす行い
⑥第15条：この世で開くさとり
⑦第16条：回心するということ
⑧第17条：本願を疑っての往生
⑨第18条：布施の意義と利益
⑩後序：信心は一つ－たまわりたる信心－
⑪後序：自身が対象－親鸞一人がため－
⑫後序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】前期　月３

■サブタイトル
映像から探求する京都の魅力：京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の魅力に触れながら、京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、映像を駆使して、京都の〈姿〉〈カタチ〉を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の町のでき方・京都の歴史
③京都を題材とした映画鑑賞1
④前回（第3回）の続編、解説と分析
⑤京都を題材とした映画鑑賞2
⑥前回（第5回）の続編、解説と分析
⑦京都の世界遺産・国宝・重要文化財／小京都と姉妹都市・友好都市
⑧京都を題材とした映画鑑賞3
⑨前回（第8回）の続編、解説と分析
⑩京ことば1/京都人物列伝
⑪京都を題材とした映画鑑賞4
⑫前回（第11回）の続編、解説と分析
⑬京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道
⑭京都の四大行事/京ことば2
⑮総論

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】前期　木５

■サブタイトル
京都四大行事と歳時記：京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の季節感・歳時記
③京の町のでき方・歴史
④京都の四大行事概観
⑤葵祭
⑥お盆行事と五山送り火1
⑦お盆行事と五山送り火2
⑧時代祭
⑨京都の京都の世界遺産・国宝・重要文化財／小京都と姉妹都市・友好都市/京ことば1
⑩京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道／京ことば2
⑪祇園祭1
⑫祇園祭2
⑬祇園祭3
⑭祇園祭4
⑮総論

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】後期　木5

■サブタイトル
京都学入門
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の町のでき方と歴史
③京ことば1（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の世界遺産・国宝・重要文化財
④京都を題材とした映画鑑賞
⑤京都を題材とした映画鑑賞
⑥前回（第5回）の解説と分析
⑦京ことば2（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事1
⑧京ことば3（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事2
⑨京ことば4（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事3
⑩京ことば5（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事4
⑪京都の伝統芸能・茶花香道
⑫京都の伝統工芸
⑬京都人物列伝
⑭小京都と姉妹都市・友好都市
⑮総論

人間と社会と法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木4

■サブタイトル
現代日本における人権
■講義概要
日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
レポート（100%）出席2/3以上の者を対象とする
■テキスト
特に指定しない。
■参考文献
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①人権の歴史と分類
②憲法訴訟Ⅰ
③憲法訴訟Ⅱ
④日本国憲法の成立
⑤戦後史Ⅰ
⑥戦後史Ⅱ
⑦戦後史Ⅲ
⑧幸福追求権と新しい人権
⑨プライバシーの権利
⑩知る権利
⑪環境権
⑫自己決定権Ⅰ
⑬自己決定権Ⅱ
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

平和学入門

【担当】清水　耕介
【開講】前期　月2

■サブタイトル
平和学なんて忘れてしまえ！
■講義概要
平和という言葉はとても難しい言葉です。平和が何を意味するのか？戦争の無い状態か、戦争の心配のない状態か、差別やいじめのない安心して生活できる状態か。よく「平和ボケ」という言葉も最近聞きますが､平和は人々を「ボケ」させるのか､そのときの「平和」とは何なのか。本当に「日本」は平和なのか。その平和は誰にとっての平和なのか。平気で「平和ボケ」という言葉を使う事自体「平和」でボケているのではないか。この講義では､様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。
大人数の講義になった場合でもできるだけみなさんと直接議論していきたいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも使いながらみなさんとの意思疎通をはかりたいと思います。積極的な参加を期待します。
■到達目標
自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。
■講義方法
主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。
■系統的履修
特にありません。
■授業時間外における予・復習等の指示
いくつかの映像資料については授業で放映しますが、個人的に視聴できる場合には前もって観ておいてください。
■成績評価の方法
小テスト（50%）In-class test
定期試験（50%）In-class test
■テキスト
特になし
■参考文献
授業の中で適宜指示します。
■履修上の注意・担当者からの一言
ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
②「人」の「権利」と平和
③ルワンダ１
④ルワンダ２
⑤見える紛争と見えない紛争
⑥暴力とは何か
⑦中間試験と講評
⑧第二次大戦Ⅰ
⑨第二次大戦 II
⑩第二次大戦の原因とは?
⑪領土問題Ⅰ
⑫領土問題　II
⑬紛争、文化、宗教
⑭まとめ
⑮最終試験と講評

平和学入門

【担当】宮﨑　寛
【開講】後期　木3

■サブタイトル
「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考
■講義概要
平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても、統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。
大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。
■到達目標
自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。
■講義方法
主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。
■系統的履修
日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら､積極的にメモを書きためてください。気になった点･質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。
■成績評価の方法
小テスト（30%）第8回目の授業で実施します
レポート（70%）第1回目の授業（イントロ）で説明します
■テキスト
必要に応じて授業中にお知らせします。
■参考文献
必要に応じて授業中にお知らせします。
参考までに2013年度で鍾愛した参考文献の一覧を「資料」に掲載しておきます。
■履修上の注意・担当者からの一言
基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
②ヒバクシャ１
③ヒバクシャ２
④暴力とは何か
⑤冷戦（後）と原子力「平和」利用
⑥暴力と思考1
⑦暴力と思考2
⑧1回目～ 7回目の授業の整理：小テスト
⑨ホロコーストとは何だったのか1
⑩ホロコーストとは何だったのか2
⑪パレスチナとイスラエル
⑫パレスチナとイスラエル2：文化的暴力に抗して
⑬イラク戦争と世界経済
⑭オルタナディブな視点、情報、言葉
⑮まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田　敏司
【開講】後期　木5

■講義概要
世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。
そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。
本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護や医療、年金、雇用、生活保護、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標
福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法
新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示
できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問などがあれば、気軽にメールで連絡下さい（taka8@mvd.biglobe.ne.jp）

■講義計画
①超高齢・人口減少社会の到来
②介護保険創設の背景と仕組み
③介護保険の課題
④すすむケアの工夫
⑤障害者福祉の今とこれから
⑥日本の医療の特徴
⑦医師不足の深層
⑧がん医療、先端医療のトピック
⑨患者が医療を変える
⑩年金のいま
⑪生活保護と雇用保険
⑫少子化への対応
⑬福祉の軸となる雇用と教育
⑭負担と給付の選択肢
⑮地域自治と社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重　忠孝
【開講】後期　木3

■サブタイトル
身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要
学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標
・福祉とは身近なテーマであることを知る
・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る
・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法
講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介
※過去の講義で活用した題材
映画「誰も知らない」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」「青い鳥」
ＴＶドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック・自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『Flower』『ツレがうつになりまして。』『ホームレス中学生』
他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ
講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う
講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示
課題コミック、映画・ドラマの視聴と課題レポート（授業内レポートとの選択）

■成績評価の方法
レポート（100%）講義時のレポート試験か講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト
特になし

■参考文献
二通諭　『映画で学ぶ特別支援教育』　全国障害者問題研究会　1,785円
講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言
１．視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は退室も含め厳しく対処します。
２．課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
教員のホームページやブログを活用

■講義計画
①オリエンテーション
②身体障がい
③知的障がい
④精神障がい
⑤高齢者介護
⑥介護従事者
⑦子どもの貧困
⑧子ども虐待
⑨施設で生活する子ども
⑩ひとり親家庭
⑪生活困窮
⑫発達障がい
⑬災害における福祉
⑭若者への福祉
⑮まとめ

学部内共通科目

（情報メディア学科）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	ＭＯＴ演習	長谷　智弘	後期	月１	141
	ＭＯＴ概論	長谷　智弘／安藤　信行／加藤　正浩／佐藤　研司／神野友香子／谷口　清志	前期	火５	141
カ	化学概論Ⅰ	長澤　佳克	前期	水３	142
	化学概論Ⅱ	三宅　司郎	後期	月１	142
	科学技術英語	岡田　至弘／片岡　章俊／新川　芳行／曽我麻佐子／外村　佳伸／野村　竜也／長谷　智弘／藤田　和弘／三浦　雅展／三好　　力／吉見　毅彦／渡辺　靖彦	通年	集中	143
	科学思想史	但馬　亨	後期	月１	143
	学外実習（キャリア実践実習）／学外実習	新川　芳行	前期	集中	144
	環境科学	岩崎　仁	前期	月３	144
キ	技術者倫理	田岡　直規／細谷　陽三	前期	集中	145
	キャリアデザイン	植田香代子／澤田　幸子／西木多賀子	前期	水４	146
	キャリアプランニング	矢野　隆子／山崎　聡子	前期	水２	147
ク	グローバル人材育成プログラムⅠ／海外キャリア実践教育及び実習Ａ	大柳　満之／塩見　洋一	前期	集中	148
	グローバル人材育成プログラムⅡ／海外キャリア実践教育及び実習Ｂ	大柳　満之／塩見　洋一	前期	集中	148
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	渡辺　靖彦	前期	火４･火５	149
	計算機基礎実習Ⅱ	吉見　毅彦／南條　浩輝	後期	火４･火５	150
コ	工学概論	泉田　信也	前期	木１	150
	工業経済	齊藤　進	後期	金４	151
シ	資源エネルギー論	白神　達也	後期	金２	151
	自然観察実習	横田　岳人／丸山　敦／近藤　祥子	前期	水３～５	152
	情報学概論	杉山　久佳	前期	木５	152
	情報と職業	北林　雅俊	前期	集中	153
セ	生態学概論	山中　裕樹	後期	月２	153
	生体情報概論	椙崎　弘幸	前期	金２	154
	生物学概論Ⅰ	鈴木　孝仁	前期	月１	154
	生物学概論Ⅱ	鈴木　孝仁	後期	月１	155
	生物学実験	横田　岳人／竹内　圭介	後期	水３～５	155
ソ	総合実習	新川　芳行／伊藤　勝重／越智　勝也／竹内　真作／平山　義隼	前期	集中	156
チ	地域環境概論	竺　文彦／遊磨　正秀	前期	木２	156
	地学概論Ⅰ	桑原　希世子	前期	月３	157
	地学概論Ⅱ	塩野　清治	後期	水２	157
	地学実験	桑原　希世子／塩野　清治	前期	水３～５	158
	地球環境概論	市川　陽一／宮浦　富保	後期	火１	158
	知的財産概論	藤河　恒生	後期	水３	159
ニ	人間工学	橋本　正治	前期	水１	159
フ	物理実験	張　陽軍	前期	木３～５	160

ＭＯＴ演習

【担当】長谷　智弘
【開講】後期　月１

■講義概要
本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育を身に付ける。

■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修
MOT（技術経営）概論

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
前期開講の「MOT（技術経営）概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT（技術経営）概論」の単位合格者に限る。

■講義計画
①総論
②マーケティング・戦略論
③マーケティング・戦略論に関する事例演習（1）概論、ＳＷＯＴ
④マーケティング・戦略論に関する事例演習（2）戦略、戦術
⑤財務・会計および労務・組織
⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習（1）簿記、B/S、P/L
⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習（2）経営分析
⑧情報管理
⑨情報管理に関する事例演習（1）インターネットショッピング
⑩情報管理に関する事例演習（2）ＳＥ
⑪生産管理
⑫生産管理に関する事例演習（1）在庫管理
⑬生産管理に関する事例演習（2）生産計画
⑭ビジネスプランの作成方法
⑮まとめ

ＭＯＴ概論

【担当】長谷　智弘、安藤　信行、加藤　正浩、佐藤　研司、神野　友香子、谷口　清志
【開講】前期　火５

■サブタイトル
技術経営入門

■講義概要
本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財（特許）・標準化（品質管理など）を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育プログラムの構成とする。

■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
レポート（100%）
講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画
①総論
②企業経営理論（1）企業形態・株式会社
③企業経営理論（2）経営計画・マーケティング
④企業経営理論（3）経営戦略
⑤企業経営理論（4）競争戦略
⑥財務・会計（1）概論・会計原則
⑦財務・会計（2）損益計算書・貸借対照表
⑧財務・会計（3）安全性・収益性・生産性分析
⑨財務・会計（4）損益分岐点分析
⑩人事・労務・組織
⑪運営管理：生産・販売・流通・在庫・情報化
⑫法務：会社設立・運営
⑬知的所有権：特許
⑭標準化動向（品質・環境・労務）
⑮まとめ：ビジネスプランの作成方法

化学概論Ⅰ

【担当】長澤　佳克
【開講】前期　水3

■講義概要
我々は様々な物質からなる材料を利用し、またそれに助けられて生活している。ところで日本は不況から回復したと言われているが、真の日本の回復は、この材料・素材を開発する技術の維持と更なる発展である。化学は物質の構造、機能、反応を研究する学問であり、日本が優位性を保っている材料開発技術の根底にある。この講義では化学物質を構成する原子、分子の概念を学び、物質が吸収または反射、放射する光（電磁波）から見た物質の構造や性質を説明する。また物質の構造や固有の機能・性質を応用した工業製品（発光体、電池、表示素子等）についてその機能発現の機構と抱えている課題を講義する。

■到達目標
材料が持つ化学的性質を基本から理解する。覚えることではなく疑問をもち、調べ、理解し、他者に説明する力を身につけることを目標とする。

■講義方法
PowerPointを用いた講義。(資料はPDFでシラバスに講義後掲示)
学生にとって主体的・能動的な講義にするため、講師から質問をして、共に考える授業とする。

■系統的履修
化学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
当番を決め、与えた課題について、講義中に発表してもらう。大きな負荷はかけない。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）課題発表を含む
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
茅幸二　中嶋敦　『化学の考え方』　岩波書店　3,500円
M.J.Shultz著；長谷川哲也訳　『エンジニアのための化学』　東京化学同人　3,300円
講義の前にシラバスにパワーポイントで資料を掲載します。

■履修上の注意・担当者からの一言
化学を考える授業にする。企業で化学に35年以上にわたって携わった経験を生かして、化学を専攻しない理工系の学生に役立つ化学概論にする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail:y-naga2449@hotmail.co.jp
→7月10日は休講です。7月20日（同時刻）に補講を行います。
6月26日の資料を一部更新しました。

■講義計画
①化学について（私と化学、化学とは?化学が生み出した材料）
②原子の概念（原子模型の誕生まで）
③原子の概念（波動性、粒子性）
④原子・分子の概念（周期表、原子軌道）
⑤周期律表、分子軌道
　化学結合（イオン結合、共有結合）
⑥化学結合（金属結合:自由電子とバンド理論、その他の結合）
⑦物質の状態（気体、液体、固体）
⑧光と物質の相互作用（透過、反射、吸収、放射）
⑨化学反応（触媒反応）
⑩化学反応（酸化還元反応、電気化学反応）
⑪界面化学、表面科学
⑫材料・素材（発熱体、電池）
⑬材料・素材（半導体、発光素子）
⑭分析化学
⑮分析化学（環境科学）
⑯記述式が中心

化学概論Ⅱ

【担当】三宅　司郎
【開講】後期　月1

■講義概要
本講では､有機化学が私達の生命や生活（エネルギーや衣食住）へ如何に深く関わっているかを学ぶ。まず、代表的な化学構造を身近な関連化学物質（燃料、医薬品、農薬など）とともに解説する。次に、合成高分子（衣食住）や生体成分（生命）を学ぶ。最後に、生体成分で構成されている細胞を基に生命を考えると共に、環境化学の視点から有機化学物質を捉える。

■到達目標
有機化学物質が、生命や生活に密接に関わっていることを理解する。

■講義方法
出版された成書を参考書として使用するが、適宜パワーポイントやプリントを用いることで講義への理解を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞などの科学記事を読むことで、有機化学への関心を高めることが望ましい。

■成績評価の方法
小テスト（50%）毎回、前週の復習として小テストを行う。
定期試験（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
H.ハート、L.E.クレーン、D.J.ハート　『基礎有機化学』　培風館　4,000円

■講義計画
①概説
②炭化水素
③芳香族化合物
④有機ハロゲン化合物
⑤アルコール、フェノール
⑥カルボン酸とその誘導体
⑦アミンとそれに関連した窒素化合物
⑧複素環化合物
⑨合成高分子
⑩脂質と洗剤
⑪炭水化物
⑫アミノ酸、ペプチド、タンパク質
⑬ヌクレオチドと核酸
⑭細胞と生命
⑮環境化学

科学技術英語

【担当】岡田　至弘、片岡　章俊、新川　芳行、曽我　麻佐子、外村　佳伸、野村　竜也、長谷　智弘、藤田　和弘、三浦　雅展、三好　力、吉見　毅彦、渡辺　靖彦　【開講】通年　集中

■講義概要
科学技術の分野では多くの情報が英語により伝達されている．このため，英語による情報収集と発信は特別研究を行なう上でも重要である．この科目では，科学技術文献の原典の読解を通して、有益な情報の選択・解釈能力の開発を目的とする。また，読解力の向上だけでなく自ら英語で情報を発信していく能力を習得することも目的とする。指導は，特別研究の配属先の教員が行なう．

■到達目標
科学技術分野の情報を英語により収集する能力と発信する能力を身につけること．

■講義方法
少人数の演習形態で行なう．

■授業時間外における予・復習等の指示
英語文献の読解は、多少時間がかかっても最初は丹念に行うこと。また、インターネット等を通じて常に英語の文章に慣れ親しんでおくことが必要。

■成績評価の方法
課題達成度，レポートの内容，発表・討論の内容，出席状況などを総合して評価する．

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
読解・調査・発表

科学思想史

【担当】但馬　亨
【開講】後期　月1

■サブタイトル
ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要
現代世界において，科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう．しかし，このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか．当講義では，発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について，約二千年前のギリシャから遡り解説していく．なお，扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいわゆる自然科学分野であるが，その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため，適宜取り上げる．

■到達目標
各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること，さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること．

■講義方法
プリントなどの資料の配布に加えて，映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する．

■系統的履修
自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示
参考図書等の指示をするが，課題の考察については各自図書館の蔵書等を利用して調査してもらう場合もある．

■成績評価の方法
平 常 点（15%）小テストと合算で30点
小テスト（15%）平常点と合算で30点
定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて，その理解を問う．
テストでは論述が主体となります．

■テキスト
特になし

■参考文献
トーマス・クーン著　中山 茂訳 『 科学革命の構造』　みすず書房　2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言
携帯電話や私語などには厳しく対処し，場合によっては単位を取り消す可能性もあります．

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします．

■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
④ヘレニズム期と古代精密科学
⑤アラビアと中世の科学
⑥初期近代（1）：万能人の思想
⑦初期近代（2）：印刷術，近代解剖学
⑧前半内容の確認
⑨科学革命の世紀（1）：理論
⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
⑪１８世紀の科学
⑫１９世紀（1）：科学の組織化，制度化
⑬１９世紀（2）：近代生物学の誕生
⑭現代の科学：科学の巨大化
⑮総括

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）
学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】新川　芳行
【開講】前期　集中

■講義概要
理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。
学外実習は夏期休暇中の約2週間に実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会への参加が必要である。また、実習先の企業・研究所等は大学により指定される。
その他、学外実習に関する説明会が事前に実施される。

■到達目標
学外実習に参加することにより、研究・開発・生産現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法
原則として、事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習として、学内外のインターンシップ・プログラムの内容や実習先について調べておくこと。

■成績評価の方法
実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により、総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
説明会には必ず参加すること。実習にあたっては，実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し，学生として責任ある態度をとること。実習先の指定は原則大学側が行うが，学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので，学外実習担当教員に相談すること。

■講義計画
①大学より企業・研究所等へ実習受け入れの依頼書発送
②実習先希望アンケート作成・提出
③実習に関するオリエンテーション
④大学より企業・研究所等へ実習内容確認書発送
⑤実習先の通知・オリエンテーション
⑥大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送、事前学習
⑦学外実習実施（実習先企業等からの回答により、期間等の変更の場合あり）
⑧学外実習報告会（実習先企業・研究所、学生、教員が参加）

環境科学

【担当】岩崎　仁
【開講】前期　月3

■講義概要
地球環境の成り立ちや地球科学の基礎的な知識について説明し、最近の地球環境問題について、水、大気、土壌、生物等に関して具体的な例を上げて解説する。また、環境マネジメントシステムや環境関連法規、地球を守る技術としてのエコテクノロジー、さらにエコロジー思想などについて解説し、科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さについて述べる。

■到達目標
1．地球環境の成り立ちや、人と自然との共生の大切さを理解する。
2．地球環境問題や地域環境問題について科学的に理解し、その原因、影響及び現在実施されている対策について説明できる。
3．環境保全技術、環境管理システム、エコテクノロジー、エコロジー思想などを理解する。
4．偏ることなく情報を入手することの大切さ、物事（事象）を表面だけで判断せず本質を理解することの大切さを学ぶ。
5．環境問題解決のために自分たちは何ができるか、何をすべきかを考える。

■講義方法
毎回、講義の要点となるプリントを配布し、主にプロジェクタを使用して講義を行う。各回の最後に小テスト（レポート）を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示
研究・調査レポートを課することがある。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
平常点・小テスト・課題レポートを合わせて40%、定期試験を60%とする。

■テキスト
教科書は特にない。

■参考文献
参考となる資料や図書は講義で適宜紹介する。例：「地球　その誕生と現在」上山弘、裳華房

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問や授業への希望などは、講義終了後の時間に受け付けます。また下記のアドレスへのメールも受け付けます。
iwasaki@kit.ac.jp

■講義計画
①本講義の概要、現在の地球環境問題について
②宇宙の進化と元素の合成、地球の歴史と生物の進化について
③地球大気、大気汚染の歴史、大気汚染のメカニズム、特に酸性雨について
④成層圏のオゾン、フロンによるオゾン層の破壊、紫外線の環境への影響およびオゾン層保護の対策について
⑤温室効果、温室効果ガスおよび過去から現在までの気候の変化について
⑥気候モデル、気候変動の予測、気候変動の影響およびその対策としての再生可能エネルギーについて
⑦湖沼・河川の汚染や富栄養化、およびその浄化作用など琵琶湖を例にして陸水の現状について
⑧生活排水対策、浄化槽や下水の水環境への影響など水資源の危機とその対応策などについて
⑨ハイテク汚染などによる地下水の汚染、また海洋水の汚染について
⑩増加し続ける化学物質（農薬、環境ホルモン）の種類と特性、また、ダイオキシンなど環境への影響が大きい化学物質について
⑪生物多様性、生物圏の環境問題、熱帯林の消失、砂漠化および野生生物種の減少について
⑫リサイクル法など環境に関連する法規について、および環境管理システム（ISO-14001）について
⑬化石燃料資源の問題、原子力エネルギーの利用と問題点などについて
⑭新しいエネルギー源、再生可能エネルギー、エコテクノロジーなどについて
⑮近代のエコロジー思想および環境活動家について

技術者倫理

【担当】田岡　直規、細谷　陽三
【開講】前期　集中

■講義概要
科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する。また､その中で､専門職である技術者､研究者として、倫理に関わる問題に出会った場合にどのように対処すべきか、技術者、研究者の倫理、責任について理解する。さらに具体的な事例研究やグループディスカッション等を通じて、公衆の安全、公共の福祉、健康、文化、社会、環境等、様々な観点から価値を総合的に考慮する必要があることを理解し、具体的な問題解決を図る場合の、倫理的判断能力と問題解決能力の向上を図る。

■到達目標
①科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する、②専門職である技術者として、技術者、研究者の倫理、責任について理解する、③専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持つ、④自ら考える力を身に付ける、ことを目標とする。

■講義方法
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
集中講義（４日間）のため､毎日講義終了時に小テスト､レポート、テストのいずれかを実施する。その際、配布資料、参考図書等持込可とする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループディスカッション、発表等
小テスト（20%）集中講義４日内、１・２日目終了時
レポート（30%）３日目終了時
定期試験（30%）４日目終了時

■テキスト
特になし

■参考文献
田岡直規・橋本義平・水野朝夫編著 『技術者倫理 日本の事例と考察－問題点と判断基準を探る』 丸善出版　3,000円
杉本泰治・高城重厚 『第四版　大学講義 技術者の倫理入門』 丸善　1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進め、専門職である技術者、研究者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持ち、自ら考える力を身に付けることを目標とするため、積極的に討議に参加すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
集中講義のため、講義終了後にオフィスアワーを設ける。
場所は原則として講義を行った教室を利用する。

■講義計画
①技術者倫理とは
②企業倫理と技術者倫理
③倫理問題解決の技法。事例討議と演習１
④事例討議と演習２
⑤技術者とは何か
⑥日米学協会倫理規程
⑦環境倫理。事例討議と演習３
⑧事例討議と演習４
⑨科学技術社会と技術者倫理
⑩原子力と技術者倫理
⑪研究倫理。事例討議と演習５
⑫事例討議と演習６
⑬技術者、研究者の行動基準
⑭技術者の継続研鑽
⑮事例討議と演習７
⑯テスト

キャリアデザイン

【担当】植田　香代子、澤田　幸子、西木　多賀子
【開講】前期　水４

学部内共通

■サブタイトル
willから始める大学生活

■講義概要
キャリアデザインへの1年次生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。この授業では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」の基、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることがいかに重要であるかを理論的･体験的に学ぶ。その具体的な演習方法として、
●個人ワーク：自己に問いかける→考える→まとめる→書く→気づき、内省を深めて行く
●グループワーク：仲間を通じて、自分の考えやメンバーの考えを、話す→聞く→感じる→考える・気づき、自己を発見をする
また、演習を通じて考える･書く過程に必要な文章作成に対する授業も組み込んでいる。具体的には、
〇大学生としての適切な文章が書ける言語的指導
〇レポート、論文作成に必要な基本的な言語表現技術の習得
〇レポート作成を意識した論理展開の取り組み
を基本に、正しい文章が書けることを目指す。
具体的には、文章作成の型を意識し、演習シートや振り返りシートを基に、スキル向上につなげて行く。
提出シートは、講師が励ましのコメントやスキル向上への方法等、地道な添削を行う。
<理工学部キャリア教育>http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標
・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法
授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修
キャリアプランニング（２年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。
また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは
次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う
定期試験（30%）評価基準：文章作成の基礎習得の有無及びキャリア観。
テーマはオリエンテーション時に発表
その他（20%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施するが、真面目に授業に取り組み提出物を提示することにより、単位取得は可能。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。
テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。平常点に影響する。文章作成においては、他の授業のレポート作成時に必要なスキルでもあり、役立つものとなる。

■テキスト
東田晋三著 『新自分デザイン・ブック　Ⅰ』 株式会社ドリームシップ　1,600円
生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）」も開室しています。）生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みます。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めます。今年で１０年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった９０％以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は9名で火曜日・水曜日・木曜日・金曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを伝える。
②レポートの書き方
レポートを書く際に問題となる、段落の作り方、文をつなぐ接続詞の使い方、事実と意見の書き分け方、明確に書くために気をつけることを確認していく。
同様に、書くことを通じて「考え」「気づき」、その思いを「 伝える」こともトレーニングしていく。
③自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。
④何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。
⑤大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗してもあきらめず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人･グループワークを通じて学ぶ
⑥伝えたい（バズコミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じた。なぜ伝える･伝わるが難しいのかSMCRを通して理論的に学び、コミュ二ケーションの方法を体験し、気づきを得る。
⑦自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。
⑧協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。
⑨好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考えさせる。世の中の捉え方や、なぜ世の中に興味・関心をもつことが大切なのかを考える。
⑩失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時に、その人の値打ちが問われる。失敗した時、どういう「振り返り」をして、どういう戦略・戦術で再チャレンジしたか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標になり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。
⑪キャリアマインドをもとう
～２つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにもつながる。
⑫ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、さらに考えるということを学ぶ。
⑬勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要な事であり、目に見えない心を鍛え・磨く事を伝える。
⑭プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。
⑮Willから始まる大学生活
WillがあればMustが生まれ、Actionへと移行し、継続することによりHabitがつき、Canとなる。
自分で決めたMustから導かれるActionとHabitの検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

キャリアプランニング

【担当】矢野　隆子、山崎　聡子
【開講】前期　水2

■サブタイトル
自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要
1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのかという理由や自分にとっての意味を明確」にしていくことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていくことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標
自分の考えをしっかり持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、
・コミュニケーション能力がつくこと
・課題解決能力がつくこと
・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法
自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として
1．テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレーンストーミングをする。
2．必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
3．皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
4．実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
5．更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
6．自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。
ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。
また、授業のなかで複数（3名～5名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。

■系統的履修
1年次キャリア授業：キャリア・デザイン
※1年次のキャリア・デザインを履修していなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には
・自己紹介シート作成（随時）
・ワークシート作成（必要授業時に指示）
・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）等がある。
また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。（授業について行けなくなるので注意を要します。規律性・責任性を仕事では基本として求められます。そのベースとなることを日常の大学生活でも身に付けることが重要である。）

■成績評価の方法
平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う
その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大人度をアップさせること）また、7章よりグループで考え・行動することになるので、互いに協調性をもって協力していくことが求められる。（この能力は仕事をするうえで、最も必要とされる能力である）キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）」も開室しています。）生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。2年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。

■テキスト
1．授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は￥400　授業時に徴収。
2．授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバインダーを必ず用意すること。
※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは絶対に持参・購入しないことを強く伝えます。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大人度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものでもある。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
2年次キャリア講師は5名。前期授業は火曜・水曜・木曜・金曜日。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画
①●自分について考える　オリエンテーション
②●働くベースとなるものを知る　私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
③●自分のことを知ろう　自己理解：能力について
④グループディスカッション
⑤自己分析：価値観について　～はたかちカードワーク　その1～
⑥自己理解：価値観について　～はたかちカードワーク　その2～
グループで語ろう
⑦●社会を知ろう　働くを知る：考える　ブレーンストーミング
⑧働くを知る：作成する　目標設定→行動計画書作成　ビジネスマナー
⑨働くを知る：検討する　行動計画書→実現可能か?　行動を開始する
⑩働くを知る：調査・行動する　現状・問題把握→解決策検討
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑪働くを知る：調査・報告する
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑫働くを知る：調査・まとめる
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑬働くを理解する　調査結果最終報告　評価・振り返り
⑭キャリアプラン作成　職種・職業・業界・企業を知る
やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

グローバル人材育成プログラムⅠ（2011年度以降入学生）　【担当】大柳　満之、塩見　洋一
海外キャリア実践教育及び実習Ａ（2009～2010年度入学生）　【開講】前期　集中

■サブタイトル
海外での実習
■講義概要
社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にある。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加している。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施する。なお、現地には理工学部の教員も滞在してサポートする。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しているので、こうした企業への就職を希望している人は奮って受講すること。
＜日程＞　夏期休暇中のうち、2週間程度
＜募集人数＞　16名
＜費用（予定）＞　25万円程度（主に航空運賃など。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）
＜実習先企業（予定）＞Innovation Core SEI、United Television Broadcasting Systems、Senju Comtek、Neuro Skyなど
＜応募方法＞　科目の事前登録
■到達目標
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。
■講義方法
・実習は現地の日系企業にて実施するので、主に日本語での実習となるが、英語を使う場面も当然あり得る。内容は実習先の計画による。
・実習中の滞在はホームステイを基本とする。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできる。
・実習中は理工学部教員が現地に滞在してサポートを行う。
■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅡ
■授業時間外における予・復習等の指示
事前学修で身につけたことを実践するとともに、ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。
■講義計画
①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
②受講希望調査
③選考のための面接
④海外での実習・各実習先による実習内容

グローバル人材育成プログラムⅡ（2011年度以降入学生）　【担当】大柳　満之、塩見　洋一
海外キャリア実践教育及び実習Ｂ（2009～2010年度入学生）　【開講】前期　集中

■サブタイトル
事前学修および事後学修
■講義概要
海外での実習に必要な事前研修として、「中小企業研究セミナー」、「ビジネスマナー実践研修」、「英語コミュニケーション向上研修」、「実習での目的設定」などを行う。
また、実習終了後に、「事後研修」、「報告会」を行う。
■到達目標
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。
■講義方法
【中小企業研究セミナー】
理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーを実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修する。
【ビジネスマナー実践研修】
ビジネスマナーの基本についての講義を受講した後、小クラス編成での実践練習を行う。
【英語コミュニケーション向上研修】
ネイティブの講師による英語コミュニケーションの実践的な学修を行う。
【事後学修】
実習の振り返りと受講者全員の報告会を実施。
【報告会】
学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。
※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。
■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅠ
■授業時間外における予・復習等の指示
英語自学自習支援のために貸し出した英語学習ソフトとノートパソコンで、自学自習を通して語学力を高めること。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
事前研修および事後研修には必ず参加すること。
■講義計画
①中小企業の経営者・実務家による講義
②ビジネスマナー講座（講義・実技）
③実践英語
④海外での実習での目的等の設定
⑤海外での実習の振り返り
⑥受講者全員による実習報告
⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】渡辺　靖彦
【開講】前期　火４・火５

■講義概要

本科目は、計算機を活用するための基本的な知識を身につけることを目的とする。
実際に1人1台の計算機を使用し、windows環境を用いて実習を進める。
具体的には、以下の内容の習得をめざして実習を進める。

1. 計算機システムの基本的な操作の習得
   - 計算機システムの起動と終了
   - ファイル管理の基本操作
2. アプリケーションソフトの基本的な操作の習得
   - エディタ（ワープロ）ソフト
   - 表計算ソフト
   - プレゼンテーションソフト
   - WWWブラウザ
   - メール
3. レポートの作成
   - word などによるレポートの作成
   - excel などによる計算とグラフ作成
   - 図、グラフの作成とレポートへの挿入
   - レポート作成のための文献情報の検索
   - レポートの書き方の指導

■到達目標

1. 計算機システムの基本的操作の習得
2. アプリケーションソフトの基本的操作
3. レポートの作成

■講義方法

1人1台の計算機を使用し、windows環境を用いて実習を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。
演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法

平 常 点（20%）
小テスト（30%）
レポート（50%）
受講状況および毎回出される課題に対して評価を行い、その総合点を成績とする。

■テキスト

斉藤幸喜/小林和生 『windows Vista を用いたコンピュータリテラシーと情報活用』 共立出版　2,415円
山崎信寿/富田豊/平林義彰/羽田野洋子 『科学技術日本語案内』 慶応義塾大学出版会　4,800円

■参考文献

有賀妙子/吉田智子 『新・インターネット講座ネットワークリテラシーを身につける』 北大路書房　1,995円

■講義計画

①オリエンテーション、パスワードの変更、メールの送受信
②ワープロソフトの基本操作
③表計算ソフト（1）ワークシートの基本操作
④表計算ソフト（2）簡単な計算
⑤表計算ソフト（3）グラフの作成
⑥表計算ソフト（4）関数を利用した計算
⑦CG作品の作成
⑧グループ対抗CG大会
⑨プレゼンテーションソフトの基本操作
⑩情報探索講習会
⑪グループ対抗プレゼンテーション大会（1）
⑫関数の積分とグラフの作成
⑬グループ対抗プレゼンテーション大会（2）
⑭キャリア開発用データベース講習会
⑮総括

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】吉見　毅彦、南條　浩輝
【開講】後期　火４・火５

■講義概要
本科目は、計算機を活用するための基本的な知識を身につけることを目的とする。
実際に１人１台の計算機を使用し、Linux環境を用いて実習を進める。
具体的には、以下の内容の習得を目指して実習を進める。
１．Linuxに関する基礎知識
－基本的な操作方法
－ファイル管理の基本操作
２．C言語の基本的なプログラミング能力
－C言語に関する基礎知識
－簡単なアルゴリズムの作成
－簡単なプログラムの作成
３．文書作成能力
－フローチャートによるアルゴリズムの記述
－プログラムの説明

■到達目標
Linuxの基礎知識、C言語による基本的なプログラミング能力、文書作成能力を身につけること。

■講義方法
１人１台の計算機を使用し、Linux環境を用いて実習を進める。LinuxおよびC言語プログラミングに関する基本的な知識について、毎回いくつかの演習課題や理解度確認課題を解く。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の実習までに参考文献の当該部分を読んで理解を深めておきなさい。

■成績評価の方法
平常点（100%）演習課題および理解度確認課題に対する達成度（全回出席を前提とする）

■テキスト
中井獏　『わかる&使えるUNIX基礎講座 入門編:』技術評論社

■参考文献
内田智史　『C言語によるプログラミング 基礎編 第２版』オーム社
皆本晃弥　『やさしく学べるpLaTeX2ε入門－文書作成からプレゼンテーションまで－』　サイエンス社

■講義計画
①ガイダンス。Linuxを使ってみる
②Linuxの基礎（1）：ファイル操作，ディレクトリ操作，ファイルシステム
③Linuxの基礎（2）：標準入出力，リダイレクション，テキストエディタEmacsによる文書作成
④C言語によるプログラミング基礎：簡単なC言語プログラムの実装，Cプログラムのコンパイルと実行
⑤アルゴリズムの作成（入門）：文書の作成，フローチャートの作成
⑥アルゴリズムの作成（発展）：文書の作成，フローチャートの作成
⑦アルゴリズムからC言語プログラムへ
⑧C言語によるプログラミング（1）：入出力、四則演算、基本データ型
⑨C言語によるプログラミング（2）：条件分岐構造，関係演算子，論理演算子
⑩C言語によるプログラミング（3）：反復構造
⑪C言語によるプログラミング（4）：配列
⑫C言語によるプログラミング（5）：ポインタ
⑬C言語によるプログラミング（6）：関数
⑭C言語によるプログラミング（7）：構造体
⑮C言語によるプログラミング（8）：総合演習

工学概論

【担当】泉田　信也
【開講】前期　木１

■講義概要
世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなく、ソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標
何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さや、他の技術との関わり合いを知り、自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法
毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れの中の様々な話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義では限られた時間内にいろいろな技術の内容に触れるので、重要な用語（キーワード）
などは、あとで自分で調べてみること。それによって自分の知識として身につく。

■成績評価の方法
平常点（30%）毎回の講義の終わりに、講義でわかったこと、わからなかったことを書いて提出してもらい、それで出席とみなす。欠席届のない3回以上の欠席は不合格とする。
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義で紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
講義を聞いて理解できなかったことは、あとで質問したり、自分でインターネットや本などで調べること。講義中は私語を慎み、まず人（講師）の話を聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問すること。

■講義計画
①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
③太陽電池、太陽光発電の現状
④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
⑦携帯やデジカメの中はどうなってる?、電子機器の軽薄短小化の技術
⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
⑩ランプからＬＥＤ、有機ＥＬ照明まで。光の革命技術
⑪身近なすごい技術、レーザー。ＣＤからレーザー兵器まで、その原理
⑫身の回りのいろいろな電磁気・電磁誘導、その応用技術
⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
⑭半導体って何?、どうやって作る?、工場の中は?
⑮まとめ

工業経済

【担当】齊藤　進
【開講】後期　金4

■サブタイトル
企業で働く技術者をめざしている学生向けの経済論
■講義概要
18世紀後半に、動力として人間を含む動物の力や、風力・水力などの自然の力を利用するだけであった時代から、蒸気機関のような機械による力も使える時代になった。その結果、工業は急速に発展し、社会構造も大きく変化した。このことを産業革命と呼んでいる。その時代以降、農業や商業に代わり、工業が経済の中心に位置することになった。
工業経済は、人間生活に使用する物資を製品として加工生産し、販売するときの経済活動を取り扱うものである。企業で働く技術者は、新製品を開発するとき、製品を生産するときなどには、意識しなくてはならない考えである。
この講義は、私の経験から、講義計画に記載した項目が技術者に必要な知識と考え、工業の歴史的な観点と工業経営の観点を含め「工業経済」として扱う。
■到達目標
技術者の業務に役立つ工業経済に関する知識、思考する能力を身につける。
■講義方法
配布資料に沿って、プロジェクターと板書を使って、講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習：現在興味のある業界や企業の経済動向と技術動向に関する情報を収集する。
復習：講義の内容を興味のある業界や企業に当てはめたとき、どのようになるか考える。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業回数の3分の2以上の出席者を評価対象とし、受講態度によって評価する。
レポート（40%）講義内容を理解したかどうかの確認のために、ミニレポートを5回+α提出してもらう。
定期試験（30%）「この講義で学んだことについて、自分の立場で説明できる。」という点を評価する。
■テキスト
配布資料をテキストとして使用する。
■参考文献
関連図書などは、配布資料に記載する。
■履修上の注意・担当者からの一言
「工業経済」は、企業に勤める技術者にとって、役立つものと確信しています。授業時間中は、授業に集中してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
疑問や質問がある場合は、講義中又は講義終了後に、話しかけてください。
■講義計画
①ガイダンス
人類の進歩と工業発展の歴史
②「高校で習った（？）経済」の基礎概念と経済学
③日本の工業と工業経済
④分業と製造業の組織構造
⑤需要と供給の均衡
⑥生産過程と企業組織
⑦製品原価と技術者の役割
⑧生産方式の変遷
⑨生産管理と品質管理
⑩日本の工業発展経過と貿易
⑪標準化と知的財産
⑫給与体系と成果主義
⑬製品開発事例
⑭企業の社会的責任
⑮企業で働く技術者と起業する技術者
まとめ

資源エネルギー論

【担当】白神　達也
【開講】後期　金2

■サブタイトル
22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術
■講義概要
われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故に対するリアルタイムな情報を提供し、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。
■到達目標
われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。
■講義方法
配布プリント、板書、プロジェクタによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。
■授業時間外における予・復習等の指示
レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（11%）
レポート（30%）10点×3回
定期試験（59%）上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
世羅力 『資源・エネルギー工学要論　第2版』 東京化学同人 2,400円
これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。
■履修上の注意・担当者からの一言
資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも
■講義計画
①エネルギーの基礎
②化石エネルギー（1）－石炭、石油－
③化石エネルギー（2）－天然ガス－
④化石エネルギー（3）－その他－
⑤電力（電気エネルギー）（1）－火力発電－
⑥電力（電気エネルギー）（2）－その他の発電方法－
⑦自然エネルギー（1）－水力、地熱－
⑧自然エネルギー（2）－太陽、風力、バイオマス、その他－
⑨核エネルギー（1）－核分裂反応－
⑩核エネルギー（2）－原子力発電－
⑪核エネルギー（3）－未来の原子力－
⑫省エネルギー
⑬金属資源と精錬・リサイクル
⑭セメントの概要
⑮まとめ

自然観察実習

【担当】横田　岳人、丸山　敦、近藤　祥子
【開講】前期　水３・水４・水５

■講義概要
環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では，比較的身近にある自然環境を対象に，主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法
実習は３つの班に分かれ、概ね４回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがうこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）実習参加状況
レポート（40%）レポート、スケッチを評価。
そ の 他（20%）積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。野外での実習には，思いがけない危険が伴う。安全のてびきを熟読し，指導者の指示に従うこと。また，実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので，事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画
①実習ガイダンス
②3つのテーマについて４回ずつ実習を行う
③水域生物を中心とした自然観察（丸山敦）
④陸上生物を中心にした自然観察（近藤祥子）
⑤人間生活と自然
⑥博物館（動物園・植物園）での実習
⑦実習まとめ

情報学概論

【担当】杉山　久佳
【開講】前期　木５

■講義概要
コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる２進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とディジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法
指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜講義中に指示する.

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
三井田他 『情報工学概論』 森北出版　2,100円

■講義計画
①コンピュータの歴史（機械式計算機）
②コンピュータの歴史（電子計算機）
③コンピュータの歴史（パーソナルコンピュータ）
④２進数の基礎
⑤２進数の演算（加減算および乗算）
⑥２進数の演算（計算機内部演算）
⑦小テスト
⑧２進数の内部表現
⑨ブール代数と演算回路（ブール代数の基礎）
⑩ブール代数と演算回路（演算回路設計）
⑪コンピュータの構成（ハードウェア）
⑫コンピュータの構成（ソフトウェア）
⑬ネットワークの基礎
⑭コンピュータネットワーク（インターネット）
⑮コンピュータネットワーク（移動体通信）

情報と職業

【担当】北林　雅俊
【開講】前期　集中

■サブタイトル
情報化の進展が及ぼす社会生活の変容
■講義概要
情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。
■到達目標
情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。
■講義方法
配布するプリント及び資料を用いて授業を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
文部省 『高等学校学習指導要領解説　情報編』 開隆堂出版株式会社　221円
■履修上の注意・担当者からの一言
高等教員免許教科「情報」に係る科目です。
■講義計画
①ガイダンス　教科「情報」、科目「情報と職業」について
②情報化の進展と学校教育（1）情報化の進展
③情報化の進展と学校教育（2）情報教育
④情報化の進展と学校教育（3）情報科教員に求められる資質・能力
⑤情報化の進展と職業（1）情報化社会と情報システム
⑥情報化の進展と職業（2）働く環境の変化と労働観
⑦情報化の進展と職業（3）企業の情報化と求められる人材の変化
⑧日本の情報通信技術政策（1）（IT国家　IT基本法）
⑨日本の情報通信技術政策（2）（e-japan　IT新改革戦略）
⑩日本の情報通信技術政策（3）（i-japan　情報通新戦略）
⑪企業における情報活用（1）（情報システム　POSシステム）
⑫企業における情報活用（2）（SCM　JIT）
⑬情報化社会における犯罪と法律
⑭情報化社会における危機管理
⑮産業構造の変化と職業　／　情報と職業のまとめ

生態学概論

【担当】山中　裕樹
【開講】後期　月2

■講義概要
環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学(ecology)の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。
本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。
■到達目標
生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。
■講義方法
プロジェクタを中心に行う。プロジェクタで示す内容はレジュメとして配布するが、教科書の購入および事前学習は必須である。適宜小テストを行い、習得状況を確認する。
■系統的履修
生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）各回の講義終了後に理解度を試す課題を出し、その得点を平 常 点とする／資料持込禁止
小テスト（60%）合計3回実施／資料持込禁止
定期試験（0%）
■テキスト
日本生態学会 『生態学入門（第2版）』 東京化学同人　2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。第1版は内容が変更されているので注意が必要。
■参考文献
日本生態学会 『生態学事典』 共立出版　13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キーノート』 シュプリンガー・フェアラーク東京　3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー 『生態学ー個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会　12,600円
■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントを併用し、その内容はレジュメとして配布する。教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。
■講義計画
①生態学概観、生物の基礎知識
②進化生態学の基礎
③分子進化と生態学
④生活史の適応
⑤性の意義
⑥生理生態特性の適応
⑦行動の適応
⑧社会の適応
⑨種内競争と個体群
⑩種間競争と個体群
⑪被食・寄生と個体群
⑫種間相互作用と生物群集
⑬生態系と機能
⑭応用生態学
⑮環境変動と生態学

生体情報概論

【担当】椙崎　弘幸
【開講】前期　金2

■サブタイトル
遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要
組換えDNA実験技術の発展を背景に、遺伝情報の解析が塩基配列レベルで飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA実験技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では、組換えDNA実験技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて、分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標
遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように、講義を進めていく。

■講義方法
毎回講義計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。
プリントの内容はpdfとして提供も可能。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎講義開始時に配布するプリントに記載のキーワードについて、授業内容の理解を深めるため、復習をしておくこと。

■成績評価の方法
定期試験（100%）筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に際し、参考資料（本や配布資料など）の持ち込みを許可する。

■テキスト
特になし

■参考文献
J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の講義時に配布するプリントに遺伝情報の伝達メカニズムに関する入門書を挙げておく。一読することをを勧める。

■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介します。将来生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画
①遺伝物質の化学的本性
②遺伝物質の構造
③遺伝物質の自己複製
④遺伝物質の組換え
⑤遺伝情報の発現と制御（1）－原核生物における転写のメカニズム
⑥遺伝情報の発現と制御（2）－真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
⑦蛋白質の構造と機能
⑧遺伝情報の発現と制御（3）－翻訳のメカニズム
⑨遺伝子系の保存
⑩組換えDNA実験技術
⑪トピックス紹介（1）がん遺伝子
⑫トピックス紹介（2）免疫系におけるゲノムの再編成
⑬トピックス紹介（3）シグナル伝達
⑭トピックス紹介（4）細胞周期の制御
⑮トピックス紹介（5）生物の形を決める遺伝情報

生物学概論Ⅰ

【担当】鈴木　孝仁
【開講】前期　月1

■サブタイトル
分子から細胞まで

■講義概要
生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。本講義では、まず生物界全体を概観し、次に生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標
生物学領域の知識は飛躍的に増え、様々なバイオテクノロジーの分野へ応用され始めている。この講義を通じて生物の関わる現象を多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、話題性のある項目も取り上げる。

■系統的履修
生物学を十分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には、二時間の予習と復習の時間も課されている。従って、予習・復習を通じて知識を補い、自分で考え、問題提起を試みて欲しい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
丸山工作・丸山敬 『生命科学入門』 東京教学社　2,300円
近年大きく発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、テキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
鈴木孝仁監修『フォトサイエンス・生物図録』数研出版社　870円
その他参考図書やWEBサイトは随時講義中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時。それ以外の時間はメールアドレス（takahito@cc.nara-wu.ac.jp）まで。

■講義計画
①講義に先立って、生物学の学問的位置や生物界の概観
②生体構成物質１：水、糖質、脂質、アミノ酸
③生体構成物質２：タンパク質と酵素
④生体構成物質３：核酸、その他
⑤細胞の観察法と細胞構造
⑥原核細胞の細胞の構造と機能
⑦真核細胞の構造と機能
⑧ミトコンドリアとエネルギー代謝
⑨葉緑体と光合成
⑩細胞の運動
⑪細胞骨骼
⑫核・核酸の複製と転写
⑬タンパク質合成と細胞内輸送
⑭核分裂と細胞分裂
⑮細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】鈴木　孝仁
【開講】後期　月1

■サブタイトル
細胞から個体、個体集団まで
■講義概要
生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにて起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。
■到達目標
生物学領域の知識は飛躍的に増え、様々なバイオテクノロジーの分野へ応用され始めている。この講義を通じて生物の関わる現象を多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。
■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、話題性のある項目も取り上げる。
■系統的履修
生物学を十分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。
■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には、二時間の予習と復習の時間も課されている。従って、予習・復習を通じて知識を補い、自分で考え、問題提起を試みて欲しい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
丸山工作・丸山敬　『生命科学入門』　東京教学社　2,300円
近年大きく発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、テキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。
■参考文献
鈴木孝仁監修　『フォトサイエンス・生物図録』　数研出版社　870円
その他参考図書やWEBサイトは随時講義中に知らせる。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時。それ以外の時間はメールアドレス（takahito@cc.nara-wu.ac.jp）まで。
■講義計画
①講義に先立って、前期講義のまとめ
②遺伝子と突然変異
③遺伝子工学の基礎
④原核生物の遺伝子発現調節
⑤真核生物の遺伝子発現調節
⑥動物の生殖と配偶子形成、受精
⑦動物の発生と分化
⑧植物の発生と生殖
⑨植物の形態形成と植物ホルモン
⑩動物の神経系の発達・構造・機能
⑪動物の内分泌系
⑫生体防御の仕組みと免疫学
⑬動物の行動の生物学的意識
⑭生物進化の考え方
⑮メンデル遺伝学と集団遺伝学の基礎

生物学実験

【担当】横田　岳人、竹内　圭介
【開講】後期　水3・水4・水5

■講義概要
生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。
本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。
■到達目標
学習・教育目標：D3，F1（◎）
多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造の多様なこと、変異に富むこと、生物間の相互作用、生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを学んで欲しい。
■講義方法
実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別･グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。学習内容は天候など諸種の条件で順序が変更されることがある。
■授業時間外における予・復習等の指示
実験に関しては、講義で触れない項目もあるので、実験後、用いた生物や実習に関連した事項について復習してください。
■成績評価の方法
その他（100%）
平常点、レポートの提出をもって評価する。
■テキスト
実験開始前に資料を用意し配布する。
■参考文献
必要に応じ、資料は用意する。
■履修上の注意・担当者からの一言
生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。
■講義計画
①実験開始にあたって、顕微鏡の使用法
②魚種と生息数調査１：捕獲と標識
③魚種と生息数調査２：再捕獲
④魚種と生息数調査３：データーの整理
⑤野外観察：里山の植相調査
⑥植物の気孔の観察と気孔数の調査
⑦原形質分離と浸透圧の測定
⑧色素細胞の観察
⑨生体反応の温度依存性
⑩比較形態学１：マウスの解剖
⑪比較形態学２：アメリカザリガニの解剖
⑫制限酵素によるDNAの切断とアガロースゲル電気泳動法による分離
⑬体細胞分裂の観察
⑭唾液腺染色体の観察
⑮植物維管束系の観察

総合実習

【担当】新川　芳行、伊藤　勝重、越智　勝也、竹内　真作、平山　義隼
【開講】前期　集中

■講義概要
理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、社会人としての実務を遂行する能力を養成するために総合的な実習を行う。
総合実習は夏期休暇中の約3週間に実施され、実習期間中および終了後に報告書の提出、報告会への参加が義務づけられている。また、総合実習に関する説明会および事前学習が義務づけられている。

■到達目標
総合学習に参加することにより、将来、研究・開発・生産現場等での実務を遂行するための能力および社会の構成員としての責任ある態度の養成という観点から、大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に役立てることを目的としている。

■講義方法
原則として、総合実習に関する説明会および事前学習の受講が義務づけられている。さらに、学内あるいは学外で総合的な実習を行う。実習終了後の実習報告会への参加も義務づけられている。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションに必ず出席すること。実習担当者とコミュニケーションをとりながら積極的に予習・復習を行うこと。

■成績評価の方法
その他（100%）
実習態度、実習期間中および終了後に提出が義務づけられている報告書、および学修報告会への出席等により総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
卒業の認定を受けるには、「学外実習」か本科目「総合実習」のいずれかの単位を修得しなければなりません。将来、実社会で実務を遂行するための能力および社会人としての責任ある態度の養成が目的であることを理解し、学生として積極的かつ責任ある態度をとること。なお、予定は状況により変更となる場合があるので、掲示には十分注意すること。

■講義計画
①オリエンテーション
②事前学習（ビジネスマナー講習会など）
③総合実習実施（報告書はほぼ毎日提出、中間報告会も適宜実施）
④総合実習報告会

地域環境概論

【担当】竺　文彦、遊磨　正秀
【開講】前期　木2

■講義概要
一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標
地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法
パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容に関連する新聞記事，雑誌記事，ウェブニュースを熟読し，その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）受講状況等による
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①地域環境とは何か
②流域における水質汚濁源
③湖への汚濁源流入プロセス
④琵琶湖の水質変化
⑤湖内での水質形成プロセス
⑥地域での有機物発生源
⑦廃棄物処理・循環プロセス
⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
⑨流域における水環境の横断方向の連続性
⑩流域における生物多様性（河川）
⑪流域における生物多様性（湖沼）
⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
⑬流域における水資源開発（水道用水）
⑭流域における水資源開発（農業用水）
⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原　希世子
【開講】前期　月3

■講義概要
人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。

■到達目標
自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法
パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の授業部分については、専門用語を調べておくこと。
授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べ、復習すること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）点数を評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
川上紳一・東條文治　『地球史がよくわかる本』　秀和システム　1,900円
丸山茂徳・磯崎行雄　『生命と地球の歴史』　岩波書店　660円
木庭元晴　『宇宙　地球　地震と火山』　古今書院　2,600円
小出良幸　『早わかり地球と宇宙』　日本実業出版社　1,400円
大谷栄治・掛川武　『地球・生命　その起源と進化』　共立出版　2,200円
J.L.パウエル　『白亜紀に夜がくる』　青土社　2,800円
池谷仙之・北里洋　『地球生物学』　東京大学出版会　3,000円

■講義計画
①講義概要の紹介
②地球システム
③編年
④相対年代と数値年代
⑤京阪神の古地理分布の復元（ワーク）
⑥太陽系と地球地球形成のシナリオ
⑦生命の誕生　光合成生物の活動が大気組成を変化させた
⑧スノーボールアース仮説　カンブリア大爆発：多様な動物の爆発的進化
⑨オゾン層の形成と植物　動物の陸上への進出
⑩パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
⑪恐竜の繁栄　白亜紀の温室地球　石油の形成
⑫中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
⑬ほ乳類の繁栄　周期的気候変動とミランコビッチサイクル
⑭人類はどのように進化してきたのか
⑮地球環境問題　まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】塩野　清治
【開講】後期　水2

■サブタイトル
変動する地球

■講義概要
2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大被害を経験して、地震に備えるための防災・減災対策の必要性が広く認識されるようになった。なぜM9.0という超巨大地震が起こったのか。同じような巨大地震が西日本でも起こる危険性はないのか。起こるとすればいつごろか。流言・飛語に惑わされることなく、事態を正しく認識するには、変動する地球の実態（過去と現在）を正しく理解しておく必要がある。この講義では地球の内部構造や誕生してから現在に至る歴史について研究史を交えながら概観したのち、ヴェーゲナーによる大陸移動説がプレートテクトニクスとよばれる、様々な地学現象を総合的に理解するパラダイム（共通認識）へと発展していく歴史的経過をたどりながら、変動する地球についての基礎知識を体系的に学修する。最後にその観点から西日本に住む我々にとって無視することにできない次の南海地震の必然性について考える。

■到達目標
地球上で発生する様々な地学現象を総合的に理解するための基礎的知識を身につけること。ニュース等で報道される地震や火山などの自然現象を地球の歴史という長期的視点にたって理解・考察できるようになること。

■講義方法
講義内容に関連する資料（Work Sheet）を配布する。その資料とパワーポイントを使用しながら講義を進める。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業の最後に復習問題を課す。問題の解答は授業中に指定する時期（4回）にまとめて提出すること。予習が必要な場合は適宜指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）復習問題のレポートの成績
定期試験（50%）筆記試験の成績

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
毎回復習問題を課すので欠席しないように。授業中、講義に集中している者への迷惑行為（私語、携帯電話、飲食など）は慎むこと。疑問な点があれば授業中に積極的に発言してほしい。数値計算をする場合があるので電卓を持参すること。

■講義計画
①地球の形と大きさ：メートル単位の起源
②地球楕円体とジオイド：標高の基準
③アイソスタシー：大陸と海洋の違い
④地殻とマントル：：モホロビチッチ不連続面
⑤地球の深部構造：地殻・マントル・核
⑥地層と化石：地質年代
⑦放射性同位体による年代測定：地球の年齢
⑧地球全史：地球の誕生から人類の誕生まで
⑨大陸移動説：ウエゲナーの提唱
⑩地球の磁場：大陸移動説の復活
⑪海洋底拡大説：海嶺と海溝
⑫地磁気異常の縞模様：海洋底拡大説の検証と展開
⑬プレートテクトニクス：プレートの誕生・移動・消滅
⑭大地震への備え：南海地震の必然性
⑮まとめと復習

地学実験

【担当】桑原　希世子、塩野　清治
【開講】前期　水３・水４・水５

■講義概要
地学に関する基礎的な実験のなかから、授業計画に示す課題を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。室内実験だけでなく野外での平板測量や地質巡検を組み入れているため、天候によっては日程や内容を組み替えることがある。

■到達目標
野外実習と室内実験を通じて、地球を理解するため観察法・測定法・実験法の基礎を習得する。

■講義方法
実験課題ごとにプリントを配布し、これを参考にして実験方法を説明する。その後、個別またはグループで実験を行うが、課題⑤～⑫は２班に分けて並行実施する。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
実験ごとに実験経過・結果・考察などをレポートにして提出する。授業終了時に提出する場合もあるが、課題によっては次回の授業開始時に提出する場合もある。その場合、実験終了後はできるだけ早めに、実験経過・結果、ノートやプリントを参照して、レポートを作成しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実験態度
レポート（90%）レポートの形式と内容

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験に集中すること。
疑問な点があれば、積極的に質問して、各課題の目的や方法をしっかり理解した上で実験を進めること。
授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。
数値計算が必要になる場合があるので、電卓を持参すること。

■講義計画
①ガイダンス
②平板測量（1）放射法
③平板測量（2）導線法
④地形図の読み方
⑤岩石・造岩鉱物の肉眼観察
⑥化石の肉眼観察
⑦偏光顕微鏡による岩石薄片の観察
⑧浸液法による鉱物の屈折率の測定
⑨Katerの可逆振子による重力の測定
⑩近地地震の走時曲線の解析
⑪遠地地震の走時曲線の解析
⑫地質図の書き方と読み方
⑬学外実習Ⅰ：地質巡検（甲西・石部）、関連施設の見学
⑭学外実習Ⅱ：地質巡検（田上）、関連施設の見学
⑮気象通報による天気図の作成／総合討論

地球環境概論

【担当】市川　陽一、宮浦　富保
【開講】後期　火１

■講義概要
近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎），A（○）
地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法
板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①講義の進め方
　地球環境とは?
②地球の歴史
③地球の気候変動
④地球の生態系－起源と進化
⑤地球の生態系－生物多様性
⑥人類の来歴と環境問題
⑦生態系に与える人間の影響
⑧地球環境の持続可能性
⑨環境汚染－陸上
⑩環境汚染－大気
⑪環境汚染－海洋
⑫地球温暖化
⑬エネルギーと地球環境
⑭環境問題の対策と見通し
⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河　恒生
【開講】後期　水３

■講義概要
本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館（ＩＰＤＬ）を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、ＩＰＤＬの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要さを感じ取ることも目的としている。

■到達目標
産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。
特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。
将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法
配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。
講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示
パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
レポートの課題は、最終講義の２回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①知的財産権（産業財産権）とは?特許制度とは?
②出願から特許権取得までⅠ（特許出願書類）
③出願から特許権取得までⅡ（公報、産業財産権情報）
④出願から特許権取得までⅢ（審査請求以降）
⑤ＩＰＤＬで特許情報にアクセス／演習
⑥発明とは?特許になる発明とは?
⑦特許を受けることができる者とは?職務発明とは?
⑧発明発掘から特許出願まで
⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
⑪外国での特許取得　外国の特許情報にアクセス
⑫特許以外の産業財産権制度／実用新案・意匠
⑬特許以外の産業財産権制度／商標
⑭ＩＰＤＬで意匠・商標情報にアクセス／演習
⑮企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

【担当】橋本　正治
【開講】前期　水１

■サブタイトル
製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要
人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標
人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法
ノート講義を中心に進めますが、適時ＯＨＰ等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習：次回のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法
平 常 点（40%）予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート（60%）14週目に課題を出します。
平常点(40%)とレポート(60%)とし､合計100点満点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
長町三生　『現代の人間工学』　朝倉書店　3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言
解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよう一緒に学んでいきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
下記アドレスまでメールしてください
hashi@mec.setsunan.ac.jp

■講義計画
①人間工学の定義（歴史的背景､人間工学をとりまく研究分野）
②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
⑩動作分析・動作解析（動作分析）
⑪動作分析・動作解析（動作解析）
⑫動作分析・動作解析（運動計測）
⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験

【担当】張　陽軍
【開講】前期　木３・木４・木５

■講義概要
物理学実験の目的はつぎの二つである。第1は、実験を通して物理学を理解することである。物理学は、実験による探究と理論的研究とが相補って自然の本質を明らかにする学問である。理論の正否は実験によって検証されねばならない。従って実験のもつ意味はきわめて大である。物理学の基本的で重要な実験を体験することは、自然の構造と法則とを理解する上で欠くことができない。第2の目的は、物理的測定方法を学習することである。現在、物理的な各種の測定装置は自然科学の各分野で広く用いられている。従って物理的な測定装置に慣れることは、理工学のいずれの専門分野に進む学生にとっても重要である。そこで、いくつかの基本的な実験をとりあげ、装置の使用方法、実験結果の評価、レポートの書き方などについて学習する。更に自分の行った実験の結果について皆の前で発表し、プレゼンテーションの訓練を行う。行った実験の理解度について最後にテストを行う。

■到達目標
物理法則を体験的に理解する。物理的現象を測定する機器を正しく用いることができる。理工学分野の実験レポートを的確に書けるようになる。実験結果を人前で要領よく発表することができる。

■講義方法
毎回実験のレポートを提出させる。担当教員と実験助手が全体を見る。実験の直接的な指導はTAが行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
必ず予復習の時間を確保すること。特に実験前に予習を十分行ってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
提出されたレポート、受講状況や実験態度、発表などの総合点を６０％、期末試験を４０％の割合で評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部編　『物理実験』

■参考文献
参考資料を配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言
実験内容を予習したうえで目的意識を持って実験に臨んでください。実験結果を積極的に吟味することにより物理現象と法則に対する理解を深め、さらにその思考過程で様々な知識の活用方法を会得してください。

■講義計画
①ノギスの使用法
②サールの装置によるヤング率の測定
③ボルタの振り子による重力加速度の測定
④弦の振動の実験
⑤分光計によるガラスの屈折率の測定
⑥レーザーによる回折実験
⑦電気抵抗の温度変化
⑧熱起電力
⑨電子の比電荷の測定
⑩オシロスコープの操作とリサージュ図形の観察
⑪アナログ回路
⑫補充実験及び補充講義
⑬レポート・発表指導
⑭発表会
⑮再発表会

学科固有科目

（情報メディア学科）

カナ	科目名	担当者	開講	曜講時	ページ
イ	インターネットリテラシー	片岡　章俊／芝　公仁	後期	月２	163
オ	応用アルゴリズム	三好　力	後期	月２	163
	オートマトン	植村　渉	前期	木３	164
	オブジェクト指向プログラミング・演習	新川　芳行	後期	金3・金4	164
カ	確率・統計	中野　裕治	後期	火３	165
	画像計測	川上　肇	後期	火３	166
キ	基礎数学	片岡　章俊	前期	金２	166
	基礎数理Ⅰ・演習／微積分・演習	四ツ谷　晶二	前期	月4・月5	167
	基礎物理／物理学概論	吉村　輝夫	前期	木２	167
ケ	形式言語	辰巳　昭治	後期	木２	168
コ	コラボレーション演習	岡田　至弘／片岡　章俊／芝　公仁／新川　芳行／曽我麻佐子／外村　佳伸／南條　浩輝／野村　竜也／長谷　智弘／藤田　和弘／三浦　雅展／三好　力／吉見　毅彦／渡辺　靖彦	後期	木4・木5	168
	コンピュータビジョンとグラフィックス	岡田　至弘	後期	金３	169
シ	システム設計論	長谷　智弘	後期	木２	169
	情報環境論	外村　佳伸	前期	火４	170
	情報産業論	岡田　至弘／片岡　章俊／三好　力	前期	月３	170
	情報システム演習	外村　佳伸／片岡　章俊／曽我　麻佐子／長谷　智弘／三浦　雅展	前期	月4・月5	171
	情報数学基礎／情報構造と論理	片岡　章俊	後期	木２	171
	情報メディア基礎セミナー	岡田　至弘／片岡　章俊／芝　公仁／新川　芳行／曽我麻佐子／外村　佳伸／南條　浩輝／野村　竜也／長谷　智弘／藤田　和弘／三浦　雅展／三好　力／吉見　毅彦／渡辺　靖彦	前期	金４	172
ス	数値計算基礎	藤田　和弘	後期	金５	172
	数理計画法	荒谷　洋輔	後期	木２	173
セ	セミナー	岡田　至弘／片岡　章俊／新川　芳行／曽我麻佐子／外村　佳伸／野村　竜也／長谷　智弘／藤田　和弘／三浦　雅展／三好　力／吉見　毅彦／渡辺　靖彦	前期	金５	173
	線形代数・演習	野村　竜也／南條　浩輝	前期	木1・木2	174
ソ	ソフトウェア開発法	新川　芳行	後期	月２	174
	ソフトウェア科学演習	新川　芳行／野村　竜也／三好　力／吉見　毅彦／芝　公仁	前期	金2・金3	175
	ソフトウェア構成論	新川　芳行	前期	月２	175
	ソフトコンピューティング	野村　竜也	後期	木３	176
チ	知的問題解決法	片岡　章俊	後期	火２	176
テ	ディジタル信号処理	藤田　和弘	後期	木３	177
	データ構造とアルゴリズム・演習	三好　力／南條　浩輝	前期	火2・火3	177
	データベース	曽我　麻佐子	後期	月３	178
ト	特別研究	全教員	通年	集中	178
ニ	認知科学と人工知能	瀬田　和久	前期	集中	179
ネ	ネットワーク構成論	岡田　至弘	後期	火２	179
	ネットワークシステム・演習	岡田　至弘／芝　公仁	前期	火4・火5	180
ハ	ハードウェア構成論	長谷　智弘	前期	月２	180
フ	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月１	181
	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月２	182
	プログラミング基礎	吉見　毅彦	後期	月４	183
	プログラミング言語論	吉見　毅彦	前期	月３	183
	プログラミング入門	渡辺　靖彦	前期	月４	184
マ	マルチメディアシステム	片岡　章俊／外村　佳伸／藤田　和弘	前期	木２	184
メ	メディア工学演習	岡田　至弘／藤田　和弘／渡辺　靖彦／南條　浩輝	前期	木4・木5	185
	メディア構成論	藤田　和弘	前期	月１	185
	メディア処理基礎／メディアデザイン	曽我　麻佐子／三浦　雅展／渡辺　靖彦	前期	月２	186
	メディア処理論	渡辺　靖彦	後期	火４	186
	メディアの物理と解析	三浦　雅展	前期	金３	187

インターネットリテラシー

【担当】片岡　章俊、芝　公仁
【開講】後期　月2

■講義概要
本講義では，インターネットの概要について学ぶ．特に，インターネットで使用されているプロトコルやサービスについて学習し，ネットワークを実践的に利用するための知識を習得する．

■到達目標
インターネット上で使用されているプロトコルやサービスを説明したり，活用したりすることができる．

■講義方法
テキストを用いて講義を行う．また，演習により実践的に学習を行う．

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時に予習事項，復習事項を指示する．

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
定期試験（50%）
そ の 他（40%）

■テキスト
浅井宗海 『情報通信ネットワーク』 近代科学社　2,200円

■参考文献
特になし

■講義計画
①インターネットの概要
②通信プロトコル1
③通信プロトコル2
④インターネット上のサービス1
⑤インターネット上のサービス2
⑥様々な通信形態
⑦セキュリティ
⑧Webブラウザ，電子メール
⑨情報検索，HTMLの編集
⑩Webサイトの設計
⑪配色
⑫JavaScript
⑬Webサーバ
⑭Webサイト公開
⑮まとめ

学科固有

応用アルゴリズム

【担当】三好　力
【開講】後期　月2

■講義概要
前半は情報系学生にとって重要な離散数学の基礎的概念を修得するとともに、論理的に考察するトレーニングを行う。後半はソフトウェア科学の応用発展を支える形式言語の応用であるオートマトンとチューリングマシンの基礎を学習する。

■到達目標
この科目を履修することによって、離散数学の基礎を学習し、論理的思考法、論理的表現法、論理的構成法を修得するとともに、オートマトンとチューリングマシンの基礎的概念を理解することを目標とする。

■講義方法
テキストにそった講義形式。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストにそった講義であるので、予め予告している次回の学習範囲を最低１回はテキストを読んで確認すること。また、レポート課題の範囲にとらわれず、学習した項目を広く復習すること。

■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
小倉久和 『情報の基礎離散数学』 近代科学社
米田政明 『オートマトン・言語理論の基礎』 近代科学社

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
数学的なセンス・イメージの獲得を講義に出席するだけで達成することは非常に困難である。この科目はテキストにそって学習を行うので、事前に内容の予習を行い、理解が困難である点を明確化して講義に臨み、講義後は復習としてできるだけたくさんの演習問題に取り組む必要がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
原則として木曜日昼休みとするが、在室時にはできる限り対応する。

■講義計画
①オリエンテーション,形式言語の代数
②正規表現、数式と構文木
③順序集合
④順序集合と束
⑤ブール関数とブール形式
⑥簡単化、カルノー図表、クワインマクラスキー法
⑦ブール演算と論理ゲート
⑧パリティ、ハミング符号
⑨しきい値回路、半加算器、全加算器、フリップフロップ
⑩ブール代数の基本性質
⑪有限ブール代数
⑫オートマトンとは、有限オートマトン
⑬状態遷移図、最簡形、識別できない言語
⑭チューリング機械
⑮復習とまとめ

オートマトン

【担当】植村　渉
【開講】前期　木3

■講義概要
オートマトン（Automaton）とは計算機システムの動作原理をシンプルに数学的に表記したものである。本科目では「オートマトンとはどのようなものか」から始めて、その数学的表現、基本的諸性質を具体例を通して説明する。さらに記号列の集合を定義する生成文法との関連について説明する。
■到達目標
状態遷移図が理解でき、言語とオートマトンの関係、決定性と非決定性の動作の関係等を理解すること。
■講義方法
基本的に教科書に従って進める。演習問題に関してはレポートとする。
■系統的履修
コンパイラと形式言語（形式言語）
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書をしっかりと読んでくること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
期末のテストで評価する。
■テキスト
富田悦次／横森貴　『オートマトン・言語理論（基礎情報工学シリーズ5)』　森北出版株式会社
■参考文献
特になし

■講義計画
①オートマトンと言語
②形式言語の最小構成要素
③基礎的な数学的準備
④ミーリー型順序機械
⑤ムーア型順序機械
⑥有限オートマトン
⑦等価性
⑧非決定性有限オートマトン
⑨部分集合構成法
⑩ε-動作をもつ非決定性有限オートマトン
⑪言語演算
⑫スター閉包
⑬正規表現
⑭正規表現から有限オートマトンへの変換
⑮一斉射撃問題

学科固有

オブジェクト指向プログラミング・演習

【担当】新川　芳行
【開講】後期　金3・金4

■サブタイトル
JAVAによるオブジェクト指向プログラミング
■講義概要
オブジェクト指向言語の一つであるJAVAによるプログラミング演習を通じ、ⅰ）. オブジェクト指向の概念と利点、ⅱ）.JAVAプログラミング技法、ⅲ）. プログラム設計技法、ⅳ）.JAVA WEBアプリケーション、などを学ぶ。単なるプログラミングだけでなく、ソフトウェアの分析・設計にも焦点を当て、将来さまざまな分野で情報システム開発を行う際の基礎となる技術習得を目指す。なお演習におけるコーディングやテストの負荷を軽減するため、統合開発環境の一つである「Eclipse」を使用する。また、WEBアプリケーションの環境としては、オープンソースのJ2EEサーバーであるTomcatもしくはJBossを使用する予定である。
■到達目標
オブジェクト指向プログラミングの基本概念を理解し、JAVAとその周辺技術を応用した情報システムの設計・管理・運用の基礎を身に付ける。
■講義方法
2コマ連続の授業で、前半を講義、後半を演習に当てる。講義では、オブジェクト指向の基本概念や、JAVAおよびその周辺技術を学び、演習でその実装方法を修得する。演習は、Javaの基本機能修得を目的とした、毎回完結の小課題と、期間を通じて完成させる大課題よりなる。
■授業時間外における予・復習等の指示
課題は演習室解放時間を有効に活用し、期限内に提出できるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）毎回の演習課題の達成度により評価
定期試験（60%）オブジェクト指向の概念およびJava言語の理解度を評価
■テキスト
毎回プリントを配布
■参考文献
ジョゼフ・オニール　『独習Java 第4版』　翔泳社　3,360円
■講義計画
①Javaの特徴と基本ルール
②Javaの制御ステートメント
③クラスとメソッド
④継承（Inheritance）
⑤インタフェイスとパッケージ
⑥GUIとイベント処理 - 1（GUI基本コンポーネント）
⑦GUIとイベント処理 - 2（イベント処理の応用）
⑧マルチスレッドプログラミング
⑨Javaクラスライブラリ
⑩入出力とネットワーク
⑪サーバーサイドJava - 1（HTML、CSS、JavaScript）
⑫サーバーサイドJava - 2（サーブレット）
⑬サーバーサイドJava - 3（JSP）
⑭データベース処理1（JDBCの基礎）
⑮データベース処理2（高度な照会）

確率・統計

【担当】中野　裕治
【開講】後期　火3

■サブタイトル
データの整理と推定・検定

■講義概要
統計学は「自然現象から得られた量的情報の科学的研究」と定義され、現在では科学の文法と言われています。集団としてのデータが与えられたところから、統計学は出発します。私たちの目的は、データを生み出した背後の構造を推論することにあります。分析される対象は、不確実現象といわれるもので、与えられた情報を基にしたとき、に起こりうるステップを完全には予測できない現象です。　不確実現象の分析のための方法として、確率論が知られており、この講義でその基礎を学びます。授業ではまず、与えられたデータのまとめ方から学び、平均値や分散などの代表的な統計値を計算することからはじめます。次に、二項分布や正規分布などの確率分布を学びます。その過程で、統計的推定、検定の基本的な考えを具体例をもとに計算していきます。

■到達目標
1．データが与えられたときに、確率モデルを作成できるようになる。
2．与えられたデータの適切なグラフや統計図、統計表が作成できるようになる。
3．正規分布などの確率分布を理解し、基本的な推定や検定の原理を理解し、実際に応用できるようになる。

■講義方法
教科書「政策研究のための統計分析」の記述に沿って授業を進めます。授業方法は、要点となる概念や教科書では省略されている計算を補いつつ、必要に応じてExcel や Mathematica の作図を power point で表示しながら、板書によりすすめます。理解度を深めるために、教科書の問題を解く時間を設定します。

■系統的履修
初等的な微積分、Excel などの計算ソフト

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で与えられた演習問題を、解いて理解してください。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）小テストで判定
定期試験（80%）試験は80点満点
授業中に数回の小テストをします。これは、平常点評価の資料にします。試験（90分）は、卓上計算機および自筆ノート、教科書の持ち込みを可にします。

■テキスト
浅野耕太 『政策研究のための統計解析』 ミネルヴァ書房 3,500円
教科書、統計学の考え方を言葉でやさしく解説している。ここに書かれていることを学ぶことで、誰もが初等確率論と応用としての統計学を理解し、計算ができるようになると信じます。

■参考文献
P.G.ホーエル 『初等統計学』 倍風館 1,733円
岡部靖憲 『確率・統計』 朝倉書店 2,800円
ホーエルの本はロングセラーの定評ある本。「確率･統計」は、確率論の原理を根本から説明している優れた本。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に使う数学は、必要最小限説明します。教科書は必ず持参して下さい。教科書のデータや、数表を利用するため。卓上計算機も持参が望ましい。気楽に質問して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等は、y-nakano@biwako.shiga-u.ac.jp へメール下さい。

■講義計画
①記述統計学
②確率の考え方
③ベイズの公式
④仮説検定
⑤確率変数
⑥期待値
⑦大数の法則
⑧連続確率変数
⑨中心極限定理
⑩標本
⑪信頼区間
⑫スチューデントの t 分布
⑬2標本 t 検定
⑭相関係数
⑮回帰関係

学科固有

画像計測

【担当】川上　肇
【開講】後期　火3

■サブタイトル
多次元信号処理
■講義概要
TVカメラを備えたスマートフォン・タブレット・自動車などが世界中で急速に普及しつつある。ＴＶカメラに写る画像を解析して被写体を計測し、その結果を活用した有益なアプリケーション（運転支援など)・情報（体の断層画像など）が私たちの日常生活をより豊かで安心･安全･快適なものにしている。たとえば、TVカメラを構成する２次元の撮像面上に静止画像が写っているとき、撮像面上の２次元位置を指定すると、その位置での色や明るさが定まる。このように、２次元以上の位置を指定して値が定まる信号を多次元信号と考えよう。位置の捉え方を拡張すれば、多次元信号として表現し得る概念はこの例以外にもいたるところに現れる（例：電界・磁界，拍動数・脳波などの生体情報，株価などの経済・経営指標など)。これらの実例となる画像を用いた処理に関する要素技術とそれらに基づく計測法について学ぶ.
■到達目標
画像計測に関する基本知識・応用技術の獲得を目指す。
■講義方法
教科書･配付資料の関連した項目に依拠し､通常の方法で講義･演習を行う。
■系統的履修
１年次の数学、通信基礎、情報理論基礎、フーリエ解析、計測と信号処理、ディジタル信号処理・演習
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で学んだ処理を復習し、特に簡単な処理は計算機で実行してください。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）配付する選択問題への取り組み姿勢
レポート（10%）与えられた課題に対する取り組み姿勢
定期試験（80%）
■テキスト
ディジタル画像処理編集委員会 『ディジタル画像処理』（財）画像情報教育振興協会
■参考文献
篠原 広行、坂口 和也、橋本 雄幸 『Excelによる画像再構成入門』 医療科学社
橋本 雄幸、篠原 広行 『C言語による画像再構成の基礎』 医療科学社
■履修上の注意・担当者からの一言
講義で学んだ数式・定理の導出過程と定性的な意味を理解してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーを居室（1-403）前に掲示しています。また連絡箱を居室（1-403）前に設置しています。
■講義計画
①イントロダクション
②画像入出力
③画像生成モデル
④色彩画像
⑤周波数解析：基礎
⑥周波数解析：２次元フーリエ変換
⑦画像の空間周波数解析
⑧画像の空間フィルタリング：基礎
⑨画像の空間フィルタリング：応用
⑩画像の復元：原理
⑪画像の復元：応用
⑫断層画像の再構成：原理
⑬断層画像の再構成：アルゴリズム
⑭画像からのパターンと図形の検出
⑮被写体情報の計測

基礎数学

【担当】片岡　章俊
【開講】前期　金2

■講義概要
情報分野の技術を取得するため基礎となる２進数、ベクトル表記、確立・統計，情報量およびエントロピーの考え方と、情報通信で必要な各種符号化方法と情報セキュリティについて学ぶ。
■到達目標
情報通信と信号処理を理解するための数学的な素養として、情報表現、信号表現方法を身につけることができる。
■講義方法
テキストと板書によって講義する。理解の定着を図るため、進捗に応じて数回演習を行う。また、必要に応じて、レポートを課す。
■系統的履修
数学序論
■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
定期試験（50点）と、中間試験（30点）及び、授業中に行う演習と平常点（20点）を加味して評価します。
■テキスト
『わかりやすいディジタル情報理論』 オーム社　2,300円
■参考文献
『やり直しのための工業数学』 ＣＱ出版社　2,095円
■講義計画
①本講義の意義、学習方法について、２進数の基礎
②２進数への変換（小数，補数表現）
③確率の基礎、演習
④条件付き確率
⑤ベクトル表記、内積
⑥情報量とは
⑦平均情報量とエントロピー、演習
⑧中間試験
⑨情報量と通信路
⑩符号化の基礎知識
⑪高能率の符号化、演習
⑫雑音のある場合の符号化
⑬誤り訂正のできる符号化
⑭暗号による情報セキュリティ、演習
⑮まとめ

基礎数理Ⅰ・演習（2014年度以降入学生）
微積分・演習（2013年度以前入学生）

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】前期　月４・月５

■講義概要
微分の概念・積分の概念を理解し，それらをうまく使える能力を身につけることは，情報メディア学科で学んでいく上で必須である。高校では1変数関数のみ取り扱ってきたが、情報学に関するさまざまな概念の習得・応用のためには、多変数関数を自由に取り扱うことができる数学的な素養を必要とする。基本となる概念をしっかり身につければ、自然に臨機応変の応用能力が身に付く。
　この講義では、1変数関数の微分の知識の確認を簡潔に行った後、多変数関数の微分・積分を、基本から分かりやすく講義していく。

■到達目標
微分・積分の概念を原理から理解し、自由に道具として使っていける能力が身に付く。これにより、情報学の専門の教科書が読めるようになる。偏微分、全微分、合成関数の微分公式、変数変換による微分の変換公式、テーラー展開、極大・極小、重積分、オイラーの公式、定係数の線形微分方程式の解法にかかわる概念を修得し、活用できる能力を身につける。

■講義方法
適当な例題を解きながら、基本的な考え方分かり易く説明する。理解を確認するために、適宜５分～１０分間の確認テストを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので，それを通じて予習･復習をしっかりすること.

■成績評価の方法
小テスト（30%）１～２回，60分間程度の小テストを行う，
レポート（30%）適宜，提出を求める.
定期試験（40%）

■テキスト
川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二（共著）『理工系の数理　微分積分＋微分方程式』　裳華房　2,835円

教科書の方法に加えて，ラプラス変換を用いた定係数の線形微分方程式の解法等の話ををする．適宜、補足用のプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
レポート・確認テスト、小テストで理解状況と出席をチェックする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
・オフィスアワーは講義の際に、お知らせします。
・緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp　にメールを下さい。日時を調整します。

■講義計画
①極限・微分・微分の基本公式
②偏微分，合成関数の微分，全微分
③積分
④いろいろな関数と微分・積分
⑤テーラー展開
⑥テーラー展開の応用
⑦2変数関数のTaylor 展開
⑧条件付極値
⑨極座標と座標変換
⑩重積分
⑪複素数・複素平面、オイラーの公式
⑫微分方程式
⑬ラプラス変換の定義と公式集
⑭ラプラス変換による微分方程式の解法
⑮まとめ

学科固有

基礎物理（2014年度以降入学生）
物理学概論（2013年度以前入学生）

【担当】吉村　輝夫
【開講】前期　木2

■サブタイトル
高等学校で「物理」を再確認し、大学への物理学の基礎を学習する講座

■講義概要
物理学は自然科学の基礎・基本となる重要な学問で、理工学部の学生には必須である。高等学校で物理未履修の学生にも、後期以降に学習する物理関連や情報技術関連の科目に対応できるよう、専門分野に関係の深い分野・内容を精選し、短期間で集中して学習する。
　講義では、高等学校で学ぶ物理の基本的な考え方を学習し、演習を通じて理解を確かにする。

■到達目標
物理的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的なものの見方や考え方ができる力をつける。

■講義方法
講義と演習。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業終了時に、別途指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
物理の基本的な概念や原理は、全ての分野を学んで理解することができ、科学的な見方や考え方が構築されるため、欠席しないこと。

■テキスト
担当講師が作成するプリント

■参考文献
高等学校の物理の教科書、市販の基礎レベルの参考書

■履修上の注意・担当者からの一言
基礎物理は他学科にも設置されているが、内容は学科によって異なることもある。

■講義計画
①概論、物理量の単位、力
②力と運動、万有引力
③仕事とエネルギー
④等速円運動と単振動
⑤波と振動
⑥波の性質１（定常波・固有振動）
⑦波の性質２（音・光）
⑧静電気と電界
⑨電流と電気抵抗
⑩コンデンサ
⑪直流回路
⑫電流と磁界
⑬電磁誘導とローレンツ力
⑭交流の発生と交流回路
⑮原子核、まとめ

形式言語

【担当】辰巳　昭治
【開講】後期　木2

■講義概要
コンパイラはフォートラン、C言語などの高級言語で書かれたプログラムを計算機が実行しうる機械語に変換するものである。ソフトウェア作成には、経験と勘にたよることが多いが、コンパイラは形式言語理論を基礎として構築されている。また、計算機の仕組みを反映した機械語と密接な関係を持つ。以下のような内容について概説していく。まず。コンパイラの定義とその実現方法を説明する。つぎに、コンパイラの働きの概要を理解するために、後置記法とスタックについて説明する。高級言語を生成するための言語理論について説明し、言語の構文の定義する記述方法について述べる。コンパイラの最初に行う字句解析について述べる。字句の定義は、正規表現で表現され、正規表現を処理する有限オートマトンの作成する方法を述べる。コンパイラの中心的役割を担う構文解析について、その理論と再帰的下向き構文解析プログラムを生成する方法について述べる。さらに、意味解析を説明し、意味解析で重要な役割を果たす記号表の作成とその探索法についてもべる。最後に、目的マシンをスタックマシンとして仮想し、高級言語から機械語に変換するまでの流れについて説明する。

■到達目標
字句解析法と構文解析法を理解する。コンパイラの基礎となっている形式言語、特に、正則文法と文脈自由文法の知識を習得する。
最後に、コンパイラの構成の流れを把握すること。

■講義方法
３回～４回の講義の後､小テストを実施し､理解不足の場合は、レポートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
小テストを実施するので、それまでの講義内容を理解するために復習が必要である。もし､小テストが理解不十分の場合は、レポートの提出が求められる。

■成績評価の方法
小テスト（40%）
レポート（10%）
定期試験（50%）

■テキスト
中田育男『コンパイラ』 オーム社　3,200円

■参考文献
佐々政孝『プログラミング言語処理系』 岩波書店

■講義計画
①コンパイラとは
②後置記法
③スタック
④簡単なコンパイラの例
⑤コンパイラの論理構造
⑥バッカス記法と構文図式
⑦文法と言語の形式的定義
⑧字句解析、文字読み取り、字句読み取り
⑨正規表現と有限オートマトン
⑩字句読み取りプログラム
⑪種々な構文解析手法
⑫LL（1）文法
⑬再帰的下向き構文解析プログラム
⑭意味解析、記号表の探索
⑮仮想マシンと通訳系

コラボレーション演習

【担当】岡田　至弘､片岡　章俊､芝　公仁､新川　芳行､曽我　麻佐子､外村　佳伸､南條　浩輝､野村　竜也､長谷　智弘､藤田　和弘､三浦　雅展､三好　力､吉見　毅彦､渡辺　靖彦
【開講】後期　木4・木5

■講義概要
メディア工学、情報システム、ソフトウェア科学について学んだ基礎知識と処理技術をグループで共有し、協調して問題を解決することを目的としてテーマ別に演習を行う。
本演習では、与えられたテーマを単に解く能力ではなく、問題解決を行うための問題分析能力および解決能力を、プログラミング、信号測定、機器の組み立てなどを通して修得する。
また、グループ内での情報の共有やコミュニケーションを活性化する方法や、グループによる協調作業についても演習を通じて学ぶ。
問題解決のための手順や結果を報告書にまとめた上で発表を行うことにより､「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」を高めていく。
また、メディア工学，情報システム、ソフトウェア科学についての知識をもとに､博物館におけるマルチメディア技術の利用について、龍谷ミュージアムにて実地の調査を行う。

■到達目標
問題分析能力、コミュニケーション能力、解決能力、文書作成能力、およびプレゼンテーション能力などを身につけることができる。
4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められている能力を総合的に高めることができる。

■講義方法
各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。
課題は3 ～ 4個用意されている。
それぞれの課題完成後には、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
各教員からの授業中の指示による。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
その他（40%）最終成果
出席状況、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト
電子データもしくはプリント配布

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
課題の実現のためには､チームワークが必須となる。そのためには、目標をメンバー全員が共有するとともに、各人の役割を確実に果たしていくことが重要であることを認識し、積極的かつ着実に取り組む姿勢が求められる。

■講義計画
①ガイダンス
②演習（1）
③演習（2）
④演習（3）
⑤演習（4）
⑥演習（5）
⑦演習（6）
⑧中間発表
⑨演習（7）
⑩演習（8）
⑪演習（9）
⑫演習（10）
⑬演習（11）
⑭龍谷ミュージアムの見学および博物館におけるマルチメディア技術の利用についての実地調査
⑮最終発表

コンピュータビジョンとグラフィックス

【担当】岡田　至弘
【開講】後期　金３

■サブタイトル
人間の視知覚処理と、機械によるメディア生成の融合
■講義概要
映像、画像の処理、認識、理解の基礎を学び、コンピュータと人間相互の情報・メディア・知識のインタラクションについて講義していく。ここではコンピュータビジョンの基礎から、カラー情報の表現と解析、コンピュータビジョンにおける計算幾何学の理解から、3次元CGの基礎とその概念を説明し、近年のコンピュータビジョンの融合研究と技術について講義していく。
■到達目標
コンピュータビジョンの基礎と、CVと3次元CGとの融合による新たなメディア表現手法を会得する。
■講義方法
講義内容を記したプリントを配布し、適宜コンピュータを用いた演習を行う。授業は、コンピュータビジョンについての講述する前半部と、グラフィックスについての講述とコンピュータを用いた演習を併用する後半部とに分けて進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（30%）１ないし2回の課題呈示に対応したレポート提出
定期試験（50%）
毎回出席することを前提とし、不定期のコンピュータ演習およびレポート（30%）、定期試験（50%）と総合して評価する。
■テキスト
千葉則茂、土井章男 『3次元CGの基礎と応用』 サイエンス社　1,850円
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時から、午後５：３０まで
■講義計画
①コンピュータビジョンのための画像センサ（画像入力、カメラモデル）
②コンピュータによる画像領域分割（映像・画像処理アルゴリズム）
③カラー情報の表現（表色系、色校正、光源）
④反射モデル（モデル表現、カラーコンスタンシー）
⑤テクスチャ解析法（射影モデル、計算幾何学）
⑥明るさ解析法（光源、環境、反射モデル）
⑦両眼立体視（対応探索、多重画像解析）
⑧記述と照合（領域記述、体積記述、幾何モデル）
⑨コンピュータビジョンと動画像符号化（階層画像符号化、伝送手順）
⑩映像・画像の知的編集と生成
⑪コンピュータビジョンと3次元CG技術
⑫3次元座標と幾何変換
⑬座標変換と投影変換
⑭3次元形状モデリング
⑮レンダリング技法

システム設計論

【担当】長谷　智弘
【開講】後期　木２

■講義概要
本講義では、コンピュータシステムにおけるハードウエアおよびソフトウエア、さらにその組み合わせを学び、その基本的な設計手順やシステム構成方式について学習する。最初に、コンピュータシステムの基本理論を復習した後に、コンピュータシステムの設計・開発・運用について習得し、さらにコンピュータシステムの応用技術を学習する。次に、コンピュータシステムに密接に関係する情報家電分野の技術と機器について学習する。
■到達目標
コンピュータシステムと情報家電分野の技術と機器について一通りの知識が得られる。
■講義方法
テキストを用いて講義する。また、必要に応じて、演習を実施する。
■系統的履修
ハードウエア構成論
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
福嶋宏訓著 『初めて受ける応用情報技術者』 日本経済新聞社　2,580円
家電製品協会 『AV情報家電のプロダクツ技術』 NHK出版　1,900円
■参考文献
特になし
■講義計画
①コンピュータ科学基礎
②コンピュータシステム
③基本ソフトウエア
④システム構成技術（1）ウオータフローモデル、基本計画
⑤システム構成技術（2）スパイラルモデル、プロトタイプモデル
⑥システム構成技術（3）外部設計・内部設計
⑦システム構成技術（4）プログラム設計
⑧システムの開発と運用（1）動作テスト・運営
⑨システムの開発と運用（2）仕様書
⑩システムの開発と運用（3）まとめ
⑪ネットワーク技術
⑫データベース技術
⑬セキュリティ
⑭標準化
⑮まとめ

情報環境論

【担当】外村　佳伸
【開講】前期　火４

■サブタイトル
情報環境の今を知り、未来を考える
■講義概要
さまざまな情報機器、またその背後にあるインターネットなどの情報環境は、今や私たちの生活の場をはじめ社会の隅々にまで広がっており、その果たす役割や影響は非常に大きい。本講義では、こうした情報環境に対して、技術的な観点のみならず、人間、社会、文化等、多様な視点から考察することにより、現状に関する理解を深めるとともに、内包する課題、今後の可能性、さらに私たちはどのように向き合っていくべきかなどについても幅広く考えていく。
■到達目標
・身の回りにある情報環境について、問題意識を持って気付いて考える習慣が身につく
・情報環境と社会の関係について多様な見方をする素地が養われる
・情報社会にあって、どのようにふるまうべきかについて自分なりの考えを持つことができる
■講義方法
・主としてパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、授業途中で何度か質問を投げかける
■系統的履修
特になし
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回、講義の最後に提示する小課題を次の回の講義までに考えておくこと
（次回の講義の冒頭で毎回提出用のシートに記入）
■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業で毎回提出のシートを中心に見る
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に適宜指示する
■履修上の注意・担当者からの一言
複雑化・高度化しつつある現代社会が技術人材に求めていることに、広い視野からの問題発見力と提案力がある。こうした背景を念頭に、本講義では、物事に対し自分自身で問題意識を持って考える習慣を持つことをめざすため、毎回の講義で取り上げる内容、投げかける質問や課題に対して、自分なりに積極的に考えることを求める。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等は授業直後に
■講義計画
①情報環境論基礎
②インタフェース：基本編
③インタフェース：技術編
④コミュニケーション環境
⑤ロボット環境
⑥ユビキタス情報環境
⑦人間と情報環境
⑧生物に学ぶ
⑨メディア論
⑩文化・生活・遊び・アート
⑪ビジネス・サービス
⑫安心・安全論
⑬情報環境と社会秩序
⑭最近のトピック
⑮まとめ

学科固有

情報産業論

【担当】岡田　至弘、片岡　章俊、三好　力
【開講】前期　月３

■サブタイトル
情報メディア技術と情報産業の現状と動向
■講義概要
情報メディアの本質は、サービスの提供である。情報産業は、単に情報機器製造業だけでなく、広く情報システムサービス提供業、メディア産業を含んでいる。本講義では、学業で学んだ基本的な技術や技法が、これらの実際のシステムやサービスでどのように使われているのか、現場から見た課題は何か、今後の展開の方向は何かを実地に学び、学生の勉学に動機を与えることを目的とする。このため、情報産業を概観する講義とともに、広く情報産業界の第一線の方々を講師に招き講義する。
■到達目標
具体的な情報産業の事例に基づいて、種々の分野における情報メディアシステムの実際を習得させる。
■講義方法
情報産業全体の概論・総説と、情報産業を、メディア産業、情報システム産業、ソフトウエア産業に大別し、各産業分野を代表する講師による特別講義を
行う。また、行政・学会における情報産業の最新の施策・提言についても言及する。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義開始の2・3週前に講義予定を通知する。毎回の講義前に分野研究・調査を行い、講義時間中の積極的な質疑応答に臨むこと。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）毎回の講義出欠
レポート（60%）受講した講義内容に対してのレポート課題
■テキスト
各講師の資料配布。OHP・OHCおよびDVD・VHS等メディアを使用
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
就職・進学における進路の決定、および卒業研究に対する自己のアイデンティティの涵養。
情報の専門家として、今後の自分の進路に対して、ワンポイントを掴んでほしい。
■講義計画
①講義概説
②産業界からの特別講義

情報システム演習

【担当】外村　佳伸、片岡　章俊、曽我　麻佐子、長谷　智弘、三浦　雅展

【開講】前期　月４・月５

■講義概要

情報システムが社会の基盤としてますます重要となってきた昨今をふまえ，具体的な目的を持って，自らの手で実際の情報とその処理系を扱うことで，体験的に情報システムの理解を深めることを目的とする．

具体的には，今や情報社会に欠かせないデータベースを扱う情報システムを構築する基盤情報システムの演習と，映像や音を中心としたメディアの制作・編集・処理を通してマルチメディア情報システムに関する理解を深める．また，本演習では、演習について報告書にまとめた上で発表を行うことにより．「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」も同時に高めていく．

■到達目標

・データベースを使った情報システムの構築法を理解し，また簡単なものなら自ら作れるようになる．

・マルチメディアコンテンツの企画・制作のプロセスを理解し，メディアを扱う情報システムに強くなる．

・企画から実現までのプロセスに対する記録，まとめ，プレゼンテーション能力が身につく．

・４年次に取り組むことになる特別研究や卒業後の就職先で求められる能力が総合的に高まる．

■講義方法

・課題として２つのテーマが与えられ，それぞれを期間の半分ずつで行う．

・各自に与えられた課題に対し，毎回の時間内に各回ごとの目標をこなしていく．

・テーマ毎のまとめのプレゼンテーションのほか，全体で合同のプレゼンテーションを１回行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に適宜指示する

■成績評価の方法

出席状況、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト

電子データもしくはプリント配布

■参考文献

特になし

■講義計画

①前半ガイダンス・前半演習
②前半演習
③前半演習
④前半演習
⑤前半演習・前半レポート予備提出
⑥前半課題内容のプレゼンテーション
⑦前半レポート提出
⑧後半ガイダンス・後半演習
⑨後半演習
⑩後半演習
⑪後半演習
⑫後半演習
⑬後半演習・後半レポート予備提出
⑭後半課題内容のプレゼンテーション
⑮後半レポート提出、予備日

学科固有

情報数学基礎（2014年度以降入学生）
情報構造と論理（2013年度以前入学生）

【担当】片岡　章俊

【開講】後期　木2

■講義概要

情報分野技術の基礎となる２進数および複素数の扱いについて学び、音や画像などのメディア処理に不可欠な時間－周波数の概念を理解する。時間－周波数を関係づけるフーリエ級数およびフーリエ変換を習得する。

■到達目標

１０進数と２進数の扱いをマスターし、フーリエ変換の基本概念を把握するとともに、信号の時間領域表現と周波数領域表現を理解することができる。

■講義方法

テキストと板書によって講義する。また、内容の理解を促進し定着させるため、レポートおよび演習を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。

■成績評価の方法

平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
定期試験（50点）と、中間試験（30点）及び、授業中に行う演習と平常点（20点）を加味して評価します。

■テキスト

小坂敏文　『はじめての応用数学』　近代科学社　2,400円
必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

高橋　信　『信号処理のための数学』　オーム社　2,600円

■履修上の注意・担当者からの一言

時間－周波数の概念は音や画像などのメディアを扱う上で必要不可欠なものである。学習した手法や方法を、実際にプログラムで組み、実データに適用して動かしてみると理解が深まります。

■講義計画

①２進数、１０進数⇔２進数変換、小数の２進数変換
②補数表現、四則演算、シフト演算
③確認演習　２進数
④複素数、四則演算
⑤複素平面、極座標表示
⑥確認演習　複素数
⑦正弦波の表現
⑧フーリエ級数（1）
⑨フーリエ級数（2）
⑩確認演習　フーリエ級数
⑪フーリエ変換
⑫フーリエ変換の性質
⑬標本化定理
⑭確認演習　フーリエ変換
⑮まとめ

情報メディア基礎セミナー

【担当】岡田　至弘、片岡　章俊、芝　公仁、新川　芳行、曽我　麻佐子、外村　佳伸、南條　浩輝、野村　竜也、長谷　智弘、藤田　和弘、三浦　雅展、三好　力、吉見　毅彦、渡辺　靖彦　【開講】前期　金４

■講義概要
前半では、まず、大学における学習や研究の進め方について講義する。次に、学科の教員の研究の紹介をする。これらの目的は、情報メディア学科の4年間で学ぶべきことは何かを自分なりに整理するきっかけを提示することにある。後半では、少人数に分かれて演習をおこなう。この演習の目的は、(1) 研究テーマの設定、(2) 文献等の調査・分析、(3) 自分なりの考察とまとめ、(4) レポートの作成、(5) その内容を発表する、といった大学生として身に付けてほしい研究プロセスを経験することにある。

■到達目標
情報メディア学科の基礎的事項の習得
・情報メディア学科で行われている研究内容を把握している
・情報メディア学科で学ぶ内容を自分なりに整理し、位置づけることができる
・調査・考察・レポート作成・プレゼンテーションの基本を体得している

■講義方法
講義の他、全教員の研究内容の紹介、少人数による演習を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示
各回の内容に応じて教員から適宜指示する

■成績評価の方法
授業態度、レポート内容、発表・討論などの演習全般に渡って評価に加える。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
情報メディア学科で４年間、動機を持って意欲的に学ぶために重要な科目であると同時に、一緒に学ぶ同級生と協調性を持って課題に取り組む最初の貴重な機会である。情報メディア学科で学ぶ意義を感じながら積極的に取り組むことを望む。

■講義計画
①概論（教務委員担当）
大学生入門
大学での学習について
②ラボラトリーインターンシップ（#1,#2）
③ラボラトリーインターンシップ（#3,#4）
④ラボラトリーインターンシップ（#5,#6）
⑤ラボラトリーインターンシップ（#7,#8）
⑥ラボラトリーインターンシップ（#9,#10）
⑦ラボラトリーインターンシップ（#11,#12）
⑧ラボラトリーインターンシップ（#13,#14）
⑨後半の演習に関するオリエンテーション
⑩調査及び分析のテーマ設定及び方針策定
⑪調査及び分析結果についての発表と議論
⑫調査及び分析結果についての発表と講評，レポートについての説明
⑬レポート原案提出及び講評
⑭プレ発表及び議論
⑮最終発表及び講評，最終レポート提出

数値計算基礎

【担当】藤田　和弘
【開講】後期　金５

■講義概要
数値計算は，工学問題を解く上で非常に重要なものです．工学問題を数学的に定式化し，計算機を用いて解を求めるためには，数学の知識と問題を解くアルゴリズムの知識が必要となります．また，アルゴリズム自体の安定性や解の誤差についても考察が必要です．
この講義では，数学の復習からはじめて，線形連立一次方程式の解法，非線形方程式の解法，関数の補間，数値微分および積分，最小二乗近似などについて議論します．また，実際に，数値計算を体験するために，Scilabによる解法を示す予定です．

■到達目標
線形連立一次方程式の解法や最小二乗近似の数値計算アルゴリズムに基づく簡単なプログラムが作成できるようになる．

■講義方法
MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い，適宜小テストを行います．
2回程度レポートを提出してもらいます．

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業前に，e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと．
また，毎授業後，e-Learning System上の小テストを受験すること．

■成績評価の方法
小テスト（10%）
レポート（20%）
定期試験（70%）

■テキスト
MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います．

■参考文献
Mathews, J. H., and K. D. Fink 『Numerical Methods Using MATLAB』 Prentice Hall
川田昌克 『Scilabで学ぶわかりやすい数値計算法』 森北出版 2,800円

■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的には，水曜日3限目ですが，出張や会議の場合もありますので，できるだけメイルで確認してください．
情報メディアセンター Course Management System（Moodle）で，質問などが行えます．

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要,履修の仕方,Course Management System（ Moodle ）の利用の仕方, 予習・復習）
数値計算の紹介
②Scilab入門
③イントロダクション　コンピュータアーキテクチャ
数値表現　反復
④誤差伝搬　誤差推定　条件数
⑤連立一次方程式：クラメールの公式　ガウス消去法
⑥連立一次方程式：ガウス消去法　ピボット消去　LU分解
誤差解析
⑦連立一次方程式：三重対角連立一次方程式　特殊な行列
⑧連立一次方程式：反復法　反復法の収束
⑨非線形方程式の解：二分法　ニュートン・ラフソン法
⑩多項式による関数補間　ラグランジェ補間
⑪数値微分と数値積分　誤差推定
⑫常微分方程式　初期値問題:オイラー方とルンゲ・クッタ法
⑬常微分方程式（続き）　境界値問題:有限差分法
⑭最小化問題　最小二乗近似　最適化
⑮総括

数理計画法

【担当】荒谷　洋輔
【開講】後期　木2

■サブタイトル
最適化理論
■講義概要
数理計画問題の重要な理論のひとつである最適化の理論について講義します。
（微分積分学と大いに関連があり、それについても解説します。）
さらに、線形計画法の概要についても講義します。
■到達目標
数理計画の概要を知ること。
■講義方法
講義ノートとプリントを配布します。
■系統的履修
微分積分、線形代数
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
定期試験（100%）
授業中に、試験問題に類似した演習の時間をとります。
■テキスト
特になし
■参考文献
金谷健一　『これなら分かる最適化数学』　共立出版　2,900円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールで質問を受け付けます。
■講義計画
①数理計画法とは
②関数の勾配と等高線
③極値の判定（1）
④極値の判定（2）
⑤陰関数定理
⑥ラグランジュの未定乗数法
⑦勾配法
⑧ニュートン法
⑨線形計画問題とは
⑩単体法（1）
⑪単体法（2）
⑫単体法（3）
⑬双対原理（1）
⑭双対原理（2）
⑮まとめ

学科固有

セミナー

[担当] 岡田　至弘、片岡　章俊、新川　芳行、曽我　麻佐子、外村　佳伸、野村　竜也、長谷　智弘、藤田　和弘、三浦　雅展、三好　力、吉見　毅彦、渡辺　靖彦
【開講】前期　金5

■講義概要
特別研究テーマに対応した分野知識を補足するため，各研究分野の関連文献の輪講，演習および実験を行う。ここでは、先端情報メディア分野の論文などの読解とそこに示された原理･機構の理解を目指し、実際のシステム利用及びソフトウェア作成等の手法で講義を進めていく。指導は，特別研究の配属先の教員が行なう.
■到達目標
特別研究を行なうために必要な知識を習得すること.
■講義方法
少人数の演習形態で行なう.
■授業時間外における予・復習等の指示
輪講等における事前準備、事後確認は必須。システム利用の知識は、常々の稼働経験による積み重ねで初めて実用的なものとなる。
■成績評価の方法
課題達成度，レポートの内容，発表・討論の内容，出席状況などを総合して評価する.
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
調査・発表

線形代数・演習

【担当】野村　竜也、南條　浩輝
【開講】前期　木1・木2

■講義概要
理工系の数学が関連する全ての科目の基礎である線形空間と線形変換の理論について、基本的概念の理解を徹底し、演習によって計算力をつける。平面および空間におけるベクトルを題材に線形代数学における基本用語・概念として、行列・行列式・逆行列とその演算方法についての定義と基本的性質について講義し、その計算方法と応用についても演習と並行して学んでいく。また、微積分学・統計学・信号処理などにおいて重要な固有値、正規直交系についても学習する。

■到達目標
線形変換、固有値、固有ベクトル、行列の操作が身に付く。これにより、より高度な数学、情報数理、統計学等の教科書が読めるようになる。

■講義方法
週2回でひとかたまりである。1回は講義、残り1回は演習である。講義では、適当な例題を解きながら基本的な考えを説明する。演習では、講義内容の習得と応用力育成のため問題を解く。

■系統的履修
基礎数学、微積分・演習

■授業時間外における予・復習等の指示
各回のテーマに該当する教科書の章は、必ず事前に目を通しておくこと。演習で学んだ内容、特に対面で指摘を受けた部分については、再度確認しておく。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（40%）
そ の 他（30%）演習の状況

■テキスト
薩摩順吉・四ツ谷晶二 『キーポイント線形代数』 岩波書店 2,200円

■参考文献
佐武一郎 『線形代数学』 裳華房 3,200円

■履修上の注意・担当者からの一言
必ず講義に出席し、1つずつ確実に理解していくこと。1回でも怠れば理解が難しくなり、逆に焦って先に進んでも実践段階でつまづく。

■講義計画
①連立一次方程式
②行列と線形変換
③正方行列と逆行列
④行列式の定義と性質
⑤余因数展開、行列式と逆行列
⑥前半のまとめ
⑦線形空間と行列（1）ベクトル空間
⑧線形空間と行列（2）線形変換
⑨行列の階数
⑩線形代数の基本定理
⑪行列式と固有値
⑫固有値と対角行列
⑬対角行列と正規直交系
⑭線形微分方程式と二次形式
⑮全体のまとめ

ソフトウェア開発法

【担当】新川　芳行
【開講】後期　月2

■サブタイトル
ソフトウェア開発―その方法論とプロセス

■講義概要
ソフトウェア開発の計画から保守に至る各工程で必要とされる手法や技術を講義形式で学んだ後、簡単な事例を使ったケーススタディを通じて、要求のモデリングとその仕様化を中心にそれらを体得する。まず、ソフトウェア工学の全体を概観した後、代表的な開発手法である、構造化分析・設計手法とオブジェクト指向分析・設計手法の詳細を学び、さらに事例をもとにケーススタディを行う。ケーススタディは、UMLを用いたオブジェクト指向分析・設計に沿って実施する。このほか、ソフトウェア検証技術として、テスト技法と形式手法（Formal Method）についての説明も行う。

■到達目標
ソフトウェアのモデリングや仕様化の技術など、ソフトウェア関連技術者として知っておくべき基本的な知識やスキルが習得できる。

■講義方法
前半10回を開発実務に必要な分析・設計技術について講義し、後半5回はその背景にある理論的なトピックについての講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜ケーススタディや小テストを行うため、復習をしておくこと。

■成績評価の方法
レポート（30%）分析・設計の妥当性
定期試験（70%）基礎知識および応用力
レポートでは、想定したアプリケーションの分析・設計を各自行う。定期試験は、基礎知識の理解度と応用力につき確認する。

■テキスト
毎回プリントを配布

■参考文献
玉井哲雄 『ソフトウェア工学の基礎』 岩波書店 3,570円
テクノロジックアート 『独習UML 第4版』 翔泳社 3,780円

■履修上の注意・担当者からの一言
ケーススタディでは、自分の頭と手を使って、一つのものを完成させるという気持ちで取り組んでください。

■講義計画
①ソフトウェア工学の概要
②構造化分析・設計1（構造化分析手法）
③構造化分析・設計2（構造化設計手法）
④オブジェクト指向分析・設計1（オブジェクト指向の概要）
⑤オブジェクト指向分析・設計2（UML概要、ユースケース・クラス・オブジェクト図）
⑥オブジェクト指向分析･設計3（シーケンス･コミュニケーション・相互作用概要図）
⑦オブジェクト指向分析・設計4（ステートマシン・アクティビティ・タイミング図）
⑧オブジェクト指向分析・設計5（コンポーネント・コンポジット・配置・パッケージ図）
⑨オブジェクト指向分析・設計6（実装とソフトウェアアーキテクチャ）
⑩ソフトウェアの検証技術1:ソフトウェアテスト
⑪ソフトウェアの検証技術2:オートマトン
⑫ソフトウェアの検証技術3:モデル検査
⑬形式仕様記述の基礎1（集合と命題論理）
⑭形式仕様記述の基礎2（述語論理）
⑮形式仕様記述言語

ソフトウェア科学演習

【担当】新川　芳行、野村　竜也、三好　力、吉見　毅彦、芝　公仁
【開講】前期　金2・金3

■講義概要
ソフトウェア科学を研究・実践する上で不可欠となる基礎知識および技術を習得することを目的に演習を行う。本年度は
1. 関数型プログラミング
2. RobocodeによるJAVA学習
3. ソフトウェアコンストラクション基礎
という3つのテーマを課題としてソフトウェアの設計・実装を実体験を通して学習する。演習は3グループに別れ前半、後半で２つのテーマをこなす。
本演習では、簡単なプログラムを設計し実際にプログラムを作成できる基礎能力が前提である。

■到達目標
問題分析能力および解決能力、文書作成能力およびプレゼンテーション能力を身に付けることができる。
4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められている能力を総合的に高めることができる。

■講義方法
各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。
課題は複数個あたえられ、それらをそれぞれ複数の週にわたってとりくむ。
なお、それぞれの課題を完成させたあと、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
課題を期限内に完成させるため、予習・復習を必ず行うこと。

■成績評価の方法
受講態度、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト
電子データもしくはプリント配布

■参考文献
特になし

■講義計画
①前半ガイダンス
②前半課題
③前半演習
④前半演習
⑤前半演習
⑥前半演習
⑦前半課題内容のプレゼンテーション
⑧後半ガイダンス
⑨後半演習
⑩後半演習
⑪後半演習
⑫後半演習
⑬後半演習
⑭後半課題内容のプレゼンテーション
⑮総合評価

学科固有

ソフトウェア構成論

【担当】新川　芳行
【開講】前期　月2

■サブタイトル
オペレーティングシステムの機能と構成

■講義概要
ソフトウェアの最も基本的な構成要素であるオペレーティングシステム（OS）について、その主要コンポーネントの構造とメカニズムをできる限り特定のOSに依存しない形で学んだ後、UNIXやWindowsなどのOSでそれらがどう実現されているかについても触れる。さらに、OSの稼動するプラットフォームとなるプロセッサやメモリについても、OSとのインターフェースを中心に学習する。また、コンピュータやオペレーティングシステムの歴史的な背景についても触れる。

■到達目標
オペレーティングシステムの構造と動作原理を理解することにより、プログラムの効率性、信頼性、安全性などを考慮した情報システムの開発・設計ができるようになる。

■講義方法
講義を中心に進めるが、アセンブラによる簡単なプログラミング演習も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回小テストを行うため前回の復習をしておくこと。

■成績評価の方法
小テスト（30%）内容の理解度。多肢選択。
定期試験（70%）基本事項の理解度

■テキスト
毎回プリントを配布

■参考文献
松尾 啓志 『オペレーティングシステム』 森北出版株式会社 2,940円
大澤 範高 『オペレーティングシステム』 コロナ社 3,045円
前川 守 『オペレーティングシステム』 岩波書店 3,990円

■履修上の注意・担当者からの一言
C言語を知っていることが望ましいが、その都度説明するので知らなくても支障はない。

■講義計画
①コンピュータの歴史
②コンピュータの構成とテクノロジー
③オペレーティングシステムの概要
④プロセスの管理1 割込処理
⑤プロセスの管理2 スケジューリング
⑥並行プロセス1 排他制御の基礎
⑦並行プロセス2 セマフォとモニタ
⑧実記憶管理
⑨仮想記憶管理
⑩Linuxでの記憶管理
⑪入出力制御
⑫ファイルシステム
⑬セキュリティ
⑭ネットワーク、並列・分散処理、仮想化技術
⑮日本におけるコンピュータの歴史

ソフトコンピューティング

【担当】野村　竜也
【開講】後期　木3

■講義概要
ソフトウェア科学の先端的分野として注目を浴びているソフトコンピューティングの基礎について解説する。ソフトコンピューティングの要素技術であるファジィ理論、ニューラルネットワーク、進化的アルゴリズムの基本概念、理論的基礎について解説を行った上で、その具体的応用例について紹介する。

■到達目標
ソフトコンピューティングの基礎的知識およびその利点・欠点について、応用の観点も含めた理解が可能となる。

■講義方法
原則として、教科書と配布資料にそって講義を行う。必要に応じて、計算機実験に基づくレポートを出題する。

■系統的履修
認知科学と人工知能

■授業時間外における予・復習等の指示
理論的説明の部分、特に数式を多用する部分は、必ず再度確認しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（40%）
定期試験（40%）

■テキスト
岩田彰 『ソフトコンピューティング』 オーム社　2,300円

■参考文献
R.R.イェーガ・L.A.ザデー・浅居喜代治 『ソフトコンピューティング』 海文堂出版　5,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
理論的内容が多いため、必ず講義に出席しなければ理解できない。それを踏まえれば、応用例が興味深く理解できる。

■講義計画
①ソフトコンピューティングの定義と歴史
②従来の人工知能とソフトコンピューティングの違い
③ニューロ情報処理：必要な数式の確認
④ニューロ情報処理：ニューロンモデル
⑤ニューロ情報処理：学習法
⑥ニューロ情報処理：応用
⑦ファジィ情報処理：必要な数式の確認
⑧ファジィ情報処理：ファジィ集合論
⑨ファジィ情報処理：ファジィ制御
⑩ファジィ情報処理：ハイブリッドシステム
⑪進化的情報処理
⑫カオスと連想記憶
⑬感性情報処理：感情認識・表現
⑭感性情報処理：感情モデル
⑮総括

知的問題解決法

【担当】片岡　章俊
【開講】後期　火2

■講義概要
知的問題解決法を実践するための基礎として、科学的な方法論を学習し、研究教育を遂行する上での基本的姿勢について学ぶ。その上で、知的問題解決法の実践例として、状態空間から解を見つけ出す探索法、適応信号処理によるシステムの同定・推定および隠れマルコフモデルによるパターン認識の手法等について解説する。

■到達目標
知的問題解決を自身の中で実践すると同時に、計算機に実践させるシステムを構築する上での基本的手法を身につけることができる。その上で、幾つかの実践例を概説し、理解を深める。

■講義方法
基本的に講義形式で進めるが、結果や知識の覚えこみでなく、質疑応答を含めて段階的に進める。

■系統的履修
確立・統計、ディジタル信号処理、オートマトン

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
定期試験（40点）に、平常点･演習（30点）及びレポート（30点）を加味して評価します。

■テキスト
必要に応じてプリントを配布する

■参考文献
鹿野清宏 他 編著「音声認識システム」、オーム社　3,500円

■講義計画
①本講義の意義、学習方法について、方法論の基礎
②探索問題　―状態空間とは、探索木への展開
③探索問題　―縦型検索、横型検索
④探索問題　―コストを考慮した探索（分岐限定法､山登り法）
⑤探索問題　―コストを考慮した探索（最良優先探索、A探索法）
⑥探索問題　―探索問題演習
⑦システム同定　―システム同定とは、線形システム
⑧システム同定　―モデリング
⑨システム同定　―適応アルゴリズム
⑩システム同定　―システム同定演習
⑪パターン認識　―パターンとは
⑫パターン認識　―音声処理、確率・状態遷移
⑬パターン認識　―隠れマルコフモデル
⑭パターン認識　―パターン認識演習
⑮まとめ

ディジタル信号処理

【担当】藤田　和弘
【開講】後期　木3

■サブタイトル
MIT OpenCourseWareを用いた「信号とシステム」に関する授業
■講義概要
ディジタル信号処理は，情報通信技術の分野における基礎的な技術であり，電子情報通信以外の分野でも用いられる幅広い応用をもつ学問分野である．
この講義では，「信号とシステム」の基礎理論および信号処理とその応用について議論する．基礎理論である信号のフーリエ級数表現と線形時不変システムに重点をおいた上で，信号処理において重要なサンプリング定理，離散フーリエ変換について詳しく議論する．
■到達目標
画像処理などの信号処理の基礎的な理論に関する知識を習得し，簡単な信号処理のプログラムが理解できるようになる．
周期的信号のフーリエ級数表現を求めることができる．連続時間フーリエ変換，離散時間フーリエ変換の計算ができる．
サンプリング定理を理解し，信号に対して適切なサンプリング周波数を求めることができる．
■講義方法
MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い，適宜小テストを行う．2回程度レポートを提出してもらいます．
■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業前に，e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと．
また，毎授業後，e-Learning System上の小テストを受験すること．
■成績評価の方法
小テスト（10%）
レポート（20%）
定期試験（70%）
■テキスト
MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います．
■参考文献
A.V.Openheim 『Signals & Systems』 Prentice Hall
斉藤洋一 『信号とシステム』 コロナ社　3,600円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的には，水曜日3限目ですが，出張や会議の場合もありますので，メイルで確認してください．
情報メディアセンター Course Management System（Moodle）で，質問などが行えます．
■講義計画
①ガイダンス（授業の概要，履修の仕方，Course Management System（Moodle）の使い方，予習・復習）
Lecture Note #1 イントロダクション
②Lecture Note #2 システムの特性と例
③Lecture Note #3 離散時間時不変システム
④Lecture Note #4 連続時間時不変システム
⑤Lecture Note #5 連続時間フーリエ級数
⑥Lecture Note #6 連続時間フーリエ級数の特性，離散時間フーリエ級数
⑦Lecture Note #7 フーリエ級数と線形時不変システム
⑧Lecture Note #8 連続時間フーリエ変換
⑨Lecture Note #9 連続時間フーリエ変換のたたみ込み特性，離散時間フーリエ変換
⑩Lecture Note #10 離散時間フーリエ変換の特性と例（1）
⑪Lecture Note #11 離散時間フーリエ変換の特性と例（2）
⑫Lecture Note #12 時間周波数特性
⑬Lecture Note #13 サンプリング
⑭Lecture Note #14 連続信号の離散時間処理
⑮総括，レポートおよび小テストの解答

学科固有

データ構造とアルゴリズム・演習

【担当】三好　力、南條　浩輝
【開講】前期　火2・火3

■講義概要
与えられた問題をどのように解決していくかの手順をアルゴリズムと言い、取り扱うデータをどのように表現するかをデータ構造という。優先順位の高い特性を持ったアルゴリズムを実現するためには、適切なデータ構造を用いることが重要であり、データ構造とアルゴリズムは密接な関係にある。アルゴリズムはプログラムとして表現することによって、与えられた問題を計算機を利用して解決することができる。この講義では、代表的なデータ構造とアルゴリズムを学習するとともに、演習においてそれらを実現するプログラムの作成･実行･デバッグを行うことによって計算機を用いた問題解決の基礎を修得する。
■到達目標
この科目を履修することによって、問題の把握、データ構造およびアルゴリズムの記述、プログラムの作成･実行･デバッグというプログラム開発の一連の流れを修得し、これを応用する能力を養うことを目標とする。
■講義方法
初めに講義形式で問題の把握とデータ構造及びアルゴリズムについて学習し、引き続き演習形式でプログラムの作成･実行･デバッグを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容があやふやだと、次回の講義を理解することが困難となるので、必ずデータ構造及びアルゴリズムについて復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（60%）
その他（40%）演習の評価
■テキスト
講義ごとに配布
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
代表的なデータ構造とアルゴリズムをしっかり理解すること。また、C言語を用いたプログラミングの仕上げとなる科目でもあり、プログラム開発と論理的思考を身に付けること。講義で学習する新たなデータ構造やアルゴリズムについて事前に予習を行い自分なりに理解しておくことで、講義中は不明な点や誤解点に集中して学習することができる。また、プログラミング言語の復習を行って演習に臨むことで、データ構造やアルゴリズムのプログラム化に十分な時間を取ることができる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
原則として木曜日昼休みとするが、在室時にはできる限り対応する。
■講義計画
①オリエンテーション、C言語の復習
②ポインタ
③配列
④構造体
⑤ファイルの入出力
⑥リスト　データの追加
⑦リスト　データの検索、削除
⑧スタック
⑨二分木　データの追加、検索
⑩二分木　データの削除
⑪キュー
⑫バブルソート
⑬クイックソート
⑭ヒープソート
⑮マージソート

データベース

【担当】曽我　麻佐子
【開講】後期　月３

■サブタイトル
データベースの基本から設計・運用まで
■講義概要
データベースは様々な情報処理システムに必須の要素である。本講義では、データベースシステムに関して、基本的な概念から設計、プログラミング、運用論までを扱う。具体的には、最も基本的で普及しているリレーショナルデータベースを主な対象とするが、オブジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースなど、最近の技術についても触れる。
■到達目標
データベースの基本概念と利用方法を理解し、簡単なデータベースシステムが設計できるようになる。
■講義方法
主として講義形式で行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや演習問題を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
事前に講義資料をダウンロードして予習しておくこと。講義中に行った演習問題や小テストについて復習しておくこと。
■成績評価の方法
小テスト（20%）
レポート（10%）
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
増永良文 『リレーショナルデータベース入門』 サイエンス社　2,600円
永田武 『データベースの基礎』 コロナ社　2,400円
■履修上の注意・担当者からの一言
できるだけ多くの演習問題を用意し、多くの人に解いてもらおうと思います。講義中に内容が理解できるように集中して聴講し、演習問題は積極的に解くようにしましょう。
■講義計画
①ガイダンス（授業の概要，データベースとは）
②リレーショナルデータベースモデル
③リレーショナル代数とデータ操作
④SQL1
⑤SQL2
⑥データベース設計，実体関連図
⑦正規化
⑧データベース設計（実践）
⑨データベース管理システム
⑩トランザクション
⑪プログラムからのアクセス
⑫XMLデータベース
⑬オブジェクト指向データベース
⑭マルチメディアデータベース
⑮まとめ

特別研究

【担当】全教員
【開講】通年　集中

■講義概要
三年次までに習得した知識や能力を基礎として，特定の研究テーマについて研究を行なう．特別研究に取り組むことによって，課題を自主的に設定する能力，課題を解決するための解決策を考案する能力，研究成果を社会に発信する能力を養う．研究成果を特別研究論文としてまとめ，さらに口頭発表会において発表する必要がある．研究は，担当教員による個別指導の下で行なう．担当教員（配属先研究室）の決定方法については，研究室配属説明会において説明がある．
■到達目標
問題解決能力，計画的実行力，論文作成能力，プレゼンテーション能力を習得すること
■講義方法
担当教員ごとに異なる
■授業時間外における予・復習等の指示
担当教員から適宜指示する
■成績評価の方法
その他（100%）
特別研究論文の内容，口頭発表会での発表内容，研究テーマに対する日常の取り組み態度などから総合的に判断する．
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
特別研究は，そのテーマ設定から調査・企画・検討・論文化・発表にいたるまでのひととおりを通年で行うものである．従って，後半であわてることの無いよう，計画的かつ主体的に研究を進めることが求められる．
■講義計画
①調査・企画・計画具体化・初期検討
②本格検討・開発・実験
③討論・整理・発表

認知科学と人工知能

【担当】瀬田　和久
【開講】前期　集中

■講義概要
人工知能は情報科学はもとより、哲学、認知心理学、言語学さらには、経営学などの周辺の分野と深く関わる学問分野である。そのため、計算機上での知能システムの実現を見据えたトピックに加えて、周辺関連分野の動向を踏まえながら、知能の源泉としての知識そのものについて多角的な視点から考察を深める。

■到達目標
本講義では、人間が持っている知識の分析手法，知識創造方法論，ならびに知識システムの構築･運用に関する基礎的事項を習得することを目標とする。

■講義方法
プリント配布による．

■授業時間外における予・復習等の指示
この講義で扱う学習内容は，これまでの情報分野の講義で学んだことを前提として，広範な内容を扱いますので，特に各回の復習をその都度しっかり行ってください．

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
溝口理一郎　『エキスパートシステムＩ入門』　朝倉書店
野中郁次郎　『知識創造企業』　東洋経済新報社
新田克己　『人工知能概論』　培風館
田中幸吉，淵一博監訳　『人工知能ハンドブックＩ』共立出版

■講義計画
①知識科学はどのような学問領域であるのか、既習事項とどのような関連があるのか、この科目を学習することでどのようなことがわかり、できるようになるかなどの事項について導入する。
②すべての人が持つ「知識」について考察する。一口に知識といっても､その種類によって様々な特性がある。そうした特性分析の視点を習得し、知識分析の基礎とする。
③知識の創造・共有・継承プロセスについて考察する。いうまでもなく、人類は先人の知恵や知識を継承・発展することで今日の繁栄を遂げている。暗黙知と形式知の相互変換プロセスとして知識創造プロセスを位置づけモデル化した野中氏のSECIモデルについて学習するとともに、日本企業における組織知創造の成功事例をこのモデルに基づいて分析する。
④知識マネジメント支援システムを例示しながら、情報システム開発における知識モデルの役割および情報システムの設計方法について考察を深める。
⑤人間の専門家にしか解決できないような悪構造問題を解く、エキスパートシステムについて学習する。
⑥エキスパートシステムの実現機構であるルールベースシステムについて学習するとともに、ハンドシミュレーションを行い、その動作原理を理解する。
⑦外界に対して作用するロボットの行動制御（リアクションシステム）を題材に､ハンドシミュレーションを行いその動作原理を理解する。
⑧情報システム構築技法として捉えたときのルールベースシステムの長所、短所について考察する。
⑨領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
⑩領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
⑪領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
⑫浅い知識を網羅することで知的システムを構築するアプローチには限界がある．この限界の克服を目指し，原理的知識（深い知識）より浅い知識を作り出す知識コンパイル技術を学習する。
⑬浅い知識を網羅することで知的システムを構築するアプローチには限界がある．この限界の克服を目指し，原理的知識（深い知識）より浅い知識を作り出す知識コンパイル技術を学習する。
⑭自然言語理解システムMARGIEとその実現基盤である概念依存関係理論について学習する。自然言語が表象する概念構造を意味記述のためのプリミティブに基づいて表現する概念依存関係理論の考え方は、現在でも知識システム研究の礎となっている重要な理論である。
⑮自然言語理解システムMARGIEとその実現基盤である概念依存関係理論について学習する。自然言語が表象する概念構造を意味記述のためのプリミティブに基づいて表現する概念依存関係理論の考え方は、現在でも知識システム研究の礎となっている重要な理論である。

学科固有

ネットワーク構成論

【担当】岡田　至弘
【開講】後期　火2

■サブタイトル
ネットワークの基礎からインターネット・Webテクノロジまで

■講義概要
通信の基本要素（遅延、帯域、信頼性と誤り制御）の理解から情報ネットワークまでの拡張を基本プロトコル階層の学習を通してすすめ、具体的なネットワーク構成の例（インターネット)からネットワーク構成の実際を学んでいく。ここでは、通信の基礎概念・用語・技術の羅列ではなく、データ伝送から情報通信までの概念を系統的に学習していく。一般的なOSI基本参照モデルなどのプロトコルレベルの概念紹介は行わず、TCP/IPやUDPなどの実体のあるプロトコルの理解からネットワーク構成の普遍性を理解することに力点を置く。

■到達目標
情報通信の概念整理と新たなネットワーク技術・サービスへの対応・理解

■講義方法
教科書、配布資料（プリント)、毎回のプレゼンテーション、Web教材を用いる。

■系統的履修
インターネットリテラシー、計算機基礎実習、ソフトウエア構成論

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（10%）１ないし2回の課題呈示に対応したレポート提出
定期試験（60%）
2014年度から新しい教科書・資料を用い内容を一新する
不定期の小テストと、定期試験の評価およびレポート課題含めた総合評価を行う。

■テキスト
滝根哲哉　『情報通信ネットワーク』　オーム社　2,600円

■参考文献
岡田史郎　『インターネットプロトコル』　オーム社　2,800円

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義日（火曜日）の１２：４０～１５：００

■講義計画
①マルチメディア通信を指向するネットワーク構成概略
②レイヤー、プロトコルおよびサービス概念
③インターネットのアーキテクチャ（物理層）
④インターネットのアーキテクチャ（データリンク制御）
⑤インターネットのアーキテクチャ（ネットワーク層）
⑥インターネットのアーキテクチャ（アドレス体系）
⑦インターネットのアーキテクチャ（トランスポート層）
⑧インターネットのアプリケーション（ストリーミング、ＱＯＳ制御）
⑨セキュリティ
⑩ネットワーク管理
⑪分散コンピューティング1：ＮＯＳ
⑫分散コンピューティング2：ＪＡＶＡ
⑬ネットワーク化マルチメディアシステム
⑭大規模ネットワークシステム事例
⑮大学ネットワークシステム

ネットワークシステム・演習

【担当】岡田　至弘、芝　公仁
【開講】前期　火４・火５

■サブタイトル
TCP/IPネットワークプログラミング演習と分散処理システムの構築
■講義概要
TCP/IPの演習からパケット交換方式による通信（CO型、CL型）の理解を通して、実際的なネットワークプログラムを体得し、情報ネットワークを支える基礎技術の理解を深める。具体的には、Linux下でのネットワークシステムを用い、TCP/IPプロトコルスタックの活用を行う。
■到達目標
TCP/IPを用いた分散システム設計の基本となるネットワークプログラミングと具体的なネットワーク応用システムの設計までを体得する。
■講義方法
ネットワークに関する講義と演習を行う。演習では、課題の実施とレポートの作成を行う。
■系統的履修
Linuxの基本操作、Cプログラミング基礎の習得、ネットワーク構成論
■授業時間外における予・復習等の指示
各授業で、復習事項と予習事項を指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
毎回出席することを前提とし、平常点とレポートを総合して評価する。
■テキスト
岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社　2,800円
■参考文献
D.COMER　他 『TCP/IPによるネットワーク構築　クライアントサーバプログラミング』 共立出版　6,000円
J. Michael　他 『TCP/IPソケットプログラミングC言語編』 オーム社　1,890円
村山公保 『基礎からわかるTCP/IPネットワーク実験プログラミング』 オーム社　2,520円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
演習終了後
■講義計画
①演習準備 コンパイル
②プロトコルスタック
③プロトコルスタック
④プロトコルスタック
⑤プロトコルスタック
⑥ソケットプログラミング
⑦ソケットプログラミング
⑧ソケットプログラミング
⑨ソケットプログラミング
⑩応用プログラミング，Linuxネットワーク設定
⑪応用プログラミング，Linuxネットワーク設定
⑫応用プログラミング，Linuxネットワーク設定
⑬応用プログラミング，Linuxネットワーク設定
⑭応用プログラミング，Linuxネットワーク設定
⑮応用プログラミング，レポート作成

学科固有

ハードウェア構成論

【担当】長谷　智弘
【開講】前期　月２

■講義概要
情報メディア関係科目を学ぶ上で最低限必要なコンピュータの基礎を主にハードウエア面から学ぶ。前半では、コンピュータの歴史、データ表現、論理演算および回路、データ構造とアルゴリズム等の基礎的な事項を学ぶ。後半では、コンピュータシステムのハードウエア、ソフトウエア、システム構成、ネットワークなどについて、身近なパソコンと対比しながら学ぶ。
■到達目標
コンピュータのハードウエアの基礎知識の習得
■講義方法
テキストと適宜プリントを用いて講義する。また、必要に応じて、演習を実施する。
■系統的履修
物理学序論
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で課する復習課題や、予習課題を必ずすること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
福嶋宏訓 『基本情報技術者集中ゼミ[午前編]』 日本経済新聞出版社　1,700円
■参考文献
特になし
■講義計画
①コンピュータの歴史
②コンピュータ科学基礎（1）（データ表現）
③コンピュータ科学基礎（2）（論理演算）
④コンピュータ科学基礎（3）（論理回路）
⑤コンピュータ科学基礎（4）（演算回路）
⑥データ構造とアルゴリズム
⑦パソコンの中身を解剖する
⑧コンピュータシステム（1）（アーキテクチャ）
⑨コンピュータシステム（2）（ハードウエア）
⑩コンピュータシステム（3）（基本ソフトウエア）
⑪コンピュータシステム（4）（応用ソフトウエア）
⑫コンピュータシステム（5）（システムの構成）
⑬コンピュータシステム（6）（性能評価）
⑭コンピュータシステム（7）（ネットワーク）
⑮まとめ

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法
その他（100%）
授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などにより決定します。

■テキスト
講師作成プリント

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法
その他（100%）
授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などの評価により決定します。

■テキスト
講師作成プリント

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

学科固有

プログラミング基礎

【担当】吉見　毅彦
【開講】後期　月４

■講義概要
この科目は、C言語やLaTeXなどのコンピュータ言語の基礎について学ぶことを目的とする。C言語は実用的な言語であり、C言語によるプログラミング能力を身につけることは将来コンピュータと専門的に関わっていく理工学系の学生にとって必要不可欠である。演算・データ型・制御構造・関数などのC言語の基本的な機能について解説する。さらに、マークアップ言語LaTeXを使用して文書を作成するために必要な基礎知識について解説する。

■到達目標
アルゴリズムとプログラミングの基本的な考え方を理解し、C言語によるプログラミング能力を習得すること。LaTeXによる文書作成の基本的な能力を習得すること。

■講義方法
授業は、スライドと配布資料を用いて進める。毎回演習問題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの当該部分を読み、疑問点を認識して講義に臨みなさい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
内田智史　『C言語によるプログラミング 基礎編 第2版』　オーム社

■参考文献
B.W. Kernihan, D.M. Ritchie　『プログラミング言語C　第2版』　共立出版
皆本晃弥　『やさしく学べるpLaTeX2ε 入門－文書作成からプレゼンテーションまで－』　サイエンス社

■講義計画
①基本的なアルゴリズム
②LaTeXの基礎
③四則演算と入出力
④基本的なデータ型
⑤条件分岐構造：if文
⑥繰り返し構造（1）：for文
⑦繰り返し構造（2）：while文
⑧配列
⑨ポインタ
⑩文字列操作
⑪関数（1）：引数，戻り値
⑫関数（2）：ポインタ引数，再帰的関数
⑬構造体（1）：構造体タグ，メンバ
⑭構造体（2）：構造体の配列，構造体へのポインタ，構造体の設計
⑮まとめ

学科固有

プログラミング言語論

【担当】吉見　毅彦
【開講】前期　月３

■講義概要
これまでに学習した手続き型言語やオブジェクト指向型言語とは様々な点で異なるプログラミング言語を習得することを目的として、論理型プログラミング言語Prologを取り上げ、その基本的な考え方（データ構造、構文、意味）とプログラミングの方法について解説する。さらに、その背景となっている述語論理について概説する。Prologは、単純で強力なプログラミング言語であり、人工知能やデータベース、エキスパートシステムなどの研究開発用の道具として広く使われている。最近ではインターネットビジネスなどにおいて、高度な知的処理の必要性からも注目されており、重要なプログラミング言語の一つである。

■到達目標
論理型プログラミング言語の基本的な考え方を理解すること。論理型プログラミング言語によるプログラミング能力を習得すること。Prologの基礎となっている述語論理に関する理解を深めること。

■講義方法
授業は、スライドと配布資料を用いて進める。毎回演習問題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの当該部分を読み、疑問点を認識して講義に臨みなさい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
Bratko著、安部憲広訳　『Prologへの入門』　近代科学社

■参考文献
特になし

■講義計画
①概観
②Prologプログラムの構文
③Prologプログラムの意味
④リスト
⑤オペレータと算術演算
⑥複合項の利用
⑦バックトラック
⑧バックトラックの制御
⑨入出力
⑩組み込み述語
⑪プログラミングスタイルと技術
⑫Prologによる構文解析（1）：文脈自由文法による文法記述
⑬Prologによる構文解析（2）：DCGへの変換
⑭述語論理とホーン節
⑮まとめ

プログラミング入門

【担当】渡辺　靖彦
【開講】前期　月4

■講義概要
本科目の目的は、コンピュータとプログラムの基本概念（コンピュータの仕組みとプログラムが実行される仕組み）を身につけることである。
本講義の内容は以下のとおりである。
1．プログラミングの概説
- 計算機プログラミングの必要性と意義
2．コンピュータとプログラムの基本概念
- コンピュータのハードウェア構成
- コンピュータでプログラムが実行されるしくみ
- データ型のコンピュータ内部での表現
- if文などの簡単な制御構造
- 数値計算と関数の学習
- プログラミングの方法

■到達目標
コンピュータとプログラムの基本概念 （コンピュータの仕組みとプログラムが実行される仕組み）

■講義方法
教科書および配布した資料にもとづいて講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。
演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法
レポート（10%）
定期試験（90%）
レポートおよび期末試験を総合的に評価する。

■テキスト
Alan W.Bierman 著、和田英一監訳 『やさしいコンピュータ科学』 アスキー出版局　4,660円

■参考文献
特になし

■講義計画
①計算機プログラミングの必要性と意義
②データの読み取りと記憶
③決定木のプログラミング
④データ型の計算機内部での表現
⑤if文などの簡単な制御構造
⑥単純な数値計算
⑦関数の学習
⑧アルゴリズムとプログラムの設計
⑨サブルーチン
⑩「ハノイの塔」の問題解決
⑪プログラムのライフサイクル
⑫電気回路とトランジスタ
⑬超大規模集積回路
⑭マシンアーキテクチャ
⑮まとめ

学科固有

マルチメディアシステム

【担当】片岡　章俊、外村　佳伸、藤田　和弘
【開講】前期　木2

■サブタイトル
要素技術からシステムまで

■講義概要
音声や画像をはじめとするさまざまな情報が統合され、機能するマルチメディアシステムは、今や情報サービスに欠かせない重要な技術である。本講義では、まず基本となるディジタル信号処理からメディア毎の処理技術を押さえた後、マルチメディアシステム化に欠かせないハンドリング技術、インタフェース技術、コンテンツ関連技術、さらに最近のスマート化技術など、マルチメディアシステムに関する基礎から応用まで幅広い視野をカバーする。

■到達目標
・音と画像を中心にマルチメディアの基本的な処理技術を理解している
・マルチメディアシステムの構成について説明できる
・マルチメディアシステム化に必要な要素技術について説明できる
・最近のマルチメディアシステム関連の動向とその概要を把握している

■講義方法
主として講義方式（内容に応じて、プリント、パワーポイントを用いる）。
適宜、小テストの実施、レポートの提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に適宜指示する

■成績評価の方法
小テスト（30%）授業中に適宜実施
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で、情報関係の技術者がマルチメディアシステムに関して基本的に知っておくべきことを学んで、視野の広い技術者になってもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
コンタクトは授業直後に

■講義計画
①ガイダンス、マルチメディアシステム概論
②信号処理基礎
③静止画像・動画像処理
④静止画像・動画像符号化技術
⑤画像特徴抽出・認識
⑥音声・音響信号処理
⑦音声符号化技術
⑧音声認識、合成
⑨コミュニケーションシステム
⑩マルチメディアデータ、メタデータ、データベース
⑪マルチメディア入出力技術
⑫ユーザインタフェースと情報デザイン
⑬コンテンツ技術
⑭インテリジェントシステム
⑮まとめ

メディア工学演習

【担当】岡田　至弘、藤田　和弘、渡辺　靖彦、南條　浩輝
【開講】前期　木４・木５

■講義概要
メディア工学を学ぶ上で必要となる、画像・映像・音響・言語などのメディアについての基礎知識と処理技術を修得することを目的として演習を行う。　本演習では、与えられた問題を単に解く能力ではなく、問題解決を行うための問題分析能力および解決能力を、プログラミング、信号測定、機器の組み立てなどを通して修得する。　また、問題解決のための手順や結果を報告書にまとめた上で発表を行うことにより、「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」を高めていく。

■到達目標
問題分析能力および解決能力、文書作成能力およびプレゼンテーション能力を身に付ける。　4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められている能力を総合的に高める。

■講義方法
各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。
課題は複数用意されている。　それぞれの課題完成後には、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
課題に対応した、基礎概念・アルゴリズムについて十分な予習を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（30%）
そ の 他（20%）
課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト
電子データもしくはプリント配布

■参考文献
特になし

■講義計画
①演習課題1
②演習課題1
③演習課題1
④演習課題1
⑤全体プレゼンテーション
⑥演習課題2
⑦演習課題2
⑧演習課題2
⑨演習課題2
⑩演習課題3
⑪演習課題3
⑫演習課題3
⑬演習課題3
⑭演習課題４
⑮プレゼンテーション

学科固有

メディア構成論

【担当】藤田　和弘
【開講】前期　月１

■サブタイトル
画像処理と認識

■講義概要
メディアとして，画像は重要なものの一つであり，その画像を扱う学問分野として，画像工学がある．画像工学では，不鮮明な画像を鮮明化したり，エッジつまり物体の輪郭線を抽出して，その後，その物体を認識するなど，非常に広い範囲の内容を扱う．
この講義では，画像工学の中心的な内容である画像処理と認識を主なテーマとし，一般的な画像処理だけでなく，画像情報の圧縮，2値画像処理，画像の特徴抽出，画像認識などの幅広い領域の基本的な内容について，議論する．

■到達目標
将来，マルチメディア処理を学ぶ上での基本となる知識を習得し，簡単な画像処理のプログラムが理解できるようになる．

■講義方法
テキストを中心に授業を行い，内容の理解度をチェックするために，適宜小テストを行う．
また，課題レポートを2回程度提出してもらいます．

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業前に，テキストの指示する部分を予習するとともに，毎授業後は，復習としてe-Learning System上の小テストを受験すること．

■成績評価の方法
小テスト（10%）
レポート（20%）
定期試験（70%）

■テキスト
田村秀行 『コンピュータ画像処理』 オーム社　3,900円

■参考文献
R.C.Gonzalez 『Digital Image Processing Third Edition』 Prentice Hall

■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的には，水曜日3限目ですが，出張や会議の場合もありますので，メイルで確認をしてください．
情報メディアセンターのCourse Management System（Moodle）で，質問などをすることも可能です．

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要, 履修の仕方, Course Management System（ Moodle ）の利用の仕方, 予習・復習）
画像処理の紹介
②2.1 画像データの扱い，2.2 ヒストグラム
③2.3 画像処理の形態，2.4 周波数領域での処理（1）
④2.4 周波数領域での処理（2）
⑤2.5 直交変換，2.6 画像の表現とデータ構造
⑥2.7 色彩情報の取扱い，2.8 画像情報の表示
⑦4.1 強調・復元・再構成，4.2 コントラスト強調
⑧4.3 鮮鋭化，4.4 平滑化と雑音除去，4.5 画像復元
⑨4.6 画像の補正，5.2 画像の2値化処理，5.3 連結性と距離
⑩5.4 解析と変換，5.6 形状の特徴と表現
⑪6.2 エッジ抽出，6.3 線の抽出
⑫6.4 領域分割，6.5 テクスチャ解析，8.2 位置検出，8.3 照合による認識
⑬8.5 統計的パターン認識
⑭3 画像情報の圧縮
⑮総括

メディア処理基礎（2014年度以降入学生）【担当】曽我　麻佐子、三浦　雅展、渡辺　靖彦
メディアデザイン（2013年度以前入学生）
【開講】前期　月2

■サブタイトル
メディア処理の基礎

■講義概要
情報メディアの基礎として、文字・音声・画像などのメディア処理技術と、ネットワーク・携帯端末・インタフェースなどのメディアコミュニケーションを支える要素技術について概説する。また、コンピュータを用いた演習として、文字・音声・画像などの基本的なメディア処理を行う。

■到達目標
メディアついて理解し、メディア処理技術の基礎を習得する。

■講義方法
前半は講義を行い、内容の理解度を確認するために適宜小テストや小レポートを行う。後半は３グループに分かれてコンピュータを用いた演習を行う。講義終盤では、課題発表会を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
小テスト（10%）
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
飯田仁 他 『メディア学入門』 コロナ社　2,600円

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要，メディアの種類と分類）
②社会とメディアの変遷，メディアリテラシー
③メディア処理技術：文字・画像
④メディア処理技術：音声・音楽
⑤メディア処理技術：映像・インタフェース
⑥メディア処理実習ガイダンス
⑦メディア処理実習：文字・画像①
⑧メディア処理実習：文字・画像②
⑨メディア処理実習：音声・音楽①
⑩メディア処理実習：音声・音楽②
⑪メディア処理実習：CG①
⑫メディア処理実習：CG②
⑬メディア処理技術：ネットワーク・携帯端末
⑭課題発表
⑮先端技術，まとめ

学科固有

メディア処理論
【担当】渡辺　靖彦
【開講】後期　火4

■講義概要
本科目は、デジタル化されたメディアデータの中から
必要な情報を取り出すための解析手法を身につけることを目的とする。
また、linux環境の利用を前提とした課題学習を行う。
講義の前半では、人間にとって情報とはなにか、
どのような種類の情報があるのかについて述べ、
情報はいろいろな深さで解釈され意味づけされるものであることを説明する。
そして、データと情報の区別、情報と知識の区別を明らかにする。
講義の後半では､音声や画像といったメディアデータを対象に、メディア処理の方法について学び、周波数領域の処理を行うプログラムを作成することを目標とする。
なお、メディア工学演習の履修を予定している場合は、本科目の履修を強くすすめる。

■到達目標
メディアデータの解析

■講義方法
教科書および配布資料によりすすめる。
講義内容の理解をふかめるため、linux 環境の利用を前提とした課題学習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。
演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法
レポート（50%）
定期試験（50%）
レポート、期末試験を総合的に評価する。

■テキスト
長尾真 『マルチメディア情報学の基礎』 岩波書店　3,400円
井上誠 『C言語で学ぶ実践画像処理』 オーム社

■参考文献
Steve Oualline、望月 康司、谷口 功 『C実践プログラミング』 オライリー・ジャパン
カーニハン，リッチー著、石田　晴久訳 『プログラミング言語C ANSI規格準拠』 共立出版

■講義計画
①人間にとっての情報
②人間にとっての情報の諸形態
③情報と知識
④情報・知識の利用
⑤画像データ・音響データ
⑥画像の回転
⑦画像の合成
⑧画像の輪郭線抽出
⑨周波数領域への変換
⑩離散フーリエ変換
⑪画像の2次元フーリエ変換
⑫フィルタ処理
⑬情報と記号論
⑭情報メディア間の相互変換
⑮知識の体系化、まとめ

メディアの物理と解析

【担当】三浦　雅展
【開講】前期　金３

■講義概要
人間による情報伝達において「メディア」は必要不可欠な媒体である。本講義ではメディアを媒体とした視覚・聴覚による情報伝達系「情報メディア系」に関する基礎理論の習得を目指す。本講義では特に１次元信号である音メディアを対象とし、その物理的性質と表現法、さらに分析法について概説し、簡単な演習を通してそれらを習得する。また，音メディアに関する感覚系について述べ、人間と音の様々な関係について学ぶ。音響メディア系に興味を持つ学生だけでなく情報メディア系全般に興味を持つ学生は、本講義を通してメディアに関する多くの知見を得ることができる。

■到達目標
計算機でのディジタルメディアの取り扱い技術の習得を目指して、基礎となる1次元信号の基本的性質や信号解析法と、それに対する人の受容メカニズムについて理解する。

■講義方法
講義、プリント配布、プロジェクタ使用、一部実演付。

■系統的履修
基礎的なプログラミング能力に関する講義。音に対する物理的・心理的側面について考察するため、学際的な勉学姿勢が求められる。

■授業時間外における予・復習等の指示
高等学校での物理学、電気回路、解析学の基本的な概念を復習しておくこと。必要に応じてフリーソフト（PureData）を用いた演習を実施するため、自宅で復習ができる柔軟な計算機環境を持つことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（80%）
提出物を含む平常点で20点、中盤と終盤の合計２回の小テストで80点、合計100点を満点とする.

■テキスト
特になし

■参考文献
日本音響学会 『音響用語辞典』 コロナ社　10,000円
中村健太郎 『音のしくみ』 ナツメ社　1,300円
B.C.J.ムーア著，大串監訳 『聴覚心理学概論』 誠信書房　4,725円

■履修上の注意・担当者からの一言
受身的に表面的に覚えこむのでなく、基礎的な概念と実感を関連付けて、自ら理解し体得すること。

■講義計画
①音の仕組み
②聴覚系の仕組み
③音の基本特性
④音の高さ
⑤音色の知覚（1）音色の定義，音色因子
⑥音色の知覚（2）協和性，シャープネス，変動感とラフネス
⑦空間音響
⑧小テスト１
⑨オーディオ
⑩サンプリング
⑪エイリアシング，量子化
⑫音の複素表現
⑬音のスペクトル
⑭音信号の解析
⑮小テスト２

学科固有

教職課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	大西　俊弘／滋野　哲秀／脇田　博文	通年	集中	191
	学校カウンセリング論	石川　眞理子	前期	水４	192
	学校教育社会学	伊佐　夏実	後期	水３	193
キ	教育の方法と技術	神月　紀輔	前期	木１	193
	教育課程論	大西　俊弘	後期	土２	194
	教育実習指導Ⅰ	大西　俊弘／滋野　哲秀／脇田　博文	前期	月３	194
	教育実習指導ⅡＡ	大西　俊弘／滋野　哲秀／脇田　博文	通年	集中	195
	教育実習指導ⅡＢ	大西　俊弘／滋野　哲秀／脇田　博文	通年	集中	195
	教育社会学	森　繁男	通年	月３	196
	教育社会学Ⅰ	森　繁男	前期	月３	197
	教育社会学Ⅱ	森　繁男	後期	月３	197
	教職実践演習（中・高）	各教員 （滋野　哲秀／大西　俊弘／福岡　進／脇田　博文）	後期	月３・４、 火１・２、 水４、 木２・３、 金４	198
	教職論	滋野　哲秀	前期	土２	199
シ	情報科教育法	松原　伸一	通年	水１	200
	情報科教育法Ⅰ	松原　伸一	前期	水１	201
	情報科教育法Ⅱ	松原　伸一	後期	水１	201
	人権教育論／同和教育論	岸　衛	前期	水４	202
セ	生徒指導論	脇田　博文	後期	金１	202
ト	道徳教育指導法	奥村　光太郎	後期	土１	203
	特別活動論	脇田　博文	前期	金１	204

介護等体験
【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）
【開講】通年　集中

■サブタイトル
心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要
子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。
国では教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成10年4月1日施行）により、小･中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標
教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法
・１年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。１年次に２回の説明会と講演会を行い、２年次には説明会及び事務手続きを行い、６月より随時体験に入る。
・２年次生以上の履修についても１年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示
指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）事前･事後指導及び体験への参加状況、意欲･態度を評価する。
そ の 他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。
上記の尺度･割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト
講義・説明会で適宜配布する。

■参考文献
講義・説明会で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。
②教育実習の先修要件であるので、3年次までに履修すること。
③書類などの提出日は厳守すること。
④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。
⑦留学をする者は必ず事前に相談し、登録をすること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時受け付けるが、体験時に問題が起こったときは、連絡・報告・相談をすること。

■講義計画
①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
④介護等体験説明会③及び事務手続き
⑤介護等体験講演会2－福祉施設
⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
⑧介護等体験への参加
1. 障害児教育諸学校　2日間
2. 社会福祉施設　5日間
⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

学校カウンセリング論

【担当】石川　眞理子
【開講】前期　水4

■サブタイトル
教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要
教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的問題が多発している。
このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリング的資質が必要となってくる。
本講義では、学校教育におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、具体的な対応について理解を深め、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得していくこととする。

■到達目標
・学校教育相談（カウンセリング）の基礎概念や意義について理解を深める。
・カウンセリングの理論と技法を学び、自己・他者理解及びネットワーク支援について理解を深める。
・基本的な教育相談の理論と実践力を身につける。

■講義方法
講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示
特になし。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）平 常 点（出席+演習）取り組みを重視する
レポート（60%）最終講義で発表
主体的な授業態度を重視する。

■テキスト
特に使用しない。
講義中にプリントを配布する。

■参考文献
盛岡正芳（編）『カウンセリングと教育相談』 あいり出版
春日井敏之・伊藤美奈子（編）『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房
松原達哉（編）『教師のためのカウンセリング技術』 教育開発研究所
米山正信・蔭山昌弘 『「失敗例」に学ぶ学校カウンセリングの心得』 黎明書房
関連文献は講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
「私語・遅刻しない」を厳守してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール連絡とします。
miv26045@fc.ritsumei.ac.jp

■講義計画
①オリエンテーション
②学校カウンセリング基本的理解（1）
問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
③学校カウンセリング基本的理解（2）
問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
④学校カウンセリング基本的理解（3）
教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
⑤学校カウンセリング基本的理解（4）
個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
⑥学校カウンセリング基本的理解（5）
人間関係づくりのための集団カウンセリング
⑦学校カウンセリング基本的理解（6）
社会生活能力を育てる訓練法
⑧学校カウンセリング基本的理解（7）
進路指導のためのキャリアカウンセリング
⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）
無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
⑩学校カウンセリング応用（1）
不登校・ひきこもりへの対応
⑪学校カウンセリング応用（2）
いじめへの対応
⑫学校カウンセリング応用（3）
学級崩壊への対応
⑬学校カウンセリング応用（4）
暴力・非行への対応
⑭学校カウンセリング応用（5）
スクールカウンセラーと連携した指導
⑮ミニ施行カウンセリング演習
まとめ

学校教育社会学
※2011年度までの旧名称：教育制度論

【担当】伊佐　夏実
【開講】後期　水3

■講義概要
様々な教育現象・教育問題に対する社会学的な視点を紹介することで、学校がもつ社会的機能や構造について検討し、学校教育の意義や限界を教師の役割ととも考える。また、その際特に、マイノリティの視点からみた学校や教育の姿を明らかにしていきたい。

■到達目標
・教育現象に対する自身の思い込みや偏見から脱した理解ができるようになる。
・マイノリティの教育の意義や可能性について幅広い視野から議論できるようになる。

■講義方法
パワーポイントを用いた講義中心ですが、適宜ワークショップの実施やDVD等の視聴覚教材の使用を交えながら進めていきます。また、毎回コミュニケーションカードを配布し、授業に対する感想や質問などを受け付けます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時に紹介した文献や資料にはできるだけ目を通しておくこと。また、前回授業で配布されたレジュメの内容について疑問点等あれば整理しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業回数の３分２以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度や予習復習の状況によって評価する。
定期試験（50%）学期末の筆記試験

■テキスト
講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献
若槻健・西田芳正 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 2,520円

■講義計画
①ガイダンス。教育を社会学的に考えてみる。
②教育の誕生と戦後日本教育の展開
③学校選択制から考える現代の教育制度と教育改革
④格差社会の現状と教育機会の不平等
⑤子どもの貧困と教育
⑥貧困の世代間連鎖と階層の再生産
⑦学力低下と学力格差
⑧学力格差を克服する学校
⑨ニューカマー教育の現状と課題
⑩ニューカマーの子どもと日本の学校文化
⑪教育のジェンダー差
⑫学校で作られるジェンダー
⑬障害のある子どもの教育の現状と課題
⑭障害のある子どものための教育とは
⑮排除に抗する学校と教師の役割

教育の方法と技術
※2011年度までの旧名称：メディア教育論

【担当】神月　紀輔
【開講】前期　木1

■講義概要
講義は前半と後半で大きく2つにわける。
前半は、生徒が「主体的に学ぶ」ことを意図した授業設計を実践的に行う。
後半は、教育の情報化に伴うデジタル技術について概観したのち、教育現場における情報機器の活用を授業でどのように取り入れるかについて、実践的に考える。
情報機器に関する最新の情報を適宜講義の中で紹介し、また、情報機器を扱う上で重要な情報モラルについても考える時間をとりたいと考えている。

■到達目標
教育実践において、次のことができるようになることを目標に置く
・生徒の主体的な学びをデザインできる。
・生徒の効果的な情報機器の活用を支援できる。

■講義方法
講義とグループによる演習およびe-Learningをブレンドした形で行う予定である。
グループ編成は初回に行うので、できるだけ欠席のないように。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自が取得しようとする教員免許の指導法については復習しておきたい。また、最新の教育事情や情報機器の取り扱いについても、新聞やマスコミなどで情報を得ておくとさらに学習を進めることができる。
メールやWebによりコメント収集やレポート提出を行うので基本操作の復習をしておきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）自己評価、相互評価、到達度評価シートなど
小テスト（30%）2～3回､知識理解について授業内でテストを行う。
レポート（40%）学校における理想の教育方法について、メールにより提出
5回以上の欠席は単位を認定しません。

■テキスト
特になし

■参考文献
西之園 晴夫 『学習ガイドブック教育の技術と方法―チームによる問題解決のために』 ミネルヴァ書房 1,890円
教員免許取得予定の校種・教科の学習指導要領解説は随時使用する。
その他、参考文献は適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
グループ学習が中心となるので、積極的な参加が望まれます。できるだけ欠席をしないようにがんばりましょう。
メールによりレポート等の提出をするので、PCの基本的操作を復習しておいてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡先　norisuke@norisuke.net
メールで連絡はお願いします。

■講義計画
①ガイダンス、グループ分け
②教育とは、学習とは
③教育工学
④主体的に学ぶとは
⑤主体的に学ぶための授業デザイン
⑥主体的な学び相互評価
⑦情報教育とは
⑧情報の科学的理解
⑨情報モラルと人権教育、生徒指導
⑩教育における情報機器の活用
⑪情報活用の実践力
⑫情報活用の実践力を意図した授業デザイン
⑬情報活用の実践力相互評価
⑭これからの機器活用
⑮まとめと自己評価

教育課程論

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　土2

■講義概要
すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では､教育課程について生徒の視点ではなく､教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には､次のような内容に取り組む。
1．中学校･高等学校における教育課程について、実例を通して概観する。
2．学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3．戦後の教育課題と関連させながら､学習指導要領の変遷について学ぶ。
4．近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5．学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6．諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標
学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法
講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に､まず確実に復習を行い､理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法
レポート（10%）レポート未提出の場合は､単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また､レポート未提出の場合も､原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
田中耕治　他３名『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ　1,900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。
その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー:水曜日･木曜日の３講時に研究室（2号館117号室）にて。
連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画
①序論（教育をめぐる社会の状況）
②戦前の教育制度・教育改革
③戦前の教育課程について
④戦後の教育改革と生活単元学習
⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
⑥学校教育に関する法体系と教育課程
⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
⑧教育課程編成の実際
⑨高等学校における未履修問題
⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
⑫観点別評価と生徒指導要録
⑬外国の教育課程
⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ
※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）

【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、脇田　博文
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育実習に向けて

■講義概要
教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。
そのために、実習生は教師として必要最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「介護等体験」を必修と定めている。この他にも､「教職論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「学校教育社会学」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。
これら先修科目の基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが「教育実習指導Ⅰ」の目的である。

■到達目標
教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法
必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修
教育実習指導ⅡＡまたは教育実習指導ⅡＢ

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜指示を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
そ の 他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト
『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画
①はじめに（教育実習の意義）
②教育実習の準備と心得
③教員の服務
④教科指導
⑤教科外活動の指導
⑥最近の学校教育の現状と課題
⑦今後の教育改革の方向
⑧教育実習後の総括

教育実習指導ⅡA　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢA（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡA」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導ⅡB　【担当】大西　俊弘、滋野　哲秀、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢB（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡB」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育社会学（2006年度以前入学生）

【担当】森　繁男
【開講】通年　月３

■サブタイトル
（前期）教育社会学入門　（後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。
まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法
前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ
⑯教育学と社会学の接点（1）
⑰教育学と社会学の接点（2）
⑱家族・学校と教育の階層性（1）
⑲家族・学校と教育の階層性（2）
⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
㉒ディスカッション（その１）
㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
㉕メディアと青少年の文化問題（1）
㉖メディアと青少年の文化問題（2）
㉗ディスカッション（その２）
㉘教育社会学と教育実践
㉙教育社会学と教育改革
㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育社会学入門
■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。
■講義方法
主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。（なお、本科目を「教職科目」として受講するつもりの理工学部の学生は、本科目よりも別途開講されている「学校教育社会学」を受講することが望ましい。）
■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育現象の社会学的理解
■講義概要
本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。
■到達目標
社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。
■講義方法
「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。
■系統的履修
「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。
■講義計画
①教育学と社会学の接点（1）
②教育学と社会学の接点（2）
③家族・学校と教育の階層性（1）
④家族・学校と教育の階層性（2）
⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
⑦ディスカッション（その1）
⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
⑩メディアと青少年の文化問題（1）
⑪メディアと青少年の文化問題（2）
⑫ディスカッション（その2）
⑬教育社会学と教育実践
⑭教育社会学と教育改革
⑮後期のまとめ

教職実践演習（中・高）【担当】各教員（滋野　哲秀、大西　俊弘、福岡　進、脇田　博文）

【開講】後期　月3・4、火1・2、水4、木2・3、金4

■サブタイトル

4年間の総仕上げとして教職への適性を省察する

■講義概要

本授業は教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。

テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する４つの事項を中心に展開する。

【注意事項】先修要件等

ア 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBの先修要件（教育原論等）を満たしている者

イ ４年次前期までの履修カルテの入力を済ませている者

ウ 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBが不合格の場合は、本授業の単位も不認定となる。

■到達目標

将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようになる。

■講義方法

授業は、講義概要で示した4つの事項に関する講義・研究協議の他に、より実践場面を想定した課題に基づいて、学生自らがグループ討議、ロールプレーイング、発表等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、これ以外にも講演会等によって、教職に対する自覚･省察を深める。

【注意事項】授業の一環として、9月下旬に全体会を開催し、オリエンテーション、講演等を行うので必ず参加すること。日程等の掲示に注意すること。

■系統的履修

※「履修カルテ」をWeb上で必ず記入すること。（未記入者は評価対象外とする。）

■授業時間外における予・復習等の指示

『教職実践演習ノート』を使用する。毎回出される課題をその都度適切にこなすこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加度・意欲等

その他（70%）毎回だされる課題等　※下記の自由記載参照

上記の評価基準を原則にして総合的に評価を行う。併せて教職科目の修得状況、ボランティア等の学外活動及び本授業を通して、講義概要で示した４つの事項について評価する。

■テキスト

『教職実践演習ノート』（龍谷大学教職課程編）を配布する。

冊子『教育実践研究』（龍谷大学教職課程編）も参考にすること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

ア 講座の決定については予備登録を実施する。4月当初の履修登録に関する教職課程の指示に十分注意すること。

イ 意欲的に参加すること。就職活動やアルバイト等の個人的な理由による欠席は認めない。原則として３分の２以上の出席を必要とする。

■講義計画

①授業の趣旨・計画・評価及び諸注意
②教職の意義及び教員の役割
③子どもの変化と理解
④協議及びまとめ、今後のスケジュールに関する諸注意等
⑤教育実習を振り返って
⑥テーマ１：教職の意義や教員の役割、職務内容等
⑦テーマ２：子どもの変化と理解、子どもに対する責任等
⑧テーマ３：社会性や対人関係能力
⑨テーマ４：保護者・地域への対応
⑩テーマ５：教科指導力の向上①
⑪テーマ５：教科指導力の向上②
⑫テーマ６：生徒指導力の向上①
⑬テーマ６：生徒指導力の向上②
⑭テーマ７：学級経営力の向上
⑮まとめ：自己評価、アンケート等

教職論
※2011年度までの旧名称：教師論

【担当】滋野　哲秀
【開講】前期　土2

■サブタイトル
教師という仕事は何か。教師に必要な実践力とは。教職の意義や役割を考える。

■講義概要
教職についての基本事項（教職の意義、教員の役割、職務内容等）をおさえるとともに、これからの教師に求められる実践力を考えながら自らの教職観を形成し、教職への意欲を高める内容とする。

■到達目標
教職を目指す学生に対して必要となる教養を理解し、教師を目指すために必要な資質能力を理解し、教育実習等に向けた実践力を養うことを目標とする。

■講義方法
必要な資料等を配布しながら講義と演習を取り入れて授業を実施する。
毎回、講義で小レポートの提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で指示する。配布した資料等を熟読してくること。
新聞等で報道される教育関係の内容について日頃から目を通しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）受講状況を考慮する。
レポート（20%）全てのレポートを評価する。
定期試験（50%）
上記の内容を原則として総合的に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
小島 弘道ほか 『教師の条件―授業と学校をつくる力』 学文社　2,625円
新井 保幸（著）、江口 勇治（著）『教職論』 培風館　1,995円

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指すものとして相応しい態度で受講すること。

■講義計画
①教職の意義
②教員の身分と服務、研修
③教員として求められる資質・能力
④学習指導要領と教育課程
⑤教員の職務（1）学習指導と評価
⑥教員の職務（2）学級担任と学級経営
⑦教員の職務（3）生徒理解と生徒指導
⑧教員の職務（4）キャリア教育と進路指導
⑨教員の職務（5）特別支援教育
⑩教員の職務（6）保護者との連携、地域との連携
⑪教員の職務（7）特別活動と部活動
⑫教育実践事例から学ぶ（1）中学校の実践事例
⑬教育実践事例から学ぶ（2）高等学校の実践事例特別活動
⑭教育実践事例から学ぶ（3）地域、関係機関との連携
⑮まとめとふり返り。教職採用試験

情報科教育法（2009年度以前入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】通年　水１

■講義概要

前期では、情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

また、後期では、教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

前期では、下記の通りとする。

１．教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
２．情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
３．情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
４．情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

また、後期では、下記の通りである。

１．教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
２．教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平 常 点（50%）毎授業の平常点（小演習、小テスト、小レポートを含む）
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一　『情報学教育の新しいステージ』　開隆堂　2,300円

■参考文献

文部科学省　『高等学校学習指導要領解説情報編』　開隆堂　210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

①ガイダンスおよび教科教育について
②教科「情報」の概要
③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
⑤情報教育の在り方と目標
⑥小学校における情報教育
⑦中学校における情報教育
⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
⑪評価と基準（規準）
⑫学習評価
⑬授業改善
⑭年間指導計画
⑮まとめ（前半）
⑯後半のガイダンス
⑰授業内容研究１ａ：データと情報（理論）
⑱授業内容研究１ｂ：データと情報（実践）
⑲授業内容研究２ａ：アナログとディジタル（理論）
⑳授業内容研究２ｂ：アナログとディジタル（実践）
㉑授業内容研究３ａ：リアルとバーチャル（理論）
㉒授業内容研究３ｂ：リアルとバーチャル（実践）
㉓中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
㉔授業内容研究４ａ：メディア（理論）第５章
㉕授業内容研究４ｂ：メディア（実践）
㉖授業内容研究５ａ：生活への影響（理論）
㉗授業内容研究５ｂ：生活への影響
㉘総合実践研究１
㉙総合実践研究２
㉚まとめ

情報科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】前期　水1

■講義概要
情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

■到達目標
1．教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2．情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3．情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4．情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

■講義方法
基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示
該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）毎授業の平常点（小演習、小テスト、小レポートを含む）
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト
松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂　2,300円

■参考文献
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂　210円

■履修上の注意・担当者からの一言
レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画
①ガイダンスおよび教科教育について
②教科「情報」の概要
③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
⑤情報教育の在り方と目標
⑥小学校における情報教育
⑦中学校における情報教育
⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
⑪評価と基準（規準）
⑫学習評価
⑬授業改善
⑭年間指導計画
⑮まとめ

情報科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】後期　水1

■講義概要
教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標
1．教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2．教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法
基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示
該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）毎授業の平常点（小演習、小テスト、小レポートを含む）
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト
松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂　2,300円

■参考文献
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂　210円

■履修上の注意・担当者からの一言
レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画
①ガイダンスおよび教科教育について
②授業内容研究１ａ：データと情報（理論）
③授業内容研究１ｂ：データと情報（実践）
④授業内容研究２ａ：アナログとディジタル（理論）
⑤授業内容研究２ｂ：アナログとディジタル（実践）
⑥授業内容研究３ａ：リアルとバーチャル（理論）
⑦授業内容研究３ｂ：リアルとバーチャル（実践）
⑧中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
⑨授業内容研究４ａ：メディア（理論）
⑩授業内容研究４ｂ：メディア（実践）
⑪授業内容研究５ａ：生活への影響（理論）
⑫授業内容研究５ｂ：生活への影響
⑬総合実践研究１
⑭総合実践研究２
⑮まとめ

人権教育論（2007年度以降入学生）
同和教育論（2006年度以前入学生）

【担当】岸　衛
【開講】前期　水4

■サブタイトル
「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要
差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標
「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法
基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修
人権論Ａ・Ｂ（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示
自分の課題･テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）出席点・コミュニケーション・カード提出
レポート（35%）各テーマのまとめ・教案の提出
定期試験（50%）全体を踏まえて提出

■テキスト
岸　衛著『自分・差別・世間第２版』解放研究所しが　700円

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②「青い目・茶色い目」
③Black　is　beautiful
④自分を見つめる
⑤部落差別問題とは何か
⑥部落の何を差別するのか
⑦「世間」とは何か
私たちは何を気にしているのか?
⑧日本と朝鮮の出会い・歴史
⑨明治以降の日本と朝鮮
⑩障害者差別問題を考える視点
⑪日本の「女性と男性」の歴史
性差別とは何か
⑫大学の中の性差別・セクシャルハラスメントを語る・性差別を感じるとき
⑬「いじめ」を考える
⑭「いじめ」を考える
⑮アイデンティティと差別

教職課程

生徒指導論

【担当】脇田　博文
【開講】後期　金1

■サブタイトル
学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要
急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにする必要がある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。
本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論･発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修
「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示
課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（60%）学習内容の理解､教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が３分の１を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①はじめに
②学校及び青少年の現状と課題 1
③学校及び青少年の現状と課題 2
④生徒指導の意義と役割 1
⑤生徒指導の意義と役割　2
⑥生徒理解 1
⑦生徒理解 2
⑧生徒理解 3
⑨問題行動
⑩学級（授業）崩壊
⑪いじめ 1
⑫いじめ 2
⑬不登校
⑭ガイダンス（進路指導）
⑮まとめ

道徳教育指導法

【担当】奥村　光太郎
【開講】後期　土1

■サブタイトル
道徳教育の理論と実践

■講義概要
本科目では道徳教育の理論と実践について講義を行う。そして道徳教育の指導法を総合的に理解することを目的とする。「道徳」は学習指導要領に位置づけられた領域であり、小学校と中学校における年間配当時間は３５時間（小１は３４時間）と定められている。従って、ここで学ぶ学生諸君もこれまで数百時間に及ぶ「道徳の時間」を経験してきたはずである。ところで、皆さんの記憶に残っている「道徳の時間」とは一体どのようなものだっただろうか。素晴らしい感動の時間であったという諸君は幸せだが、中には殆ど覚えていないという人もいるかもしれない。実は現在の学校現場でも道徳が「学活」や「担任裁量」に切り替えられて不十分である例が少なくない。このような現状を改善すべきだということもあって道徳の教科化が検討されているのである。このことは、道徳教育に関する理論を学び、実践力を身に付けた教員が今後益々必要となってくるということを意味している。俗な言い方をすれば、今ほど「道徳ができる先生」が求められている時はないのである。諸君には道徳教育の即戦力として活躍していただきたい。それができるだけの力量を身に付けてもらうことを目指して、理論と実践の両面から講義を進めていきたいと考えている。

■到達目標
道徳教育に関する様々な理論や実践を理解する。そして新聞記事やテレビ映像、ネット情報などから目の前にいる生徒に適した道徳の素材を見つけ出す。その素材を生徒の発達段階に応じたスタイルにアレンジして「学習指導案」「ワークシート」「予想される生徒の反応が記載されたワークシート記入例」を作成する。それをもとに実際に授業を行い、改善点を見出すことのできる能力を身に付ける。

■講義方法
教科書や配布プリントを利用して講義を行う。時には映像資料なども使用する。講義終了時に簡単なレポート（感想程度）を提出してもらう。
※レポート（感想）は次回以降の講義内容にも反映させていく。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書や道徳に関する書物等を読み、道徳に関する知識と理解を理論と実践の両面から深めることを心がけてほしい。道徳教育に関する素材はどこにでも転がっている。諸君が「これは」と思うものがあれば、スクラップしたりメモをとっておいたりしてほしい。そしてそれを使ってどのように授業を行っていくかをイメージすることを期待する。（その姿勢が道徳教育を進めていく上での能力向上につながるのである。）

■成績評価の方法
平 常 点（50%）「授業時数の３分の２以上の出席者」のみを評価対象とし、授業態度やレポート（感想）の内容によって評価する。
定期試験（50%）「自分が見つけ出した資料を使って道徳の学習指導案を作成できる」という点を評価基準とする。

■テキスト
文部科学省編　『中学校学習指導要領解説（道徳）』　日本文教出版　139円
担当者からも適宜プリントを配布する。散逸を防止するため、「Ａ４タテ」の２穴ファイル（紙製でよい）を用意することが望ましい。なお、テキストは文部科学省のＨＰからも無償でダウンロードできる。

■参考文献
道徳に関する資料は何でも参考文献になる。小・中学生時代に使用した「道徳副読本」や「心のノート」も立派な参考文献である。参考文献やネット等で閲覧した指導案等の資料をこまめにファイルしておくことも大いに役に立つ。担当者は「モラルジレンマの道徳教育」を専門にしており、最近関わった専門書としては「モラルジレンマ教材でする白熱討論の道徳授業=中学校・高等学校編　￥2,373　明治図書発行」がある。機会があれば図書館等で一読しておくことをおすすめする。（購入する必要はない。）
なお、担当者の基本的なスタンスを知りたい諸君は「奥村光太郎　道徳」「奥村光太郎　日本銀行」で検索してほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
担当者は、道徳に関する知識がほとんどない人でも教員採用と同時に「道徳係」の分掌を受け持つことができるだけの力量を身につけてほしいと願っている。「人材不足」の状況にある道徳教育の現場に「活」を入れてやるという意気込みをもって受講してほしい。

■講義計画
①道徳教育とは何か。これまでの道徳教育の歴史をふり返る。
②学校現場における道徳教育の現状を分析する。
③教科化の流れなど、道徳教育をめぐる社会的情勢を分析する。
④道徳教育の方法について考える。①映像を利用した授業法について
⑤道徳教育の方法について考える。②副読本を利用した授業法について
⑥道徳教育の方法について考える 。 ③オリジナル資料を利用した授業法について
⑦道徳教育の方法について考える。④ＮＨＫ道徳ドキュメントを利用した授業法について
⑧モラルジレンマの道徳教育とは何か①コールバーグの理論を学ぶ
⑨モラルジレンマの道徳教育とは何か②モラルジレンマの授業スタイルタイプⅠ
⑩モラルジレンマの道徳教育とは何か③モラルジレンマの授業スタイルタイプⅡ
⑪「心のノート」を活用した道徳教育について
⑫道徳の時間を「要」とした道徳教育とは何か。（すべての「教科」「領域」との関係）
⑬道徳指導案作成演習
⑭道徳授業の実際
⑮総括及び定期試験の説明

特別活動論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　金1

■サブタイトル
もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割

■講義概要
学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。
本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示
随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20%）授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40%）学期末の課題の達成度を評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①特別活動の意義と特性　1
②特別活動の意義と特性　2
③特別活動の意義と特性　3
④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　1
⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　2
⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　3
⑦教育課程としての特別活動
⑧学級活動の意義と運営
⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
⑩特別活動の指導計画と工夫 1
⑪特別活動の指導計画と工夫 2
⑫特別活動の指導計画と工夫 3
⑬特別活動の指導計画と工夫 4
⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
⑮まとめ

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
キ	教化法	季平　博昭／赤井　智顕	通年	水５	207
コ	勤式	熊本　義秀／大八木　正雄／土岐　好道	通年	土４	208
シ	宗教学概論	古賀　和則	通年	月５	209
	真宗学概論	中平　了悟	通年	月４	210
	真宗史	仲尾　孝誠	通年	土１	210
ニ	日本仏教史	下間　一頼	通年	火４	211
フ	仏教学概論	道元　徹心	通年	水３	211

教化法

【担当】季平　博昭、赤井　智顕
【開講】通年　水５

■サブタイトル
浄土真宗における布教伝道－理論の考究と実践の習得－

■講義概要
宗教においてはその教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。
特に浄土真宗は聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本講義ではその布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、明らかに考究していく。しかし単に理論を学ぶだけでは、実際に布教伝道することは難しい。現在の布教現場にあっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮に入れながら、理論面と共に実践的側面の習得を目指す。

■到達目標
浄土真宗本願寺派の僧侶（教師）として重要な布教伝道について、理論と実践を習得することを目標とする。

■講義方法
複数の講師によるチェーンレクチャー形式をもって講義を進める。
布教伝道の理論的側面と、実践的側面の具体的な課題について口述をもって講義する。
実践的課題の習得の為、話し合い法座の実習や、布教実演と相互研鑽も取り入れる。

■系統的履修
真宗学に関する諸講義。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容の予習・復習、並びに積極的な情報収集。

■成績評価の方法
平常点（40%）出席状況、受講態度などから評価する。
その他（60%）チェーンレクチャーの為、各担当教員からの指示による課題をもって評価する。

■テキスト
テキストの依用については各担当教員から指示する。

■参考文献
講義時に各担当教員から適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
布教伝道の現場に即した、実践的側面を具体的に取り上げるので、自らの課題として積極的・主体的に取り組んで欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に各担当教員から案内する。

■講義計画
①【教化伝道の理論について】はじめに　本講義の目的と進め方
②【教化伝道の理論について】宗教とは何か
③【教化伝道の理論について】人は何のために生きるのか
④【教化伝道の理論について】苦悩について
⑤【教化伝道の理論について】苦悩はどうすれば楽になるのか
⑥【教化伝道の理論について】浄土真宗とは何か
⑦【教化伝道の理論について】問いから浄土真宗を考える
⑧【教化伝道の理論について】どのような関わりが人を支えるのか
⑨【教化伝道の理論について】布教～教えを他者に語ること～について
⑩【教化伝道の理論について】どのような僧侶になりたいか
⑪【教化伝道の理論について】描く理想像を実現するにはどうするのか
⑫【教化伝道の理論について】布教における基本姿勢
⑬【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割①
⑭【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割②
⑮【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割③
⑯【宗門の教化伝道について】同朋運動
⑰【宗門の教化伝道について】門信徒会運動
⑱【宗門の教化伝道について】宗門の組織教化
⑲【宗門の教化伝道について】話し合い法座①
⑳【宗門の教化伝道について】話し合い法座②
㉑【宗門の教化伝道について】話し合い法座③
㉒【教化伝道の実践について】布教伝道の理論①
㉓【教化伝道の実践について】布教伝道の理論②
㉔【教化伝道の実践について】布教伝道の理論③
㉕【教化伝道の実践について】法話布教の作法
㉖【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽①
㉗【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽②
㉘【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽③
㉙【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽④
㉚【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽⑤

勤式

【担当】熊本　義秀、大八木　正雄、土岐　好道
【開講】通年　土4

■サブタイトル
勤式とは何か。なぜ荘厳をするのか。僧侶とは。

■講義概要
浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上で必須の一つが勤式である。本講義では寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等の実演指導、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学習する。

■到達目標
教師教習に必要なことを身につける。

■講義方法
作法・荘厳の講義及び声明の実演。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）
定期試験（40%）講義及び法式規範の内容から出題

■テキスト
勤式指導所『浄土真宗本願寺派　勤式集』本願寺出版社　5,250円
勤式指導所『浄土真宗本願寺派　法式規範　増補版』本願寺出版社　3,570円
勤式指導所『浄土真宗本願寺派　葬儀規範』本願寺出版社　840円
勤式指導所『浄土真宗本願寺派　葬儀勤行集』本願寺出版社　1,050円
改譜正信偈和讃（小本和讃）[本願寺免物￥2,300.-]、御伝鈔唱読用[永田文昌堂￥682.-]も必要となります
法式規範は増補版（表紙朱色）の内容から改定となっていますので、なるべく最新版（青色表紙）を用意してください。

■参考文献
特になし

■講義計画
①勤式を学ぶ心得と年間授業概要
②荘厳について
③基本作法（合掌礼拝等）について　　領解文
④正信偈の出拠・歴史等　読誦の説明
⑤正信偈　偈文（草譜・行譜）
⑥正信偈　和讃・念佛・回向
⑦正信偈　総括
⑧御文章（聖人一流・末代無智・信心獲得）
⑨佛事勤行　節板の打法
⑩葬儀規範
⑪葬場勤行1
⑫葬場勤行2、御文章（白骨章・大聖世尊）
⑬正信偈　和讃（道光明朗・光明月日）
⑭復習
⑮前期をふりかえって
⑯音楽理論・本願寺派の声明
⑰無量寿経作法１
⑱無量寿経作法２
⑲阿弥陀経作法
⑳大師影供作法
㉑五会念仏作法
㉒初夜礼讃１
㉓初夜礼讃２
㉔読経作法（先請伽陀・讃）
㉕恒例法要
㉖本願寺の報恩講
㉗御伝鈔
㉘作法と衣体
㉙復習
㉚まとめ

宗教学概論

【担当】古賀　和則
【開講】通年　月5

■サブタイトル
宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要
広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞りたどります。

■到達目標
宗教研究の概要の理解。

■講義方法
講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修
「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）前期、後期各１回以上のミニシンポ参加。＆準備
レポート（80%）前期まとめレポート(40点)、後期まとめレポート（40点）

■テキスト
特になし

■参考文献
上田・柳川編　『宗教学のすすめ』　筑摩書房
石田・薗田編　『宗教学を学ぶ人のために』　世界思想社
井上・月本・星野編　『宗教学を学ぶ』　有斐閣
脇本著　『宗教学入門』　講談社
武・宮庄・高田編　『宗教学の現在』　三和書房
細谷・藤田編　『新しい教養のすすめ　宗教学』　昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言
宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ること。

■講義計画
①ブリーフィング　宗教学の成立：成立の背景と分野
②宗教の規定
③科学と宗教
④宗教史Ⅰ
⑤ミニシンポ「スピリテュアル　パワー」
⑥宗教史Ⅱ
⑦宗教史Ⅲ
⑧宗教現象学Ⅰ
⑨宗教現象学Ⅱ
⑩宗教社会学Ⅰ
⑪宗教社会学Ⅱ
⑫宗教社会学Ⅲ①
⑬宗教社会学Ⅲ②
⑭宗教社会学Ⅳ
⑮宗教社会学Ⅴ
⑯宗教心理学Ⅰ
⑰宗教心理学Ⅱ
⑱宗教心理学Ⅲ
⑲宗教心理学Ⅳ
⑳宗教心理学Ⅴ
㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
㉒宗教生理学
㉓宗教人類学Ⅰ
㉔宗教人類学Ⅱ
㉕宗教人類学Ⅲ
㉖宗教地理学
㉗宗教民俗学Ⅰ
㉘宗教民俗学Ⅱ
㉙宗教民俗学Ⅲ
㉚まとめ

真宗学概論

【担当】中平　了悟
【開講】通年　月４

■講義概要
浄土真宗の宗祖･親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。
釈尊によって説かれた経典、およびインド･中国･日本の諸師（高僧）による経典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。
本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標
浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法
講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する
定期試験（70%）期末のテストを予定している。
そ の 他（20%）場合によってはレポートを課す。
受講者数によっては、課題・レポートを課す場合もある。その際は講義時に指示する。
規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト
『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』　本願寺出版社
村上速水　『親鸞教義とその背景』　永田文昌堂
この他、講義時に指示する。

■参考文献
講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容･方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。
◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に連絡方法などについては説明する。☆また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画
①オリエンテーション
②宗教を学ぶ（研究する）ということについて
③仏教についての概説
④浄土真宗とはなにか
⑤親鸞聖人の生涯と思想
⑥親鸞聖人の思想背景―浄土三部経
⑦前期復習・後期オリエンテーション
⑧親鸞聖人の思想背景－七高僧の思想
⑨親鸞聖人の思想と真宗の教義
⑩総括・その他

真宗史

【担当】仲尾　孝誠
【開講】通年　土１

教本
師願
課寺
程派

■サブタイトル
浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要
親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。
浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標
浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法
テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内で指示する

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（10%）
定期試験（40%）

■テキスト
福間光超・堀大慈　『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）
柏原祐泉　『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット９）』　解放出版社

■参考文献
財・同和教育振興会　『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』　本願寺同朋センター
『親鸞』
他は講義の際適宜紹介する

■講義計画
①浄土真宗の教勢
②日本の仏教宗派
③日本への仏教伝来
④日本への仏教伝来
⑤日本仏教の差別体質
⑥日本仏教の差別体質
⑦法然とその教団
⑧法然とその教団
⑨親鸞とその教団
⑩親鸞とその教団
⑪親鸞とその教団
⑫大谷廟堂と本願寺
⑬大谷廟堂と本願寺
⑭蓮如と本願寺教団
⑮蓮如と本願寺教団
⑯一向一揆
⑰一向一揆
⑱近世本願寺教団の形成
⑲近世本願寺教団の形成
⑳近世本願寺教団の形成
㉑近世教学と信仰
㉒近世教学と信仰
㉓維新政治と真宗
㉔維新政治と真宗
㉕維新政治と真宗
㉖近代天皇制国家と教団
㉗近代天皇制国家と教団
㉘近代天皇制国家と教団
㉙戦後における真宗の動向　－ 部落問題・靖国問題
㉚まとめ

日本仏教史

【担当】下間　一頼
【開講】通年　火４

■サブタイトル
日本仏教の受容と変容
■講義概要
外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。
本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。
■到達目標
高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。
ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。
■講義方法
講義形式で授業を行なう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（10%）
定期試験（80%）
■テキスト
特になし
■参考文献
二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂　2,400円
その他、講義中に紹介する。

■講義計画
①～③これから学ぶ仏教
④～⑥仏教伝来
⑦～⑮古代の仏教①
⑯～⑳古代の仏教②
㉑～㉕1中世の仏教
㉖～㉗近世の仏教
㉘～㉙近代の仏教
㉚日本仏教の課題

仏教学概論

【担当】道元　徹心
【開講】通年　水３

■講義概要
仏教の教理について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。
テキストに用いて講義する。先ず仏教が「真理の宗教」とされる理由を説明し、仏教が説く縁起の思想について講義する。そして、大乗仏教が興起し、中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義したい。また、現代社会における仏教思想の持つ意義についても考察を試みたい。
■到達目標
本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。
■講義方法
基本的にテキストに用いて板書しながら講義し、視聴覚教材を随時織り交ぜて説明する。また、必要に応じてプリントを配布する。
■系統的履修
必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読む。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）
■テキスト
芹川　博通他 『仏教思想へのいざない』 北樹出版　2,200円
■参考文献
講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養っていってほしい。
■講義計画
①イントロダクション
②仏教とは何か
③仏教の根本原理
④縁起の思想（1）
⑤縁起の思想（2）
⑥大乗仏教の起こり
⑦大乗仏教の思想（1）
⑧大乗仏教の思想（2）
⑨大乗経典
⑩中国仏教の思想（1）
⑪中国仏教の思想（2）
⑫日本仏教の特徴（聖徳太子）
⑬日本仏教の特徴（奈良仏教）
⑭日本仏教の特徴（平安仏教）
⑮日本仏教の特徴（鎌倉仏教）
⑯現代社会と仏教
⑰まとめ

博物館学芸員課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
キ	教育学概論	福山　泰子	前期（前半）	月５	215
シ	視聴覚教育メディア論	曽我　麻佐子	後期（前半）	火５	215
	生涯学習概論	福山　泰子	後期（前半）	水５	216
	生涯学習概論.	八木　隆明	前期	土４	216
ハ	博物館概論	浦西　勉	前期	土３	217
	博物館教育論	烏賀陽　梨沙	前期	火５	218
	博物館経営論	石川　知彦	前期	金５	219
	博物館経営論	福山　泰子	前期（前半）	火５	219
	博物館資料論	北村　　高／福山　泰子／遊磨　正秀	後期	土３	220
	博物館資料保存論	北村　　高／福山　泰子／横田　岳人	後期	土４	220
	博物館実習	遊磨　正秀／横田　岳人	通年	土５	221
	博物館情報論	曽我　麻佐子	後期（後半）	火５	221
	博物館情報・メディア論	曽我　麻佐子	後期	火５	222
	博物館展示論	松岡　久美子	後期	金５	222

教育学概論

【担当】福山　泰子
【開講】前前　月5

■講義概要
「教育学概論」では、子どもを対象とした教育学の視点から学校以外の教育の場としての博物館・美術館の教育的な可能性と役割を考える。
本講義では、教育現象を説明する基本的な概念や理論を整理した上、教育の目的・内容・方法など教育の基礎的・基本的な知識を提供する。さらに、今日の教育的課題や博物館および美術館で現在取り組まれている教育プログラムを取り上げ、博物館・美術館の教育的意義を再考する。

■到達目標
1．教育の基礎的・基本的な概念や理論を理解する。
2．今日の教育的課題と学校以外の教育の場（博物館･美術館）の教育的可能性や役割を考える。

■講義方法
・多様な教育方法を体験する機会を設ける
・クラスでのディスカッションなどの機会を設ける
・実地見学の機会を設ける

■系統的履修
生涯学習概論

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示

■成績評価の方法
その他（100%）出席とレポート（提出物）などの平常点と、小テストの総合評価
出席重視（授業内の発表やワークへの参加）

■テキスト
講義時に指示

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
・授業の進み具合により、講義内容を変更することがある。
・校外授業（実地見学）あり〈重要〉
・各自のフィールドワークを奨励する。

■講義計画
①イントロダクション
②「教育の目的」の変遷と多様化
③学校教育と博物館教育
④教育の方法と技術（実践事例①）
⑤教育の方法と技術（実践事例②）
⑥教育の評価
⑦まとめ・小テスト

視聴覚教育メディア論

【担当】曽我　麻佐子
【開講】後前　火5

■サブタイトル
PowerPointを用いたプレゼンテーション作成

■講義概要
Microsoft PowerPointを用いてプレゼンテーションするための方法を概説する。受講生は各自でプレゼンテーションの素材となる資料を収集し、講義中にプレゼンテーションを作成する。最終講義日に一人ずつ発表する。

■到達目標
PowerPointを用いて、写真、図表、アニメーション効果などを取り入れたプレゼンテーションができるようになる。

■講義方法
情報処理実習室での作業を中心とする。
素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修
博物館情報論（曽我・後期後半・火５）

■授業時間外における予・復習等の指示
テーマ選定後、素材となる資料の収集を各自行っておくこと。

■成績評価の方法
平常点（40%）出席
その他（60%）プレゼンテーション
最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
プレゼンテーションに用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画
①オリエンテーション・テーマ設定
②資料収集と文書作成
③PowerPoint の使い方1（基礎）
④PowerPoint の使い方2（画像）
⑤PowerPoint の使い方3（アニメーション）
⑥プレゼンテーションのコツ
⑦プレゼンテーション

生涯学習概論

【担当】福山　泰子
【開講】後前　水５

■サブタイトル
生涯学習概論
■講義概要
生涯学習とは何か、人々が生涯にわたって学習する意味などについて説明を行い、一人ひとりが自己の生涯学習への取り組みについての理解を深めるための学習を行う。また博物館や美術館と生涯学習の関わりを考察する。
■到達目標
１．生涯学習の基礎的・基本的な概念や理論を理解する。
２．博物館や美術館が担う生涯学習について知識を得る。
■講義方法
基本的には講義形式で行う。
■系統的履修
学芸員課程関係科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席及び小テストで計算する
定期試験（60%）講義中の配布資料、ノート等のみ持ち込み可。
■テキスト
必要に応じてプリントを配布する。
■参考文献
授業で示す。
■講義計画
①生涯学習を学ぶ意義、学習方法の説明
②学習の概念と生涯学習
③生涯学習の概念
④生涯学習の歴史と将来の展望
⑤博物館と生涯学習
⑥美術館と生涯学習（1）
⑦美術館と生涯学習（2）

生涯学習概論.

【担当】八木　隆明
【開講】前期　土４

■サブタイトル
地域社会をつくる社会教育・生涯学習
■講義概要
1965年ユネスコのポール・ラングランが生涯教育の理念を提唱して以来、世界各国で生涯教育についての関心が高まり自国の教育制度改革の手法として生涯教育政策が取り組まれてきた。
わが国では、学校教育以外の教育として社会教育が長く取り組まれてきたが、生涯学習政策を進める中でこれまでの学校教育や社会教育のあり方を見直し、生涯学習社会の中での学校教育・社会教育のあり方が検討されてきた。
この授業では、これからの社会での生涯学習（生涯教育）とは何か、ユネスコの生涯教育理念とは、人々が生涯にわたって学習する意味、国や自治体が進める生涯学習振興策、民間教育事業者やNPOが進める生涯学習事業など、そしてその生涯学習を進める中核的な役割を果たす社会教育について、社会教育の意義や役割そして社会教育施設（公民館・図書館・博物館ほか）が住民の学習活動を支援するためにこれまでから取り組んできた活動とこれから果たすべき役割、社会教育指導者などについて説明を行い、理解を深めるための内容を講義する。
■講義方法
講義形式を主として進めるが、DVD利用や社会教育施設でボランティア活動をしている人を招き体験を聞くなども入れる。また授業に入る前に、社会教育・生涯学習に関連する直近の情報（新聞記事）を紹介して、社会教育・生涯学習活動が身近なものであることの理解を深めるようにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
日頃から社会教育や生涯学習に関する新聞記事を収集し、地域の中でどのような学習活動がされているかを把握するとともに、社会教育施設にも積極的に訪問しどのような教育活動がされているかを調査研究し、授業内容とリンクしながら学習が進められるように努めること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）受講態度を評価する。
小テスト（30%）社会教育施設・生涯学習施設訪問調査報告書や指示した資料の提出状況とその内容を評価する
レポート（40%）レポート提出を課し、その内容を評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
国生壽・八木隆明・吉富啓一郎編著 『新時代の社会教育と生涯学習』 学文社 2400円
国生寿・吉富啓一郎編著 『社会教育と現代的課題の学習』 あいり出版 2500円
上杉孝實著 『生涯学習・社会教育の歴史的展開』 松籟社 2400円
その他、講義の進行に応じて紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
「社会教育」「生涯学習」という新しい概念を学ぶため、毎回出席をし、体系的にとらえられるように努めること。
■講義計画
①オリエンテーション　生涯教育・社会教育・生涯学習
②生涯教育論・生涯学習論の提唱と展開～ユネスコ・OECD・日本～
③生涯学習体系への移行（家庭教育・学校教育・社会教育の役割）
④国・地方公共団体が進める生涯学習（関連）振興策について
⑤生涯学習を進めるための法律（社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法など）について
⑥生涯学習行政の中核としての社会教育行政について
⑦世界の生涯教育・生涯学習について
⑧社会教育学習内容と学習方法（学習相談）について
⑨住民の学習を支援する社会教育施設　１　～公民館～
⑩住民の学習を支援する社会教育施設　２　～図書館～
⑪住民の学習を支援する社会教育施設　３　～博物館～
⑫社会教育施設（美術館）におけるボランティア活動
⑬民間教育事業者が進める生涯学習事業について
⑭大学が取り組む生涯学習事業（大学公開講座など）について
⑮生涯学習社会の構築（学習支援体制の確立・学習成果の評価と活用）について　まとめ

博物館概論

【担当】浦西　勉
【開講】前期　土3

■サブタイトル
博物館の社会的役割と資料（文化財）の基礎研究

■講義概要
博物館の存立する根拠は「博物館法」によるところが多いが、このことをふまえて次のことを学ぶ。①博物館の歴史、②博物館の形態、③博物館の組織、④博物館の建物、⑤博物館の機能（研究機関、教育機関、保存機関）、⑥学芸員の仕事、⑦博物館と社会との関係などを講義して学芸員の基礎的知識の習得を目指す。また、資料（文化財）に関する基本的な様々な考えかを紹介し資料について思弁的な態度を涵養することを目指す。

■講義方法
講義　龍谷ミュージアムを活用する。

■系統的履修
文化財科学･文化財実習･文化財概論･博物館各論･の他古文献･古典籍・古文書学・美術史・考古学・民俗学など

■授業時間外における予・復習等の指示
龍谷ミュージアムの他、各地の博物館の見学を数多くするとよい。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席
レポート（10%）博物館見学
定期試験（60%）筆記

■テキスト
コピー

■参考文献
水嶋英治訳 『博物館への招待』 白水社　951円
その都度文献は紹介する

■オフィスアワー・教員への連絡方法
火曜日３講時４講時と金曜日４講時

■講義計画
①博物館法・各地の博物館について
②日本の博物館の歴史
③世界の博物館・ユネスコ
④多様な博物館とその組織
⑤博物館学芸員の仕事内容と役割（1）
⑥博物館学芸員の仕事内容と役割（2）
⑦博物館学芸員の仕事内容と役割（3）
⑧展示から見た博物館と生涯学習
⑨博物館の講座
⑩博物館資料の整理・保存・修復
⑪国立博物館について
⑫地域の博物館の郷土博物館
⑬美術館・文学館・自然博物館
⑭市民・行政・大学・博物館協会
⑮学芸員の学ぶべきこととは

博物館教育論

【担当】烏賀陽　梨沙
【開講】前期　火5

■サブタイトル
Museum Education

■講義概要
今日、社会の国際化、高度情報化、それにともなう人々の学習欲求の多様化・高度化に対応するため、博物館は従来の機能に加え、社会教育機関としてさらに積極的な役割を果たすことが期待されている。今後、教育的機能はより中核的な機能として位置付けられ、博物館教育--教育普及活動--はますます重要となっていく。学芸員は今、新たな資力と見識が必要とされている。
本講義では、博物館の「教育的使命」の重要性を認識し、博物館教育の基本的な理念と意義を概観する。次いで博物館における学習の特性、関連する諸学習理論を理解し、目的や対象にあった教育活動の具体的方法の基礎を学ぶ。また、日本や欧米の具体例を参考に、実践への応用・展開を考察する。教育普及活動を通し、博物館は社会のニーズにいかに応えることができるのか--双方向性あるコミュニケーション--のあり方を考える。
大学博物館（龍谷ミュージアム）の広義の教育的役割についても考察する。
（シラバスの内容：無断転載・転用を禁止します）

■講義方法
講義（パワーポイントなど視聴覚メディア使用）。グループ討論を行う場合あり。

■系統的履修
博物館概論、アート・マネジメント（国際文化学部）

■授業時間外における予・復習等の指示
・レジュメやテキストなどで予習・復習しておくこと。
・個人のフィールドワークとして、博物館や美術館を訪問することを奨励する。
（例：展覧会鑑賞、講演会やワークショップなどの教育プログラムへの参加等）

■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席
小テスト（10%）講義内容の理解度
レポート（20%）
定期試験（60%）筆記試験
平常点、中間レポート、小テスト、定期試験の総合評価とする。出席は重要。小テストとして授業内容に関したテストを2回程度行う。課題にそったレポートを提出（講義時に詳細指示）。総合評価であるが、定期試験は重要なポイントとなる。

■テキスト
講義時に別途指示。テキストと主にレジュメ使用。

■参考文献
大堀哲　他　『博物館展示・教育論』　樹村房
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編　『新時代の博物館学』　芙蓉書房
神野善治　他　『ミュージアムと生涯学習』　武蔵野美術大学
その他、講義時に別途指示（和書・洋書ともに）

■履修上の注意・担当者からの一言
・講義計画の細部と進度で、受講者の理解度などにより、講義計画を変更することがある。
（受講生の人数・状況によっては，授業運営方法を変更することがある。）
・出席重要。新しい学問なので授業に出席し学んでいくことが大切である。
・講義は厳しいので、学習意欲のある熱心な授業参加を望みます。

■講義計画
①イントロダクション
②1．博物館教育の意義と理念
・博物館教育の目的・意義Ⅰ
・博物館の存在意義（理念）と教育的使命
③・博物館教育の目的・意義Ⅱ
・博物館教育とは：理念・定義
・プログラム・活動の概観
④・博物館教育の目的・意義Ⅲ：博物館教育の源流
ａ．日本の博物館教育の成立ちと欧米との比較
ｂ．大学博物館の意義
⑤2．博物館の教育普及活動の方針と評価
⑥3．博物館の利用と学び
・龍谷ミュージアムと博物館教育の実際
⑦・博物館での学びの特性Ⅰ：学習理論　～博物館全般～
⑧・博物館で学びの特性Ⅱ：学習理論　～美術館　他～
⑨4．博物館教育の実際（形態と手法）
・博物館教育活動の手法Ⅰ：展示（展示方法）、自己学習教材
⑩・博物館教育活動の手法Ⅱ：子ども・ファミリー
⑪・博物館教育活動の手法Ⅲ：学校連携
～博物館が学校教育と連携する意義～
⑫・博物館教育活動の手法Ⅳ：地域連携、地域共存
⑬・博物館教育活動の手法Ⅴ：その他：青少年、障害者とその家族
⑭・博物館教育活動の企画と実施の流れ：具体的手順とフォーマット
⑮5．まとめ：博物館教育の今後の課題と展望：ミュージアム・リテラシーの育成、ネットワークの構築、大学博物館の教育的役割の可能性

博物館経営論

【担当】石川　知彦
【開講】前期　金5

■サブタイトル
博物館施設の理念と管理・運営
■講義概要
博物館施設が一般市民にとって身近な存在となっている現在、それぞれの施設が存立するための理念はどのようにして定められているのか、そしてその理念に基づいて、具体的にどのように管理・運営されているのかを学ぶ。そのために、博物館施設の経営のあり方、運営組織、管理体制、運営予算を学び、その上で実際に龍谷ミュージアムではどのように管理・運営がなされているかを知る。限られた予算の中で、学芸員はいかに日々の業務をこなし、展覧会計画を立て、予算執行を行っているのかを知り、また入館者へのサービス、展覧会の増収に向けてどのように努力すべきかを考えてもらう。また一方で、博物館施設と地域の連携、大学間の横の繋がり、施設間のネットワークの構築についても学ぶ。
■講義方法
パワーポイントを併用しながらの講義。また現地見学を織り込む。
■授業時間外における予・復習等の指示
龍谷ミュージアムはもとより、多くの博物館施設を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（20%）
定期試験（40%）
最終の講義の時間に試験を行う。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
実習や現地見学の都合などで、講義内容を変更することがある。
■講義計画
①博物館経営とは何か
②博物館施設の理念と存立意義
③博物館の運営組織
④博物館施設の設備と管理体制
⑤現地見学
⑥博物館施設の運営予算
⑦博物館施設の展覧会予算
⑧特別展の企画・立案
⑨観覧者へのサービスと増収努力
⑩現地見学
⑪博物館施設とメディア
⑫博物館施設と地域社会
⑬博物館施設のネットワーク
⑭博物館施設と友の会、ボランティア、学会
⑮筆記試験

博物館経営論

【担当】福山　泰子
【開講】前前　火5

■講義概要
近年、博物館は生涯教育施設として社会における重要性を認識されるだけでなく、カフェやレストラン、ショップを備えたアミューズメントの場としても幅広い年齢層の利用者が訪れるところとなった。一方で、昨今の経済不況による国や地方自治体の財政難は、予算削減など博物館経営それ自体に大きな影響を与えている。一般に非営利組織が殆どの博物館において、経営とは何か、国や地方自治体の制度の違い、また公益法人のケースなどを概観し、ミュージアムマーケティングに基づく経営、またその経営に対する評価システムについて学ぶ。また、博物館施設の運営組織や設備管理体制を実際の事例を交えて学び、利用者をめぐる情報や教育、サービスのあり方を考える。以上のように、多角的に博物館経営の実際を取り上げ、今後の博物館経営がどうあるべきかを検討する。
■到達目標
非営利組織の博物館における経営とは何か、その方法からマーケティング、経営評価を学び、博物館の組織や広報、財政、管理運営、利用者にむけた多様なサービスに関する基本的な知識を獲得する。
■講義方法
各回、資料を配布する。また実地見学も予定している。
■授業時間外における予・復習等の指示
日頃から博物館や美術館等へ足をなるべく運び、興味や問題意識をもつようにしてください。
■成績評価の方法
平 常 点（60%）
レポート（40%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
実習の都合などで講義内容を変更する事がある。
参考文献は各回に応じて提示する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
初回、授業時に指示する。
■講義計画
①博物館経営とは何か　―社会における博物館の位置―
②ミュージアム・マーケティングと経営
③博物館の行財政制度
④博物館の運営組織と設備管理体制
⑤利用者をめぐる博物館の取り組み
⑥地域における博物館の意義
⑦博物館経営の実際とこれから

博物館資料論

【担当】北村　高、福山　泰子、遊磨　正秀
【開講】後期　土３

■サブタイトル
博物館で取り扱う資料について
■講義概要
３名の講師によるチェーンレクチャーであるので、人文系資料や自然系資料に関して何があるのかを講義する。さらに、龍谷ミュージアムでの講義も実施する。
■講義方法
３名の講師が、５時間づつ担当して、講義する。
■系統的履修
博物館学概論などと関連する講義である。学芸員課程では必修となる。
■授業時間外における予・復習等の指示
復習が必要である。
■成績評価の方法
その他（100%）３名の講師の協議により決定する。
■テキスト
プリント配布などで実施する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
博物館学芸員課程の必修講義であるので、欠席は許されない。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了時に受け付ける。

■講義計画
①博物館で扱う資料とは
②軸物、巻物、
③書物（写本）
④印刷
⑤理工系一次資料
⑥理工系二次資料
⑦生きた資料
⑧理工系資料の収集と法規制
⑨日本画と西洋画
⑩額と軸
⑪日本および欧米における文化財資料の収集
⑫文化財資料の材質・技法および員数
⑬資料展示における光と照明
⑭文化財資料にみられる生物被害ー保存修復ー
⑮災害と対策
⑯博物館資料の展示の実例

博物館資料保存論

【担当】北村　高、福山　泰子、横田　岳人
【開講】後期　土４

■サブタイトル
博物館資料の保存にむけた取り組み
■講義概要
博物館資料保存論では、わが国における文化財資料の保存に関する歴史をはじめとして、状態調査や修理修復、梱包や輸送といった資料の保全、次に資料の保存環境に関連する事象―劣化要因となる温湿度、光、振動、衝撃などによる物理的な要因、大気汚染や室内汚染などの空気汚染がもたらす化学的な要因、さらにカビや害虫による生物的な要因に対する対策―、地震や火災、津波などを被った被災文化財に対する活動、エコミュージアムなどの環境保護につながる博物館の取り組みをそれぞれ取り上げながら、博物館における資料保存の意義を学ぶ。
■講義方法
文学部、理工学部、国際文化学部に属する教員３人によるチェーンレクチャーで、基本的に講義形式で実施（各回、資料配布）。
■系統的履修
博物館学概論などと関連する講義である。学芸員課程では必修となる。
■授業時間外における予・復習等の指示
日頃から博物館・美術館を訪れ、作品展示や室内環境に興味をもち、見学することを心がけましょう。
■成績評価の方法
その他（100%）３名の講師の協議により決定する。
■テキスト
特になし

■参考文献
独立行政法人国立文化財機構　東京文化財研究所　『文化財の保存環境』　中央公論美術出版　1900円
石崎　武志　『博物館資料保存論』　講談社　2200円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途、授業内に指示する。
■講義計画
①博物館資料保存論イントロダクション
②文化財保護の歴史ー何が残り何が失われたかー
③文化財の失われる要因
④文化財レスキューー
⑤文化財の現状ー龍谷大学ではー
⑥博物館資料の収蔵と保管ーゾーニングと環境ー
⑦博物館資料の調査分析ー保存科学の視点からー
⑧博物館資料の修復保存１紙媒体
⑨博物館資料の修復保存２仏像彫刻
⑩博物館資料の修復保存３工芸
⑪博物館資料の劣化要因I（物理化学的要因）
⑫博物館資料の劣化要因II（生物的要因）
⑬IPM（総合的有害生物管理）と資料の管理
⑭動植物水族園での生体保存および栽培飼育
⑮エコミュージアム等の保全活動ー景観の保全ー

博物館実習

【担当】遊磨　正秀、横田　岳人
【開講】通年　土5

■講義概要
博物館活動は、博物館資料とともに、それを整理および取り扱う技術や展示技術などの多様な活用技術があって、初めて確立される。その目的は博物館だけのものではなく、博物館を活用する利用者の立場のものでなくてはならない。そのためには、博物館の中心である学芸員には、保存技術や学習プログラム、そして情報処理などの現代博物館の課題である先進的な技術の習得が求められている。このような多種多様な博物館業務や博物館運営について学習し、博物館学芸員として視野を広げるとともに、必要な知識を学ぶ。なお、夏期休暇中などに、学外の博物館等において実地研修をうけることが必要。

■到達目標
博物館活動の事例や課題にふれながら、実際に資料の取扱いや資料カード作り、そして展示技術などを習得する。これにより、必要な理念や基礎的な技術の習得を図ることで、社会に対応できる学芸員の養成に資することを目標とする。

■講義方法
予備登録が必要(受講申込と選考を行うので別途掲示の指示に従うこと)。
履修登録資格（履修要項参照）がある。
夏期休暇中などに、実地研修（学外博物館など）が必須。
実習だけでなく、博物館施設などでの学外見学もできるかぎり行う。
※実習費１万円と学外見学の交通費・宿泊費は基本的に自己負担。

■授業時間外における予・復習等の指示
博物館の手法を応用した，あるいはそれに応用できることがらに広く眼を向ける努力を重ねること

■成績評価の方法
平 常 点（80%）
レポート（20%）
学外での館園実習を完了すること

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②博物館の機能
③博物館の実務
④自然史資料の展示と活用（植物）
⑤自然史資料の展示と活用（動物）
⑥自然史資料の展示と活用（化石）
⑦自然史資料の取り扱い（分類）
⑧自然史資料の取り扱い（同定）
⑨自然史資料の取り扱い（乾燥標本）
⑩自然史資料の取り扱い（液浸標本）
⑪収蔵方法の見学実習
⑫展示方法の見学実習
⑬実地研修事前指導
⑭後期報告会ガイダンス
⑮実習中間報告会
⑯展示企画
⑰展示デザイン
⑱展示計画の策定：大項目
⑲展示計画の策定：展示細目
⑳展示計画の策定：展示導線
㉑模型製作の実務見学
㉒ジオラマ製作の実務見学
㉓博物館のワークショップ・観察会：実例紹介
㉔博物館のワークショップ・観察会：企画
㉕博物館のワークショップ・観察会：広報
㉖博物館のワークショップ・観察会：資料
㉗報告書の企画立案
㉘報告書の編集
㉙報告書の作成
㉚実習最終報告会

博物館情報論

【担当】曽我　麻佐子
【開講】後後　火5

■サブタイトル
博物館とWebサイト（ホームページ）

■講義概要
インターネットが日常的な情報源の中心を占めるようになり、博物館にとってWebサイト（ホームページ）による情報発信が重要となっている。本科目では、博物館のWebサイトの現状をふまえ、Webサイト作成の基礎を概説する。受講生は各自で簡単なWebサイトを作成し、最終講義日に発表する。

■到達目標
Webサイトの構造を理解し、簡単なWebサイトを自作できるようになる。

■講義方法
情報処理実習室での作業を中心とする。
素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修
視聴覚教育メディア論（曽我・後期前半・火５）

■授業時間外における予・復習等の指示
ダウンロード可能な資料を用意するので、授業時間内での理解が難しい人は予習してくること。

■成績評価の方法
平常点（40%）出席
その他（60%）発表
最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
Webサイト作成に用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画
①オリエンテーション・博物館のWebサイト・テーマ設定
②Webサイトの構造
③Webサイト作成1（リンク）
④Webサイト作成2（画像）
⑤Webサイト作成3（スタイルシート）
⑥Webサイト作成4（アップロード）
⑦自作Webサイトの発表

博物館情報・メディア論

【担当】曽我　麻佐子
【開講】後期　火５

■サブタイトル
博物館における情報の発信と活用
■講義概要
博物館における情報･メディアの意義、情報･メディアの理論、知的財産などについて説明を行い、博物館における情報の発信と活用の方法について理解を深めるための学習を行う。
■講義方法
博物館に関するテーマについて、各自素材収集および資料作成を行い、情報・メディアを活用したプレゼンテーションを行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
テーマ選定後、素材となる資料の収集を各自行っておくこと。
■成績評価の方法
平常点（40%）受講態度
その他（60%）プレゼンテーション
最終講義日までに発表できなかった者は不合格とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
西岡貞一，篠田謙一 『博物館情報・メディア論』 放送大学教育振興会　3100円
日本教育メディア学会 『博物館情報・メディア論』 ぎょうせい　2381円
■履修上の注意・担当者からの一言
プレゼンテーションに用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。
■講義計画
①博物館における情報・メディアの意義①
－情報の意義（視聴覚メディアの理論と歴史）－
②博物館における情報・メディアの意義②
－メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）－
③博物館における情報・メディアの意義③
－ＩＣＴ社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等)、情報教育の意義と重要性－
④博物館情報・メディアの理論①
－博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）－
⑤博物館情報・メディアの理論②
－資料のドキュメンテーションとデータベース化－
⑥博物館情報・メディアの理論③
－デジタルアーカイブの現状と課題－
⑦博物館情報・メディアの理論④
－映像理論、博物館メディアの役割と学習活用－
⑧博物館における情報発信①－情報管理と情報公開－
テーマ設定
⑨博物館における情報発信②
－情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等）－
⑩博物館における情報発信③－インターネットの活用－
⑪博物館と知的財産①－知的財産権（著作権等）－
⑫博物館と知的財産②－個人情報（肖像権等）－
⑬博物館と知的財産③－権利処理の方法－
⑭プレゼンテーション
⑮まとめ

博物館展示論

【担当】松岡　久美子
【開講】後期　金５

■サブタイトル
博物館における展示の役割と意義
■講義概要
１）博物館活動全体の中での展示の役割と意義
２）展示の歴史
３）資料の保存に配慮し、かつ効果的な演出を可能にするための展示手法
４）展示室や展示ケース、各種展示資材等について具体例
５）実際に展示を企画立案し催行するまでの業務の流れ
６）展覧会を契機とする活動の広がりと、博物館展示の可能性
■講義方法
パワーポイントを利用した講義。また必要に応じて現地見学を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
龍谷ミュージアムのほか、多くの博物館展示に触れること。
■成績評価の方法
レポート（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
現地見学等の都合により、講義内容や順序を変更する場合がある。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
龍谷ミュージアム　電話075-351-2592
■講義計画
①博物館活動における展示の役割
②展示の歴史１　概論・前史
③展示の歴史２　日本近代以降の展開
④龍谷ミュージアム見学
⑤展示空間の設計と展示資材１　展示の諸要素
⑥展示空間の設計と展示資材２　保存と展示
⑦展示空間の設計と展示資材３　解説と演出
⑧館の使命と展示
⑨展覧会ができるまで1　新規開館・リニューアル
⑩展覧会ができるまで２　調査研究・教育普及と展示
⑪展覧会ができるまで３　特別展の開催
⑫資料概念の拡大と展示の多様化
⑬展示の実例１
⑭展示の実例２
⑮試験